

心として對處する事となり、舉國一致之れが目的達成に臥薪嘗膽の決心を以て努力しつゝあるが、此三原則中の生産力擴充の部門の術に當れる電氣工業界の活躍こそ眞に發刺たるものあり。就中、當業界の最高峰たる古河電氣工業會社が、此體制に順應して積極的經營に當りつゝあるは特筆すべき欣快事なり。當社は稱號の示す如く古河財閥直系にして明治二十九年七月の創立に係り、昭和九年四月日本伸銅、尼崎伸銅兩社を併合す。爾來擴張を續行せし爲、拂込資本自ら膨脹す。即ち日光、横濱、伸銅、電池各工場の全面的擴張の爲、十二年八月擴張實施に備へて増資を實行して現在資本金五千萬圓を擁し、且つ從來手狭なりし日本橋室町所在の事務所を丸之内に建設せし新裝白雲の五階建坪一千坪の新館に移轉し、職制改革によりて業務を整備し今や名實共に我國電線界の首座を占有するに至れり。當社の製品は各種電線、電氣精銅、蓄電池、鉛管、特殊塗料、鉛板等を主とするが、乾乾電池と航空工業に不可欠のジュラルミン工業へ積極的進出を開始せり。現在の我が電池界は周知の如く日本電池及び湯淺電池の會社牛耳りしが、當社の電池界進出により早晚三社鼎座の白熱戦を展開されん。

昭和十二年十月末締切上期決算は、配當を前期同様普通八分、特別二分合計一割の措置とせり。而して當期は決算期を變更せし最初の五ヶ月決算なるが、總収入は五千六百七十七萬六千圓を計上、一ヶ月平均一千三百三十四萬一千圓、年額一億三千六百萬圓の記録的収入にて前期六ヶ月間の収入四千八百八十萬二千圓に比すれば實に四割五分強の増収となる。併し收支差引の利益金は前期の二百四十五萬九千圓に對して二百五十七萬四千圓と僅か十一萬五千圓の増益に過ぎざるも之に當社の事業が鋼精鍊を基礎とする一貫作業なれば全面的に受けし原料高の壓迫によるものなり。當社發表の利益金は償却後の數字にて償却額は不評なるも土地を除く固定資産を比較せば、前期末の八百五十二萬五千圓に對し、當期に於ては一千八百三十三萬七千圓と三百三十一萬二千圓の増加に過ぎざるも既に八月當時擴張經費に四百萬圓支出済にして其後引續き擴張中なれば増資拂込前の當期末に於て擴張資金に當てし九百五十萬圓の借入金爲せる程なれば相當高率の償却を行ひしと觀せらる。尙利益は内輪に計上せし故償却前の利益は恐らく五百萬圓以上に達せると推定さる。五百萬圓としても總収入の一割に充たず、對資利益率は四割四分強に當る。計上利益二百五十七萬四千圓の利益處分は六ヶ月分の一四五%の社外分配なるが實際の保留率は七〇%以上を上るものと思料さる。而して近年の成績は逐

期記録的の向上を示現せり。當社の工場は日光電氣精鍊所、九州電線製造所、横濱電線製造所、大阪電池製作所、尼崎伸銅所、同電池工場、大阪伸銅所、理科試驗所、特殊塗料製造所の九ヶ所なりしが、大阪及び尼崎の伸銅工場は尼崎市外大庄村に敷地五萬坪を卜し、一萬坪の大工場を建設合併して既に一部運轉開始し、尼崎電池工場は大量生産を目的として横濱保土ヶ谷に新工場を建設既に移轉を了したり。電氣精銅輕金屬の日光工場は輕金屬の能力強化を目指し、就中航空工業の發達に伴ひ需要を増強しつゝあるジュラルミン製造能力の擴張に努力しつゝあり。之れ等擴張工事は近く完成となるが、總經費一千二百萬圓を要する爲、曩に拂込六百萬八十三萬七千圓を爲せしも尙不足を生じ、更に日本電信電話、富士電機、アルミニウム各社の投資關係會社の擴張拂込あれば、當社第二回拂込徴収も來期行はるものと思惟せらる。

要之當社製品の殆どは國防事業に關係し、事業以來當社製品の需要は實に顯著にして且つ北支、滿洲の經濟開發には電線、電池を必要とし、爲に今後は一層輸出も増加の筋合にあり、全面的擴張設備完成後の生産増加に拍車をかけ業績向上は期待さるるところなり。

取締役社長中川末吉、専務取締役杉本五十鈴、取締役鈴木元、取締役河手拾二、同長谷川鐵太郎、同藤見勉、同上島清藏、同西村啓造、同高橋兼治郎、監査役平沼亮三、同三谷一二、同佐々木敏綱、同木村豊吉、顧問利根川守三郎、經理部長長妻信篤、金物販賣部長上島清藏、調度部長小林敬三、電線販賣所長丹下堯男。

取締役社長 中川末吉 氏は現に當社々長の外古河合名會社の理事にして古河財閥の柱石たり。近江聖人中江藤樹の居村たりし小川村近くの今津在に出生。長じて早稻田大學の前身東京專門學校に入り中退して渡米、エール大學に政治經濟學を修め、明治四十一年マスター・オブ・アーツの稱號を得、歐洲諸國を歴遊、新知識を吸收歸朝す。同年古河鐵業株式會社に入社、足尾銅山會計課長となり、次で電線部新設の際部長に擧げらる。

斯くして氏は古河財閥の中堅として大正三年其傍系事業たる横濱電線製造會社の常務取締役となり、同十一年古河電氣工業の専務に就任、社長中島久吉氏を輔けて社業の發展に努め後社長に推選さる。歐洲大戰後、當業界は世界的に困窮に陥りたるも氏の非凡なる手腕は鮮かに之を突破せる事は周知の所なり。何事に對しても一家の識見を有し殊に

労働問題の研究に造詣深し、堂々三十數頁の巨編は柔道三段の腕前を劈破せしむるに足る。現に日本アルミニウム、富士電機製造其他數社の重役を兼ね、日本工業俱樂部理事たり。

(所在地 東京市麹町區丸之内二ノ八)

京都體育協會財務部理事 富田正二

多士濟々たる京都學壇に出色有爲の人材として近年漸く其存在を明かにし來れる富田正二氏は關西出身者としては異數とすべき熱性の好丈夫にして江湖具眼の士より大に其將來を囑目されつゝあり。氏は明治三十六年洛西の名邑龜山町に呱呱の聲を擧げ、幼にして穎悟、稍長するに及び京都の名望家富田清助氏の知るところとなり其養子として迎へらる。生家は同地方の舊家として聞えたる田中氏にして相當の資産を有し、養家は更に富めり。氏にして若し尋常一様の凡庸兒なりせば所謂襁褓に安んじ一介無名の鋪朱の人として小天地に蠢動する運命を將來したりしやも測り難し。然るに天性不羈獨往の氣象に富める氏は勉學に方り其資を生家に仰ぐを欲せず又養家の支援をも肩しとせしめて鳥を棄て難に當るの決心を以て多くの學費を要せざる立命館中

學に入り登雪の功を積みて同校專門部より大學部に進み、昭和三年春同大學法經濟科を卒業、明治生命保險會社大阪支店に迎へられ、在職半歲の間に社會情勢の實際的研究を試み、得るところ尠からず。斯る間にかねて氏の特質傾向を熟知せる母校立命館學長中川小十郎氏は保險界が富田氏の久住の地に非ざるを察し、同館の附帶事業として一時中絶の狀態に在りたる出版部の再興を機とし氏を招いて此に當らしむることとしたるが、是れ實に適材を適所に用ゐたるものにして、爾來氏は其理事として大に才能を發揮し、母校の發展に資すると共に精神文化向上のために貢獻するところ尠からず。往年同大學三十五周年記念事業として諸外國に對する國粹文化紹介のため「御堂關白日記」(近衛公爵家秘藏の記録)編纂の計畫成るや、氏は發案者たる中川學長の助手として之に參劄し、孜孜として其完成に努力するの傍ら、「日本讀書新社」の取締役として餘力を揮ひ、又一面體育に就て多大なる關心を有し、之が發達に就き研鑽攻究するところ尠からず、現在京都體育協會の財務部理事として郷黨後進の指導に力めつゝあり、氏未だ少壯、その活躍は寧ろ今後にあり、切に自愛を切望す。

(住所 京都市上京區室町通三條上る役行者町)

名 選 家
荒 船 清 十 郎

氏は埼玉縣下事業界屈指の勢望家にして、秩父機業界に於て腕を揮ひ、斯界の發展に多大の力を注ぎて貢献する所多く、秩父地方を代表するの實業家たり。嚴考荒船清十郎翁は二千年の古き歴史を有する秩父織物に大なる改善を加へてこれを全國に賣り廣め、從來の製法を改革して家庭工業より機械工業となし、秩父機業をして今日にの隆盛に導きたる功勞者たり。翁は夙に秩父機業家を糾合して同業組合を組織し、自ら組合長として秩父織物の改善に販路の擴張に全力を傾倒す。又強制貯金の制度を設け組合員に對し一定五錢宛の割合を以つて貯金なましむ。後これによりて不時の災厄を切掛け得たる者多數ありて、その恩澤は後世長く組合員に及ぼされん。同業組合は今日工業組合として飛躍的發盛を遂げ、秩父機業界の發展に重大なる役割をなしつつあり。翁の功績こそは擲として永久に輝き、その篤行は長く同地方の人々の間に語り傳へらるべし。當主荒船清十郎氏は明治十三年九月に生れ、嚴考清十郎翁没後襲名せり。夙に川越工業學校を卒業し直ちに家業に従事す。氏頗る頭腦明晰にして深く學を好み、寸暇を偷みて研究に精勵せり。嚴考の遺志を繼

承して専ら事業の經營に没頭し益々發盛を極めり。早朝に起き出でて事業の發展の爲めに奮勉勵し、設備の改善・技術の向上に盡瘁し、多大の成績を擧ぐ。氏は職工を家族的に優遇し、多數従業員福祉増進の爲めに力を傾注せり。これに依りて従業員も亦協力一致して能率の増進に意を注ぎ、事業の發展に力を盡くせり。當工場は勞資の關係に圓滿にして、一糸紊れざるの統制確保せられ、秩父機業界に於ける模範的工場たり。設備優秀にして規模甚だ大。又技術卓抜にして製品優良、工風改善を怠らず。其製品は斯界に噴々たる好評を博せり。工場設備に、その製品に秩父機業界に於て覇を唱へ、年産額は四萬九千疋を越ゆるの盛況たり。氏は従業員の教養と精神修養に意を注ぎ、多年教育界にありて徳望高き鹽谷勝平氏を招きて内務部長に据え、敬神崇祖と國體觀念の涵養に努めり。即ち當工場は我國固有の美風をば上下相率ひて體得に努め直勢誠實にその業に當りて頗る盛況をなせり。荒船氏餘未だ若冠と雖も、才氣煥發にして霸氣に富み、群抜なる材幹は嚴考にも劣らざるのありと稱せらる。織物業を經營する外秩父銀行の頭取に推され又秩父織物工業組合理事の椅子にあり。敏腕を揮ひて事業界に活躍すると共に秩父機業界發展の爲めに力を盡くせり。又村會議員として村政にも貢献

公共事業の爲めに挺身せること多大なり。資性溫和にして名望高く、嚴考にも優るの人物として將來を矚目せらる。
(住所 埼玉縣秩父郡高窪村山田)

株式 利根地下工業研究所
株式 利根ボーリング

今や曠古非常時に際會し、我國資源工業、即ち金屬、化學工業原料の需要一段と増大すると共に、天然資源の開發が日と共に旺盛を見つゝあるは慶福に堪えざるところなり。而して兩社は是等の開發に當りて必須工程とも云ふべきボーリング工事に拾數年従事し、自身の研究を積み、遂に今日名實俱に斯業界を指導せる、至實的存在として馳名を馳する俊魁たり。
周知の通りボーリング工事は、較近著しく其應用範圍を擴大し、各種の地下工業に経緯を有することとなり、機械に、工法に或は又その應用に、技術上幾多の研鑽と進歩とを要求せられ、その重要性は國策的見地よりするも、益々加へられつゝある折柄、豫而關係各方面よりその動向を注視せられむたりし、株式會社利根地下工業研究所並に株式會社利根

ボーリング兩社は、愈々積極的活躍を開始するに至れり。

抑々兩社は現社長鹽田岩治氏が利根ボーリング(一名利根製作營業所)の名の下に、過去拾數年間、個人經營を以て試錐機の製作請負を經營せられたるが、時局以來の業務の膨脹と、之が將來の對處策として、既往經營に於ては統制並に業務の遂行上、新境地の開拓には不充分たる所謂時運に鑑み、昭和十三年一月を期して株式會社利根地下工業研究所(資本金四十萬圓全額拂込済)、株式會社利根ボーリング(資本金三十萬圓全額拂込済)の二社を新設して、從來の業務一切を繼承せしむると共に、兩社の合理的提携に依りて業務計畫の積極的遂行に進出するに至れり。而して鹽田氏をしてこの經營組織を根本的に改組して積極的進出を決意敢行せしめたる直接動機は、國策的見地に基く天然資源開發の重要性に伴ふボーリング工事の膨脹、延いては試錐機の需要増加に據ると同時に、曩に當所は我が國に於ける最初の研究とも云ふべき「試錐應用の各種地下工法」即ち建築、土木の基礎工事に於ける試錐應用の地下工法に關する研究を完成して、新たに事業分野の擴大を見極めしを始め、其他研究事項が遂次解決され、爰に儼然と將來に對する事業方針の確立を觀たる結果なりと謂ふべし。

而して兩社設立以來前社は技術部に斯界の權威を網羅せしめ前身利根ボーリングの技術陣の他に、新たに特殊の専門技術者を聘して試錐方法、試錐應用基礎工法、グラウト工法其他試錐應用の地下工法に關する一切の研究と、試錐機警用具の改良、試錐技術員の養成、地下掘鑿用硬金屬の研究、地下水、温泉及其他施設設計の研究等廣汎に亘りて研究に邁進し、尙業界の羅針盤として絶讃されし既刊雜誌「利根」をも繼承し、地下工業専門雜誌「利根」として發行、研究事項の發表、參考資料に資しつゝあり。

後社は専ら從來の試錐機及附屬品の製作販賣並に地質調査、工事請負等の營利的業務を繼承し、更にその擴大強化を目的と爲し居れり。斯くてこの姉妹會社は前社の完成する研究結果を後社が逐次工業化し、兩社の合理的提携と運用に依りて事業遂行に完璧を期しつゝあり。兩社設立以來日未だ淺きも、過去の業歴、業礎を基調と爲し、布陣は既に整備し以て好調を辿りつゝあり。
(所在地 東京市目黒區下目黒一ノ九八)

長野清一郎商店

西陣織物の販賣業者中最も信用ある老舗と

して知られたる長野清一郎商店は逐年向上發展の一途を辿り、今や斯界に君臨せるの觀を呈し、業礎の鞏固なる、販賣系統の強靱なる、世に定評あり。長野家は大阪府北河内郡水室村の舊家にして、其の西陣織物との因縁は遠く天正年間其端を發し、祖先の京都に移住せし以來三百六十餘年の歳華を閉し享保十年二月高倉通三條下丸屋町なる現在の箇處に居を移し西陣織物の問屋を開店し子孫相傳へて今日に追へるものにして、實に斯業界の元祖たるなり。當店は當主清一郎氏の時代に追ひて愈々盛運に向ひ、現在全國各地に十數個の支店を有し、京都は本店・織物工場・再製工場を合せて五ヶ所、東京に三ヶ所、更に大阪・神戸・仙臺・札幌・岡山・福岡等の支店工場等を加へて非常なる活況を呈せり。本店の首腦部は機才縱横の清一郎氏(店主)を中心として、此を扶くるに實業老練の長野仙之助氏(店長)あり、思慮周密の三品喜三郎氏(支配人)あり、仕入部長森善七、販賣部長、織物工場長奥野喜三郎の三氏亦斯界有數の手腕家にして陣容整然として活況横溢せり。

店主 長野清一郎 氏は清治郎氏の嗣子にして明治三十八年四月を以て生る。資性剛邁にして斷力に富み、年齒僅に三十を越ゆる二

三に過ぎざるも事に臨んで快刀亂麻を断つ
の英断を以てし、店務執掌の敏捷なる、年長
老巧者の速く及ばざるところとして定評あり
明治四十年一月に家督を相続して以来直接間
接に店務に携りて功勞多大。店主となりてよ
りは従来の保守的方针を棄て積極主義を以つ
て進み、三面六臂の勢を以て健闘努力遂に今
日の大を成せるに至れり。取引に關しては所
謂京都の紳商としての格式を以て終始渝ら
ず、部下及び員に對するに温情主義を以して
内外の信望頗る厚し。千代子夫人は京都築山
久七氏の三女にして内助の功勞からず。夫人
との間に三子を擧げ、一家和氣霽々たり。
(所在地 京都市中京區高倉通三條下ル
丸屋町)

京風味本舖

遊覽都市！ 京都が新たに持つ名物「京風
味」は只單に芳醇無比の銘酒たるのみでな
く、本邦醸造界が國際的嗜好品として全世界
に誇示する純國産カクテルたり。事實本酒
の有つ芳香美味は入浴の歐米觀光客が殊に稱
讃し昂揚するものにして、一たび其一滴を口
にせんか、言葉盡して之を絶讃し離京に際

して必らず一嚙を携行すると謂はれ今や「京
風味」の存在は本邦人より寧ろ歐米人に於て
愛飲されるといふ現象なり。從來世界一の好
評を博し來れる佛國産「セエリー酒」と比較
試験せし人は寧ろ「京風味」を以て世界一の
折紙を附せる由にて今や米國を初め英、獨、
佛の先進國に輸出漸次増加し頗る歡迎せられ
つゝある傾向は單に我國醸造界の誇りのみな
らず躍進日本の榮譽として欣快に堪えず。而
して當店の創業は現店主中村宇吉氏の祖父宇
兵衛翁が文久元年現所に於て清酒釀造を開始
せるものにして爾來堅實なる營業は發展を容
易ならしめ、父君松之助氏を経て愈々基礎の
確立を期し亦で當主宇吉氏之を繼承す。氏は
京都中學に學を修め後家業に従事せるが、此
天賦理智發明にして在來の日本酒は餘りにも
大衆の嗜好を離脱せるを慨き殊に保健衛生上
より觀るも缺陷多きに鑑み之が改善こそは釀
造家の使命なりと爲し敢然之が改良の膽を固
め一方國産酒の海外輸出をも目論見、大正九
年東京國立醸造試験所に入所し、専ら醸造學
術を専攻す、學成りて歸郷後は自家醸造場に
籠居し鑛骨彫身凡ゆる實際的研究を累ねたる
結果、見事實を結びて我國醸造界に一新機軸
を劃せしが、當初より業界の老練家連は氏の
この研究は餘りにも突飛にして常軌を失せる
ものと爲して狂氣の沙汰と痛罵し其研究の中

中村宇吉商店

株式東京株式取引所

明治十一年五月、株式取引所條例發布、東
京、大阪、横濱の三取引所は此新法に依りて
設立さる。即ち同年五月十五日資本金二十萬
圓を以て創立、同月廿六日開業免許を得、六
月一日より賣買を開始す。當初の賣買物件は
公債のみにて總て東株、米會所株を相場す。

波野吉、同望月軍四郎、同藤山愛一郎、常任
監査役勝部兵助、監査役窪田四郎、同菅野之
助、顧問郷誠之助、相談役小布施三郎、同
徳田昂平。

理事長 杉野喜精

明治三年九月、岩手縣
舊津輕藩士杉野喜永翁の長子として出生。商
大前身銀行事務講習所を出で、日本銀行員と
なる。後ち愛知銀行員を経て同二十九年同行
支配人、同四十年取締役に昇任、同年六月之を
辭任上京し、東京に證券現物商を創始、同四
十年東株直取引買人となる。同四十三年小
池國三氏主宰の小池合資會社に入社し、現物
課長、調査部長たり。同四十三年同社解散の
後を承けて大正六年山一合資會社を組織し社
長に就任、同十五年同社を株式組織に革め、
取締役社長たり。昭和十年十二月、東京株式
取引所理事長に推舉され以て今日に迫る。而
して大正七年以來東株買人組合委員たること
と數次、副委員長、委員長に推される。大正十
年二月以降商工會議所議員たること數回昭和
十一年金融評議員會委員を仰付けらる。

庶務課長 平賀義典

明治二十四年七月岡
山縣に生る。長じて帝國大學政治科を卒業、
大正九年一月東京株式取引所に入所書記に任
じ、同十一年七月主事補に昇進、調査係長を

同十五年日本鐵道株を上場、同十九年より株
式熱勃興同年より賣買物の主たるものは株式
となり、賣買手數料収入初めて十萬圓臺とな
る。二十年ブルス條例の發布ありて全國取
引所之に依りて大いに動搖せしが、廿六年改
正取引所法發布されて生色餘り資本金卅萬圓
に増資す。廿九年の日清戦後は我經濟界の面
目一新し、株式市況亦漸く旺盛となり、廿九
年資本金を六十萬圓に、翌卅年三月更に百廿
萬圓に増資す。三十三年取引所法の改正あり
限月短縮其他の改革急激なる爲商況不振、三
十六年四月の改正によりて僅かに緩和す。三
十年下期には賣買手數料収入六十萬圓を數
ふ。日露戦後には有價證券市場の波瀾著しく
賣買高亦大いに増加、三十九年三月資本金を
四百萬圓に又四十年三月一躍一千二百萬圓に
増資、此期の手數料収入百七十萬圓に激増
す。大正三年の歐洲大戰の勃發こそは未曾有
の黄金時代にして戦後の大正九年上期の手數
料収入は百七十萬圓の巨額に上る、大正六年
六月資本金を二千萬圓に増加、九年三月國債
取引員制度を設く、同年三月歐洲戦役の反落
期に直而して市場に投物殺到一時立會不能と
なり、日銀の再融資によりて漸く無事なるを
得たり。九年資本金を四千五百萬圓に増額
す。十年證券交換所會議によりて資本金四千
七百萬圓となる。大正十二年九月關東震災あ

り取引所亦地上建物全部を烏有に歸せしむ。
昭和二年三月渡邊銀行破綻を機會に金融恐慌
を現出市場休會のことあり、四年、五年は内
閣の緊縮政策にて市場極度の不況、五年下期
の配當は六分三厘と云ふ創立以來の低位なり
き。此年市場本館建築竣工す。昭和六年十二
月、大養内閣成立金の再禁止によりて活況を
取返す。七年下期には滿洲事變に依る軍需イ
ンフレにて市場大いに殷盛、此年下期の長期
取引高は三百二十六萬餘株に上る。八年十二
月商工省より取引所整理の命あり、資産薄弱
なる所屬取引員十餘名を整理、岡崎理事長以
下全重役引退す。此年東株共榮會社創立のた
め資本金を五千萬圓に増資す。十二年は大發
會以來空前の軍備擴張、生産力擴充景氣にて
株式は全面的の活況を呈し、賣買高は屢々一
日百萬株を突破し、本所創立以來の記録を更
新し、賣買手數料収入亦此年上期五百二十五
萬六千餘圓に上り、之れ亦創立以來の記録を
なせり。近年經濟界の發達は東京株式取引所
の地位をして常に東洋に於ける中央市場たる
に止まらず、國際的市場たるの傾向を濃化せ
しめつゝあり、されば當所の職責益々重大を
加へつゝあり。

現在の役員は左の諸氏なり。
理事長杉野喜精、専務理事坂蕙、常務理事大
串三夫、同森孫一、理事松本孫右衛門、同南

經て同十五年十一月主事となり、昭和七年九月庶務課長に轉じ、同十年八月現職の儘參事に陞る、將來の大成を囑望さる。

(所在地 東京市日本橋區兜町一丁目)

南洋興發株式會社

非常時局以來我國策遂行の強調は拓殖事業に於ても愈々重要性を帯び來り、從而南進國策に順應して其第一線に活躍しつゝある我が南洋興發株式會社の使命は益々重大を加ふるに至る。當社は正八年十一月當時南洋に於ける唯一の許可事業として政府保護の下に設立したる南洋開發を主眼として誕生す。この目的を略述すれば、南洋群島に於て製糖、拓殖移民、製糖、製粉、糖蜜、ニューギニア事業投資(グマル樹脂採集事業並に棉花栽培)等なり。而して創業以來目的主體たる糖業を始め燐礦石採掘其他各投資事業の利益も漸次増進し、經濟南進の線に添ひて大發展を畫し昭和十二年七月に及んで資本金を二千萬圓全額拂込を終了し、同年九月更に倍額増資を斷行、四千萬圓内拂込二千五百萬圓と爲し、所期擴張計畫を遂行の資となす、今や當社は其傘下に、南太平洋貿易(新設資本金一千萬圓)、海洋殖産(新設資本金三百萬圓)、日葡合

辦貿易(新設資本金五百萬圓)を統轄し、全經營の多角化を目指し附帶事業の本格的進展を期しつゝ素懐貫徹に邁進しつゝあり。爰に最近、即ち昭和十二年下期の發利たる業績を概記すれば當社事業の根幹は糖業にして糖況の如何は業績に至大の影響を齎すものにして期初以來先高人氣を呼び五月初旬には國際砂糖協定成立に紐着倫敦兩市場の引締りと瓜哇糖況の好轉と相俟ちて市場漸騰歩調を辿り七月遂に清算先物十四圓九十錢の高値を示現するに至る。然るに期央政府の物價對策に關聯して突如砂糖關稅附加稅撤廢を見るに及び糖價急落、次で暴利取締規則の發令に依り急落に拍車をかけて十一圓臺に暴落せるも、機敏なる當社は高値期に約七十萬擔を處分したる爲、その影響は極めて輕微に推移せり。爾後市況落着して共に漸次回復十三圓臺に引締り殘餘の手持ちを有利に賣却以て鮮かに決算を完了す。而して當社は其決算期の變更と増資の爲、當期の數字と前年同期の夫れと比較論評は稍や妥當を缺く嫌あるも其發展好調振りは眞に刮目に値すべし。就中固定資産の四百五十七萬圓増と、流動資産勘定中、有價證券及び出資金並に預現金勘定を除ける六百萬圓程度は事業擴張の自然増加なるが殊に注目すべきは有價證券及び出資金の六百萬圓増加にて之は當社傍系事業たる南興水産(資本金

百二十萬圓拂込済、配當年九分)を除ける各社に對する分に屬す。左に資産中有價證券及び出資金の内容をなす傍系事業を述べれば
南太平洋貿易(セレベス島開發機關として昭和十二年五月設立、椰子園の經營コブラ貿易、海運、造船等の事業を行ふ。中心事業はコブラの生産輸出にして、十二年度生産高は約一萬擔、漸次増産、配當年八分の豫想なるが、將來増配を期待さる。當社の出資は百五十萬圓と稱す。
海洋殖産(眞珠貝採取事業を目的として産額の八割は米國へ輸出、採算頗る有利にて配當は年八分に止め居れり。當社の出資は百三十五萬圓なり。然るに最近南洋群島を根據となす本邦眞珠貝採取者は蕃殖保護市價維持並に海外關係等の見地より大同團結の要に迫られ、俄然合同の機運醸成し折柄南洋廳の勸奨もあり、南洋眞珠貝採取業協會が中心となり當社と南洋拓殖系の太平洋眞珠會社其他業者及び關係者打つて一丸となり資本金一千萬圓の會社創設を見る模様にて本年の新出漁期より新合同會社の統制下に新に出漁を見る豫定なり。尙新會社は斯業の現狀に鑑み多數の整理と共に生産制限を行ふものと觀せらる。
日葡合辦貿易(チモール島開發機關にて昭和十二年十月末葡萄牙のS・A・P・Tと調印を了し、當社出資は百萬圓、生産物は煙草

コーヒー、椰子、糖、ココア、護照等を主とし類る豊富たり。

南洋運轉(資本金二十萬圓を以て昭和十二年十月に設立す。當社と櫻田酒店との共同出資にして南洋より内地其他に至る運輸業を營み豫想配當は一割なり。

以上の他各種事業に多角分散投資されて、主體事業の製糖業に寄與する所頗る大にして糖價の原價高と市價の壓迫を悠々カヴァーし得る事容易なり。されば平均拂込資本金一千九百萬圓と急増せる爲數字的には過去數期間に稍や劣る事となるも然し利益金三百七萬餘圓利益率三割二分三厘強に當り、特配二分を落し普通配年一割二分を行ひ社内保留率五割九分と依然餘裕ある決算を行へり。尙次年度即ち十三年度事業を豫檢するに先づ産糖高は約百二十萬擔の豫想にして益金は四百二十萬圓程度、燐礦石事業に於てはベリリユー、トコペ、ロタ、サイパン及びテニアン島の五島より順次採掘される燐礦石は頗る優秀、年産約十萬噸にして外に比律賓のボホールより採れる燐礦の養層よりなる特殊のもの二萬噸、其他ニューギニアのグマル樹脂及び糖粉三萬擔内外並に無水酒精の利益年額百七十萬圓と前掲の各投資に依る利益と利息及び雜收約百萬圓合計六百九十萬圓、拂込資本金二千五百萬圓に對し二割七分六厘を見込まれ現行一割二

分配當には何等の不安なく、且つ附資擴張資金も未だ充分の機能發揮せざれば、其將來は更に飛躍的效果を擧げ得る事論を俟たず。尙ニューギニアの棉花栽培事業は過去數ヶ年に亘る試作成績極めて良好にて、既に四百町歩の耕地にて五百擔内外を内地に移送し、試験の結果頗る優秀と斷定され將來五千町歩に擴張し大に綿業に貢献する意氣込と觀らる。當社の陣容は取締役社長松江春次、常務色部米作、水野恒路、藤田達一、取締役石川忠一、布施保次、柳瀬薫、監査役渡邊忍、本倉文雄の諸氏なり。

取締役社長 松江春次 今日南方進出の意義世上に論議さるゝに及びて、南洋に何等の知識なき輩まで南進國策を論議しつゝあるが焉んぞ知らん、松江氏は既に數十年前より南洋の委任統治領に着眼し、而も世人の一顧だもせざりし南洋群島に出航し、人夫に伍して同島の開發に従事し、幾多の難關を突破し克く南洋興發の礎石を築き上げし士たり。而して氏の鍊骨碎身の苦闘奮闘こそは能く筆舌の盡す所に非ず。氏の活躍は獨眼なる現地の經濟的利益に對する認識と、國家の爲に開發せんとする忠誠熱腸の念に發するものにして、その義舉は果せる哉、成功の機至りて當社は隆々の發展を遂ぐるに至れり。氏頭腦精緻を

標め、而も學究的良心の持主、熱烈並ぶなき氣魄、烈火の如き熱情に克服されざるものなき途に克く今日の成功を擧ぐ。氏は東京高工の出身にして後渡米ルイジアナ大學に學ぶ。卒業後數年間彼地の製糖會社に在りて米人技師と相競ひて製糖の研究に没頭す。歸朝後大日本製糖會社に入るや、當時我が市場を蹂躪せる輸入角砂糖の驅逐を目論見其製法研究に入念し、遂に外國製角砂糖を防遏するを得て其面目を揚ぐ。次で南方國策の貫徹の急なるに想到するや、凡ゆる苦行と運命を賭し遂に當社の隆昌を招致せしむ。今や海外進出の聲喧しき際氏の一段の活躍を祈念して止まず。
(本社事務取扱所 東京市麹町區内山下町東洋拓殖ビルヂング内)

越後屋龜甲店

大三井家の大宗たる、越後屋三井吳服店の流を汲み、創業以來二百有余年の永きに亘り連綿として今日に至る同店は、現代我が國に於ける龜甲店としては、亦た無比の存在と言はざるべからず。而して店礎倍々鞏固に基く特異の精彩を發揮して、斯業界に壓倒的聲望を博し、自然業榮の一路を辿りつつある重鎮なり。

抑も、同店は現代我が國百貨店の元祖にして、斯界の王座を占め、二百余年の歴史を有する株式会社三越の前身たる越後屋三井呉服店の支配人をして當時、其の敏腕を譲られし池田忠右衛門氏翁、元文五年三月（二百餘年前）同呉服店より別家獨立し、主家三井家より越後屋の家名を許され釐甲店、寶飾店の舊名を以て創業せしに始り、當時三井呉服店大店舗の前面に別家一統が軒を並べ、紅店、油店、唐物店、道具店、釐甲店等の營業をなすつあり。之れ等各種の營業と本家の呉服類を以て既に現今の百貨店の形式を備へ、本家三井の監督庇護下に統制ある連鎖經營を續けたるものなり。然るに明治年代に至り、本家三井呉服店が、同三十七年株式会社三越呉服店と組織を變更するに及び、各別家の群團經營を解かれて各所に散在し今日に至れるものにして、斯くして同店は其の營業の堅實と製品の優秀なる點斷然他の追隨を許さず、其の眞價は實證されて日に月に聲價を昂め、業態亦好調の一路を躍進して店礎磐石の鞏固を誇り、現在の盛況を招來せり。然して絕對誠顧客主義を以て奉仕し、製作部門の統制ある合理化と、優秀無比の特異の技術は廉價優美の製品と化し、今や同店の隆盛は旭日の如く信望と聲名は天下に噴々たるものあり。以て業界の最高地位を占めつあり。

店主 池田須磨三

古來大成を遂げたる偉人は業の何たるを問はず、自ら確固不拔の主義定見を有し、必ずや一家の見識を保持しつあり。一定の見識なく徒らに時流を逐ひ漫然として歸するところを知らず、唯單に萬一の機嫌を目標として、人生の行路を歩むが如き徒勞は到底成功覚東なく、殊に製造事業に於て然りとす。我が池田須磨三氏は先代專太郎氏の長男として明治三十三年十二月を以



池田須磨三氏

て生れ、明星商業學校を卒業するや直に家業に携はり、孜孜として營業の發展に盡瘁しつゝ、尙に眼を海外の大勢に注ぎ將來の大飛躍を抱懐し、大正四年同店が卸部を兼營するに及び眞珠の輸出を企畫して一年余に亘り、歐洲各國を具に視察し歸朝せり。爾來店務に倍勵只管斯業の改善を圖り、祖業を恥かしめず、奮闘努力せる功績は永き傳統に輝く同店と共に斯界歴史上永久に没すべからざるものあり

天資濃厚にして而も事業に忠實、思慮周到にして其の高潔なる人格は、自から聲望一身に集り、傳統相承の當主として斯業界に信望篤く、又意氣に感ずれば水火をも辭せざるの氣魄あり、正に卓抜の人傑と言ふべし。よし子夫人は同町小泉洋品店の名に於て知られし小泉儀三郎氏の三女にして、梅花高女出身の温良貞淑の才媛なり。家庭には母堂よね子刀自の外、長女豊子、次女益子、三女美代子の三令嬢あり、何れも兩親の血を享けて聰明なり。家庭頗る和氣霽々たり、氏の趣味は音楽、歌曲、旅行等なり。

尙同店は現今婚禮用品の販賣をまなし好評を博しつあり。

(所在地 大阪市東區高麗橋二ノ五五)

實業家

中西平兵衛

儼然犯し難き長者の風格と、悠容迫らざる態度を以て功に焦らず、名利に提はれず、圓熟老練の識見手腕を縱横に發揮し、關西實業界に斷然重きを懸はるゝ、我が中西平兵衛氏の、該地方に於ける雄飛發展は、斯界に人材素とり多々ありと雖も、容易に他の追隨を許さざる處、正に飛耳張目に値すると云ふべきなり。即ち本業たる綿絲及び精米、精麥業界

の王座を占むるのみならず、亦た餘力を傾けては、交通事業、土地經營等各方面に關與し既に驚天動地の活躍を擡げること多年、今や名實共に斯界の元老功勞者として、後進業界人の尊敬措く能はざる存在たり。

氏は萬延元年九月を以て、和歌山縣下に孤々の聲を擧げ、父君を中西忠助氏と呼びて其の二男たり。幼少既に天賦の才能閃々光芒を發し、時に成人間驚異の的たりしこと一再ならず、而かも頗る進取の氣象に富み、胸底勃然たる霸氣を藏せる處、奮然嚮關を後に來阪し、爾來、不撓不屈、克く世露風霜の辛苦を克服しつゝ、只管實業道の把握に精進すること幾星霜、斯くて遂に斯業の眞諦を窺ひ得、獨立自營の機運熟するや、敢然茲に綿業を創始し、更に精米精麥業を兼ねて拮据經營せる結果、其の機略一閃克く商機を捉へ、或は豪放大膽にして且つ細密周到なる、事業上の企劃一其事と雖も苟もせず、而かも卓犖犀利たる巨腕を遺憾なく發揮せる賜と相俟ちて、業運の發展興隆恰も破竹の勢あり。躍進に躍進を重ねて、遂に業界を席捲し去りて今日の大を築けり。今や中西棉行合名會社を主宰經營せる他、住之江土地建物、石切土地建物、大阪綿業各株式會社々長の樞樞に座し、或は阪堺電氣、市岡土地建物各株式會社監査役として、各社事業の發展擴張に資する處甚大なり

り。されば關西實業界の重鎮と推稱せられ偉名赫々として業界を光被せる所以たり。而かも其の今日に至る過去半生の奮闘たるや「正に磐根錯節に遭んずんば、何んぞ利器を分たんや」との古言を實證し、波瀾萬疊の過程に勇奮自勵、以て光明燦たる成功の域に達せるもの、蓋し當代立志傳中の白眉とも稱すべく亦た以て、後進子弟の鑑鑑たるべき逸材の士なり。

資性明朗潤達にして剛毅健全、然かも温情流露として拘すべき一面を有し、常に多數關係會社々員に慈父の如き仁愛を垂れ、内外の尊敬欽慕を集むること絶大なるものあり。且つ老來矍鑠として尙ほ壯者を凌ぐの氣概に富み、其の崇高闊達なる人格と、非凡の見識とは、夙に業界の木鐸を以て鳴り、令名愈々光輝を加へ居れり。因みに園藝、謡曲等に深甚なる興趣を抱き技術既に玄人の域にありと、蓋し其の風格の一端窺知すべきなり。

(住所 大阪市西區道頓堀二ノ一六)

會社 愛知伸銅所

製鋼事業を以て東海地方に著名なる愛知伸銅所は、近時の事業界の好調により、操業頗る活況を呈し、業績大いに躍進をなすに至れ

り。その創立は昭和四年十一月のことにして資本金五萬圓の全額拂込済なり。當社は從來伸銅と鋼線の二種目を製造しつありしが、その需要年と共に激増し、これに應ずる爲めに相次いで設備の擴張をなせしも、その數地は遂に狹隘を告ぐるに至れり。仍て現在の工場に於ては主として伸銅の製造をなし、鋼線製造の爲めに新たに工場を設置するに決し、目下これが敷地を物色中なり。激増する注文に對して晝夜兼行して操業をなせるが如き現狀にて、頗る好成績を収めつつあり。内容充實して業礎まことに鞏固、今後の發展には大いに期待せらる。尙ほ同社代表社員は大津二三夫氏にして、出資者には赤尾巳之助、水野兼吉、水野清一、佐々幸一の諸氏あり。

代表社員 大津二三夫 大津氏は名古屋大津次郎氏の二男にして、明治二十三年二月十九日を以て生る。夙に第八高等學校獨法科を卒業せり。其後横濱市貿易商増田屋商會に入り、早出晚退精勵働勤、營々としてその職分に勵み、奮闘努力全力をこれに傾倒す。天賦頭腦敏密にして用意周到、而も手腕秀抜にして才氣煥發、同商會の爲めに寄與貢獻する所甚大なるものあり。約五ヶ年間勤続し、同商會樞要の人物として重用せらる。氏は霸氣滿々雄心勃々、兼てより獨立獨歩業界に雄飛せ

んとの志あり。氏はその人材を惜まれて増田屋商會を辭職し、名古屋へ歸郷す。幾何もなく佐々清三郎氏の長女壽美子女と結婚し、佐々家の家業たる地銅商に従事することとなり。義弟佐々幸一氏を佐々地銅合名會社代表に推し、同家の事業發展の爲めに盡瘁す。氏の卓抜なる手腕により、事業大いに榮え、佐々家は多大の繁榮を招來するに至れり。又合資會社愛知伸銅所代表社員に推されるや、拮据奮勉してその業に精勵し、前記の如き事業の殷盛を齎せり。氏は温順謹厚、徳操嚴正、その人格は世人の深く瞻仰する所なり。天資高邁にして安瀾、小事に拘泥せず。又人の言を能く採用し、各々のその特長を活用して、自由にその手腕を發揮せしむる等、眞に人の將たるの器なりといふべし。寡慾恬淡にして好んで人の爲めに斡旋し、氏を徳として慕ふ者尠しとせず。人物圓滿にして教養高く、中京財界一方の雄將としてその信望高し。壽美子夫人は名古屋市立第一高女出身にして貞淑高き賢夫人たり。四男一女ありて、長女ノブ子嬢は母堂と同じく名古屋市立第一高女出身の才媛にして、名古屋市の人長谷川榮治氏に嫁せり。家道大いに繁榮し、家庭亦和氣霽々春風駘蕩たるものありて、近隣の大いに美觀する所たり。

(所在地 名古屋市中區御器所町鳥喰)

龍岡 榮吉

父祖四代、埼玉縣秩父に於ける名代の酒釀業家として其の品質の優良と低廉を以つて夙に定評あり。然も劍道醸造家長谷川の聲名は同家銘酒と共に如何なる山村水郷にも其の人氣を漲はれたるものにして、隆々たる盛業を爲すと謂ふも、之れ實に當主長谷川巳之吉氏が同家再興に流したる汗血滲む努力に依るものと謂ふべきなり。氏は明治三十八年九月を以て生れ、十三才にして父と兄弟姉妹八人を喪ひたる運命兒なりと雖、意志鞏固にして斷乎、親戚の提案たる事業閉鎖を一蹴、父の遺業を繼承、母を助けて切磋琢磨したる其勇、其の情、正に非凡俊英の致すところと謂ふべし。而も若き母と年少の氏は使用人の獨斷横暴に克く隱忍自重すること數年、適齡となり、軍隊生活二星霜を終るや決然立ちて事業の大改革を斷行、刻苦奮勵少年己之吉の英才は圓熟して母を輔けて家業の再興に没頭すること數年、遂に其の努力は天の與ふる處となり、家業は日と共に繁榮し、信用は遂時回復するに至ると共に氏は營業上の刷新を決行し、専ら積極的の經營を行ひ、而も時運に即して内容を會社組織に

革め、利益配當は番頭、従業員に至る迄其の公平潤澤を計る等、氏の人格の一斑を窺知し得べし。今や同地方に於ける一流酒釀業家たる鞏固なる基礎を築くに至れり。氏は又夙に武道の練磨を以て精神修養に資せんと志し、劍聖高野佐三郎師に師事し、昭和十二年、尙明信館の練士となり、今日も劍道酒造家の聲名を馳せたる所以なり。氣宇豪快にして豁達、信義に厚く仁俠に富み、才氣煥發、而も資性飽くまで謹直にして方正、郷黨の信望絶大なるものあり。之れ實に淑行高き母堂の偉大なる薫育の力と謂ふべくして、近代稀に見る立志傳中の異彩と謂ふべし。氏は常に社會公共の事業に率先して貢獻するところ多く、同地に於ける徳望と信用を以つて重きをなす巨器たり。

(現住所 埼玉縣秩父町四三八九)

龍岡 榮吉

支那事變の勃發は、我が經濟金融界に異狀の轉換を招來せしめ、二十八億の膨大なる國防豫算に更に二十五億の事變豫算を計上したり。而して之れが圓滑化は必然的に爲替管理の強化となり、又一面に於ては臨時資金調整法、輸出入措置法、軍需工業動員法等の出現

を促すに至り、茲に我が經濟界は全く従前と趣を異にする統制經濟機構に移行するに至りたり。

然りと雖も、舉國一致體制下に於ける金融界は、直に國民經濟動向に微妙なる關聯を有するものとして飽まで適切な善處對策を必要とせざるべからざるものにして、假初にも一般國民經濟の思想不安化を具現せしむるものありとせんか、社會自體を破綻に馳らしむる重大な危局に導くものとして、茲に於て之れが樞軸に參畫する金融界の責務と使命の重大なるは勿論、崇高なる人格と識見手腕を以て國民經濟の圓滑統制化に盡力する斯界人の待望さるゝ處、洵に喫緊なるものありと言ふべきなり。

我が龍岡榮吉氏は、財界の巨人的存在には非ざれども、永年に亘る識見手腕と崇高なる人格に於て、正に述上の使命を的確圓滿に遂行する第一線人として期待さるゝ人物なりとす。氏は鹿兒島縣土族會同政利翁の三男として明治六年五月を以て生れ、同四十八年龍岡叔右衛門氏の養子となりたる人にして、爾來一貫して身を金融界に置き、切磋琢磨の功を積み、斯界の蘊奥を極め滋賀縣農工、北海道拓殖各銀行に格勤し、十五銀行新橋各支店長、本店營業部長、東セルロイド加工所取締役等に歴任、現時國際信託取締役、日本勸

業監査役の重職に在りて敏腕家を以て知られその永年研積の經驗抱負と、人格識見の大器を以て斯業界に重きをなせるものにして、今や非常時局金融界の第一線人物として期待するところ甚大なるものあり。

天資英邁淵達にして、其の瀟灑たる風采の間にも、颯爽と精神の氣を漂はしむるは流石に薩摩軍人の生ひ立ちを偲ばしめ、性來の才氣旺盛、殊に頭腦明晰にして、記憶力に富み一面濃厚の性情を持し、上下を通じて親しみ深く、内外の人望極めて高し。今日の榮位を占むるに至りたるは、畢竟これが素因と爲せるは、喋々するの餘地なきところなり、趣味として謡曲、撞球に深詣、裨々の餘裕を示し業閑を見て大自然と語る古武士の氣魄あり。家庭には子實なきも、鹿兒島縣土族山下房親氏四女にして東京愛敬高女を卒業せられたるコウ子夫人あり、貞節の譽れ高し。

(住所 東京市澁谷區原宿一ノ二〇)

野上 辰之助

事業を興し以て成功を贏ち得るに至る道程は、成功者各自其の經路を異にするも、常に緊張味を缺かざる努力奮闘の集積たるは論を俟たざるところなり。我が野上辰之助氏

の如き正に叙上の實踐躬行者にして後世企業家たらんとする者のよく鑑鑑たるべき人材たりと言ふべきなり。年少にして早くも自主獨立の信念に燃え、鑛業の國家的にして、その消長は國家國勢の興亡に關する處極めて大なるを直感、鑛業報國を以て立身すべく一路新業制覇を目指して、邁進をつゞけたりしかばその切磋琢磨の功空しからず、今日野上鑛業互助會石炭株式會社各社長として又直方商工會議所會頭として、非凡卓抜の手腕を發揮、縱横の活躍をつゞけつゝあり。その存在は直方事業界の重鎮たるのみならず、我國鑛業界の新人として、颯爽の存在を知られるに至りつゝあるは、蓋し堅志以て不斷の努力に邁進したる賜に外ならざる處なり。氏は福岡縣野上伊右衛門氏の二男にして明治二十六年一月を以て生誕して、同縣嘉穂郡穂波村ノ浦炭坑に於て、勞務係として月給十八圓を得たるが、氏の炭界人として大成したるスタートなりき。爾來十餘春秋苦闘の連鎖を以て漸く鞍手郡勝野村鴻の巢炭礦の事務長に榮進し、大正十二年には獨力にて、山田炭礦を經營し、次いで昭和九年之を資本金二百萬圓の株式會社に改組し、社長に就任したり。この時より氏の大膽にして、細心なる努力は報ひられて同五年にて繁榮炭礦、同八年には長嶺炭礦を開坑、更に同九年に入野坑を、十年には矢道

坑への開坑と飛躍的發展をなし、現時資本金五百萬圓にして年産採炭額五十萬噸を數へ、職員 従業員合して四千人に及ぶ盛況を招來するに至りたる氏の如何に手腕卓越なるかは以て窺知するを得べきところなり。然と雖も昭和の初頭に於ける我が財界恐慌は、炭界に未曾有の動風となりて波及し著しき停頓を來したれども、堅志熱情の氏はよく大資本の三井三菱の壓力に抗争すべく、筑豊に於ける中



野上辰之助氏

小炭礦を糾合し、相互の大旗の下に一致團結し、茲に石炭礦業互助會を組織し、中堅先鋒として活躍し、遂に功を奏したるは、氏の力量に依るもの甚大にして、馳名を天下に知られたるなり。

又氏は夙に勞働問題研究を志し、偶々昭和十二年六月、日本貿易振興會主催の世界一周實業視察團の結成せられるや、敢然として之れに参加し、支那、フィリッピン、印度、伊太

るところにして、氏の逝去は各方面より惜まられたり。

當主福太郎氏は大正二年三月現住所に生る昭和七年東京府立第一商業卒業後、同業者中村鶴心堂に適齡までの二ヶ年を眞摯修業し、其後家事に従事、令府後家督を相続し、昭和十三年二月清子夫人を迎へて現に當主として家業に専心しつゝあり。氏は先代福太郎氏の血を受け、資性濃厚にして熱誠なり。インテリ業者として逐次同業者の信望を集めつゝあり。若くして百六十年の輝く家業を繼ぐ前途洋々たるものあり。趣味は茶道、生花にして何れも深詣あり。

(遺族住所 東京市日本橋區蠣殼町二丁目)

合資 牧田鍍金工業所

純近金屬工業の異常なる發達に隨伴し、之に必要となす鍍金技術の改良進歩亦た見るべきものあり。幾多の優秀製品陸續として市場に姿を現はし、絢爛豪華、白熱的業界戦を展開しつつあるも、材料の精既、技術の優秀、更に價格の廉價、納期の迅速等を以て、斷然他所を抜んじ、其の施工製品の優秀卓抜なる實に國産品中の白眉を以て推稱されるを合資會社牧田鍍金工業所となす。

利、スキス、獨逸、佛蘭西、英國の各國を共に視察し、見聞を開き十二月末歸朝すると共に、大いに事業の刷新に盡力したる外、斯業の重大なる使命あるに鑑み、一段と經營の強化完備を計る傍ら今時事變の勃發するや率先して、國防費として二十萬圓の巨額を陸海當局に獻金したるは、如何に氏の國家觀念の旺盛なるかを付度し得べきなり。天分膽大果敢にして濃厚篤實、常に國策的事業を以て使命と爲し、いさゝかの私心を抱かず、一意奮闘する熱血事業家なり。今や九州炭界に於ける代表的人物として信望を一身に擔ひ、至寶的存在たるのみならず、純近東京を中心に九州、北海道と旋風の如く駆け廻り、活動しつゝあり、氏の將來は明して俟つべきもの大なりと謂ふべし。趣味は競馬、讀書等にして、現時日本競馬會理事たり。家庭には饒子夫人との間に長男恭敬君、長女マサ子嬢（日本女子大學在學）、二女智壽子嬢（直方高女在）、三男倉之助君の二男二女あり。

(住所 福岡縣直方市稻荷町)
(東京宅 麹町區元園町一ノ五一)

(故) 根岸鐵太郎

當家は天明三年の創業にして、今や東都表

製界の草分として斯界に貢獻せること多大にして、その存在は餘りにも有名なり。

創業以來當主を以て五代、壹百六拾年の歴史を誇る舊家にして、初代は遠く九州松浦藩の御用商人として江戸と九州を往來し、藩侯の信任殊に重厚なりしと傳ふ。創業地は江戸淺草なりしも、明治三年、先々代の時代に杉森（日本橋）に移り、此處に於て火災に會ひしも以來この地に在りて今日に至る。創業以來盛業を謳はれ代々將軍家の御用を一手にて受けたりと謂ふ。爾來盛衰極りなき同業間に在つて終始一貫、連綿として今日に至りたると雖も、同家盛業の今日在らしめたるは實に先代故根岸鐵太郎氏の努力經營と優秀なる手腕の賜と謂ふべきなり。氏は明治四年、三代安藏氏の長男として日本橋に生れ、昭和十一年十二月十六歳を以て故人となりたるも、其の間、克く斯界變遷の浪を乗り切り、時代要望に即應したる表装に専心、その技術の優秀さを以て聲名風に高かりき。曩に東京表装組合の設立されるや、その人格識見は買はれて初代組合長に推戴さる。又明治年間一流書畫家は競ひて、常に氏の神技的表装に憧憬し信賴を寄せたるなり。

資性濃厚篤實にして、人情に厚く、而も克く人の世話を爲したる人格者にして、趣味は演劇を好み、氏の旅行趣味又同業者のよく知

抑も當社は明治三十年大阪市東區谷町四丁目二番地に設立營業を開始し、以來誠實主義をモットウとなせる營業方針及び逐年の經驗、加ふるに幾多苦心研究の結果とを以つて著々信用を博し、業礎を鞏固ならしめ、次で大正八年分工場を同市浪速區小田町に設置、更に名古屋出張所を名古屋市南區堀田通二丁目日本碍子株式會社内に設くる等業運の進展膨脹顯著たるものあり。斯くて同年組織を合資會社に変更、業客の一大擴充を斷行し、以來益々躍進發展を續け、遂に昭和九年西淀川區蒲島町に諸施設の完備せる、將又規模の宏大なる正に東洋斯業界に冠たる代表的な一大鍍金工場を完成するに至れり。今や需要界の活躍躍動せるに伴ひ、多年の信望籍甚なる處、業勢隆昌繁榮して斯界に其比を見ず、而かも益々學究的研究を以て技術的向上、或は豊富深甚なる經驗を基礎に合理的經營を持し、業績の一層光彩陸離たるべきは贅言を要せざるべし。

茲に當所營業課目を見るに亞鉛鍍式鍍金、亞鉛乾式鍍金、亞鉛電氣鍍金、カドミウム鍍金、特許カドミウム鍍金、錫電氣鍍金、鉛電氣鍍金其他各種鍍金等にして、夫々技術卓越し光澤美麗なる逸品を施工生産しつつあるも、殊に特種亞鉛鍍金に就きては特許第七八一〇一號を受け、又カドミウム鍍金に在

りては特許第七九二五〇號を得て斯界の權威と稱せらる。而して夫れ等の概略を記さんか。先づマキ田式純亞鉛鍍付鍍金に其外觀の美實質の優なる實にマキ田式鍍金が斯界の最高峰たる所以にして、其最も得意となす鍍鍍及び可鍍鍍鐵に於ける施工の如き、嶄然他の追従を許さざる處なり。亦た亞鉛乾式鍍金に於ける乾式鍍金爐六尺のもの三基、同八尺のもの三基、同十三尺のもの二基を有し、之に配する二十有餘臺を算する鍍金用ドラム等、其の設備斯界に冠絶し、更に亞鉛電氣鍍金用超大液槽及び千アンペア大發電機等亦た當所獨特の設備にして、其他各種鍍金用施設の間然する處なきは素より論なく、而かも多數熟練工並に職工其他全従業員、克く首腦部の命に服して各自職務に努力精勵なし、活氣旺盛宛ら戰場の如き繁忙裡に和氣霽々たる寮團氣を形成、以て業運の一段たる興隆に處しつつあり。これ即ち本邦金屬工業界に寄與貢獻する處甚大なる所以にして、社名斯界に赫々たるも蓋し當然の歸趨なるべし。

代表社員 牧田至弘 工業家の道徳とは無論不合理なる利潤を貪らず、相當せる價格を以て優良品を生産販賣すにあり。斯の如くにして信用自ら現はれ、經營亦た好調の一途を辿る。勿論勤勉努力も必要なるも、其の勤

勉努力を合理的に活用し得て以て他を利し、自己も亦た益するが故に、始めて事業の妙諦を發揮せるものと云ふべし。此の點我が牧田至弘氏が、多年に亘りて金屬鑄金業に従事し精勵奮闘も惜しむ處なく、然かも所謂良品廉價を標準として事業遂行の信條となし、終始一貫克く今日の大を築きたる正に事業經營の眞髓を悟得せる士と稱すべきなり。氏は夙に聰明穎智才氣縱横たるものあり。長じて學を卒へるや、慧眼遠識克く斯業の益々將來性あるを洞察、斯くて専心斯業に没頭して技術の改良、經營の合理化を圖り、肝膽を砕きて事業の進展に邁進すること幾星霜、今や業運飛躍發展し、同業斯界に燦然光輝を發するに至る。蓋し多年に亘る拮据經營の賜と云ふべく、其の努力研鑽以て他の範となすに足る。資性濃厚篤實にして玲瓏珠玉の如き人格者にして、常に業界の發展に獻替する處渺ならず、業界稀に見る偉材の士として畏仰の的とせらる。

因に當社工場所在地左の如し。
製作工場 大阪市西淀川區佃町
製鐵工場 大阪市東區谷町四丁目二番地
鍍金部 名古屋市熱田區東町日本碍子株式會社内
(本社並鍍金工場所在地 大阪市西淀川區蒲島町五五)

株式 玉川計器製作所

諸機械製作、特に壓力計器の製作に優秀獨自の技を以て鳴ること久しく、曩にその勞酬ひられて、海軍指定工場の班に列し、以て航空計器類の製作に進出せる新進氣鋭にして、今や其將來性を刮目するゝや多大。由來當社は現社長玉川三郎氏が個人經營を以て諸機械製作販賣に従事せるを、昭和九年九月時運に即應將來の發展に資せんと資本金十萬圓(全額綿込濟)の株式組織に革めたるものなり。爾後毎期(決算年一回)決算内容を公開せざれば之を評述し難く、以下叙する所、抽象的に傾き隔靴搔痒の憾み伴ふを免れざるも大勢を瞥見すべし。

當社は時局以來頗る順境を経て、近來増資斷行を云々せられりしが、十二年度決算案と同時に懸案の増資の件を附議せるが、増資は取敢ず五萬圓増資に決し、資本金十五萬圓全額綿込濟となれり。當社は昭和十一年十一月、海軍指定工場に加へられ、從來著聞せし壓力計の外に、航空計器類の製作に進出するに伴ひ、隣接地七十餘坪を買収し以て現工場を増築して、昨春之が竣工後は生産力を倍加するに至れるが、引續き受注増加に依りて、

尙ほ一段の生産擴充を必要と爲し、五十萬圓半額綿込乃至一百萬圓四分の一拂込に増資を内定し、此の増資は公募に依らず、財界知名の某有力家の單獨出資に依つて行はれる筈の處、其後の情勢に依り、右は増資に依らず、借入金として擴張資金を賄ふ事に變更し、某有力家の出資を中心し新資金を加へて所期通り生産設備を擴充せるものにして、今回の増資は借入金として處理せし其の出資の一部を株式に改めしに過ぎず、尙ほ數萬圓を借入金として残せる現在の實際資本は、公稱資本の殆んど倍額に達せるものと觀せらる。當期利益金も亦公開を爲さざれば不詳なるも、一萬圓内外は悠に計上したるべく、利益率二割内外に對し、配當は僅か六分に止め、實に手堅き處分を行ひしものと思料す。今期は事變以來引續く受注増加に依りて、業績は一段と昂むべく、軍需新製品を加へたる事と相俟ちて更に増産を促されつゝある現狀にて、近く精密機械工場を分離増築すべく、目下二子玉川方面に候補地を物色し居る模様にて、當社の前途は汪洋たるものありと云ふべし。

取締役社長 玉川三郎 氏は長野縣玉川郡太郎翁の令息として明治三年八月を以て同縣に出生。資性剛直にして利根、明治三十一年、東京市本所區内に於て獨立を以て壓力計製造

販賣に染着せるを淵源と爲す。昭和九年九月時勢に即應して經營一切を擧げて株式組織に革め、其取締役社長に就任し、以て今日の大を爲すに至れり。

専務取締役 森谷秀之助 天賦濃厚實着にして思慮精密なり。玉川社長の良佐として斯業界に定評夙に高きところ。然もその終始一貫せる道義的精神と、確固不拔の才幹は、社内への信服と、關係者の信憑とを深め、其部下に對する指導適切を得、従業員をして恰も慈父に對するの尊敬と信頼を抱かしむること多大。切に玉川社長の攀龍附鳳として精進せられんことを。

(所在地 東京市品川區北品川一ノ一二三)

株式 三木商店

近代文化の進歩發達に隨伴し、染料塗料に對する觀念の複雑化せるは、亦た必然の趨勢なりと云ふべし。化學工業に、建築業に、重工業に或は交通機關軍需機械器具等々其他凡ゆる方面に於て、斯料の益々効果的なるもの要望され、且つ需要激増の必然的動向あるは論を俟たざる處、從つて業者素より不斷の研究對策を爲し、製造、販賣兩方面に活潑旺盛

なる情勢を展開し居れり。此間に處して捲土重來の意氣壯絶、克く社運挽回の實を擧げて業績顯著なるを求むれば、吾人は何等躊躇を感ずる處なく、株式會社三木商店に指指を屈するに至らん。

即ち同店は大正七年四月を以て創立され、資本金百萬圓を擁して藍、染料、工業藥品を始め、洋蠟、油脂、雜貨等の直輸出入業を營み、着々發展途上に躍進中、偶々業界不振の悲運に邁進、營業狀態思はしからざりしことあるも、其後一般工業界の發展膨脹に伴ひ、俄然業況に一大轉換を齎らし、更に不撓不屈萬難に屈せざる全社員一致協力の努力奮闘は遂に悲境を轉じて好況たらしめ、以て頼に社運挽回せるのみならず却て隆盛發展を招來するに至れり。而して同社第二十回營業成績を見るに、商品賣買益金六十一萬七千七百餘圓、受託手数料五千百餘圓、雜收入七千九百餘圓を擧げ得て、之が利益合計六十三萬百餘圓を算し、一方支出は營業費四十二萬四千六百餘圓、支拂利息金六萬七千八百餘圓等にして、差引、當期純益金十三萬七千七百餘圓を得たり。斯くて之が純益金中十二萬三百餘圓を以て、繰越損失金に増補、殘額一萬七千三百餘圓を後期繰越金とせり。今や全く業務好調を招致して社内に明朗發達の氣漲り、更に堅實なる營業方針下に拮据經營する處、前途益々

好況を呈し、以て斯界に雄飛活躍をなす時期至るも、敢て遠き將來にあらざるべし。因みに本社を現所に置きて事業一切を統率し、東京市日本橋區江戸橋三ノ七、及び名古屋市東區研屋町二ノ一に夫々支店を設置、東西相呼應して斯界の發展隆盛に貢獻しつゝあり。

尙ほ重役陣に列するは、取締役社長三木與吉郎、専務取締役三木眞治、常務取締役三宅彌平、取締役犬伏守之吉、監査役三木頼治の諸氏等なり。

取締役社長 三木與吉郎 事業界に政界に馳驅すること多年。勳三等に叙せらるゝ長老たり。由來當家は慶長年間以來德島縣板野郡に住し、連綿十二代の家歴を閉せる同地屈指の名門舊家なり。氏は先代與吉郎翁の長男として明治八年十一月七日に呱呱の聲を擧げ前名康治を改め襲名す。夙に英邁豪毅。出藍の譽れ高く、大正七年當店設立以來社長の樞樞に在りて巨腕を縱横に發揮し、亦た阿波製紙株式會社社長として偉名赫々たるのみならず一方政界に雄飛活躍して功勞甚大、且つ大縣會議員、衆議院議員等に擧げられ、即ち大正七年以來貴族院議員に互選さるゝこと三回現に研究會に屬し、政治經濟學の蘊蓄頗る深く、其の抱負経倫の卓越せる、寔に同會歸たるの人傑と云ふべきなり。

事務取締役 三木眞治氏は社長與吉郎氏の長男、明治三十五年十二月二十一日を以て誕生し、天分嚴君の英資を承けて聰明穎智而かも頗る勤勉貯蓄の精神に富む處、所謂百萬長者の御曹子なりと雖も、毫も安逸遊惰に流れず、毅然として勉學修養の星霜を積み、大正十五年慶大高等部を首尾よく卒業せり。

其後第三十四銀行に勤務すること年餘、昭和二年大阪に當店々舗開設さるゝや、取締役に就任し、次で翌三年事務取締役の職務に擧げらる。以來營業一切を總攬、卓腕を發揮し、今や業界稀に見る新進氣鋭の紳士として名聲頗る高まりつゝあり。因みに氏は何等趣味として擧ぐるものなく、只管事業に熱中、且つ貯蓄を勵行し、其の額多きに達すれば、新事業を興さんと、蓋し好個の事業家たりと云ふべきか。而かも人格圓滿、識見非凡なる處、正に敬仰推服の的たるを失はず。現在大昭化學工業株式會社、昭和製藥株式會社各社長及び青島維新學工藝株式會社取締役等の要職を占め、將來の一段たる雄飛活躍を期待さる。

理事 波多好文氏は兵庫縣土族波多霞氏の二男、明治十年八月を以て生れ同三十四年獨逸藥料會社に入りて精勤恪勵すること多年、其後當店設立と共に入社し、爾來專務三木氏を輔佐して間然する處なく、至

誠一貫克己業務に努力精進し、今や名實共に當店不可缺の至寶的存在たり。資性謹嚴剛直而かも圓轉骨脫なる反面を有し、昭和製藥株式會社取締役を兼ねて重きをなせり。
(所在地 大阪市西區北堀江通五ノ七)

リーダ建材工業株式會社

由來優秀なる發明品は枚舉に遑なきも、當社專賣特許リーダ液の如く、利用者に莫大な便益を興へる發明品は實に稀なり。セメント防水劑の發明使用は百を以て算すると雖も而も最近の發明品にて、正に鵝群中の一鶴とも稱すべし。急硬、防水、増強、耐寒、耐アルカリ性等の大効力を具有するリーダ液は發賣日尙淺き觀あるも、其卓抜の効力は各方面の絶讚の的となり、販賣高の激増、防水工事の使用著増は既に他の同種品を壓倒凌駕して其玉座を占め、驚異的躍進振りは建材界の大奇蹟と云はる。リーダ液に依り土木建築界多年の懸案たりし完全防水の目的を達するを得たるは近來の痛快事と謂ふべし。
而してリーダ液は在來のセメント防水劑と異を異にし、全部無機質に屬する藥品拾數種を極めて合理的操作に依りて劑狀化せしものにして、之をセメントに混合する時は化學的

- 作用と物理的變化とを起してセメントと融和結合し、水密度の化合物を生じ且つ配合藥品の化學作用に依りて水分を滲透する空隙を完全に充塞閉塞するためにコンクリート又はモルタルの透水を防止し、尙強度及び硬度をも増加するものなり。尙リーダ液の防水効力は比較試驗に於ても、又實地施工に於ても頗る拔群の成績を示し、各方面より世界無比の折紙を附せられ、續々大工事にも採用せられつゝあり。其主たる特徴を掲ぐれば、
- 一、完全防水となり絶対に漏水の虞れなし
 - 二、モルタルの強度を増加し、耐久力無限なり
 - 三、施行後に龜裂を生じて無効となるが如き虞れ絶対になし
 - 四、押へコンクリート又は押へモルタルの必要更になし
 - 五、施工迅速簡易なる爲工費も亦比較的低廉なり
 - 六、使用法簡單にして特別の技術を必要とせず亦リーダ液は急硬して且つ強度を増加するためにコンクリートの急硬劑として各方面より多大の好評を博せり
- 其特徴を擧ぐれば
- 一、急硬完全に硬化し手持ちにならず著しく工期を速捷せしむ
 - 二、型枠循環使用し得るために移しく工費を

- 節減せらる
- 三、急硬せるもコンクリートに龜裂絶対に生ぜず
 - 四、著しく強度及び硬度を増加す
 - 五、リーダ液の混入歩合に依り急硬時間の調節を自由にす
 - 六、耐寒耐熱の効力あるが故に、冬季間の防水工事及び耐熱工事に効力を發揮す
- 故にコンクリートの急硬工事又は耐寒工事に於てはリーダ液は絶対に必要なり。其驚くべき効力は之を實地に使用せざれば想像だも及ばざる處と使用者は一般に定評し居れり。
- 尙リーダ液は防水劑として地下室、陸屋根水槽等の防水工事に使用さる外、最近特に激増せる需要方面を擧ぐれば
- 一、水道貯水池、下水道、水力發電用水路の防水用及びコンクリートの急硬用
 - 二、道路、橋梁、線路等の應急修理のコンクリート急硬用
 - 三、醬油醃仕込タンクの防水用
 - 四、セメント瓦及びセメントタイルの急硬防水用
 - 五、プールの防水用
 - 六、機械据附基礎の急硬用
 - 八、木造家屋のモルタル壁防水用上

リーダ液の主たる納入先並施工先

大阪、神戸、京都、堺、西宮、奈良等の各市役所、陸軍造兵廠大阪工廠、南洋廳、樺太廳、滿洲國都建設局、奉天造兵廠、朝鮮總督府、大阪通信局、鐵道紡績、王子製紙、日本窒素肥料、大同電力、日本電力、四國水力電氣、大阪電氣軌道、帝國製絲、日本電機、汽車製造、住友金屬工業、大日本紡績、日本ウルツ、錦華紡績、三井礦山、京都電燈、九州電力、電氣化學工業、品川白煉瓦、大阪製鐵、伊丹製鐵所、川西航空機(京阪神技研)

因に當社は昭和十二年末合資會社ヒロコ特許工業所の營業權一切を繼承株式組織に革めたるものにして、統帥者は依然現社長たる島岡義太郎氏なり。
(所在地 大阪市北區堂島濱通一ノ八六)

株式 巴組鐵工所

送電線並に無線電信の鐵柱、鐵塔製作に斯界獨歩の地歩を占むるものが當社にして、夙にその製品は優秀を以て聞へ、陸海軍省を初め諸官衙、その他數冬の各會社より噴々たる絶讚を博せり。殊に官廳方面に至りては當社品壓倒的信賴を得て多年に亘り獨占し來れる所なり。創業既に二十有餘年の歴史を背景に多年の經驗を以てする製品の改善と不斷に於

ける新技術の採用とは到底同業者の追隨を許さず、而も品質優良なる上に價格頗る低廉にして、且つは當社の信用を第一義とする經營方針とは一段と聲價を高め、その製品新然斯界を席捲せる所以なりとす。近時交通、通信を始めとして、あらゆる分野に「電化」は駁々として侵入し來たり、今後如何なる普及を見るや端倪すべからず。斯くて當所製品も飛躍的に需要の激増を來たすべく、今後の躍進こそまさに刮目すべきものあり。次に當社の製作する特許ダイヤモンド・トラスは建築用材として新時代の要求に投じ需要日毎に著増しつゝあり。之を主材とせる建築は無柱、無梁、無桁にして、全部筋造、方杖、盤梁の變態的結合體をなし、最も經濟的なる上にその體裁頗る優美にして、流線型なる近代美を發揮す。而も堅牢この上なく如何なる暴風激震とも微動することなし。格納庫、食堂、會堂、停車場、工場、倉庫、車庫、運動場等の建築用材に最適なりとす。近來本品の眞價世上に廣く認識せられるに伴ひ、續々として新建築に使用せらる。即ち、朝日新聞社、東京書籍株式會社、東洋クロス株式會社以下の各方面に使用せられ、噴々たる好評を受く。當社資本金は現在百萬圓、操業日夜繁忙を極め、業績頗る好調を辿り、新興事業會社中の錚々たるものなり。製品は専ら三井物産を通

じて一手販賣せらる。

代表取締役 野澤 一郎 氏は巴組鐵工所代表取締役として、同社の經營に専心劃策せり。栃木縣人野澤龜吉氏の長男にして、明治二十一年五月を以つて生る。夙に東京高等工業に學び、卒業後東京石川島造船所に入りしが、豐勃たる霸氣を如何ともする能はず事業界に於て爲すことあらんを期し、大正四年敢然獨立して合資會社巴組鐵工所を創立す。精勵努力よく難關を突破し、財界の變動をもよく切抜けて、業績躍進業礎鞏固に一路向上を辿り來れり。斯くして昭和九年六月には株式會社に改組す。近年の財界好調により製品需要激増し、當社は目覺しき發展をなせり。野澤氏は寡黙謹嚴にして頭腦まことに緻密。不言實行以てその敏腕を揮ふ。最近資本金二十五萬圓の帝國測器株式會社を設立し、溫度計高度計、氣壓計等の製作を行ひつゝあるが、その製品の優秀なるにより、三井物産に於てこれを一手に引受けて販賣すことに決す。氏今後事業界に斷然頭角を現はすに至らん。
(所在地 東京市京橋區月島東河岸通)

攝津鐵線株式會社

滿洲事變以來國際政局の險惡化に伴ひて、

國防費著しき膨脹をなし、之が爲めに先づ軍需工業の活況を誘致し、大い一般事業界は多大の好調を辿ることとなりたるが、昭和十二年七月の日支事變の勃發以來事業界は更に一段と盛況を呈し、各種事業何れも非常なる殷盛を現出するに至れり。攝津鐵線株式會社に於てもこれが潮流に乗じて社業一段と躍進を辿り、近時業績飛躍的向上をなして、關西事業界に多大の注目を受けてあり。當社の製品は亞鉛引鐵線、ハプトワイヤー、釘類の製造販賣をなし、その製品の優秀なるは夙に名のある所にして、各方面より多大の歡迎を受け、需要日を追ひて著増し、操業頗る繁忙を呈せり。當社の始めて斯業を開始せしは、大正七年にして、爾來技術の改良に設備の改善に至大に腐心せしに依り、製品の品質大いに向上をなすに至り、世上に噴然たる好評を博せり。多年の苦心研鑽になる製品は他の比倫を許さざる所にして、注文の増大よりして設備は大いに擴張せられ、斯界に於ける精銳會社として重きをなすに至れり。現在資本金十七萬圓の全額拂込済たり。毎期多大の好成績を挙げ、殊に近時の好調には目覺しきものあり。多年の鍊骨彫身の努力は信用遂時昂まりてその販路頗る擴く、確乎不動の業陣を張りて、その將來の隆昌にはまことに期待すべきものあり。

事業家

安西友吉

取締役社長 桂 龍造 氏は明創閣達にして、意氣奮大、小事に拘泥せずして磊落恬淡、頗る抱擁力に富みて清濁併呑呑むの雅量あり。温情豊かにして部下を見ること子の如く、従業員爲めに經費を惜しまず福利施設を設け、これが指導誘掖に力を盡せるに依り従業員より慈父の如くに悦服せらる。上下戮力一致して淬勵せるに依り、社業日を追ひて好調の一途を辿れり。氏は周到緻密にして、才略縱横、その群抜の敏腕は大坂事業界に多大に推敬せられる所たり。明治十九年二月を以て、呱呱の聲を揚ぐ。因に豊子夫人は淑徳高き賢婦人にして、よく子女の教育に盡瘁し或は家事一切を處理して、夫君に後顧の憂なからしむ。典型的日本婦人として令名あり。二男三女ありて、和氣家庭に溢れ、世人の羨望の的とさる。
(所在地 大阪市此花區大開町三丁目)

三重縣松阪市にて鑄鋼業を經營して名だたる人に安西氏あり。氏は幼にして松阪市藤川商店に入り、勤勉努力して大いに勤み、機械工具の製造並に販賣に従事す。その業に携ること多年、誠實に職務に従ひしに依り、その方

面の知識と經驗を得ること多大なり。大正六年奮然として獨立し、鑄鋼業を經營す。氏の努力よく効を奏し事業次第に盛大に赴きて、大正十二年には株式組織となせしも、事情ありて十四年再び個人經營に復せり。事業はパイプレンチの製作を主とし、その他機械工具をも製作して年産額三十餘萬圓にも及ぶ。現在職工百餘名を使用し、工場面積二千坪に上れり。

續いて昭和十二年一月に至り資本金五十萬



安西友吉氏

圓を以つて日本自動車輕油機製造株式會社を創立し、自動車の部分品の製作を開始す。氏はまことに業務に熱心にして、機械製作の研究と技術の改善に寢食を忘れ、又販路の開拓に没頭せり。その故に製品まことに優秀にして、需要激増し操業頗る繁忙を極む。當社製品は幾多の共進會や博覽會に出品せられて有功賞を受けしこと亦屢次なり。忙中を割き

て市政にも携はり、昭和六年には有志の推舉を受けて出馬し、多數の當票を獲得して市會議員に當選す。爾後大いに市政に盡瘁し、道路の開闢、學校の増築、神戸神社の造營等の公共事業に力を致し、市民の信望頗る厚し。就中舊松阪町より舊神戸町に至る延長三百五十米、幅員六メートルの道路開闢には異論を排してこれを達成し、通稱安西道路と稱せられて松阪市將來の發展に資する所大なるものあり。氏は松阪市の繁榮策としては大會社大工場の誘致よりも寧ろ在住の中小商工業者の繁榮を計ることを先にすべしとし、この方針の下に献身的に八方奔走し市の商工業發展の爲めに活躍せり。現在松阪商工會議所會頭松阪工場會副會長、三重縣都市計劃地方委員等に推さる。松阪市の中心人物として市民の尊崇を一身に收む。明治二十二年八月、安西久助氏の二男として生る。
(住所 三重縣松阪市垣鼻町)

株式會社 高組

本邦土木建築界の最高峰として斯界に巍然として聳立し、江湖に博せる不抜の信望と、壓倒的大衆の支持とを以て名聲赫々たる錢高組は、明治二十二年二月現社長錢高作太郎氏

の嚴君錢高善造翁に依りて創始せられしものなり。善造翁は剛毅果斷にして素志堅確、眞摯熱直業務に淬勵して多大の成功をなし、大正元年十一月時代の進運に鑑みて資本金一百万圓の株式會社に改組せり。これと共に代表社員に現社長錢高作太郎氏就任す。爾來一段と業務に刷新を加へ、新技術の採用に努めしに依り、事業大いに躍進をなして業界に嶄然頭角を現すこととなり。昭和六年四月資本金百五十萬圓の株式會社に變更して業務に大擴張を行ひ、嚴君は第二線より退きて錢高作太郎氏社長の椅子に就き、令弟錢高久吉氏副社長に就任して、銳意社業に盡瘁することとなり。當社は技術第一主義をモットーとなし、あらゆる最新學理を採り入れて、業界を瞻目せしめ、常に新機軸を招きて、斯界に於ける最新技術の尖端を切れり。實利を尊重して合理的創意を加へ、而も飽くまでも藝術的建築美の創造に精進なして眞に經濟的近代建築の普及の爲めに努力せり。當社の手に成れる銀行、會社、學校、病院等の各種建築物は何れも斯界に絶頂を博せる所たり。從來當社は關西を本據として活躍せしが、事業多大の膨脹をなして今や業陣を全國に張り、本店を大阪に設置して、東京に支店、神戸、名古屋、京城、新京、奉天、大連の各地に出張所を置きて現時社業甚だ活況

を呈せり。

社長 錢高作太郎

頭腦明晰にして犀利緻密、その手腕又秀拔なるを以て新業界に名聲顯然たる錢高氏は、明治二十一年五月錢高喜造翁の長男として出生す。大正十四年家督を相續せり。幼少より穎悟にして、學業甚だ優秀たり。大正三年京都帝國大學工科土木科を卒業して、直ちに大倉土木會社に入る。具さに新業界に關する研鑽を積み、大正八年同所を辭して、家業に従事する事となり、後錢高合資會社代表社員に就任せり。拮据奮勉して業務に淬勵し、常に時運の進展に副ひて社業に改革を加へ、或は新技術の採用に研究に力を盡す等、大いに才腕を揮へり。後株式會社に改組して社長に就任し、東奔西走縱横に馳驅して獨特の業陣を布き、その手腕は業界の瞻仰する所となれり。資性濃厚にして明朗潤達、襟度宏くして情誼に厚く、事業界に信望甚だ厚し。

副社長 錢高久吉

氏は氣格俊邁にして素志堅確、眞實業務に勤精して敏活を揮ひ、關西財界に信望噴然たり。錢高喜造翁の二男として明治二十四年二月に呱呱の聲を揚ぐ。多年新業界に従事し來り、蘊蓄經驗頗る豊富たり。心性潔白にして溫情に富み、社員従業員

より慈父の如くに景仰せらる。

(本店所在地 大阪市西區土佐堀通三丁目)
(支店所在地 東京市京橋區木挽町五丁目)

鐵工業

伊藤時治郎

伊藤時治郎氏は名古屋市中に於て鐵工業を營み、操業頗る繁忙を極め、業績顯著なる躍進を遂げ、同業者間にその才腕絶頂の的となれり。氏は素志堅剛にして奮闘努力の士として知られ、早朝に起き出でて、工場に姿を現し、自ら職工を督勵して技術の練磨に能率の増進に意を注げり。氏業界に身を投じて既に多年、實際的技術に關する知識經驗まことに豊富にして、熟練工も氏の意見には深く啓發せられて、その言に従ひ技術の研鑽に勵めり。斯くの如くに氏の監督まことに宜しきを得て、當社は技術の優良無比なるを以つてその名を知られ、多大の信賴を博してその製品は大いに世上の歡迎する所となれり。氏は内部の指揮監督をなすと共に外部に出でて八方活躍し、顧客の應接に販路の開拓に奔走して八面六臂の手腕を示せり。近時時局景氣の好影響を受けて註文陸續と殺到し、晝夜兼行して操業をなし頗る股賑を極めり。優秀なる技術家にして卓抜なる經營者たる氏の如き材器

は、中京鐵工業界稀有の人材たり。抑々氏が獨立して事業を起すに先立ち小西工場修繕部に入りて具さに新業界に關する技術の習得に切磋琢磨の苦心をなし、此の間の研究に依りてその優秀なる技術を學びとるを得たり。氏は獨立獨行の志に富み、何時かは業界に雄飛せんものと其の機を來るを待ちしが、昭和六年意を決して遂に立つ。創業當初種々の難關に遭遇せしも少しもひるまず勇往邁進し、拮据經營して遂に今日の如き發展を見るに至りたり。目下使用人は十五六名に止まると雖も、氏のモットーとする堅實主義は廣く世間の信用を獲得し、現在名古屋一流商店山下、木村佐野等の有力店舗と特約取引をなして、商況まことに活潑なるものあり。氏は明治二十三年十二月に生れ、經驗蘊蓄まことに豊富にして、人物圓熟し、手腕冴え、まさに男盛りの事業家にして、その前途まことに期待すべきものあり。玉枝夫人は明治三十四年井上理三郎氏の長女として生れ、貞淑にして聰明を以つて聞ゆ。夫君を輔けて事務をとり、庶務會計の一切を執掌し、後顧の憂なからしむ。長男欽一君、二男春二君、長女三代子嬢、三男博和君の三男一女あり。家庭は春風胎蕩として和氣に充ち、實に模範家庭として四隣羨望の的たり。

(住所 名古屋市中區葉場町二)

永田福一商店

我が國力の發展に伴ひ、證券界は益々活況を呈し、證券投資の大衆化顯著なる反面、株式取引量の増大と共に、新進氣鋭の取引員續出する中に、斷然頭角を現はし、今や斯界の古豪連に挑陣を布き、獨特の店を樹立して驥足を伸暢し、惑星的存在として其の將來を畏怖せられつゝあるは我永田福一商店なり。

當店は株界の麒麟兒と讃へらるゝ現社長永田福一氏が、昭和十一年九月を以て、東株一較並に短期取引員の免許を得て創業す。開店以來日尙ほ淺きも、永田氏の多年業界に於て培譯せし不易の信用と、其の高邁なる風格を遺憾なく反映し、僅か三年に充たずして既に業礎を磐石の泰きに措くを得たり。而して氏、天分頭腦頗る明敏、商才に機敏なること華の如く、而も果敢にして、百折不撓の精神力の保持者なり。今日氏の行履を顧る時、坦々たる平道を歩みし事一日とはなく、常に苦難、曲折の連鎖の日子を経來りしも、天稟の豪快と、嚆の如き意志は能く苦難に打ち捷ち難關を突破し以て今日の赫々たる地位を築けり。

店主 永田福一 明治三十年の生れ、長

じて大阪高等商業學校に修學す。大正四年大阪株式取引所に入所して市場係員たりしが、翌年大株取引員たる石田庄七氏に其才幹を認められ同店に轉じ、七年間格闘し、次で青雲の志を抱きて東上、東株一般取引員鈴木常助鬼塚郡太郎、吉川兵次郎、淺野節治、大野藤次郎各商店に勤務し、株界と共に呼吸すること實に十數年、素志貫徹の爲凡ゆる苦闘を遂げ、機至りて昭和十一年九月永田福一商店を創業し以て今日に迫り。我が證券界の前途多事なる折柄、新人たる氏の活躍を衷心切望す。

(所在地 東京市日本橋區江戸橋一丁目)

勢南銀行常務取締役

乾 碩 也

氏は三重縣下屈指の銀行にして三重縣金融界に絶大なる勢力ある勢南銀行の常務取締役として、敏腕を揮ひつゝあり。

氏は三重縣志摩郡鵜方村森本家に生れ後乾逸太郎氏の養子となる。長じて早稻田大學商科に學び、大正九年同校を卒業し、同年四月東洋紡績株式會社に入社す。同十一年同社を辭して翌十二年勢南銀行に入る。拔擢せられり、昭和四年五月には常務取締役役に拔んで

れて、同行の全權を委託せらる。氏は人となり濃厚にして篤實、業務に對しては驚く程に熱心にして、至誠至直以て事に當り、精勵格勤、早出晚退實に多數行員の模範として仰がる。頗る手腕ありて當行の發展に寄與すること甚大。他面清康にして身を持することまこと堅く、その人格は才腕と相共に世人の信認する所となり縣下金融界に信望高し。美佐尾夫人は三重縣向井茶氏の二女にして津高女の出身たり。家庭には二男五女の子寶あり。尙ほ氏は勢南銀行常務たるの外乾合名の代表社員として植林業を經營せり。因に勢南銀行は宇治山田市に本店を置き、三重縣下各地に支店十四ヶ所、出張所七ヶ所を設く。公稱資本金二百萬圓にして、内拂込資本六十六萬五千圓なり。昭和十一年度末に於ける各種積立金は三十五萬八千圓、同じく預金總計八百八十五萬二千圓、又諸貸付金四百四十九萬七千圓に達し、内容堅實、業績又頗る好調を辿り十一年度下期決算を見るに、總收入三十九萬一千圓、總支出三十萬七千圓にして差引當期利益金は八萬三千圓に達す。右利益金中一萬二千圓を各種積立金に計上、株主配當に年六分の割にて一萬九千圓を充當。更に後期に四萬七千圓を繰越す等頗る良好、堅實なる決算をなせり。取締役頭取に奥井周太郎、常務乾碩也、常任監査役正木銀吉の諸氏第一線に立

ちて行務を處理し、營業部長吉田覺藏氏又惟
懼に參照して當行の發展に力を盡くせり。
(住所 宇治山田市本町)

細田貿易株式會社

華城貿易界に於ける最も内容の充實を誇る
と共に、隆々の業績を挙げつゝあるは細田貿
易株式會社にして斯界の異彩たるを失はず。
其の堅實なる社業は、同業者の等しく驚異す
るところなり。當社は電球、電氣器具材料、
一般雜貨及電球材料を營業目的として當初細
田孝三郎氏の個人經營たりしも、業績益々進
展したるを以て昭和二年二月、總資本金二十
萬圓(全額拂込済)の株式會社に組織變更し
陣容を一新して斯界功勞者細田孝三郎氏を社
長に、敏腕を以て鳴る足田益太郎氏專務取締
役となり、經營の第一線に立ち業務一切を主
宰し、氏の事業的面目を躍如たらしむ。又取
締役に松谷良助氏の逸材ありて一段の光彩を
附加して一大強陣を布き、今や東淀川の大王
場と共に東京、上海の各支店を擴充して華城
貿易界の惑星的存在として隆々たる飛躍を顯
はれつゝあり。

社長 細田孝三郎 氏は明治二十二年十

一月二日を以て、京都府細田善助氏の三男に
生る、夙に第一商業卒業後細田商店に入りて
父業を繼ぎ昭和二年組織變更と共に現職に就
く。資性開放にして大膽なるも周到にして卓
効、財政經濟に通曉し經驗極めて遠大なり。
而も一面至誠謹直、業に範たる長者の風格を
備へ、社會公共に盡瘁し、また衆庶の指導啓
發に意を注ぎ、所謂才德併せて上下の敬慕敬
仰大なるものあり。營業方針は飽まで信用本
位を確持し共存共榮、永久に明朗なる取引の
續けらるゝを信條とし、その信望は同業を壓
し業績益々盛大を極めつゝあり。佛教の熱心
なる信者にして家庭には秀子夫人との間に文
子、房枝、光代の三嬢ありて和氣霽々たり。
(所在地 大阪市東區南久太郎町二丁目)

株式會社 松村組

近來長足の進歩を遂げたる我が土木建築業
界には、大小新古幾多の業者其の覇を競ひ、
各々飛躍發展眞に目覺しきものあれど、建
具眼く業界の情勢に精通せるの士ならでは
容易に其の董藩を辨せざると雖も、苟も斯界
に一隻眼を有するもの齊しく關西土木建築請
負業界に於ける株式會社松村組の光輝燦然た
る存在を認めざるはなし。即ち同社は堅實第

一を標榜なし、社礎の不搖、施工技術の優秀
且つ甚大なる信用を博して業勢當る可らざる
ものあり、名實共に斯界の一俊峰なりと稱揚
するも斷じて過褒の言辭たらざるべし。
抑も松村組の發端を尋ねれば、明治二十七
年十月現社長松村雄吉氏が、敢然獨立創業せ
るに端を發し爾來星霜幾變轉榮枯盛衰常なら
ぬ業界の變遷に處して遺憾なき經營方針に依
りて漸次業運の隆盛を來たし、遂に大正八年
業容の一大擴充を實現するに至り、茲に同年
七月從來の個人經營組織より資本金百萬圓を
以て株式組織に變更、斯くて規模を充實し陣
容を整備するや、更に業績も逐年擧り、遂に
現今見るが如き繁榮を招來、信用藉甚となり
て、牢固不拔の勢力を扶植するに至れり。而
して同社昭和十一年下期成績の示せるが如
く、資産内容に於ける土地建築の不動産及有
價証券の現在高は資本全額を遙かに凌駕し、
且つ借入金は極めて僅少にして、利益金十萬
六千九百餘圓を計上し居れり。加ふるに其の
工事請負先は陸海軍省、逓信省其他各官衙學
校等を主たるものとなし、而かも仕事完了各
方面より感謝狀、褒狀を送らるること、枚舉
に追なきを以つて、其の施工の優秀なるを
窺知し得べく、且つ堅實主義の眞骨頂を察知
するに足る。而して近時鐵材暴騰の嵐に呻吟
苦悶せる業者の渺なからざる中に在りて、懸

眼克く同材料先高を見越して思惑買を敢行す
るの機敏性を有し、他者が材料不足の結果工
事中止の罷むなきに至る悲運に遭遇しつゝあ
るも、同社に於ては毫も營業上の支障を來た
さず、却つて之を武器となして勇躍業界戦に
邁進しつゝあり。斯くて本期當初より請負へ
る工事既に金額二十萬圓以上なるもの十指を
屈して足らず、以て本年度業績の見るべきも
の多々あらん事も贅言を要せざるべし。



松村雄吉氏

斯の如く社礎益々鞏固を加へ、業勢愈々旺
盛なるものあるは一に社長以下諸重役を始め
全社員に人材を網羅せるに基因すべきか。因
みに現在同社重役陣容を掲ぐれば、取締役社
長松村雄吉、常務取締役田中莊二、取締役兼
東京支店長松村雄二、取締役今吉善代藏、監
査役新藤一子、同山本徹太郎の諸氏、支配人
兼營業部長吉部武夫氏にして何れも斯界錚々
の人物たるは論を俟たざる處なり。
東京支店 麴町區内山下町一ノ一

京都營業所 左京區聖護院山王町
名古屋營業所 東區朝日町一ノ五
九州營業所 小倉市野町四一
滿洲營業所 新京中央通一九

社長 松村雄吉 氏は明治三十四年六
月の誕生、和歌山縣人田中魯一氏二男にして
後松村家を相續なし、先代雄吉を襲名以て今
日に及び、養家をして隆々たる家運を招來せ
しめたる守成の功勞者なり。氏は幼時既に常
人と異なる處あり、長じて學を了へ、斯界に
第一步を切るや天性の剛毅果斷なる資質に綿
密周到なる頭腦を以つて、努力研究克く斯業
の骨髄を會得し、加ふるに同業觀察の爲め外
遊せることあり。其の識見高邁なること業界
の一異彩として稱さるゝも蓋し當然ならん。

而かも人格高潔にして温情流露たる處、全從
業員は勿論、同業者間に齊しく敬仰され居れ
り。而して人格識見愈々圓熟の境に入れる氏
の向後の活躍こそ、正に刮目に値すと云ふべ
きなり。

支配人營業部長 吉部武夫 氏は京都の
産、夙に神戸高等商業學校に於て研鑽勉勵、
克く斯業を修め、優秀なる成績にて卒業後、
酒造業を営みて業勢侮り難きものありしが、
其の人物手腕の非凡なるを見込まれ、昭和四

年松村組に招聘せらる。爾來支配人兼營業部
長の要椅に座し、天賦の才幹に加ふる至誠努
力を以て職に當る處、其の堅實無比を誇る同
社營業方針と相俟ちて、業績を頓に擧げしめ
たる斯界稀に見る逸材たり。資性温健明朗に
して、一面物々たる霸氣を藏し、而かも研究
心頗る旺盛にして、業界事情に通曉せざるは
なし。蓋し、社長松本氏の知遇に酬ひ献身的
努力を以つて社業を隆盛ならしめたる功績、
眞に大なりと云ふべし。
(所在地 大阪市東區大手通一ノ二六)

三菱重工業株式會社 名古屋航空機製作所

近時我國航空界の躍進はまことに目覺しき
ものありて、既に歐米諸國に比較するも聊か
の遜色なく、否部分的には遙かにこれを凌駕
するものさへあり。
斯る躍進の裏面に於て製作者並に技術家の
多年に亘る筆舌に盡し能はざる苦心研精の存
するを洩却すべからず。彼の歐亞飛行に於て
驚異的記録を擧げて全世界を躍目せしめし神
風號の成功も、常に操縦者の技術の卓抜なる
に止らず又製作者の手腕の優秀なるを實證せ
るものにして、神風號の機體は實に當社の製

作せる所たり。三菱直系の一大事業として當社が本邦航空界に貢献せるはまことに偉大なるものあり。株式會社三菱社の經營せる神戸造船所にては夙に内燃機關の研究中なりしが大正八年五月三菱造船會社神戸内燃機製作所を新設して事業に着手す。翌年五月名古屋市に三菱内燃機製造株式會社を設立して、三菱造船會社より神戸内燃機製作所の事業を繼ぎ名古屋工場に於ては飛行機、同發動機及自動車、の製作修理を營むこととし、翌十年五月より事業を開始せり。神戸分工場にては潜水艦機關其の他重油機關の製造に従事す。同年十月本據を東京に移して社名を三菱内燃機株式會社と改稱し、名古屋工場、神戸工場をそれぞれ製作所と稱することとせり。十一年に至りて自動車に關する事業を分離し、東京芝浦分工場に經營せしむ。昭和三年五月には社名を三菱航空機株式會社となし、名古屋製作所は専ら航空機、同發動機及びその附帯事業に従事し、神戸製作所は三菱造船株式會社神戸造船所と合併せり。超えて同四年東京市外大井町に工場を新設し、芝浦分工場を合併して東京製作所と稱す。昭和九年六月三菱重工業株式會社の出現に依りて、名古屋製作所はこれに合併せられ、爾來名古屋航空機製作所と稱することとなれり。現在同所の建坪は二萬六千餘坪に上り、中部日本隨一の大工場にし

て、設備萬端當代最新技術を採用し、現代科學の粹を盡くせり。従業員總數八千名を超え優秀なる熟練工を擁して、その規模に、その設備に、その内容に於て、眞に世界に誇るに足るの優秀工場にして我國産業界の王座を占むるものなり。近時事業愈々活況を呈し、國益の増進に國威の發揚に貢献する所實に絶大なるものあり。後藤直太氏現に名古屋製作所長として、同所を統率して手腕を揮へり。

所長 後藤直太

卓犖豪放、剛毅調達、眞に人の將たるの器あり。淡泊恬淡、名利に超脱し、清廉潔白にして高義清節の士たり。人の爲には進んで己を犠牲として盡くす等頗る義氣に富む。頭腦緻密にして用意周到事業經營の手腕又非凡なるものあり。人物才腕共に三菱部内に多大の盛名ありて、其將來には絶大なる期待をかけらる。山形縣後藤松右衛門氏の三男として明治二十二年五月に呱呱の聲を擧ぐ。夙に海軍兵學校に學び、優秀なる成績を以て卒業す。海軍航空研究所委員海軍造兵監督官等に歴任して、大正十二年に海軍少佐に異進す。同年官を辭して三菱に入り、名古屋製作所副所長を経て現職に就く。多數従業員より敬慕せられること深く、氏の指揮の下に名古屋製作所は一指亂れざるの統制を確保せり。

副所長 野口松一 氏は渾厚篤實にして、その職に精勵し、謹直を以て知らる。智腦俊敏にして思慮深く、水も洩らさざるの周密なる用意あり。質實堅確にして身を持すること堅く、人に對して極めて謙虛にして、温情を以て接し、社の内外に名望彌々高し。
(所在地 名古屋市港區大江町)

終始一貫個人經營の主張を堅持して下らず、他の勸説を絶対に拒否し來れるが、同志の熱烈なる進言と執拗に近き誘導に傾聽、一面會社組織に依る事業の急伸展と、金需要の國家的となれる近狀に鑑み、産金報國の一念發起して、遂に會社組織に急轉せるものなり。

當社は地の利、人の和、天の時を併せ恵まれたる好機に、島西氏經營の主旨を繼承し、堅實なる經營の下に第一期實績に依る一割配當を確保し、更に第一期中に百匁プランの青化製煉と、第一水力二百キロの發電等主要設備を進捗し、次期一割五分配當を目標として事業遂行の一切計畫整備せり。

而して峯山金山は兵庫縣美方郡小代村久須部に所在、其面積五十三萬四千九百坪にして金銀礦なり、その發見は今を距る五百四十三年前、足利幕府の旺盛期の有名なる京都金團寺造營の五年前の開發にして、今尙ほ馬道、吹家屋敷の稱呼を現存す。舊坑及舊吹殼は山道及び田畑等に散見し、往昔三、四十年稼業せられたるも、足利時代の應仁之亂初期に閉止せられ、其の儘明治年間まで顧みられず三四權者が舊坑の探鑛を計りたるも成績擧らず大正元年に至り、椿本俊吉氏等により久須部金山株式會社を起し、資本金五十萬圓にて設立を見、工學士市川市太郎氏専ら設計監督に當り業績大に見るべきものありたるも、重役

等に悲運相重り遂に木村平八氏の有に歸し、事業は放棄、全山荒廢す。昭和十年赤松平治氏之を買収、後島西氏に譲渡され、同氏出資の下に坑道の取分修復及び探鑛の積極的經營に猛進せられたるに依り、其業績大に現はれ新通過坑の開發に露頭の探見、開坑等凡て合理的に業績進展し、其鑛量の莫大なるを認知するを得たるを以て、鑛山事務所に達する運搬道路を新に開發し、水力發電の新設備並に選鑛設備の設計等を以て、天與の寶庫を開發して今日に迫り。

因に稼行中の坑道は北極北本坑外六坑、南極は南本坑外五坑にして、何れも十萬分の一乃至六の高品位なり。

尙當社の陣容を述べれば資本金三百萬圓(全額拂込済)。創立昭和十二年六月。目的金銀銅其他礦物の採取及製煉、取締役社長島西力藏、常務取締役佐藤徳次郎、取締役長谷川源太郎、同和泉榮、同國中保吉、同兼技師長廣井巽、監査役角田定次郎、同岸田虎二

取締役社長 島西力藏 若冠より山岳の研究に興味を有し、有名なる登山家たり。明治三十五年十月、和歌山縣島西淺吉氏の長子として出生す。資性剛健にして烈々たる氣魄を有し、清康にして義氣に富む。「趣味即ち事業」の精神の遺奉者たり。即ち若年より鑛

山業の國家的事業たるを痛感し、夙に之れが調査研究に没入、私財を投じて探鑛の折柄、偶紀州熊野白石楊枝鑛山の有望なるを究め、奮起之れが企業を志し、數年を出ずして幸運にも成功し、曩に峯山金山の權利を獲得し、峯山金山株式會社を設立、社長に就任して今日に至り。尙氏個人經營に武庫金山、廣島三原八坂鑛山、廣島相渡鑛山、兵庫縣長谷鑛山、同川上鑛山等を有し、何れも稼業に精勵し全従業員四百餘名に達し居れり。
(所在地 大阪市東區平野町三ノ一三)

八幡市商工會議所會頭 入江賢助

「努力は成功の母」と之れ成功の捷徑は學殖に非らず、況んや門閥にも非らず、要は唯強固不拔の意志と誠實とを以てする實行力あるのみなり、誠實を以て實行に最大の努力を傾注して餘すところなくば、成功は期して俟つべきなりと言ふも、眞に自己の實力を正しく解し、充分なる伸張をなさしむるは、尋常凡介の容易に爲す能はざるところなり。我が入江賢助氏は、正にこの難事を克服して、縱横に實力を發揮し、隆々たる雄名を馳せたる代表的人物なりとす。今日八幡市に於ける請負業界の覇王たるの

虎屋 黒川 商店

みならず、同地財界の巨頭として、夙に八幡市商工會議所會頭の榮職に立ち、又一方民政黨八幡支部に於ける長老として赫々の功績を残して、噴々の盛名を誦はれつゝあるは、之實に氏の不没轉の勇猛心と超人的の精神力を扶くるに鋼鐵の如き強志ありてこそ、若冠墳墓の地を去りて異郷に今日の成功を招きたる賜にあらざるはなし。

氏は香川縣入江佐市氏の二男として明治十二年二月を以て生れ、夙に雄志勃々として郷關を出で來幡、風浪荒き實社會に身を投じて切瑛琢磨の功を積み、遂に業を興して製鐵所構内運搬請負に異數の成功を収め、或は同所修築鐵道線路修築工事に、或は職夫供給、材料運搬に著々の業績と信望を博し、而も巨財を蓄して今日の大をなすに至りたるも雖もそれは世に云ふ漁夫の利に非ず、十年一日の如き努力に依りて蓄積されたる膏血の結晶に外ならざるなり。而して其の才腕は凡庸の遠く及ばざる所にして、よく時流を洞察するの慧眼を以て事業運用に萬全を期し、更に新知識の吸引には日夜研鑽を怠らず、其の明晰の頭腦はよく之れを咀嚼し、既にして大家の域に到達し、財學に通曉したるを以て知り得べし。

大正十四年には早くも八幡市會議員に推されたり。爾來逐年頭角を現はしつゝ、昭和二年には信用組合、八幡庶民金庫監事に、翌三年同金庫理事に、同年十一月八幡市商工會議所議員に當選、次いで副會頭に就任、以來累任して遂に同七年十二月同會頭の榮職に擧げられ、更に同十一年再任して今日に至る、同地事業界に貢献する所多大にして、その功績没すべからざるものあり。

斯くして大正十四年以來市議に當選すること連續四期、商工會議所議員たること實に十年に及び、今や同地政界に、財界に、或は事業界に、何れも重鎮的存在を博するに至りたるものにして、其の玲瓏玉の如き人格と相俟つて愈々衆庶の信望昂揚し、氏の才腕はその行くところ可ならざるはなしの概を示しつゝあり。老いて益々矍鑠にして向後の飛躍は期して俟つべきものありと言ふべし。

資性濃厚篤實にして才氣縱横よく進取の氣象に富み、堅實なる營業方針と獨自の機略を發揮、其の仁俠の精神は殊に旺盛にして、人の爲めに哭くの温情抱すべきものあり、趣味は釣魚とあるも之れは氏の唯一の健康法なりと聞く。家庭にはコト子夫人との間に賢氏、文字嬢、克彦君、和子嬢あり、長女シズエ嬢は本縣中村正男氏の家督を繼ぎ、文字嬢は本縣山口善雄氏の令弟博氏を養子に迎へて博子嬢、悦子嬢、仲明男の一男二女あり、家門春風に満ちて和氣霽々たるものあり。

味の甘美にして風味の佳絶、夙に天下一品たるの高評ある菓子製造し、長くも皇室を始めとして、廣く上流階級の間賞美せられ、その名斯界に冠絶せるものに虎屋あり。當家は菓子舖としてはまことに由緒ある家柄にして、その宗祖慶長中期に始めて斯業を創始し、屋號を虎屋と稱して代々京都に居住し製法に幾多の新工夫をなし、或は新製法を創案して、其製品の美味にして風味の佳良を以て世上に絶讃を博せり。累代の店主何れも家業に精勵し、種々と研鑽をなして製品の向上を圖り、愈々聲價高まりて大いに家道繁榮をなせり。夙に當家製造に拘はる菓子の名聲は雲上に達して皇室の御用を拜するに至り、二代目より近江大掾を賜る。製菓業としながら頗る格式ある家柄たり。當主の先代光正氏は時代の進運に鑑みて經營方針を刷新し、製菓の技術にも大いに改良を加へ、更に明治維新の大業成りて江戸に遷都せられ、將來東京が政治經濟の中心として發展せんとするに至りたるに及び、氏は京都店を支店となし本店を東京と爲せり。氏の卓見は見事に功を奏し、東京本店は江戸ツ兒の間にも多大の好評を博して事業大いに殷盛を極むるに至れり。

(住所 福岡縣八幡市姪子町)

店主 黒川 光景

當主黒川光景氏は明治四年二月黒川光正氏の二男として呱呱の聲を揚ぐ。明治二十九年家督を相續して前名尊雄を改む。氏は頗る家業に熱心にして、菓子製造法は飽くまでも、舊來の長所を固守すると共に、又最新技術を採用して改良すべき點には多大の改良を施して、時流に適合するの製造法を創業し、更に味に風味に種々と工夫を凝らして大いに優秀なる製品を發賣して多大の賞讃を受く。現に宮内省御用を始め、各官家上流各家庭の御用を承り、家門愈々繁榮を呈せり。氏は濃厚篤實にして襟度寛容の君子人たり。家業に精勵して夙起晩寢し、勤勉力行の士として知らる。従業員を遇すること厚く、眞に我子の如くに愛撫す。従業員又氏は慈父の如くに慕ひ、氏を扶けて家業の發展に全力を盡くせり。人格高潔にして品性典雅を以て世人の瞻仰を受くること深く、東京並に京都に信望甚だ高し。

『天下を天下の天下とし、國を國の國とするの觀念あれば、大事出来の度毎に、國民一般、我國の事を思ふが故に、自然忠義心湧出して貢獻するものなり』之れ大楠公開書に傳ふる語なるが、氏の行履を顧る時、この語の髣髴せるを想見す。氏之れを座右之銘と爲すや、筆者知らず。氏終始一貫君國享命の恩澤の宏量無邊を肝銘し、我が國富、國防の充實を念願とし、同胞協和して航空界に寄與し、或は深山幽谷、邊陲を跋渉して、探險に邁進して之れを啓發す。貨殖を散するに公共に意念し、以て國民的任務を果すべく且暮精勵す。實にその行爲は鴻鵠と爲すに充分なり。即ち大正十一年五月、鑛業 諸物品輸出入を目的とする、資本金三百萬圓の中島商事株式會社を設立し、昭和六年十二月、個人經營た

高崎板紙株式會社

りし中島飛行機製作所を、資本金一千二百萬圓の株式組織に革め、同年同月資本金六百五十萬圓を以て富士合名會社を設立し、以て同胞協力のシンボルたらしめ、何れも威望隆々たり。一として世の規範たらざるはなし。中島家同胞こそはこれを粹倫の觀點より評するに正に國民的指導者たるものあり。以て總鑑とすべし。

(住所 東京市牛込區市ヶ谷仲町一〇)

事業家 中島 門 吉

我が航空事業並に鑛業の盛況を想見する者必らず同胞相和し、一致協力以て轉轉たる成

群馬縣下有數の大會社として、社業頗る殷盛を極め、毎期二割五分の高率配當をなし、驚異的好成績を挙げつゝあるが當社とす。大正三年三月資本金八萬圓を以て創立せられ、爾來年を逐つて躍進を遂げ、大正五年十二月には倍額増資して十六萬圓となし、大正七年三月には上毛製紙を併合して三十萬圓に増資し、八年三月一躍七十五萬圓となし、十五年十二月には日光板紙を合併して百五十萬圓、超えて昭和四年六月千住板紙を合して三百萬圓、續いて九年九月第二高崎板紙と合同して資本金五百萬圓、更に最近一千萬圓に増資し年を逐ひて發展せり。創業以來非常なる好成績を挙げ、歐洲大戰當時には九割割の配當

を行ひしことあり。創立以來今日までの平均配當率は二割五分以上に上り、實に驚くべき好成績を挙げ居れり。製品は黄板紙、茶板紙、白裏板紙等各種厚紙を主とし、東京・大阪・京都・仙臺等全國樞要都市の有力販賣店と取引す。又各地方専賣局、鐵道省、陸軍造兵廠へも直接納入せり。尙ほ輸出にも力を盡くしカルカツタ・ボンベイ・ラングリン・ジャバスマトラ・滿洲等廣く各地へ輸出せらる。現在年産力三萬六千尾に達し、創立當時の一千八百尾に比較して二十倍に相當す。高崎、日光、千住(東京)の三工場ありて、従業員は四百數十名を數ふ。勞資關係實に圓滿にして上下協力して社業の發展に邁進し、設備優秀にして、品質又頗る良好なり。當社の前途まことに洋々たるものあり。

取締役社長 井上保三郎 夙に高崎市に事業を起し、同市の繁榮の資たらんとして事業に理解なき人々を勸説して、苦心の結果當社の設立を見る。浮動剽竊經營に専念して多大の成績を擧ぐ、俊秀高才、周匝緻密群馬財界に益ぶものなき材器たり。剛毅果斷にして人格廉直その高風は世人の深く敬仰してやまざるところなり。

事務取締役 小柏朝光 小柏氏は明治二

十三年二月群馬縣に生る。夙に大阪高等工業を卒業し後當社に入る。技師長、支配人を經て昭和二年現職に就く。早出晩退、精勵恪勤して當社の爲めに盡くし、多大の貢獻あり。寡黙謹嚴にして不言實行の士たり。頭腦明敏の人にして、學識經驗兼備はり、優秀なる技師家として推敬せらる。當社に於ては専ら生産の方面を擔當し、大いに手腕を揮へり。高崎證券事務、高崎毛織、高崎タスパン各取締役小島鐵工所、小島電氣製鐵、大阪紙業各監査役の椅子にあり。

常務取締役 黒崎義平 氏は専ら營業方面に携り、明晰慧敏の智能を以て縱横に活躍して、社業を大いに躍進せしむ。明治二十九年一月群馬縣人黒崎金作氏の三男に生る。夙に入社して書記、販賣課長、支配人と越所の累進を以て、昭和五年現職に就く。内外の信望甚だ高し。高崎證券事務、高崎毛織、大阪紙業、高崎タスパン各取締役等に推され、事業界に重きをなせり。
(所在地 群馬縣高崎市八島町)

慶明會

慶明會は人生の最大事たる結婚が現代社會

情勢に依り思想的にも様式にも區々となりて殆ど適從するところを知らざる觀あり。爲に慮はざる過誤に陥り不幸を招く等の實例紛からざるに盡み、慶明會現代代表者澁谷利兵衛氏が主唱の下に教育、青年指導、軍事、醫學、法律、操縦、社會事業、藝術等に關係を有し世上人事に曉通せる人格識見の人士を委員と爲し、加ふるに賛助員を推舉し、以て社會奉仕精神に則りて組織せる團體なり。而して當會は日常結婚に關する種々相を多角的方面より検討を遂げ、再認識を爲し眞に悔なき結婚を成立せしめんとする理想に對ひて、指導原理を確立し左述の綱條に依りて機會ある毎に之が示唆實踐に努力しつゝあり。

一、慶明會は社會奉仕の精神を以て我國結婚の總てに涉り、常に之が再検討を爲し、國體の眞諦に立脚し傳統の習俗を參酌して時代に適應せる指導原理を確立して其實行を圖る。

一、組織は委員を主體とし賛助員を客體とし賛助員は委員の推舉による。(但し兩員とも無報酬)

一、委員は隔月に一回定期會合をなし趣旨に基く研究を遂げ機會ある毎に社會に結果を發表し併て直接之が實行に當る。

一、委員及び賛助員は婚姻にある男子女子を推薦して原簿に登録し好配と認むる時は文

書若くは直接に紹介をなす。但し所謂橋渡しの程度に止め媒酌等の域に入らぬことを原則と爲す。(手数料金等一切之を徴收せず)

一、本部を大勢市北區中之島二丁目慶明莊に事務所を大阪市東區高麗橋一丁目澁谷利兵衛方に置く。この綱領によりて行ひつゝある事業の概要は左の如し。

一、結婚に關する研究會 委員は隔月毎に一回本部に會合して結婚に關する諸問題の中より逐次一箇の問題を提へて之を縱横に解剖し検討して指導方針を定め且つそれが實現方策を考究す。

イ、母の會 前項の結果を實行する爲に婚姻にある者若くはやがて婚姻に入らんとする子女を有つ母親と親しく會談する事が一層効果を大にする所以なれば此會合を催して本會の研究をも發表し一面母親方の意見を聞き眞に幸福なる結婚への参考に資せんとす。

ロ、縁組の紹介 委員中幹事を互選し幹事は毎月二回本部に會合して委員賛助員よりの推薦にかゝる求配偶者につき擬議の上、年齢、環境、希望條件等に照合して豫め良好と認定の上は双方の推薦者の同意を得て之を相手方の推薦者に紹介し兩者の間に任意協議を進むることとし本會にては身許調査

媒約等は一切關與せず。

委員 赤十字病院副院長井岡忠雄 前控訴院部長大阪商大講師片山通夫 大阪地方裁判所調停委員河田爲作 實業家坂田治郎 前大阪市助役瀧山良一 社會事業團常任幹事辻村又男 府市青年團參與成田軍平 醫師西澤貞三郎 大阪府女子專門學校校長平林治徳 前清水谷女學校校長藤澤茂登一 大阪制菓學校校長の場多三郎 幹事 日本相互貯蓄銀行重役今井賢三 會社員太田仁三郎 川島貞子 實業家小西梅太郎 小西巳之助 澁谷利兵衛 獨逸文化研究所理事竹内萬壽兵衛 實業家瀧山與次 在郷將校田中嘉一 實業家林杉造 同米田鶴吉の諸氏なり。

代表者 澁谷利兵衛 當家は遠く享保時代より醫師商を営める老舗にして、氏實は兵庫縣龍山辨藏氏の二男明治二十年出生、後澁谷家の養子となり、昭和二年家督相續と同時に益三を改め、利兵衛を襲名家業を繼ぐ。氏は婚儀用品業の傍ら日常古典と儀禮を研修造詣深く、人生最大事たる結婚への奉仕を志して三十餘年、其間の蘊蓄を實際化せるが即ち大正結婚即ち現慶明會なり。此間結婚成立實に三千組を超え、其奉仕精神は周知のところなり。因に氏は専門大店事務取締役たり。
(所在地 大阪市北區中之島二丁目)

言敷紡績株式會社

中國、四國を濫床と爲す我が紡績業界の古豪にして、今や新業界の好調に乗じて凡ゆる商策に成功し、尙ほ且つ天津工場建設許可を得たるを動機に増資し、其擴張完成後の大發展を畏怖さるゝ俊敏たり。

元來當社は過ぐる明治二十一年三月、故大原孝四郎翁主唱の下に、資本金十萬圓を以て設立し、爾後増資を累ぬる事屢次、大正七年一月讃岐紡績を、同年四月松山紡績を、同年一月早島紡績を、同一年更に岡山染織を昭和八年十二月三豊紡績を各合併して資本金二千萬圓に増資し、同十二年十一月に至りて一千五百萬圓の大増資を敢行し、以て現資本金三千五百萬圓を擁するに至れり。而して其支配下に新進倉敷紡績株式會社を措きて六百數十萬圓を投資せり。

茲に當社最近の全貌として昭和十二年下期決算を大觀するに、當期利益金三百五萬二千圓、その利益率二割八分七厘を擧げ、前期の二百八十五萬七千圓、三割七分七厘に比して金額に於ては十九萬五千圓の増益にして、利益率に於ては九分の低下を示せり。之は云ふ迄もなく未拂込徴收の結果に他ならず。而

して資産償却に百萬圓を當て土地を除き十一ヶ年償却を行ひし上、積立及び繰越三十三萬九千圓を引き去り、普通配當一刻を据置きしは、實に堅實なる決算と讃嘆すべきなり。當期は支那事變の衝動を受けて米價暴落、次で各種統制行はれ、就中、原棉輸入制限は遂に高度操短を餘儀なくされし爲、當期生産高綿糸九萬八千捆、綿布二千四百四十萬碼にして、前期に比し綿糸三千六百捆、綿布二百十萬碼の減産となれり。然し乍ら當期製品は前期高値當時賣約されし爲、採算に近來稀なる良好を示せり。之が當期増益の最大原因なり。尙人織糸は前期に至り人織紡機三萬一千錠を完成せしめ、前期生産高百二十萬封度内外なりしを、當期に至りて二百三十萬封度内外に達せり。一時は百封度十圓内外の利益を見込しが、期央一般織維界不振の影響を受けて一時は採算一杯となり、期末に至り國策として助成策の効果顯はれ次第に強調を呈し、殊に當期物には先約を行ひありし爲、所期以上の収益を挙げ、毛糸布は主として羅紗、毛布等軍需關係品を製出し居れば、頗る多忙を極めたなり。

績を挙げ得て、恐らく七十萬圓の内面償却を行ひたるものと思料さる。當社は現に北條工場紡機六萬七千錠並に織機二千臺を建設中にして既に完成近く、亦天津工場の計畫も北支の安定と共に進行せしむる筋合にあり。之を要するに當社は今後人織紡績の増産には積極方針を堅持し居れば、人織糸よりの増産は蓋し莫大なるものあらん。其前途を期待さるゝや切なり。

と共に、頗る進歩的頭腦の器にして三十餘年前より、京都帝大を始め其他より専門の翰林を招聘して農業講習、或は學術講習會等を開催し、社員、職工は勿論、地方民の教育に努力し來れり。尙歐洲大戰に際會して社會問題労働問題に留意して、私財百萬圓を投じて、大原社會問題研究所を設立し、後ち更に大原農業研究所、大原労働科學研究所を創設し、國民の社會思想の健全なる發達を冀求し、國家社會への惠澤に酬ゆる念慮は蓋し高純なるものありと言ふべし。過ぐる昭和五年十一月朝廷その功勞を録し、紺綬褒章並に勳三等を下賜せらる。因に氏は泰西名畫の蒐集家として名を馳せ、洋畫鑑賞に一隻眼を有するが、之を獨資せず常に一般に公開する點等實に明朗なる快學と稱すべし。

取締役社長 大原孫三郎

氏は人も知る中國を代表する事業界の巨魁たり。由來大原家事業の本城たる倉敷紡績は先考故大原孝四郎翁の創設にして、地方産業開發と投産の目的より縣下有志を説伏して設立せるものにして、明治三十九年翁は引退して氏が之を襲ひ積極的經營に終始し、以て今日の興隆を爲せるものなり。尙且つ倉敷紡績、中國銀行、中國信託等々殆んど氏の個人經營の如きものなり。殊に特筆を要すべきは氏は其事業的才腕

常務取締役 神柳吉

人格高潔にして識見亦超凡、林常務と俱に大原社長の良佐たり。天資頭腦精緻にして温厚。明治十四年正月岡山縣神柳與平翁の二男として出生。同三十一年家督を繼ぐ。長するに及んで京都帝大に笈を負ひ、同四十一年法科獨法科を卒業。夙に學究の目的を以て歐米に留學す。現に當社常務の傍ら倉敷紡績常務取締役を兼ね且暮繁職中に在るも、閑を偷みては書畫骨董の鑑賞を好み、斯道の眼孔亦廣し。

常務取締役 林 桂二郎

才氣煥發にして氣格俊邁たり、當社常務兼大阪探題にして、新業界に著聞する存在。明治二十二年岡山縣に呱呱の聲を發す。幼童にして既に奇才の鋭鋒を發顯し近隣を畏敬せしむ。大正八年東京帝大法科英法科を卒業す。頗る多趣味にして殊に文藻に富み、その清冽なる感情と、明晰なる頭腦より進る詞藻、一として可ならざるなく、作風愈々妙圓たり。當社の寶器として汝々として精勵する外、林源十郎商店取締役たり。

(本社所在地 倉敷市元町 四九七)
(大阪營業所 大阪市西區江戶堀北一丁目)

倉敷絹織株式會社

當社は倉敷紡績株式會社傍系事業として、大原財閥擁護の下に、大正十五年六月を以て創立す。
グイスコース人絹、高級クラマ人絹人織を主製品と爲せり。當初資本金一千萬圓なりしが昭和八年十月に至り二千萬圓に倍額増資を斷行、同九年三月日本化學製糸を合併して三千萬圓を増資し、更に同十年十一月中國レーヨンを合併し、資本金五千萬圓を擁するに至り、今や新業界の強豪的存在たり。而して近

常務取締役 神柳吉

年の業績は増産並に市價好調に依り頗る良成績を保持し、綿紡式の實質經營に改め、以て生産費低下の實を挙げつゝあり。當社の現設備能力は人絹五萬六千錠、人絹日産七十八疋、人織日産二十五疋を擁し、昭和十二年上期人絹生産高一千七百三十七萬封度に達したり。尙倉敷市外、愛媛縣新居濱、同西條、岡山に何れも整備せる工場を有せるが、擴張發展の西條、岡山兩工場は惜むべし、新製制限の難に遭ひたるが、其反面經費節約に依りて顯著なる効果を收めつゝあれば、その前途何等の憂ふべきこと毫もなく飛躍の一途を辿るべきは論を俟たざるべし。

(本社所在地 倉敷市元町 四九七)
(大阪營業所 大阪市東區今橋四丁目三)

菱信託ビル内

富士生命保險株式會社

「保險報國」に終始一貫之を昂揚實踐するに契約者本位、無條件にして危險負擔を爲し保險金支拂は至極寛大且つ迅速を以て信條と爲す。而して當社は我が生保業界に馳騁すること實に三拾有餘年。今や新界中堅の儼乎たる存在を著聞し、質實堅實を讃嘆さるゝ明星たり。

元來富士生命保險株式會社の生涯は、同業

他社の發足と全然その動機を異にし洵に敬虔なる發倫を基調として設立せられたるものなり。即ち從來の生命保險界に於ては軍人出征の際には豫め會社に届出で割増保險料を拂込まざれば、國家のため忠烈なる戦死を遂げても保險金の支拂を受け得ざる事情にありしが、過ぐる日露戰役當時この悲惨に直面せる現社長矢吹省三男の嚴君にして、我が陸軍の巨材たる故陸軍中將矢吹秀一閣下は、戦後陸海軍諸將と共に、之れ君國の爲め歎息すべきに非ずと嗚起し、軍人の戦死は素より一般保險金は絶対無條件支拂と云ふ、眞の保險報國の趣旨を顯揚し、明治四十二年開業せるものにして、此の崇高なる當社の保險は爾來宇内を光被しつゝ今日に及べるものなり。而して當社は其間一時大阪藤田財閥の關與するところありし後、奇傑岩田三平氏之れを主宰せしも、現社長矢吹省三氏は嚮に敢然立ちて、先考の遺業を達成すべく出馬せられ、汝々營々一身を挺して業に臨み現今の隆昌に會するに至る。斯くの如く當社の創業目的は同業他社と其體を異にし、從而その經營上に於ても頗る特異性あり。即ちその經營は頗る簡素地味にして質實を旨となし、終始一貫誠實を旨とし徒らに誇大宣傳を爲さず、斯かる冗費を節減して、之を保險契約者に幾分たりとも均霑

的利潤を預配するを本領と爲すは、株主配當六分制限堅持と彼此相俟ちて渾然融合し、爰におのずから奇骨稜々、武士道的經營たるの定評の存するも故なしとせず。

當社は前叙創業の精神に依り、被保險者が戰爭、變亂等の場合又は危險なる職業に従事するも、一切割増保險料を徴收せず、無條件の責任を負担し、保險料拂込を期日後二ヶ月間猶豫を爲し、以て契約者の便宜に資し、其他効力の延長失効の契約と復活、拂濟證券の發行、低利融通等到底同業他社の追隨を許さざる眞に契約者本位を躬行し、面目躍如たるものあり。尙當社の新種「たから」養老保險は皇國民として、家庭人として大に活動する爲に、亦老後の爲、子孫の爲め最も適切な保障として好評噴々にして、新種「不二」養老保險亦近代的保險の代表保險として名譽隆々たり。即ち前者は保險料減額顯著にして利益分配金を附し、後者は兩者と同特徴を有する他、生存祝金附、満期割増金附の特異を有せり。

當社昭和十二年度業績を窺察するに資本金五十萬圓、内拂込十二萬五千圓、總資産實に一千九萬九千餘圓を包擁せり。新契約に就きては専ら素質嚴選を旨とし、所謂量より質へを實踐し、志氣益々揮ひ内外一致協力の結果、内容更に充實し、將來發展の礎地を鞏固

たらしめつゝあり。

因に強固を誇る陳容左の如し。
取締役社長矢吹省三 專務取締役森谷秀三 郎 取締役加藤守一 同木村靖 同楠外必雄 監査役白鳥源太郎。

取締役社長 矢吹省三 先考矢吹秀一氏は舊幕臣にして明治四年陸軍少尉任官、同十三年陸軍中將に榮進。其間西南役に第三旅團傳令使、日清戰爭には第一軍工兵部長として武功赫々、日露戰爭には留守第一師團長として勳功顯著、同四十年朝廷之を録するに男爵を授けらる。日露戰爭後我國生命保險の爲鐵骨彫身し、陸海軍諸星と謀議富士生命保險を興し、業界發展に資する事多大なりき。氏はその三男、明治十六年七月の誕生。天分明敏果斷にして犀利なる頭腦を有し、曩に嬰爵仰付けらる。同四十一年東京帝大法科政治科を卒業、横濱正金銀行に格動し、後ち東京貿易、桑原鐵工兩社役員に推され、且亦聰敏なる政治の才幹を以て海軍、外務、大藏政務次官に任せしは周知の如し。現に當社の領袖を握る傍ら貴族院議員に列して公正會に屬し著大なる存在を誇示せり。正四位勳三等たり。

專務取締役 森谷秀三郎 三重縣土族久保喜代男翁の三男、明治十三年七月生る。先代

業解禁に關する陳情を續けたる結果、遂に北海道はトラバ蟹捕獲禁止の一部を解除す。斯くして、當社は稚内工場を開設し、更に七年には全部の解禁を見たるにより稚内、鬼臨紋別、網走の四ヶ工場を開設。翌八年には稀有の豊漁に恵まれ、社業大いに殷盛に向ふ。而も同年より北千島の鮭、罎事業にも手を染め、翌八年枝幸工場、更に北千島柏原の鮭罎工場を各新設し、當社は鮭罎事業進出の基礎を定む。十一年には國後泊村に泊工場を開設又同年十月には傍系釧路鮭罎株式會社を吸収合併して資本金を一百萬圓に増資し、太平洋岸の漁場開拓に邁進す。これより先九年に鮭罎沖取工場の雄半出漁株式會社を、十一年には樺太東西兩海岸の鮭罎業者を網羅せる樺太大同鮭罎株式會社を夫々傘下に收め、躍進又躍進、旭日昇天の勢を以て陸上鮭罎業界の王座に就けり。今や當社の水産界に於ける地歩こそ眞に遙かなき鞏固なるものあり。業界の雄嶺として推重を受けること多大にして、當社今後の躍進こそ蓋し目覚しきものあるべくまことに刮目して俟つに足る。

社長 渡邊藤作 先考藤作氏は千島漁業開發の先驅者として、將た又幌筵島加藤別業開發業創始者として開ゆ。その功に對して當局より表彰せられしことあり。當主藤作氏

は父祖の遺業を繼承し、既に先考に優るとも劣らざる活躍を爲せり。氏は資性豪毅、沈着にして果敢。頭腦俊敏にして敏腕家として著名なり。昭和十年長くもその功勞に對して紺綬褒章を御下賜、更に過般の大演習には産業功勞者として御賜餐の光榮に浴せり。

專務 渡邊照平 專務渡邊照平氏は社長渡邊藤作氏の實弟たり。氏は令兄社長を輔けて奮闘し當社の發展に盡すこと絶大なり。その性高邁にして氣力旺盛。明斷果敢常に積極の一途に進む。その反面思慮深くして實に



氏 作 藤 邊 渡

用意周到、頭腦刺刀の如くに冴え、卓抜なる手腕の持主たり。併し、人物温厚篤實、多數社員より師父の如くに仰がる。樺太大同鮭罎株式會社專務を兼ね、尙ほ北海道會議員、同參事會議員等に選出せられて道政に盡せり。(所在地 函館市幸町二〇)

三雄大の養子となる。同四十一年東大法科獨法科を卒業。同年高文に合格す。天資頭腦明晰にして、温厚の材、仕官して職務官、農商務事務官、戰時保險局事務官、製鐵所參事、同理事、經理部長等に歴任し、退官後辯護士を開業す。曩に砂糖取引所常任理事、蠶絲同業組合中央會主事に推選され、適任を諷はる現に當社を經理する傍ら大東海上火災保險取締役を兼ね。從四位勳四等たり。(所在地 東京市麴町區丸ノ内三ノ六)

北海道漁業罐詰株式會社

北海道樺太の漁業罐詰業を自己の支配下に置き、斯業の發展に至大なる貢獻をなしつつあるものが當社なり。昭和二年一月北海道廳はトラバ蟹の蕃殖保護の見地より、滿五ヶ年間北見並に利尻を含む北海道沿岸近海の廣汎なる區域に亘り、トラバ蟹の漁獲を禁止せり。之が代償として北見、利尻の蟹罐詰製造業者は農林省より工船の許可を受けて營業を繼續することとなりしが、幾許もなく大資本の進出により陸上蟹罐詰工場の經營に轉ず。即ち現社長渡邊藤作氏は北見、利尻方面十七ヶ工場の業者を糾合し昭和三年五月北海道漁業罐詰株式會社を創立せり。氏は熱心に蟹漁

東京府廳

世界第二の巨大都市にして、實に我が國民文化及び政治經濟の核心たる帝都大東京を始め、機業都市八王子、更に西多摩、南多摩、北多摩の三郡並に伊豆七島、小笠原島等を管する東京府は、總面積百三十九平方里にして本州の東南部に位し、東は千葉縣、北は埼玉縣に隣接し、西南は神奈川、山梨二縣に界し東南は東京灣に臨み、横濱港を咽喉として關東平野の要地を占む。其の地勢東南部は平行なりと雖も、西境に關東山脈連りて西方一半は雲取山、鷹の巢山、三頭山其他の峰巒隆起し、更に河川は西南方に多摩川の清流在りて東京市上水の源をなし、其の下流を六郷川と稱す。又東方を限界する江戸川、東京市中央を貫流する隅田川及び其の中間に在る中川等以上四川を主要河川となし、何れも水量豊富にして將又灌溉運輸俱に至便なり。

一方昭和十年の國勢調査に於ける人口總數實に六百三十七萬人を算し、全國内地人口の約十一分の一、即ち各府縣の首位を占め、之が分布状況を察するに、東京市は五百八十九萬五千人にして、本府總人口の九割二分五厘を擁し、八王子及び多摩三郡は四十三萬四千人、更に島嶼に於ては三萬九千人を算せるも

爾來星霜を閱する二年、今日に在りては、東京市人口六百萬を超え、更に島嶼中大島の如き、近年交通其他の施設發達に伴ひ、漸次増加の趨勢を示せり。

次に産業状態を見るに、夙に商工業の改善發達を圖りて、各般施設を怠らず、就中製品の改良、海外貿易の伸張は、焦眉の急務に屬するを以て、見本品展覽會の開催、海外視察員の派遣、同業組合、商業組合の指導獎勵、助成金の交付並に工業教育の普及發達に善慮すると共に、工場労働者福利増進の施設を慈愍し、勞資協調、能率増進の方策を講ずるは勿論、殊に刻下非常時局に際するや、全生産部門の一層擴張を圖りて、實績歴然たるは論なき處、而して昭和十年度生産總額は十八億四百四十九萬圓を計上し、總額中生産物は十七億二千九百四十四萬圓の巨額に及び、其内機械器具工業に屬する生産首位を占め、化學工業金屬工業之に亞げり。又普通農事に就ては、逐年耕地の宅地化或は其他に變換せらるる爲、面積大ならず産額亦た多からずと雖、農産物約二千四百餘萬圓を産し、特に蔬菜類は最大需要地を控ゆる地の利を得、其の栽培旺盛なること遙に米麥を凌駕す。隨て農作物の品種多種多様なると共に、栽培方法漸次集約に赴き、副業亦た盛なり。他方蠶糸業は只管健全なる蠶種の供給に留意し、蠶質の向上、機械

の改善及び指導獎勵に努力せし結果、長足の進歩發展を示現し居れり。

更に教育方面を見るに、昭和十一年三月に於ける學齡兒童總數百萬一千五百人にして、既に就學始期に達せる者八十五萬六千餘人。其の就學歩合も大略良好にして就學既達者百人中九九・五パーセントを示せり。亦た小學校は官公立七百三十三校分教場八十六、私立三十四校を算し、兒童總數八十一萬五千餘人にして、尙ほ年々増加する就學兒童に就て、校舍の増築、設備の完成を圖れるも、未だ二部教授施行の學校百餘校あり。而して是等小學校教員に對しては、常に優遇の方途を講じ、専心の天職に執掌せしむ。一方中學校五十七校、高等女學校八十八校あるも、入學志望者毎年増加せるを以て、之が對策を企圖し、内容の充實、設備の完成を期せり。實業學校は百三十四校ありて、孰れも實業界有爲の人材養成に努む。亦た大學二十二校、專門學校七十五校を有し、其他青年學校三百三十四校を始め、各種學校に至りては、其種類夥多にして、小學校に類せるもの七十五校、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校に類するもの百八十三校、其他尙ほ百四十校ありて、實に燦爛たる學術文化の一大覇府たり。

最後に本府財政状態を檢討するに、昭和十一年度豫算編成に關しては、現下經濟界の景況益々好況を持續し、本府財政状態依然好調を示せるも、猶ほ内外の情勢重大時局に直面せるを以て健實主義を標榜し、一面府民の福利増進上緊要なる施設に對して、相當經費を計上せし故、一般會計豫算總額は七千六百六十萬圓に及び、前年度に比し六百五十四萬圓を増加せり。而して之が總額中二千八百四十三萬圓即ち三割五分は警視廳所管に屬す。亦た昭和十一年度市町村豫算は東京市一般會計一億一千萬圓の他、特別會計二十を有し、純歳出二億二千五百八十七萬圓に及び、區費一千三百九十九萬圓を算す。尙ほ八王子市は六十九萬圓にして、町郡は三百二十五萬圓に達し市町村歳入中稅收入は三割八分に該當す。以上の外島村豫算は百九萬圓にして、其の稅收十七萬圓あり。一方昭和十年度直接國稅收入額は一億二千六百六十六萬圓にして、其内府稅二千三百七萬圓、市稅東京市四千四百餘萬圓、八王子市三十三萬圓を算し、又同年度當初豫算に依る町村稅百七十九萬圓、水利組合費七萬圓にして、以上租稅總額は一億九千六百九十四萬圓に達し、之が現在一人負擔額は三十圓九十二錢に當る。

斯の如く府勢の伸張發展、年と共に顯著なる本府は、更に帝都大東京を中心に、銳意諸般の文化機關を整備完成せしめ、殊に時局益々多事なる際、政府の趣旨に準じて府内の

資源開發、産業振興に意を注ぎ、府民一如の總動員運動を開始、斯くて就後産業の遂行に萬遺憾なきを期するのみならず、各市町村を督勵指導なして應召者家族の生活安定、並に慰問、扶助を始め、戰時體制下に於ける應急施設萬般に亘りて、率先全國各府縣に範の實を顯示し居れり。是實に府民一致協力、克く國策遂行線に沿ひて協贊一致邁進せるは勿論本府爲政者の練達堪能、而かも至誠奉公の赤心を披瀝して館知事以下、各助役、府會議員、其他職員諸氏が各自職務に精勵努力を怠らざる賜と云ふべく、其の府勢隆々たる、正に本邦隨一たるは茲に喋々の言を要せざる可し。

(所在地 東京市麹町區丸ノ内三ノ一)

株式會社黒川福三郎

虚々實々たる輪贏場裡に驚天動地の活躍を擅にし、其の勢威の澎湃縱横なる、正に大阪株式界の飛將軍を以て推され、而かも營業方針の堅實無比にして信用絶大なる代表的證券業者を物色すれば、尙も斯界に一隻眼を有するもの齊しく、黒川商店を推さざるはなし。寔に同商店の業勢たるや、隆々乎として容易に企及し得ざる處、蓋し單に當地業界に於け

るのみならず、全國株式界に盛名を稱するものならん。

抑も同商店は先代黒川幸七氏の創業に係はり、以來堅實なる發展を重ねて今日に及ぶも其間殊に彼の日露大戰後に同業野村、竹原、高木各店と大阪現物商を組織し、更に歐洲大戰前後の飛躍的發展は、眞に業界飛耳張目の的とされ該現物商の驍將を以て目されたり。而して業運益々興隆し、業務亦た繁劇多忙となるや、大正七年十月資本金三百萬圓を以て株式會社に改組、以つて業容の一大擴張を實現し、爾來興亡存廢常なき業界變遷の間に毅然として微動だも見せず、業績愈々伸張隆榮の一途を邁進、遂に現今の偉容を確保して、名實共に斷然斯界に冠たるに至れり。是れ實に同店創業者たる先代幸七氏の奮闘努力に負ふこと論を俟たざるも、事業を繼承以て、巨腕を發揮すること縱横無盡、幾多斯界の俊魁を後に躰若たらしめたる現社長黒川福三郎氏の偉功に因をなすこと絶大たり。

氏は東京市深川區廻米問屋株式會社木村商店社長木村徳兵衛氏の二男、明治二十六年一月を以て呱呱の第一聲を發し、夙に氣才縱横且つ進取潑刺たる氣概に満ち、大正四年東京高等商業學校を卒業するや、實業界雄飛の驍氣を藏して三井物産に入り、以來同社横濱支店に勤務すること二星霜、其の間常に嶄然他

に抽んで鋭鋒を現はし、新進有爲の逸材として前途を嚆望されたり。斯くて大正六年大阪多額納稅者、大株取引員たりし先代幸七氏の懇望を受け、同家に養子入籍其の家督を相続す。以來天賦の機略愈々發揮され、業務の刷新新擴張を斷行し、英姿颯爽斯界に颯翼を張るに至れり。而かも細心周到にして慧眼克く先見の明に富み、經濟界の動向を察知して毫も誤らざる處、騰落容易に豫斷を許さざる株價變轉の間に善處して頗る妙、且つ顧客本位の堅實奉仕の精神を店是と定め、多數店員を一糸牽れざる統制下に置き、信用、充分に手腕を發揮せしめるあたり、正に斯界稀有の偉材と稱するに難たからず。聲望更に加はるも蓋し當然と云ふべきか。斯くて斷然業界に重きをなす氏は、衆望の然らしむる處、大阪株式取引員組合商議員兼組合委員長、或は大阪商工會議所議員の要職に擧げられ、關西經濟界の圓滿なる發展に寄與貢獻なして功績多大なり。現に大株代行社長、電氣化學工業中村徳兵衛商店、新興人絹、日本人造纖維、石崎等各株式會社監査役を兼任せり。圓滿を以て鳴る家庭には養父幸七氏健在にして、賢夫人の譽高きイク子夫人と共に孝養を怠らず亦た當市天王寺區上本町所在の邸宅、宏壯閑雅なりと聞く。

(所在地 大阪市東區北久太郎町二丁目)

名 望 家
奥 村 嘉 藏

世情の機微に能く通ずる仁侠の徳をも備へ一面敬老の思念に厚く、内に漲る烈々たる氣魄と相俟ちて、隣人畏友の畏敬を集めつゝある氏は、明治十八年十二月先代嘉藏翁の長男として徳島縣板野郡藍園村の繁華に呱呱の聲を發す。

由來奥村家は阿波國に於ける有數なる舊家にして、九代連綿たる家歴を誇り、代々名にし負ふ阿波藍の製造販賣を資業と爲す。尙當家は往昔その領主蜂須賀侯より苗字帯刀を容されし由緒ある家柄なり。現に當邸の周圍は數町に亘る古塀を回らして眞に豪壯無比の邸宅にして名家の貫祿を如實に示すところあり先代嘉藏翁は長者の風格を備へ、高邁なる人格者にして、所謂「深山大澤偉物を生ず」の古語を冠するに相應しき士にして爲に郷黨の欽仰を一身に蒐めし濃厚寛厚の士たり。翁の逸話、佳話として遺れるもの豊富なり。在世中、奥野徳命、東中富、竹瀬、成瀬の諸部落の合併に際して村治に盡瘁し現藍園村を成立せしめて其村名の附け親として知らる。これその一斑を證するものなり。



奥 村 嘉 藏 氏

當主嘉藏氏は長じて徳島縣立徳島中學校に學び、故藤井藏相とは親交殊に厚く俱に優秀の成績を以て之れを卒業す。氏は幼にして出藍の譽れ高く、當時既に父君の薫陶を受けて溫和なる人徳を備ふる人格の萌芽を示して校内に於ても颯爽たる色彩を放ちたり。卒業後一年志願兵として入營し、時恰も日露戰爭勃發するや、應召第一線に立ちて旅順、奉天等に轉戦し、平素鍛えし帝國軍人精神を發揮して偉勳を樹て、戦後陸軍少尉正八位勳六等に叙せらる。之れより先明治二十八年頃先考嘉

藏翁は製藍事業が當時々勢に添はざるを觀破し、之を廢業するに及んで、明治初年頃より在りし東京市深川區佐賀町の東京支店をも廢止せるが、之れに代ふるに肥料商を以てし、東京店を同市同區福住町一丁目十番地に設けたり。之れ現時隆々たる業績を挙げ業界の先覺として馳名を馳せる奥村商店之なり。氏舊に家業を繼承して今日に迫る。而して當家は

元來板野郡に於ける隨一の大地主なるが、代々小作人と交するに家族的に遇して、之れを慈み、小作人も常に其恩澤に感激し來れり。氏も亦この情義を悦ぶと共に、村民亦其徳に懐き徳望愈々昂揚し、祖先、先考の遺徳を恥めず。曩に推されて縣會議員に就任し、縣治の爲に盡瘁せるは未だ世人の記憶の新たなるところなり。氏現に奥村商店を主宰する傍ら阿波共同汽船、阿波製紙各取締役に推舉され事業界にも活躍しつゝあり。

因に奥村商店東京店は前述の如く、轉業以來實に四十有餘年を経、其間奥村嘉藏翁の對物、對人信用を基調として我が國肥料界に其偉名を轟かし、今や内外肥料問屋の一流商店として自他共に任じ、順調の業績を擧げて今日に至れり。而して其主なる仕入先は業界の王將たる三井物産、三菱商事、大日本人造肥料、豊年製油、多木製肥所を初め、市内同業者北海道、青森方面の海産問屋にして、販賣先は關東地方一圓、市中同業者を主と爲し、年商内高實に四百萬圓を計上し盛況を呈し隆々たり。

東京店は奥村武夫氏之を統帥す。氏は明治四十年當主嘉藏氏の長男として徳島縣の本邸に呱呱の聲を擧ぐ。天稟頭腦明晰、長じて高松高等商業學校を優良の成績にて卒業し、爾來奥村商店東京店長として能く父業を輔佐し

居る青年紳士にして檢數名の店員の敬仰を備め居れるが、氏は現に支那事變に應召され出征中なり、好子夫人は徳島縣の素封家松永周二氏の令嬢なり。
二男政夫氏は明治四十二年に出生、長じて慶應大學法科を卒業し、目下三和銀行に勤務し、三男繁夫氏は大正元年に誕生し東京帝國大學理學部を卒業、現に海軍技術研究所に奉職せり。斯くの如く奥村一家は秀才ぞろひにして家庭的にも繁榮を極め居りて本邸には父君嘉藏氏、久子母堂と菊江嬢（大正六年生）が圓滿なる家庭を爲せり。
（住所 徳島縣板野郡藍園村）

合 名 平 野 製 作 所

紡織機の製造販賣を以て東海地方業界に屈指を以て數へられ、その製品の優秀にして、社礎堅確業績頗る好調を呈せるものを平野製作所とす。當社は十數年前平野亥子吉氏に依りて創立せられ、個人經營を以て營まれ來りしが、平野氏の秀拔なる才腕と不撓不屈の努力に依り、年と共に顯著なる發展をなせり。昭和六年一月六日資本金十萬圓の合名會社に改組す。其の後更に著しき躍進をなし、昭和十年には名古屋市港區中川運河沿岸に一大工

場を建設せり。大いで翌十一年三月には資本金三十萬圓に増資することとなり、目覚しき發展をなせり。從來専ら紡織機の製造販賣を行ひしが、それより以後自動オート三輪車の製造をも開始することとなり。技術の研精設備の改善に力を注ぎしにより、當社製品はまことに優秀となり、斯界に好評噴々たるものあり。殊に當社の大幅織機並に平野式毛織機の如きは織機界の白眉として絶讃を受く。御大典奉祝名古屋博覽會に於て金牌を授與せられ、その他褒狀或は賞牌を受けしこと數多あり。製品の優秀なる上に價格頗る低廉なるに依り、需要大いに激増して、靜岡、岐阜、三重、大阪、兵庫の各府縣、四國の各地を始め、全國各地方より更に朝鮮・滿洲・上海等に牢固たる販路を有せり。注文殺到して充分これに應ずる能はざるの盛況にして最近に於ては年産額百五十萬圓を突破するに至れり。現に職工五百數拾名を僱し、事業甚だ繁忙を呈せり。今後更に一大飛躍をなすものと期待せらる。名古屋市港區玉船町一ノ一に中川工場を設け、木工部を同市中村區則武町徳島に置く。

代表社員 平野亥子吉 氏は濃厚謹直、才氣煥發の人なり。素志堅剛にして國志滿々たり。剛毅果斷決然として邁進し、凛烈たる氣

魄には鬼神と雖も三命を盡くる概あり。乳し難き威容ありと雖も、内に慈父の如き温情を有し器局宏量、磊落恬淡事業界稀に見る材器たり。識見高邁、蘊蓄該博にして人格又清白高朗。中京事業界に信望赫赫たるものあり。従業員を愛護すること深く、困窮せる者には私財を投じて之れを救ひ、従業員より神の如くに崇仰せらる。氏は若くして工業界に身を投じ、後平野製作所を創立す。卓効の才腕と俊邁の氣格とを以てよく今日の大をなし、その製品は優秀堅牢なると、能率の著大なるを以て、斯界に絶大なる聲價を博せり。氏は自己の業務の多忙なるにも拘らず、破産に瀕せる有限責任名古屋鐵工信用販賣購買利用組合の再興を圖り、或は資金の融通をなし、或は製作業務の注文引受をなす等、恰も自己の事業に等しき努力を傾注せり。現在組合員は八十餘名に激増すると共に頗る繁榮を招來し信望愈々高まるに至れり。その他公共事業にも幹旋盡力をなし、貢獻する所亦著大なり。仁俠義氣、高義清節の人格は業庶の深く畏服する所たり。明治十九年に生る。今後その存在一段と重きを加ふるに至るべし。

支配人 藤井理長 氏は明治二十七年五月五日靜岡縣濱名郡知波田村に生る。明治三十九年豊田式織機株式會社に入り、豊田佐吉

翁の薫陶を受く。頭腦緻密にして優秀なる技師家たり。大正十年平野製作所の創立と共に招かれて同社の人となる。精勵恪勤、濃厚篤實の好紳士として頗る人望あり。技師に事務と共に非凡の手腕ありて同社の柱石たる人物たり。

(所在地 名古屋市中村區則武町野畑)

東京灣埋立株式會社

國家的事業達成の大業的意圖の下に私利に介意せず投資し、拮据刻勵幾奉秋、遂に鶴見川崎の所謂京濱間に於ける大規模なる海濱埋立工事を敢行し、今や多年に亘る犠牲的勞苦は酬ひられて茲に盛運の芽生を觀、期業の銳鋒は新式工場地帯建設と相俟ちて新業界の先覺と讃へられつゝある東京灣埋立株式會社は淺野系京濱運河株式會社の姉妹會社として大正九年三月を以て設立す。爾來目的たる鶴見其他の海濱の埋立及び之が販賣、請負に精進する事拾數年に及び、鶴見、川崎の埋立を完成して躍進工業日本の温床を提供する傍ら、四日市、堺、香川縣坂出の埋立も完成談議に應じつゝある外、函館港頭の理想的工場地の分譲を行ひ、且つ史蹟に名高き湘南鎌倉滑川沿ひの眺望絶佳清鮮明朗なる別荘地帯分譲經

營に染着する等、當社の飛躍的發展は眞に刮目すべきものあり。

當社現資本金は一千二百五十萬圓全額拂込済にして、その近況を昭和十二年下期決算に觀れば、總收入二百三十三萬六千圓に對し、總支出は百八十三萬七千圓にて差引四十九萬九千圓の利益を擧げ、其内九萬三千圓を固定資産償却金に、二萬圓を役員賞與金に充て、當期利益金として三十八萬六千圓を計上し、之に前期繰越金五萬一千圓を加へたる四十三萬八千圓を諸積立金十六萬圓、株主配當金十八萬八千圓(年三分)に處分し次期に九萬圓を繰越したり。而して當期に於ける土地賣却は鶴見川崎地先埋立地内の四萬九千五百五十五坪にして、賣却先は服部製作所、徳永硝子、日本石油、鶴見製鐵造船、日本鑄造、日滿倉庫、鶴見臨港鐵道、三菱石油、早山石油、昭和肥料の諸會社並に泉興雄氏等なり。此賣地收入は百六十五萬七千圓を計上せるが、之は勿論賣上金高にして、賣却益に非らず。然らば賣却益は如何なる程度なるかを見れば右土地の原價は百八十八萬二千圓なる故に結局四十七萬五千圓の差益を得たり。次に請負工事に於ては鶴見川崎港内並に其附近に於て芝浦製作所の護岸工事、港灣工業の日本火工盛土工事、東京電氣の船溜護岸工事、富士電機製造の船塢築造工事等を行はせる外、東京瓦斯電

株式 北海道拓殖銀行

上地帯の進展を豫約附けられつゝあり。因に當社主腦部は左の諸氏なり。

代表取締役社長 淺野義夫 專務取締役 淺野義夫、同副社長 取締役白石元治郎 同阪谷芳郎 同太田清藏 同淺野良三 同安田善五郎 同乙竹茂郎 同大川義雄 監査役尾高豊作 淺井弘吉 渡邊利二郎

專務取締役 淺野義夫 天分明快にして篤實、人格また高潔、現に實業界に在りて才腕の俊敏なるを顯はるゝ知行兼備の好紳士たり。明治二十八年、財界の巨人故先代淺野總一郎の令弟として出生。幼名龍藏を改め長じて大正八年小樽高商を卒業し、直ちに渡米、紐育グレース商會に入りて實社會に身を投じ、實務に精勤する事二ヶ年、同十年歸朝、爾來賢兄諸氏と共に實業界に活躍す。昭和十二年當社の專務に推舉され躬身精勤しつゝ今日に迫る。傍ら小倉製鋼、尼崎製糖、小倉製糖各常務取締役、淺野同族、京濱運河各取締役、關東水力電氣、鶴見製鐵造船、淺野物産各監査役に就任し、其將來の飛躍を瞭目する、天分令府の膽大を享けて寛容而もその行藏先考に努めたる所あり。

(所在地 東京市麹町區丸ノ内二丁目)

蝦夷、松前の稱呼を以て日本の僻地視されし北海道、樺太は近時産業の發展著しく、文化の興隆眞に顯然たるものあり。斯かる北海道の目覺しき物興には當北海道拓殖銀行の貢獻する所淺すべからざるものあり。當行は明治三十二年十二月北海道樺太開拓の使命を以て資本金三百萬圓を以て創立せらる。大正六年二月一千萬圓に増資し、同九年二月二千萬圓(拂込資本一千二百五十萬圓)に増額せり。その特殊の使命に盡みて、五ヶ年以内定期償還の不動産抵當の貸付、五ヶ年以内定期償還の貸付、北海道樺太の拓殖を目的とする會社の株券債券を質とする貸付及その社債應募引受、爲替、荷爲替及北海道樺太の産物を擔保とする貸付、諸預り、手形割引其他を營業科目と爲せり。現に北海道及樺太の各地に三十二支店、十二出張所を置き、金融網の完備を期し、殖産興業の發展の爲めに、上下協力一致して献身的に活躍せり。拓殖資金を得る爲めに北海道拓殖債券を發行するの特典有りて、昭和十二年六月末に於ける現在發行高は一億二千七百七十一萬五千圓の巨額に達せり。又各種預金合計一億八百九十九萬三千圓上る。他方同期末に於る貸出計二億二千四百四十三萬

氣工業の垂上工事、日本鋼管の淺瀬工事に従事し、四十一萬圓の工事収入を得たり。工事費は三十五萬九千圓なるが故に五萬一千圓の純益に當る。然し之を土地賣却益に比すれば著しく少額なり。尙貸付料収入は十二萬五千圓なり。斯くて當社當期の收益の大半は土地賣却益と云ふべく、茲に三分の復配を爲すを得たり。

現在當社の所有埋立地は横濱市鶴見區末廣町の六千七百七十九坪、同安善町の四萬三千五百五十一坪、川崎市大川町の二萬五千九百六十八坪、同白石町の五萬九千六百六十六坪、同淺間前耕地及びその附近の五千二百五十六坪、同若尾新田及び其附近の百四十九坪、同扇町の三萬八千七百七十二坪、四日市市の三千三百三十八坪、堺市の二萬四千六百三十三坪、香川縣坂出町の六千三百四十坪等、合計二十一萬三千七百三十三坪にして、尙この外に普通土地を横濱市鶴見區鶴見町、同潮田町、川崎市大師河原及其附近、東京蒲田區、同大森區、堺市、室蘭市等に九十七萬三千六百六十八坪を算する合計實に百八十八萬六千九百一十八坪を有し、建物と共に九百二十九萬六千圓と評價され居れり。尙室蘭港内公有水面埋立は室蘭埋立株式會社より繼承當社に於て直營施行中なるが、其大部分は日本製鐵の輪西工場擴張用地として賣却成立せり。前述の如く當社は

九百八十一萬九千圓にして總支出八百六十九萬二千圓となり差引當期利益金一百十二萬七千圓に達す。二割二厘の利益率となる。株主に七分の配當を附せり。當行は毎期二割内外の利益率を擧げ、七分配當を行ひ、頗る優秀なる成績を収めつゝあり。當行の今日の輝しき業績は過去に於る當事者の偉大なる協力貢獻によること論を俟たざるべし。

頭取 岡田 信 氏は多年官界に活躍して敏腕を揮ひ、大いに名聲を博せり。頭腦明晰にして俊敏高才、財政金融に關する造詣深し。資性聰穎謙直にして實實堅確。高邁なる識見と遠大なる抱負を藏し、北海道、樺太の産業開發には今後目覺しき業績を示すに至らん。北海道財界に於ける信望甚だ厚し。人格清廉潔白にして、名利に超脱し、眞摯誠實の資質は人の深く景仰して罷まざる所なり。

(所在地 札幌市大通西三ノ七)

帝國人造絹絲株式會社

我國近年に於ける人絹工業の躍進は、全世界をして矚目せしむる所にして、年を逐ひて發展せし該事業は昭和九年に至りて、總生産

高約百五十三萬噸、即ち一億五千三百萬磅の巨額に達し、世界第二の地歩を確保せり。爾後人絹會社の新設擴張相次ぎて行はれ、今日に至りては米國を抜きて世界第一の人絹國たるの榮冠を占めんとするの目覚しき發展をなせり。斯る斯業の勃興には業界の巨峰たる帝國人絹の輝かしき發展に影響せられしは周知の事實に屬す。抑々當社は明治の末葉兵庫網子の大日本人造絹糸セルロイド會社の試験室に於て發芽し、躍いで米澤の東工業株式會社に於て苦心研究せられしこと幾春秋、超えて大正七年に至り東工業より分離獨立して帝國人絹の創立を見たるものにして、實に當社の發展過程こそは日本人絹工業の全歴史に外ならず、斯業發展の尖端に立ちて常に指導的地位を占め、我人絹工業今日の躍進に寄與せし功績没すべからず。當社は正七年六月資本金百萬元を以つて創立せられ、累次増資の後現時公稱資本金三千六百萬圓（内拂込額三千二百二十五萬圓）に達せり。創立當初米澤工場は漸く二・三厩の能力を有するに過ぎざりしが、數年後に至りて廣島工場を完成し逐年設備の擴張行はる。即ち、昭和の初頭には岩國工場を建設し、引續き生産設備擴張せられ、同九年には三原工場の第一期工事の完成を見、更に擴張行はれ現時生産設備の能力六萬噸にして全運轉をなせば三十五・六函に上

る。當に能力の増大を見たるのみならず、技術的には驚異的發明を達成し、製品の改良に劃期的成功を遂げ、我國人絹工業に一大革新を齎せり。當社の製造に拘る『高級糸ダイヤファイル』は天然絹糸へ質的に肉迫したるものにして、同品現はれて人絹織物の品質は全然一變し、大いにその需要を擴めて、日本の全織物界に大衝動を興へたり。當社はこの高級絲の製造に力を盡し、更に技術の研鑽と品質の改良に精勵して、糸質は愈々向上をなし、我國人絹工業の發展に資すること多大にしてその設備の宏大と品質の優秀なることを以つて、世界第一の大人絹王國として、名聲全世界に噴然たり。更に又時代の波に乗じてステール・ファイバーの生産に着手し、現在岩國工場の休鍾を流用して日産十五厩を操業せるが、今後機を見て大擴張の行はれる模様なり。當社は毎期多大の好成績を挙げつつあるが、昭和十二年下期に於て總收入八百五十二萬圓、總支出二百萬四千圓、差引六百五十一萬六千圓なり。税金引當金三十萬圓、資産償却に二百萬圓を充當し、當期純益金三百二十一萬六千圓を計上す。利益率五割強に當り一割五分の高率配當を行へり。前期に比して向上顯著なり。尙ほ當社の前途に日支關係の根本的調整あれば北支に古き地盤を有するを以て、今後多大の躍進をなすべく、更に第二

帝國人絹その他の投資會社亦大いに期待せられ、業績更に一段と向上を見るに至らん。因に當社重役は社長久村清太、常務取締役永田與、同泰逸三、取締役吉岡豊、同東川義房、同間室壽人、監査役宇田成和、同横田義夫の諸氏なり。

社長 久村清太 氏は帝國人絹創始以來當社の事業に參畫して今日の發展を齎せし功勞者にして、社會的存在として衆望を一身に集め、斯界の香宿として又我國人絹技術界の最高權威者としてその名聲は内外に喧傳せらる。明治四十年東工業創立せられるや技師長として招聘せらる。以來鏗骨彫身、心血を注ぎて研究に没頭し、不撓不屈熱誠を籠めて努力すること多年、遂に世界に誇るべき技術を創案して、我國人絹工業今日の躍進を齎せり。氏の功績は畏きあたりに達し、昭和三年藍綬褒章を賜ふ。頭腦緻密にして俊秀英才、學識博大にして經驗豊富、人絹工業に關する蘊蓄は世界屈指たり。頭腦精緻、資性寛容にして敦厚の人格者として事業界に於て推重せられること多大なり。温情に富みて部下を愛すること深く、社内に於て慈父の如くに敬仰せらる。

常務取締役 永田 與 明治十四年五月

愛知縣に生る。同四十一年東大法科を卒業し直ちに外務省に入り、後ち臺灣銀行に轉じ、東京、倫敦各支店長に歴職して、昭和二年に至りて當社常務に選任せらる。爲人温厚篤實にして質實重厚。社業に精勵して賦稟の才腕を揮ひ、當社の發展に寄與せる功績歴然たるものあり。

常務取締役 泰 逸三 久村社長の獨創的技術の創始に當り、その良佐として研鑽相勵み、一面社業の發展の爲めに献身的に盡瘁し、終始斯界に著聞する賢材たり。明治十三年廣島縣に生れ、同四十一年東京帝大應用化學科を卒業す。頭腦明晰にして業界有数の俊魁として知らる。練達非凡の手腕家にして博學多識の技術家として内外の瞻仰を受くること頗る深し。傍ら第二帝國人絹の社長に就任せり。

(所在地 大阪市北區中之島二丁目)

玉川電氣鐵道株式會社

帝都電氣界に於て社業頗る殷盛を呈し、毎期多大の好成績を擧げて交通運輸上貢獻する事三拾餘年に亘り、業界の長老にして、電鐵業の外自動車・電燈電力・土地建物・遊園地

等の多角經營をなす。當社最近の業績を見るに電鐵業に於て營業額二十三兆六分上り、昭和十二年下期に於る乗車人員總數一千五百六萬一千二百四十四人に達し、運賃收入五十九萬八千餘圓を擧ぐ。之を前年同期の成績に比較すれば、乗車人員に於て九分九厘、運賃收入九分二厘の増加を見たり。當社線は澁谷を起點として溝ノ口、新高井戸、中目黒、天現寺の各地に至る線を擁し、沿線は住宅地として發展し、或は商工業の殷賑なすありて、乗客は年と共に激増しつゝあり。自動車業は營業額七十六兆五分にして十二年下期に於ける乗客總數三百五十二萬一千二百九人に上り賃金收入二十四萬五千一百六十五圓となれり。前年同期に比較すれば乗客數一割六分、賃金收入一割六分を各増加せり。大型車輛二十六輛の入換を始め其他鋭意サービスの改善に努めたるを以て乗客目を逐ひて著増を來せり。又電燈電力の供給は目黒區、世田ヶ谷區、神奈川縣の一部に及び、電燈取付總燈數四十一萬八千二百二十燈、電力供給五千六百五十四馬力電熱供給五百七十八キロワットに達す。十二年下期に於て電燈電力收入は九十九萬五千圓を擧ぐ。更に土地建物、遊園地經營に於てもそれ〴〵好成績を示して昭和十二年下期決算に依れば、總收入一百九十四萬五千圓、總支出八十九萬八千圓となり。差引當期利益金五

十三萬五千圓を得たり。右利益金中より固定資産償却に五萬圓を計上し、六萬四千圓を各種準備金に積立て、株主に八分の配當をなせり。當社は明治三十六年九月資本金四十萬圓を以て創立せられ、三十九年十月には六十萬圓に増資せられるに至り、次いで四十四年一百萬圓となれり。更に大正十一年六月五百五十萬圓に増額を見、同十四年六月には一千二百五十萬圓（現在拂込資本九百七十萬圓）に増資せられて今日に至る。澁谷―玉川間の開通をなせしは明治四十年三月にして、大正十一年六月澁谷―天現寺間開通し、同十三年三月玉川―碓氷、十四年一月三軒茶屋―下高井戸、昭和二年三月澁谷橋―中目黒間、同年七月玉川―溝ノ口間、超えて七年五月碓氷―粕江村間の開通を見て、社業年を逐ひて躍進を遂げり。當社は澁谷驛の傍に七階建延坪五千餘坪玉電ビルを建築中なるが、同建築は近々完成の豫定にして澁谷に一大偉容を現出するに至るべし。二階は當社並びに帝都電鐵のホーム三階は東京高速鐵道のホーム、四階以上は事務所及びデパートに供せられる筈なり。之れに依りて當社・帝都電鐵・東京高速電・東京橫濱電鐵並びに省線の五線相會し、乗客の便宜大いに加はり、當社は益々發展の一途を邁ることゝならん。尙ほ當社は東京橫濱電鐵株式會社と合併することに決定せるが、こ

れに依りて従来稍々消極的傾向ありし經營方針も大いに積極的化するに至り、事業に一大刷新を斷行するものと觀らる。

因に當社の概観に參畫せる首腦者以下の如し。取締役社長五島慶太、常務取締役藤原三千郎、取締役緒明圭造、同中川正左、同丹羽武朝、同松浦由太郎、同竹内壽平、監査役藤澤秀雄、同小宮次郎、同山本知太郎の諸氏とす。

取締役社長 五島慶太 潤達俊邁にして襟度宏量たると共に、清新澄冽の活動力を有し、而も燃ゆるが如き公共心を包懷して至誠熱直、事業の合理化と公道化に心を砕き、業庶の福祉に貢獻せるが五島氏なり。氏は長野縣人小糸右衛門氏の二男として明治十五年四月を以て生れ、後五島家を繼承す。同十四年東京帝大法科政治科を卒業し、後農商務省に入り、更に鐵道省に轉ず。累進して監督局總務課長となりしが、大正九年官を辭して事業界に入り、現に當社長たるの外目黒蒲田電機、東京横濱電機各専務其他數社の重役に推せられて事業界に重きをなせり。人格清廉潔白にして仁情に厚く、従業員より師父の如くに推敬せらる。鐵道協會、鐵道同志會理事に推され、事業界に甚だ信望を博せり。

(所在地 東京市澁谷區大和田町)

事業家

遠山 靜一

中京財界に燦然たる異彩を放ち歩武堂々斯界に君臨し、業界に多大の信望あるが内外紡績株式會社々長遠山靜一氏其の人たり。

氏は、明治三十六年一月、愛知縣に生る、津島中學校を経て大正十三年山口高等商業を卒業し、遠山孝三商店に就職す。致々として精勵し、夙夜毛糸、毛織物の實驗研究に餘念なく、之れに通曉するや、大正十五年尾州産毛織物販路擴張の重大任務を帯びて支那視察の途に着き、多大の効果を収めて歸國し、次で昭和五年、歐米經濟事情並に斯業研究に洋行し、豊富な知識を得て、同六年歸朝す。氏の卓絶なる才能を店主孝三氏に深く愛せられ、その長女、きぬ子女と結婚し此處に遠山家の人となる。偶々昭和十年八月、店主孝三氏の逝去に際し嗣子當代孝三氏(先代孝三を襲名)年少なりしを以て、氏家業を繼承し遠山商店總支配人となりて其の經營に當る。此處に氏の手腕を揮ふの好機に接するや、機略縱横大いに才腕發揮せられ、業績著しく顯揚されて、その盛況先代を凌駕するの旺盛振を招來し、世人を唖然驚愕せしむることゝなれり。之れ實に、氏の業務精勵の賜にして、そ

忽ちにして處を異にし、有爲轉變の速かなる眞に朝を以て夕をトする能はざるものあり。洛陽の同業界亦風雲變態のスペースを経歴して各態各様の變動を示しつゝあるの時、偶々大山齋の雄偉堂々として雲間に關らざるの觀を成せるものあり。西村總左衛門氏を代表とせる西村貿易店則ち是れ。同店は資本金一百萬圓(拂込済)の株式會社にして大正七年十二月の創立に係り綿織布一般商品の輸出に於て斯界の最高位に在り、東京に支店を有し横濱、神戸に出張所を置き近年一層の盛況を呈せり。由來西村家は京都屈指の老舗にして屋號を「千切屋」といひ又「千總」とも稱す。其の草創は遠く慶長年間の事に屬し、代々染織刺繍の類を宮家、門跡及紳士に用達しむたるが、維新の變革に遭ひ、其代表商品たる染物刺繍類の需要激減するや隱忍自重専ら友仙染の改良に努力することゝなれり。往者裝飾蓋賞用たりし友禪を衣服に用ふべく改良考案して、我國染織界に一大革新を興へたるものは實に先代總左衛門氏にして、此時を以て嚆矢となす。氏の功績は昔に此に止まらずして、明治初年には古來の圖柄の改良を行ひ、次いで蓋紙を以て型紙を作ることに成功し、同十七八年の交に造びて現在の捺染を創業、引續き應用に苦心して能く其效を収め、更に刺繍の改良に志して大繪、創作、技巧の獎勵

に全力を注ぎ、遂に京都重要物産として海外輸出をなすに至り、明治二十五年貿易部を設置せり。是れ則ち現業の基礎となれるものなり。積年の功に依り明治廿年十月黃綬褒章を同廿六年二月維綬褒章を拜受、同三十五年特旨を以て勳六等に叙せられ、大正十五年紺綬褒章を賜り、歿後生前の産業獎勵の廉に依り從六位を追賜せらる。實に斯界に於ける絶大の榮譽と謂ふ可きなり。

當主 西村總左衛門

氏は京都府の名望家大橋孝七氏の二男にして明治二十三年出生同四十四年當家の養嗣となり、襲名して前名彌太郎を改む。歐米に遊ぶこと一回、其該博なる識見は重厚眞摯なる人格と相俟つて、衆望を鎮め、事業上の手腕亦非凡にして現職就任以來百尺竿頭一步を進めて大に業務の刷新、販路の開拓に努め、同店をして斯界の最高峰たらしむるの盛觀を將來し、先考を辱めざる有爲の人物として好評噴々たり。

(所在地 京都市中京區三條通烏丸西入御倉町)

東洋棉花株式會社

我國紡績業を輔け、世界的霸制を樹立せし

の業餘更に驥足を伸ばし、財界を馳驅して敏腕を揮ひ、津島染色整理、名古屋織物商各取締役、合名會社遠山商店代表社員、名古屋毛糸聯合組合幹事長、全國毛糸組合理事、名古屋綿布取引所常務理事、日本毛糸輸出組合理事等の要職にありて貢獻する處絶大なるものあり。中京財界多士儻々として、氏の聲望斯界を風靡し隆々たる威勢を示せり。

如斯財界を雄飛活躍する傍ら社會公共事業にも盡瘁し國防献金として愛知縣防空聯盟へ金一萬五千圓、陸軍支那戰線將兵慰問袋一萬個(一萬圓)、縣下津島町後援會防空費、赤十字社へ各五千圓を寄附献金したる外公共事業に私財を投じたるもの枚舉にあらざるなり。其の敏腕精勵の超凡と國家公益奉公の熱誠こそ眞に業庶の典範たるに足る處なり。

(住所 名古屋市東區葵町二二)

株式會社 西村貿易店

近年財界の動搖常ならずして千波又萬波、第夜に洶去し洶來するところ、商工業各層に互りて一浮一沈一盛一衰の悲喜劇を展開し、就中經濟的影響を蒙ること最も切實にして直接的なる貿易業の如きは常に最前線のスリルに脅かされつゝ榮枯豫め時を期し難く、憂歎

めたる功勞赫々たる斯業界の先達たり。當社は元、三井物産株式會社の棉花部を、大正九月四月獨立設立せるものにして、現に資本金二千五百萬圓を擁し、營業部門に於ても棉花以外綿絲、綿布、人絹賣買輸出、棉花繰工塵搾をも兼營し、その投資下に南北棉業、協和紡績、中央紡績、内海紡績、上海紡績等を有す。而してその事業規模は東京、名古屋、大連、上海、青島、天津、京城、孟買、香港、ジャバ各地に支店を設置する外、十五ヶ所に出張所を設け、東南洋より濠洲等の各地にその商業網を張りて營業を行ひ居れるが、その年商内高は實に數億圓を計上し、殊に棉花輸入に於ては絶對的勢力を確保し、常に我が紡績並に人絹事業の立場を考慮し、その繁榮發展に努めつゝあり。

而して當社近年の業績は、十年上期特配四分の一割二分、十一年上期特配六分の七割四分を行へるに徴しても、その内容の程容易に窺知さるべく、十二年下期に於ける利益金は九十二萬七千餘圓を計上したり。尙同期末の總資産は實に一億二千三百四萬餘圓を有し、對拂込資本割合は一倍四分に相當し、その堅實を誇るものあり、將に我國織維工業界の内助の功を樹つるに相應しき存在と稱すべし。

當社首腦部は、會長權野健三、常務塚田公太、取締役戸川濱男、同石田禮助、同太田靜

男 同業員一 郎 同己斐平二 同園松祐次
郎 同淺山伊三郎 同齋藤六郎 同大下眞吉
監査役島専吉 同永田泰造 同仲谷芳雄 同
大塚勝之丞の諸氏なり。

取締役会長 權野健三 本邦綿業界一方
の雄たる氏は、大阪府田中助左衛門翁の六男
明治十四年四月の出生。同二十六年九月先代
信次郎翁の養子となり、大正十二年四月家督
を相続す。資性英才にして經濟に通曉し、殊
に棉花業界の泰斗たり。傍ら中央紡織、豊田
紡織、上海紡織、協和紡織、東洋絹織各取締
役を兼任し、日本綿三線輸出組合、大阪織物
輸出組合各理事たり。

常務取締役 塚田公太 新潟縣塚田新治
郎翁の長男、明治十八年九月に出生、大正十
四年家督を継ぐ、長じて東京高商に笈を負ひ
明治四十年之を卒業す。資性濃厚にして多識
社内の敬仰厚し。
現に當社の常務たる傍ら、内海紡織、東洋
絹織、中央紡織各監査役に推擧さる。
(所在地 大阪市東區高麗橋三ノ一)

**不二サツシユ製作所事務
藤田直寛**

天才は努力なりと謂ふ。或は然かあらん、

職務に没頭し、百方奔走して事業の發展に盡
瘁せり。その卓抜なる手腕と、倦むことを知
らざる努力によりて、名古屋支店は多大なる
發展を遂げ、同商店の業績に資する所著大な
るものあり。不羈潤達、霸氣滿々たる氏は早
くより獨立して、自由の天地に自己の雄志を
伸長せんと欲せしが大正十五年功成り名遂げ
て、同店を退き斷乎獨立す。先づ三井物産專
屬のローカーとなりて活躍し餘りに他日の
飛躍の機会を狙へり。昭和六年に至り三富士
毛織を創立し、愛知縣西春日井郡萩野村光音
寺に工場を設立。營業所をば一宮市宮町に設
置す。其主たる營業は毛織物の製造、毛糸並
に毛織物の原料及び毛織物の仲買を業とす。
氏の絶倫なる努力と比類なき才腕に依り、事
業日に月に躍進をなし、目覺しき發展を遂
ぐ。而もその一騎當千の旺盛なる精神力と、
綽々たる物的餘裕を有して、業界有数の事業
家として氏の盛名顯然たるものとなれり。温
厚篤實、磊落淡泊の人格は世人に非常なる敬
慕を受け、その信望甚だ高し。林直太郎氏の
二男として明治二十五年三月高崎市に生る。
趣味に繪畫あり。

久江夫人は明治二十五年山崎恒治氏の二女
として生る。賢婦人の譽高し。長女和枝嬢の
一子ありて家庭は圓滿を極む。
(住所 名古屋市昭和區陽明町一ノ一九)

されど努力必ずしも天才を生むにあらず、そ
こに天稟の資性を要するは言を俟たざるとこ
ろなり。これ寧ろ天稟の才能が努力に依り、
生くるに過ぎざるものと、見解するに至當と
なすべし。天稟才能と努力、この兩者の一致
を以て自己を開拓したる人に我が藤田直寛氏
あり。氏は新潟の人中村直中氏の二男として
明治十五年八月を以て生れ、藤田直親氏の養
子となれり。幼少より玩具を通じ特異の天稟
を示し、両親を驚嘆せしめたること屢々あり
其の將來を囑望されたりと聞知す。然りと雖
もこの天稟のみを以て、放置されたる環境に
あらんか。名花の雜草に埋るゝの如くにて、
世に出で其の美を競ふを得ざるなり。然るに
英智明敏なる氏は自己の天稟を感得するに捷
く、身を機械業に立てんと決意し、爾來刻苦
精勵、修練と共に非凡なる天稟を發揮し、遂
に其有終の美を收めたるなり。今や帝都に於
ける斯界の特異の存在として異彩を放ち、不
二サツシユ製作所事務、大野製作所支配人、
日本バーカライジング、佐倉鋼鐵工業各監査
役として雄名隆々たり。之れ畢竟するに天賦
の才能と之を築き上げたる努力の結晶にして
氏も又立志傳中に特筆すべき傑士と謂ふべき
なり。其の手腕と力量は現在に於て遺憾なく
顯揚されつゝあり。技術的實務の研鑽に富み
業務に極めて熱心、而も人の長たる高風と徳

操を兼ね、全従業員の敬慕を集むること慈父
の如し。之によりて我が特殊機械、器具界の
より大なる發展を所期さるべく氏の健闘に俟
つもの更に大なり。釣魚、園藝、機械發明を
趣味とし、數々の發明品あり。
(住所 東京市牛込區矢來町一〇一)

**事業家
林 藤吉 郎**

毛絲毛織物の製造並に原料の販賣をなし、
中京事業界に放腕を揮ひて、その信望を得せ
る人を林氏その人とす。資性濃厚にして實
堅確、意志強固にして動直魁の士なり。智
略卓抜、商才に秀で、奔放自在その策盡きる
ことなし。夙に高崎商業學校を卒業し、直ち
に茂木商店に入る。精勵格働大いに職務に勵
み、店主より非常なる信頼を得たり。それよ
り後石原商店に轉じ、早出晩退致々としてそ
の業に砥勵して、献身的にこれに没頭す。尙
ほ事業の各般に關して、種々と研究を爲し、
大いに知識を攝取して、頗る重要な人物と
して八方活躍することとなり、才腕を揮ひ
て多大の貢獻をなし、同店の爲めに寄與する
所尠しとせず。次第に拔擢せられて、同店の
樞機に參畫することとなりしが、後名古屋出
張所主任に簡拔せらる。氏は晝夜を分たず、

埼玉川越中學校

當校は埼玉縣下中學校中その施設整備し、
薰陶又宜しきを得て、生徒の素質他に拔んで
皆熱心に勉學に取りて上級學校の入學率甚だ
良好、卒業生又廣く社會各方面に活躍せるを
以て、その名聲顯然として高し。明治三十一年
埼玉縣第三尋常中學校として設立認可を受け、
同年四月に開校せり。開校式には特に樺山文
部大臣臨場せらる。明治三十四年八月に至り
埼玉縣川越中學校と改稱す。創立以來順調な
る發展を遂げて、校運大いに勃興せり。大正
元年十一月 大正天皇特別大演習御統裁の爲
め縣下に行幸あらせられて、本校を以て大本
營に充てさせらる。大正十三年四月大日本山
林大會の爲め梨本宮殿下總裁として會場たる
本校に御臨幸あり。又大正十四年十月近衛第
一師團對抗演習講評場として、本校に閑院宮
久通宮、梨本宮、閑院若宮、李王各殿下御臨
臨あらせらる。更に昭和九年十一月には朝香
宮殿下近衛師團秋季演習御統裁の爲め臨幸あ
らせられ、全校職員生徒に對し御祝詞を賜
る。以上の如く、行幸並に御臨幸の光榮に浴
せしこと數次に及びり。當校は明治三十六年

生徒定員を五百名と定められしが、大正七年
五百五十名に増員せられ、同九年六百五十名
に改めらる。更に大正十年七百名となり、昭
和七年には七百五十名に増加せられるに至れ
り。現時卒業生二千九百名に及び、多數の
人材を輩出して、社會各方面に於て活躍し、
大いに母校の名を發揚す。歴代校長何れも頌
材にして教育行政に長じ、當校の施設の充實
に内容の完備に力を盡して多大の事績を挙げ
たり。現校長木原元三氏は昭和十年五月に赴
任し來れるが、甚だ徳操高く、學識淵博にし
て、熱誠生徒の薰陶に當りて、多大の實績を
挙げつゝあり。氏の熱心なる努力に依りて生
徒の學績一段と進み、上級高等專門學校の入
學率は愈々増進し、近時校名は一段と揚るに
至れり。尙ほ氏は近來學校教育の智育偏重の
傾向益々甚しく、これが弊害頗る顯著なるも
のあるに鑑み、校外修養漸なるものを設立し
て、生徒の徳育に力を盡くし、多大の成績を
收めり。氏の手腕と努力に依り當校の發展は
自今一段と著しきものあらん。

校長 木原元三 校長木原先生は浦和
中學を経て早稻田大學に學び後教育界に身を
投ず。資性濃厚にして恭謙、頗る人情味に富
み、圓滿無礙の人格者たり。氏の孜々として
倦まざる研鑽は大いに認められて、簡拔せら

れて松山中學校長に任ぜられ、多大に手腕を發揮す。隨て川越中學校長に榮轉せり。語學の才ありて頗る英語に長ぜり。虚名を嫌ひて實實の教育に没頭し、多大の實績を示せり。父兄、職員生徒の信望厚く、縣下教育界に頭角を抜んぜり。

教頭 岡田 龜雄 先生は當校の出身にして早稻田に學び木原校長とは同明生たるの因縁を持つ。曩に秩父高女首席教諭として大いにその手腕を認められ、後當校教頭に赴任す。温恭謹厚の人にして、教育に甚だ熱心たり。木原校長の良佐として、その存在著名にして、今後教育界に名を成す人として囑目せらる。

(所在地 埼玉縣川越市川越)

三井鑛山株式會社

美 唄 鑛 業 所

當鑛業所鑛區は元村井鑛業株式會社の所有せしものなりしが、後三井鑛山の手に移り、これが經營をなすに及びて事業發展し、優良炭山としてその名聲高まるに至れり。大正九年鑛區をば賣田石油株式會社村井鑛業より之を譲受け、専ら炭層の調査に當りしが、大正十年同社の日本石油株式會社に合併せられる。

に及び、自然その所有に歸すこととなり。大正十一年に至り同社は三井鑛山より東部隣接鑛區の一部を譲り受けて光珠炭鑛と命名し、同年七月稼行に着手して現在の第一坑、第二坑を開坑し、同十三年三月には田中汽船鑛業株式會社の沼貝炭鑛を買収して同年十一月より營業を開始す。超えて昭和三年八月三井鑛山所有の隣接鑛區の一部を合併、合計一千萬坪を以て組合を結成し、經營の一切を三井鑛山に於て引受け、三井美唄炭鑛と改稱せり。爾後事業の擴張と發展とに努め、昭和四年には第三坑を開坑し、又同年奥澤通洞開鑿に着手して同六年第一坑斜坑を買通す。尙又選炭機並に鐵道線路を新設し、十軒に亘る坑外エンドレス運搬を設す。昭和九年五月には更に第四坑斜坑の開鑿をなせり。昭和六年以降坑内外共に新設備の運轉を始め専ら作業の機械化に努めしより出炭量は次第に増加し昭和六年當時二十萬噸内外に止りしものが、昨今には三十萬噸を突破し、四十萬噸に迫らんとす。當鑛業所鑛區は石狩國空知郡美唄町並に三笠山村に跨る一大鑛區にして、その面積約一千萬坪に及ぶ。炭質優良にして不粘結性により一般汽罐用並に家庭用等に適す。山元よりの輸送は道内各地送りと港送りとに大別せられ、道内送りは各地の鑛房用、鐵道各機關庫その他の大工場に直送す。又港送

りは小樽、室蘭兩港より船舶燃料として又は荷物として京濱、伊勢灣、北越地方に供給せり。近年には海外にも輸出せられるに至れり。全従業員は職員坑夫を合して一千名に上り、文化式社宅を無料にて貸與を受け、又陸上競技、野球、庭球等のグラウンド或は練武場を設け、従業員互樂館を設立して活動寫眞、圍碁、將棋等の娛樂機關を備へ、或は日用品の安價提供乃至衛生保健の諸施設を設置する等、従業員福利増進に力を盡す所、他に冠たるものあり。その設備に、その能率に、或は従業員統制、教化等に於て本邦有数の大炭鑛たり。

鑛業所長 黒田 近雄

一千の従業員より慈父の如くに尊崇せられ、美唄鑛業所の經營に技師の才腕を揮ひて、北海道炭業界に近時著しく頭角を現せし黒田氏は明治二十一年二月福岡縣朝倉郡三奈木村に呱呱の聲を揚ぐ。明治四十五年熊本高等工業學校採鑛冶金科を卒業し、翌年三井鑛山に入る。三池炭鑛萬田鑛山主任に榮進し、昭和十一年四月には簡拔せられて美唄鑛業所々長に推される。眞摯熱誠にして素志頗る堅剛、責任觀念に強く、精勵格勤してその職務に没頭し、亦餘暇には内外の書籍に眼を通して技術の研鑽に努めり。その熱心なる努力刻勉に依りて、實績多大に舉

がり、三井鑛山上下の信望を一身に集むることとなり。氏の就任以來美唄鑛業所の施設は大いに改善せられ、能率著しく向上して業界を瞻目せしむ。頭腦明哲にして倣倣周到、三井鑛山屈指の優秀技術家たり。責任濃厚謹直、寛容にして敦厚。頗る温情に富み、部下を愛すること我子の如く、従業員爲めに幾多の福利施設を設け、従業員より深く敬仰せらる。

(所在地 北海道空知郡美唄町)

日本電氣計器株式會社

本邦電氣計器界の新進氣鋭として業界を照耀する當社は、昭和八年八月斯業界の麒麟兒たる現代表取締役八尋始氏の個人經營に淵源し同九年二月資本金六萬圓の株式組織に革めたるものにして創業以來各種電氣計器の製作を爲し來れるが、業歴淺きに拘らず其製品の優秀冷閑して躍進の一途を辿り今や軍部方面にも重視されるに至れり。當社は資本金僅か六萬圓に過ぎずと雖も實質に於ては悠に十數倍の能力を發揮し居りて、遠からず増資決行は必然と見らる。現に東京出張所を神田區小川町三丁目七番地に、大阪出張所を北區宗是町中之島ビル本館に設置し、全従業員二百數

十名を使備し活況を呈せり。斯くの如く異常なる發展は極度に工場狹隘を來し、目下五千坪程度の工場敷地を物色中と仄聞す。

代表取締役 八尋 始

氏は明治三十年福岡縣若松市に誕生す。生家は代々同市の素封家たりしが、家運衰微に依り、氏は不運にも年少より塗炭の苦勞を重ね、先づ炭鑛家松川駒太郎氏の書生として、其扶助を受けて下關商業學校に入學せしも、故ありて二學年にて退學の餘儀なきに至り、當時八幡製鐵所の分析試験を志願せしも視力に禍して採用されず、驛員を志せしも亦失敗に終り、十七才にして上阪日本鑛鋼所に入所せるも苦學の時に恵まれず、幾何もなくして大阪電氣會社の今橋氏の紹介と川喜多モーター會社本間氏の斡旋にて同社に入社し、茲に關西商工學校夜學部に入學し、爾來眞摯勤務の傍ら勉強し大正五年之を卒業す。次で奥村電氣商會に入社し、メートル製作組立に従事の傍ら京都帝大電氣講習所に入學せしも、學資難に陥り爲に日新電氣を経て、井上電氣メートル製作所に入所せるが、井上氏の義兄藤原氏は八尋氏の非凡の資質を看破し、同氏の知遇を得て再び京大電氣講習生として學究の自由を與へられ、大正十年優秀の成績を以て修了す。先之藤原氏了解の下にこじまや電機商會に入

秋葉町

(所在地 京都市左京區夷川通り 川端東入)

臺灣電力株式會社

時局の緊張は所有の産業部門をして戰時編成化を不可避ならしめつゝあるが、此情勢は我が重要基礎産業中最大の役割を爲せる電燈電力業に對しても必然あらたなる方向を約束づけるものなり。その一は支那事變の勃發により、益々拍車づけられつゝある生産力擴大の要求に應ずる爲、重要産業用動力として、

其の九〇パーセントを提供せると稱せらるゝ電力資源の積極的開發の必要あり、其は平戰兩時を問はず、事業の公益性よりする所謂「統制」の要請なりと謂ふを得べし。此の意味に於て我が臺灣電力株式會社の存在も蓋し重大なるものあらん。現に當社は臺灣全島電力供給總量の八十八パーセントを占有し、全島の資源の開發、産業向上の原動力たるを自負し、加之政府出資金に對しては利益率八分に達せざる時は配當を要せざるの特別恩典を附せらるゝ特殊電力供給會社たり。而して其創業は資本金三千萬圓内一千二百萬圓は政府の現物出資を以て大正八年十月設立せらる。翌九年埔里電燈株式會社を買収、昭和四年に及びて臺灣電氣興業株式會社を合併して、資本總額を三千四百四十九萬五千圓と爲し、同年四月増資を斷行して現に資本金四千五百七十五萬圓を擁するに至り、臺灣事業界の最高峰と爲れり。

昭和十二年上半期の當社の業績は依然好調を續け、同期末（六月三十日現在）に於ける取付電燈数は八十一萬三千六百八十八燈、電扇三萬七千五百九十九臺、電熱六千四百五十七キロワット、契約電力八萬九千二百二十九キロワットにして、之を前期末に比較すれば電燈三萬一千六燈、電扇二千六百六十臺、電熱三百四十九キロワット、電力九千八百五十三キロワ

ットを増加せり。斯の如く電力の需要は益々として増加の趨勢を辿りつゝありて、此情勢に對應する爲に電源の充實に萬全を期すると共に當社は其設立の使命に鑑み、昭和十二年六月一日より主として中口動力を目標に電力料金の値下げを決定せるは、その標度を示すものとして稱讚するに餘りあり。尙日月潭第二發電所建設工事は爾來頗る順調に進捗しつゝあり。主要工物中導水路は第一、第四の兩隧道を除くの外は全部完成し、其他牌潭取水口、銃櫃堰堤並に同取水口、壓力隧道、調壓水槽及び鐵管路等は既に竣工し、電氣設備中發電所建物は完成し水車、發電機、變壓器及配電盤は鏡意据付を了し操業を開始せり。

一面北部火力發電所建設工事は建設敷地が要地帯に屬せる關係上諸願屆に豫想外の日子を要せしもの等も順次許可せらるゝに至れり尙發電所建物の鐵骨主要機械類も順次到着し居りて發電所の竣工も大略來る四月の豫定と謂はる。尙當社のカーバイト工業は昭和十二年三月下旬作業を開始せるが、偶々臺灣電化株式會社との間に同事業の讓渡交渉成立し、同年五月事業一切を同社に讓渡せり。而して當期の純益金は百八十六萬五千餘圓を計上し年六分の株主配當を爲し、業況益々好調裡に在り。當社は東京支社を同市麹町區有樂町一丁目三信ビル内（電話銀座七三二番四七一

番）に置く外臺北、基隆、宜蘭、臺中、臺南高雄に各營業所を設置し、臺北州七星郡内湖庄に松山工場を有す。當社の役員は社長松木幹一郎、理事能澤外茂吉、後藤啓二、野口敏治、監事後宮信太郎八條隆正の諸氏なり。

社長 松木幹一郎 明治二十九年東京帝國大學英法科を優秀の成績を以て卒業し直ちに官界に入り逡信事務官、同書記官、同參事官を経て鐵道廳參事官、鐵道院理事に歷任し次で東京市役所に入りて電氣局長となり、後身を實業界に投じて山下合名會社理事、山下汽船副社長、浦賀船渠取締役等に就任し、大正十二年關東大震災後推されて帝都復興院副總裁、市政調査會專務理事に就任し、東京市政に貢獻するところ尠からず。昭和四年臺灣電力社長に推戴されて今日に迄。閑歴と人格は當社の統帥として洵に適任を諷はれ居れり。
(所在地 臺北市書院町一丁目)

本 禪 寺

日蓮宗京都大本山本禪寺はその御由緒まこと深く、同宗門の敬仰を受くる事亦實に

厚し。抑も當本山に安置し奉る立像釋迦牟尼佛は、聖祖門下無二の靈寶たるのみならず、三國唯一の佛寶たり。宗祖日蓮大聖人弘長元年鎌倉幕府の忌諱に觸れ、伊豆伊東へ流罪に處せらる。これより先伊東の浦より闊浮檀金の佛像綱に據りしにより領主莊司朝高之を時の將軍源賴家に献す。然るに賴家公之を尊崇せざるに依り諸天の怒を受けて熱病に罹る。賴家公これを伊東の海に沈めんとせるを朝高秘そかに隠匿し給へり。宗祖流罪となりて間もなく、朝高熱病に罹りて國手名醫も遂に匙を投ぐ。宗祖平癒の祈念をせられるや七日にして病氣本復す。之に依りて朝高一族厚く宗祖に歸伏し、曩に秘藏せし佛像を献す。宗祖いたく喜び給ひ爾後片時も傍を離さず、供養し給ふ。御赦免となり、諸宗の惡義折破に力を盡させ給ふと共に、幾多の危難に遭遇せられしも、宗祖は立像尊の御守護と御自らの御威徳により常に御身恙なくおはします。弘安五年御遷化の前に日朗師に授けらる。日朗師之を日印師に譲らる。日印師は尊像を越後の本成寺に安置し、後日靜師に當寺並に本國寺を御譲り遊ばさる。日靜師本國寺を京の六條に移し立像尊を本國寺に安置せられ、日靜師本成寺を日陣師に本國寺を日傳師に譲らる。日陣師本國寺に於て宗祖先祖の御遺法の通り本述勝劣の極意を談議遊ばされるや、日傳師

之を聞いて本述の理は一致なりとせられ、兩師の間に問答八ヶ年に及び、勝劣一致兩派に別る。日陣師關西に宗祖の法義の滅亡するを懼れ、一寺を建立して光了山本禪寺と名けらる。天文五年寂山の僧徒私兵を起して法華宗各本山を燒拂へり。斯くて立像尊は今井道順の手に入る。道順は一世の高僧日覺師を敬慕すること厚く、尊像を本禪寺に安置し奉る。爾來今日に至るまで當山に安置せられ、老幼男女の歸依を受くること甚だ厚し。立像尊の御利益まことに驗られたかにして、如何なる病氣にても信心さへ強情ならば、遠國に在りて病床に臥せる病人も忽ちにして平癒するに至る。御禮參りに來る者、或は災難を免るゝ様祈念に來る者など踵を接して參詣し、境内甚だ混雜を呈せり。

寺 田邊日孝

新潟縣西蒲原郡松長村に明治八年呱呱の聲を揚ぐ。幼にして頓悟神童の譽高し。幼少にして佛門に入り、眞覺佛道の研精に努む。次で東京小石川善心寺の住職となり後本山の命を受けて、朝鮮龍山に一寺を建立し、努力して教旨の宣布を計り多數の信徒に歸服せらる。それより東京善心寺に歸り、次で山形縣坂市妙法寺に轉じ、昭和三年に至り本禪寺に迎へられて法燈を繼ぐ。道念堅固にして、身を持すること嚴正。師は終

身獨身を誓ひて、宗門の爲めに身を挺して今日に迄。善男善女より生佛の如くに欽仰せらる。
(所在地 京都市寺町廣小路上ル)

東洋鋼板工業所

大阪に於ける個人經營の鐵工業者中、優に資金數百萬圓の大工場に匹敵するの實力信用を確保せる同工業所は、これを「鐵中の錚々者」と謂はんは當らず、寧ろ大山喬嶽中の最高峰と評すべき歟。羅馬は一日に成らず。同所が斯界に於て本邦最古の歴史を有するの事實及經營者吉村増義氏の力量識見の一斑を知る者は、其今日在るの決して偶然に非ざるを領會するに困まらざるなり。同所は固と合資會社にして、鐵板壓搾プレス加工、建築材料（スチール・ドアー、シャッター、サッシュ等）車輛類（自動車骨格、車輛型押等）壓搾水壓プレス等を専門とせる工業所として永年斯界に覇を稱へ來りたるが、先年吉村氏の個人經營に歸するや、恰も好し軍需工業勃興の新氣運に際會し、所謂人を得時を得たる統率の下に活況を呈し、其寬嚴宜しきを得たる統率の下に全員一致技術上の最高能力を發揮して供給關係に遺漏なからんことに力めたるを以て、

短日月の間に信用倍加、需要層益々擴大し、竟に盤石の基礎の上に立つに至り。同所の製品の優秀確かなることは夙に一般の認むるところにして、今や遂に舶來品を凌駕するに至り、國家的貢獻亦頗る多大。其現在抜群の業況に徴し近き將來に於て本邦工業界の王座を占むるに至るべきは、之れを逆睹するに難からざるなり。

經營者 吉村増義 少壯既に大工業都市の一角に頭角を形はし有数の事業家と角逐して今日の優位を占むせる同氏の力量は夙に業界人士の認識歎稱するところなるが、單に力量の一點を以てするときは他に比倫を見出すに難からず。吾儕の氏を以て偉なりとなす所以は其力量の非凡なるに加ふるに卓抜なる識見と遠大なる志望とを抱藏せる點に在り。氏が現業繼承の當初に於て來訪者に對して開陳せる所感の一端の如き、最も雄辯に之れを證するものにして、即ち最近の國際情勢に徴して國防充實の急を説き、東亞の經綸に言及して非常時に於ける鐵工報國の抱負を披瀝し、自ら最前線の將を以て任ずるの意氣を高揚せるところ、太だ吾意を得たり。年齒尙未だ不惑に充たざるも其技能は夙に老熟し、人格亦正に圓成の域に進み、新時代必過の工業經營者として一般より進一層の活躍を翹望され

醫師 安日新

醫を仁術として最もよく生かし得たる彼のチエホフは、一面世界的文豪として文名廣く一般に知られたる如く、我安日新氏も仁術の實踐者の一人として擧げ得べく、之等は醫師たる職業が、其の觀察眼をして直接人生の廣き部分に觸れしめ、其の眞底に深く到達せしめ得る多くの機會を所有する爲ならん、而してこれは單に藝術のみにとゞまらず、社會公共事業に於ても然りとするとともに、現時北九州に於ける臨床外科の泰斗として安日外科病院長の令名あるのみならず、工業王國八幡市會副議長の要職に在り、又社大黨中央委員、同九州協議會議長、同八幡支部長として錚々たる卓見を顯はるゝの士、正に其の天業をよく生かしたる人物として推稱尊敬するに躊躇を惜しまざるところなり。

氏は明治二十年十二月を以て福岡縣省吾氏の二男として同縣遠賀郡水巻村に生れ、安日省三氏の養子となり、夙に聰明穎智、而も頗る憐憫の情に富み、將來の道を醫界に求めて斷乎たる決意を有する處、東京明治學院卒業後、中央大學に學びたるも再び第五高等學校を経て九州帝大醫科入り、斯學の眞諦を把握

つゝありるは偉とすべく、切に自重を祈る。
(所在地 大阪市東成區北中濱町二丁目)

實業家 古谷辰四郎

株式會社古谷商店社長として才腕を揮ひ、各種事業會社に重役として列して北海道財界に重きをなし、その豊かなる教養と圓満なる人格とを以て徳望高きを古谷辰四郎氏とす。古谷家今日の繁榮は偏に先代古谷辰四郎翁の克苦經營に依りて、齎らされたるものなり。翁は卓犖剛毅、明斷果敢頗る事業的手腕に秀でたる半面、又敬虔なる佛教徒にして慈悲温情に富み、社會公共事業に盡瘁して名望赫々たるものありき。明治元年滋賀縣に生れ、十四年渡邊。多年北村商店の店員として奮闘せしが、三十二年獨立して米、石油、砂糖、和洋酒その他の卸商を營み、後菓子工場を經營す。氏は努力奮闘して製品の品質向上に日夜苦心研究し、遂には古谷のミルクキャラメルキャンデーは全國的に名聲を馳する至れり。後に至り大日本乳製品會社社長、北海道拓殖鐵道會社社長その他數多の會社の重役に連り更に札幌實業組合聯合會會長、札幌市會議員、商工會顧問等に推され、財界に重きをなせり。大正十二年六月には紺綬褒章を授けら

して大正五年卒業と同時に同大學副手として外科學第一講座に勤務すること二ヶ年、同七年八幡製鐵所附屬病院外科部長及同院技術員養成所講師を兼ね、同十一年退職と同時に、現地に安日外科病院を開業す、爾來其の懇切丁寧なる診療態度と優秀卓越せる技術は相俟つて絶大なる信望を博し、門前常に市をなす繁榮を招來すると共に、夙に八幡市醫師會副會長に擧げられ、更に八幡市消防組消防醫を囑託され、再度醫師會副會長に推する、と共に同健康保險部長に當選す。また昭和三年には製鐵所共濟組合健康保險醫、同年七月には三度醫師會副會長に就任して貢獻多く、斯くして同四年以來は八幡市會議員に當選すること連續三回に及び昭和十二年六月全員一致を以て市會副議長に推舉さる。これを以てするも氏の如何に識見手腕の偉大なるか窺知するに足るところなり。傍ら社會大業黨に屬し、同黨八幡支部長となり、日夜盡瘁の勞を怠らず只管郷土の發展を圖りて献身的努力を傾注しつゝあり。

天資濃厚にして周到緻密、加ふるに一片稜々の氣骨を藏して、正義の爲めには敢えて水火をも恐れざる氣概を有し、渾然珠玉の如き人格の持主、遂に識見、手腕、人格の三璧を完ふし、世に多く求め得ざる士として推稱するに足る俊材なり。曩に醫師會に於て診療値

る。昭和五年、六十三歳を以て長逝せられたり。當主古谷辰四郎氏は前名を英一郎と云ひ明治三十一年二月に生る。大正十二年明治大學政治經濟科を卒業す。氏は天性聰明にして冷靜沈着、嚴考の逝去に遭遇せしも少しも狼狽せず、その遺業を繼承して、これが經營に當ることとなり、直ちに嚴考の名を襲名せり。氏は頭腦緻密にして用意周到専心事業に没頭し、家業の發展に全力を傾注す。年々事業は隆盛に向ひ、大いにその名聲を昂揚し、嚴考の名を恥づかしめず。即ち氏は製品の改善の爲めに日夜苦心慘愴し、又販路開拓の爲めに東奔西走して寧日なく、斯くして需要日に日に増進し規模愈々大を加ふるに至れり。氏は幾百の社員職工を統率して家業に精勵し従業員又氏の指揮下に一絲亂れず、その事業に盡瘁し、上下の關係圓滿實に和氣藹々たるものあり。氏は嚴考の薰陶を受けその影響を受くること深く、宗教心に厚く道念堅固にして身を持つること厳正、内に高雅溫暖の情を含む品情峻潔の人格者として衆庶に敬仰せられること深し。古谷商店社長明治製菓監査役等の要職にありて、事業界に活躍し、少壯氣鋭、潑刺たる意氣を以てその手腕を揮ひつゝあり。將來大いに頭角を拔んづるの兆瞭然たるなり。

(住所 札幌市北六條東十二丁目)

下を提議し、次で診療規定撤廢を叫び、更に秋期總會に於て滿場一致之を解決したるは其の手腕の卓抜なる證左として人の知るところなり。而して氏は常に庶民階級の爲め、狂奔盡瘁して止まず、一時斗酒尙辭せずの酒豪家なりしも、去る昭和九年より斷然之を排禁し將來大衆禁酒運動へ乗り出さんとしつゝある當代稀に見る巨材なり。

宗教は佛教にして趣味頗る多く、甚、讀書劍道等なり。家庭には良妻賢母の譽れ高きキミ子夫人との間に淳、透、貞、吾、節の三男二女ありて和氣藹々たり。

(住所 福岡縣八幡市曙町一丁目)

合名 中京機械製作所

戰時體制下の對外爲替の堅持、生産力の擴充或は軍需資材の充實の爲、終始一貫「機械報國」を念願し、凡ゆる研究努力を費ねて成果し、その優秀なる技を顯はるゝ金鐘城下に於ける斯業界の俊鋭たり。

元來當社は過ぐる明治四十五年三月、現代表社員横井藤八氏が、名古屋市東區南外堀町に於て、獨立鐵工業を開始し、理化學器械其他諸精密機械の製作に従事せるに其緒を發す。幾許もなく事業擴張の要に迫られ、同市

中風東川端町に工場を移し、彫身の努力研究は各種の特許を獲得し、聲望愈々昂揚し、順調なる業績を挙げ、其名著聞するに至れり。昭和三年三月に追んで更に一段の飛躍を敢行すべく、同市中風江越町三丁目に一千數百坪の工場敷地を求め、整然たる工場を建設し、所期の目的を達成するに至れり。之れ即ち現工場なり。曩に時運に即應して、全経営を擧げて之れを合名組織に革めたり。而して時局以來其製作品は軍需部門に屬する兵器、航空機部分品、航空機用燃料手働唧筒、バルブ、ブロック類、燃料注射器、安全弁、螺子類其他精密機械部分品等に轉換し來れるが、優秀独自の技術は既に定評の存するところにして三菱重工業、岡本工業、川崎造船所等に納品し好評を博しつゝあり。

今や當社は従業員百五十餘名を僱し、年産高二十五萬圓内外を計上し、舉社一致新業に邁進し、其前途春海を臨むが如く汪洋たるものあり。

代表社員 横井藤八 生來醇厚にして謹直。精機の技に長じ、其半面事業的才院に秀でたり。

氏は若冠にして名古屋工廠其他機械工業會社に格勤し、傍ら實地研究に没頭すること多年、明治四十五年三月に至り凌雲の志を抱きて獨立新業を創む。爾來二十有七年、拮据經營業礎を確立し、以て隆々たる今日の盛業を成す。氏今年五十五歳、將に人生の働き盛り堅忍持久健闘を翹望す。

(所在地 名古屋市中風江越町三ノ一八)

井上愛一

氏は手廣く護謨製造業を営みて名古屋地方に多大の信望を博せるが、現に愛知縣護謨工業組合理事長の要職にあり。高等小學校を終ゆるや直ちに實務に携はり、幾多の迂曲曲折を経て、後新業に従事す。艱難辛苦、奮勵努力、勤勉以て業務に身を投ずること多年。その間幾多の困難を冒して奮闘し、障碍を克服して邁進す。掃風沐浴、多年の歳月はやがてして、新業に關する深き経験と知識を積み、且つ又相應の資力の蓄積成り、それと共に世間の信用も加はるに及んで、意を決して獨立を敢行す。創業の當初は資力充分ならず、事業

郎氏の三女にして明治三十九年を以て生る。名古屋女子商業出身たり。徳一、雅夫、堯裕の三君在りて家庭まことに和氣霽々たり。

(住所 名古屋市中川區幡野町三丁目)

東 策

年少にして大望を懷きて渡道し、拮据經營新業に力むること拾有餘年。今や小樽製菓業界に於ける最高峰たるの稱譽を博せり。

氏は新潟縣柏崎の出身。若年にして獨立不羈の氣概に富み、父母の援助を拒けて柏崎商業學校を苦學力行して卒業す。大正十四年志を立て、父竹二郎氏と共に北海道小樽市に赴く。柏崎商業苦學時代に習得せし米菓の製造を以て身を立てんと決心し、小樽市入船町に製菓工場を設立せり。未知の土地なる上に資力薄く、苦心慘澹、克苦經營、まさに血と汗にまみれ、晝夜を分たすその業に傾倒す。街頭に出で、は販路の開拓に力を盡すと共に、内にありては寢食を廢して製法の改善に意を用ふる等、その奮闘振りは筆舌に盡し難し。而もその間兩親に奉養を怠らず忠實にこれに仕ふ。氏の奮闘次第に實を結び、賣行日毎に激増して事業は歴年繁榮を來たせり。斯くて相次いで擴張をなし、昭和七年には現在の地

に四百五十坪の土地を購入して工場を建設す。創業以來僅々十二年、赤手空拳を以てこの大をなせるは實に驚嘆に値す。續いて飴菓子製造第二工場を新設し、その興隆の顯著なることまさに旭日昇天の勢とも稱すべし。然るに氏は決して小成に安んずることをせず、愈々事業に熟中し、製法の改良と販路の擴張に邁進をなせるが爲め飛躍的に發展を遂げつゝあり。今日既に製菓工場としては小樽第一位を占め、北海道屈指の設備を有し、製品の品質又佳良を以て好評を博せり。その販路は北海道全道、樺太は云ふに及ばず、東北地方より更に東京方面にまで及べり。東策氏齡漸く三十五歳にして、前途大いに春秋に富む。年少にして業を起し、今日の隆盛を來たしたるにも拘らず、聊かもその功を誇ることなく謙遜しつゝ自己の努力の足らざるを云ひ、今後の努力を誓ふ所將來の大成を約すものなるべし。その性格は快活明朗、謙虚にして濃厚又その頭腦實に明敏にして、事業に對しは常に新機軸を開き、積極の一途を邁進す。現在五十餘人の男女の職工を使用し、自ら先頭に立ちて督勵せり。小樽に於ける少壯氣鋭の事業家として、その前途を刮目せらる。趣味は多方面に及ぶも、自ら稱して事業經營を以て最上の趣味と云ふ。

(住所 小樽市奥澤六)

大同生命保險株式會社

當社は明治三十五年七月、朝日、護國、北海の三生命保險會社を併せて、大阪三百年の素封家廣岡家に依りて設立せらる。創業以來堅持せる保險報國の大方針に基き、株式組織と相互組織の長所を採入れし独自の混合組織を以て一意堅實主義、加入者本位の徹底に邁進し、徒らに契約の増加に焦らず、常に内容の充實、保證力の強化を旨として社業の進展を計り其一貫せる指導精神と奉仕的經營方針とは漸次江湖の認識を贏ち得るに至り、其誕生現存同業會社中第十四位の晩きに在り乍ら幾多先輩會社を凌駕し、最も順調、堅實なる發展を遂げ社礎益々鞏固に業績愈々躍進す。當社十二年の業績を概記するに此間當社は時恰も記念すべき創立三十五周年に當れるを以て、内外一致新記録の樹立を目ざして努力せる結果、待望の契約高四億圓は早くも三月を以て達成し、新契約は九千二百七十八萬圓、前年より五割六分一厘増加、純増加亦六千七百餘圓、前年に比し實に十割一分九厘を増加し創業以來の快記録を擧げ期末現在契約高は四億一千六百萬圓を突破するに至れり。他方收支計算に於ても豫明以上の好成绩を擧

け特に其資産運用は此未曾有の低金利時代にありて五分九厘一毛といふ依然として新界に比肩し得ざる高率を擧ぐると共に所有々償證券は逐年充實を加へ、時價に對する評價は實に一千二百萬圓を超える餘裕振りを示せり。

斯くして當期は定款に基き損益計算に於て、先づ特別養老保險の收支を別途に計算しその利益中より同種類に對する利益配當準備金として、百一十一萬餘圓を割き、之を次年度繰越金に繰入れ、其殘額を特別養老以外の種類より生じたる利益と合算し、純益として二百六十萬餘圓を計上し、之に前記繰入配當準備金を加算せば、當期の營業利益は實に三百七十一萬餘圓の巨額に達し、例に依り繰りたる餘裕を以て契約者に對し、高率の利益配當を續行したり。而して當期中新契約高は九千二百七十八萬餘圓にして前年度に比し三千三百三十五萬八千餘圓を増加し、解約並に保險料の不拂及び其の他事由に因る消滅高三千五百二萬一千餘圓にして、前年度に比して二百三十四萬三千餘圓を増加。保險金支拂の事由發生したる契約は六百八十二萬六千餘圓にして、内滿期に依るもの三百二十三萬四千餘圓、死亡に依るもの三百五十九萬二千餘圓、斯くて本年度は前記の増減及契約の復活其他の事由に因る増加七十九萬二千餘圓、保險金の減額九十五萬八千餘圓を加除し、純増加高は前年

に比し、約三千六十六萬餘圓を増し、六千七百七十七萬三千餘圓を算し、年度末現在契約高四億一千六百六十萬圓を獲得するに至れり。

今や當社は保有契約高四億二千餘萬圓、資産亦將に一億圓に垂んとする本邦生保界屈指の優良會社となるに至れり。

因に當社支店支所所在地は大阪、京都、名古屋、松本、東京、仙臺、秋田、廣島、福岡、金澤、京城、横濱、札幌、神戸、新潟、宇都宮、高松、岡山、鹿児島、臺北の各重要地にあり。當社の陣容は取締役社長廣岡三、取締役副社長廣岡久右衛門、常務取締役平澤眞、取締役松井萬縁、廣岡三郎、増山富次、入部泰藏、監査役祇園清次郎、加輪上勢七、江見濱五郎の諸氏なり。

東京支店長 三木助九郎

明治二十八年二月兵庫縣に出生。大正十一年東京帝大經濟學部を優秀の成績を以て卒業、直ちに大同生命保險會社に入社す。頭腦清敏にして重厚謹直忽ちその鋭鋒を顯はし、幾何もなく同社金澤探題に拔擢されて北陸地方の開拓に功あり。昭和七年福岡支店長に轉じ、曩に最高支店格の東京支店長に榮進以て今日に迫る。本邦生保界の中堅人物として其手腕力量定評の存するところにして、將來の大成を豫約けらるゝ士たり。

が如きは此間の事情を雄辯に物語るべき證左なり。

その躍進まことに目覺しきものありて、大正十二年に大阪市此花區下福島に會社を創立するや、直ちに同市西淀川區佃町に新工場を建設し、目下引續き別地に新工場増築の計畫中なる由。猶ほ需要上の利便を計ると同時に東都進出を目指し、東京市蒲田區羽田本町に東京工場を建設し、西の楠山専務と之れに配するに東に常務取締役山田憲成氏を以て東西提携、社運に精進以て需要に遺憾ならしめたる強陣容は正に同業の規範たり。

今當社の製品を見るに東邦式起重機並ウィッチ、東邦式各種ダンブodei、ガソリン輸送タンク自動車、重油輸送タンク自動車、各種液體輸送タンク自動車、東邦式梯子付自動車、東邦式架線塔自動車、東邦式給水及撒水自動車、東邦式洗滌自動車、東邦式洗滌撒水消防自動車、各種道路壓機、各種トラクター、アスファルト撒布器、自動車修繕及改造其他特種装置の設計及製作等にして、猶軍部指定工場としての兵器、軍需品等の製作にも従事せる等、多岐複雑に亘る生産は蓋し驚嘆に値すべし。

當社製品の納入先も前記軍部を始めとして内務、鐵道、逓信の各省及び關係諸官衙、各府縣市町村各役所を始め、三菱、川崎車輛共

の他諸方面大會社等々は元より、個人商店にまでも及べり。如斯く今や内地需要のみならず、更に其の颯翼を張るに滿洲、南洋方面にも輸出を見るの大景況を呈せり。

殊に同社の製品は何れも優秀卓絶せるが、就中、東邦式萬能トラックは普通貨物運搬に適せるのみならず、土砂運搬に好適にして、三方開並に三方取外式装置なる爲、大量貨物運搬に最適なるを以て諸官廳、土木、建築、運輸業者に愛用せられ、その需要は殺到するの盛況なり。

今や當社も東西共に其の陣容を完備強化し加ふるに工業技術の研究にも日夜餘念なく、續々新機軸を發明し、時代の尖端を走りて本邦自動車工業界の爲萬丈の氣焰を擧げつゝあるは、獨り當社のみならず「躍進工業日本」の爲欣快の至りなり。

専務取締役 楠山健次

氏は明治二十二年三月和歌山縣に呱呱の産聲を擧ぐ、青雲の志を抱き大正十五年米國に渡る、彼國に於て氏が辛苦勉勵せる努力はよく筆舌の盡し得ざる處にして、正に奮闘史を飾るに足ると云ふべし。曩にニューヨーク市所在クーパー・オニオン工科大学機械科を卒業し、同年、ゼネラルモーター會社に勤務し、只管汝々營々將來の大成に研磨怠りなく奮闘し豊富なる智能を

(本社所在地 大阪市西區土佐堀通一丁目)
(東京支店 東京市京橋區京橋三丁目)

東邦自動車工業株式會社

本邦自動車工業創生期とも稱すべき大正末期に於て創立せられたる當社が、今日本邦自動車工業界に於ける最高峰たるの存在を占め内外の信認を獲得したるは決して偶然に非らず。即ち、大正末期我國朝野の自動車工業創建に對する要望熾烈化し、該事業は恰も雨後の筍の如く簇出して所謂斯業の搖籃期に入ることとなれり。同業者間の激甚なる競争の中に當社は周到なる計畫の下に拮据奮勉、障害を克服して、遂に今日の榮冠を獲得したるものにして獨り當社の爲のみならず邦家の爲め慶福に堪へざる所なり。凡そ事物に中心あるが如く、一會社に於ても同様之れを有せり。即ち此中心たる専務取締役楠山健次氏の活躍たるや、超人的の努力を續け、加ふるに歐米の新知識を吸収し彼我對比採長補短の實を期し、年來の不撓不屈偉大なる精神力の活動と相俟ちてよく今日の聲價を擧げたるものにして、而も着眼點の雄大確然たるは、眞に敬服の外なし。當社が時局に乗じ軍需品製作を試みるや、忽ち軍部の指定工場となるに至れる

得て、歸朝すると共に東邦自動車工業所を買収し、内容を一新し愈々斯業に飛躍の第一歩に邁進するに至れり。

氏の創業當時は恰も斯業の搖籃期にして之れが開拓者としての苦心は想像に餘りありしが、克く此の難域を克服して、今日の覇權を獲得したるは、其の手腕力量に於て實に嘖嘆すべき處ありて東邦自動車工業會社の今日は一に氏の努力の結實と云ふ可し。今や同社の業況天馬空を行くが如き今日、氏の感慨無量なるもの多々あらん。折角自愛して邦家の爲に益々健闘あらんことを切に祈る。

常務取締役 山田憲成

當社の東方の總元締格として、縱横の手腕を發揮し、殊に顧客先の折衝亦要を得て需要激増せるは一に氏に負ふ處多と云ふ可し。氏も又斯業に對する智能卓抜せる逸材にして、曩にローサンゼルス高等工業の機械工學及び自動車工學科を経て、コロンビヤ大學に學び、サンタヒ鐵道會社技師として招聘せられ、次でゼネバ國際労働事務局に轉ぜしが後ち歸朝し、朝日衡器社長たりしが、嚮に東邦會社の常務に就任するに至れり。寔に適材を適所に得たるものにして、氏の前途正に洋々たり。氏に期待するもの多々あり奮闘を祈る。

(所在地 大阪市西淀川區佃町)

事業家
櫻井 一郎

大阪財界に少壯俊逸の俊魁としてその前途の多大に矚目せられる人に櫻井一郎氏あり。氏は専ら廣告用諸鏡、輸出向鏡、板硝子等の製造販賣をなし、その製品頗る優良にして、噴々たる好評を博し、經營方針亦實に堅實にして多大の信用ありて、販路日を送りて擴大せられ、業績躍進の一途を辿れり。即ち、その販路は全國各地より更に全世界に及び、滿洲・支那・印度の亞細亞諸國、北米・南米・歐洲諸國等にして、更に白義耳・獨逸・佛蘭西・チエツコスロバキヤ等より輸入をなし、商況頗る活況を呈せり。製品の改良には多大の努力を費し、銳意生産設備の改善に淬勵しつゝあるに依り、その製品は絶大なる讚譽を受け、注文日を送りて著増せり。當店の事業は先考櫻井勝治郎氏の創始せしものにして、同氏は剛毅篤大たると共に慧敏多才、典型的大阪商人にして、信用本位の營業方針を確立し、競争劇甚なる角逐場裡を馳驅して、事業大いに勃興をなし、その才腕は斯界絶頂のものとせられたり。櫻井一郎氏は大正三年に勝治郎氏長男として生る。昭和十二年關西學院商經科を卒業す。曩に勝治郎氏の逝去に遭ひて

直ちに家業を繼承し、夙起晩寢して精勵し、熱誠熱直これに傾倒して家道近時一段と繁榮を見つゝあり。氏は餘未だ若冠たりと雖も聰明にして思慮深く素志健剛にして頭腦俊敏、自ら第一線に立ちて活躍し、多數の店員に範を示せり。氏は氣宇潤達にして磊落恬淡、襟度宏くして抱擁力に富み、天性多數の人を統率するの才ありて、人の將たるの材器を具へ數十名の店員より多大に推敬を受け全店員は氏の命令に對しては欣然としてまさに手足の如くに活躍す。氏の熱心なる奮勵と上下の固き戮力に依り、今後の發展こそ蓋し期して俟つべきものあり。氏は教養高く品性典雅なる青年紳士として敬仰せられ、殊にその趣味の多方面に亘るを以て令名あり。就中、無線電信技術のアマチュアとして斯界に顯然たる名聲あり。尙ほ家庭には母堂よね刀自の外、令弟二人、令妹三人在りて、和氣瀟々として家堂に充てり。

(住所) 大阪市東區小橋西之町

埼玉秩父高等女學校

埼玉縣下女學校中教育方針の異色に富み、諸施設の完備充實せるを以て聞ゆるが、秩父高等女學校たり。當校は女子教育本來の使命

に鑑み、専ら實學を旨と爲して學科も實習を通じて教授することとせり。即ち、學科は實地に即して授け、我國體の精華たる國民道徳の指導原理忠勤を履修實踐せしむ。當校の教育の根本方針と爲すは、學校を以て忠勤の實踐道場たらしめ、學校生活全般をして一圓融合の裡に學ぶに効ある學校たらしめ、以て時代國情に即したる昭和婦人の人格的完成を達成せんとするを目的とす。而して當校の機關を組織的に統制し、學科の教授以外に學藝會、音樂會、講演會、陸上競技、水泳登山、武道、園藝等幾多の部門に亘りて生徒の薰陶を爲し、各部門に各々役員を置きてこれが實踐の向上を期せしむ。又生徒の自學自習を盛ならしむる爲めに、學科自習に必要な辭書類を教室に備へ、始業前、放課後等自由で使用せしめ、又毎週月、金曜日の放課後を自習時間と定む。生徒の常識を廣め各種知識の涵養を爲すべく、記念文庫を設けて生徒に閱覽せしめ、或は各方面を見學せしむる等實學の徹底化に力を盡くせり。敬神崇祖の觀念を高むる爲めに毎月一日始業前全校職員生徒秩父神社、今宮神社等に參拜をなす。或は又生徒の通學途上の安全を計り、且つ校外に於ける生徒の行動を監督指導なし、併せて生徒相互間自治協同の念を養ひ、互に相督勵せしむべく、生徒の通學區域に依りて教護區域

を設定し、擔任職員を定めて生徒の監督並に互助の任に當らしむ。如斯に當校は幾多の施設を設けて訓育に當り、その制度の完備せる組織の整然たる教育の實際的にして我國體の精華たる忠勤の觀念の發揚に努力せる等、他校に見る能はざる多くの特色を備へり。これによりて當校の成績頗る舉り、卒業生の優秀なるは既に定評ある所にして、名聲愈々高まればり。因に現校長は松村清次郎氏なり。

前校長 石井 潔

氏は千葉縣佐倉の出身にして佐倉中學校を経て廣島高等師範學校に入る。卒業後佐倉高等女學校、市原中學校、松戸高等女學校、船壁高等女學校等の校長を経て、秩父高等女學校長に就任す。天資溫醇質實、清純至直の君子人たり。名利に恬淡、徳操に堅剛宏潤磊落の士なり。愛國の精神に篤く、この精神を基として教育の事に當り、至誠を以て人を導き、その言々句々熱誠籠りて人の肺腑を觸くの思あらしむ。行往座臥極めて謹直にして、人の以て範とすべきに足る。青年學校の指導の任に推され、校務を統ぶ傍之が錯錫にも盡瘁す。識見抱負頗る高邁なるものありて、一度口を開けば侃々諤々數萬言を吐露し、その理路の整然として氣魄の雄渾、論旨の明白にして至誠の横溢せるは、聞く者をして自ら恍惚傾聴せしむ。而

も又文章に秀でて、一度筆を執らんか、流麗の詞藻流るゝが如くにして、文意自在に暢達してその意を盡すに遺憾なく、表現適確、情趣豊饒、餘韻嫻々讀む人を自ら熱了し去らずには措かず。氏の人格、蘊蓄は縣下教育界に崇敬せられることまことに厚く、先年滿洲視察團の結成に際し氏は多數の要望を以て團長に推戴せられたる如き、氏の信望の程を證して餘りあるものと云ふべし。氏は教育の重點を腹の教育に置き、型式、理論を第二義的となし。徒らに時流に阿諛して新主義新主張の途徑に迫なき教育家の多きなかに、氏の如きは信念ある眞の教育家と稱せざるべからず。先般の異動に於て不動岡中學校長として榮轉せしが其殘せし事績は珠玉の如くに輝けり。

(所在地) 埼玉縣秩父郡秩父町

東方貿易商會經營者
莊 司 茂 樹

本邦自轉車輸出業界の偉材として、關西實業界に君臨し、令名風に高し。現に東方貿易商會經營者たるの傍ら、業界唯一の對外輸出の機關たる日本自轉車輸出組合理事に推舉せられ、戰時輸出業界に多大の貢獻を爲しつゝあるは周知の事實たり。交通機關の先驅として自轉車の輸入を見た

るは、明治初年の交にして爾來轉便にして至廉且つ使用容易安全なるを以て忽ち世の珍重を受くる處となりたるを、輸入品の我市場を測歩すること久しきに及びたり。然るに大正の中期以後之が製造能力驚異の躍進を遂げ今や、我が國産自轉車は、世界市場を席捲して、躍進日本の眞價を顯現したるは皆に業界のみならず、國家の爲めにも等しく慶福に堪へざる處にして、業界の功勞者又多數に及ぶと雖も就中莊司茂樹氏の功績特に多大なるものあり。氏の事業經營の方針たるや常人と軌を異にし、經世濟民即ち國家觀念を以て自利を考へず、國利民福の前には自己の利益を犠牲に供し晏如たるは、まさに滅私奉公の權化にして世の至寶とも云ふべきなり。宜なる哉日支の戰端勃發するや、胸中の事業報國の赤誠忽然擡頭し、斯業の輸出地域たる南洋方面に渡航し、是れが情勢に、或は將來の發展に關し危険を冒して苦心酸膽具さに調査検討を遂げ、國內業界機關に詳細貴重なる資料を提供したるは、業界の齊しく感佩措く能はざる處なり。事業は人格の反映なりとか。氏の事業たる東方貿易商會の業績又頗る活況を極むは蓋し氏の人格の反映にして、同商會製品の輸出販路に至りても頗る多方面に及び南洋、關領東印度、英領印度、濠州、アフリカ、南米の各

地に及び更に開拓の手を擴げて、銳意活躍せるは氏の精力の絶大なるを牢固たるの信念を示すものにして眞に驚嘆に値ひする處なり。如斯海外に雄飛活躍して能く其功を収め、又克く業界の發展の爲め和衷提携を圖り、常に率先幹旋の勞を採り以て業界の發展に盡瘁し、現に氏が牛耳を執れる輪界業者を中心としたる東光會の如きは、親睦機關の目的を擧げ、取引の圓滿、關係製作者間の意志の疎通



武山純造氏

に絶大なる成果を擧げつゝあり。氏は夙に米國に留學しフランクリン大學を卒業せり。自他共に許されたる業界第一流海外事情の精通者にして英語會話に堪能たり。然るに氏は謙讓にして温厚、自己の知見を誇示することなく、磊落恬淡明朗調達にして、平素極めて寡黙なれど一度口を開かんか滔々數萬言、人をしてその流るが如き名論に恍惚たらしむるなり。

氏の人と爲り、質實剛健の氣風に配するに温雅博愛を以てし、その豊かなる温情は人を魅するものあり。氏未だ不惑に達せざるの壯境にあり。前途更に春秋に富む。今後の活躍大いに期待さる。

(住所 大阪市港區南安治川一ノ二二)

事業家 武山純造

名古屋織物業界に活躍し、その手腕卓抜、その名聲赫々たるを武山純造氏とす。氏は武山勘七氏の四男として明治十七年二月を以て生る。幼少より穎悟にして大いに學を好み、名古屋商業學校に學び、後實業界に進出す。氏の經營に拘はる商會織物問屋は年と共に發展し、斯界に於て不動の地歩を築くに至れり。氏は卓犖豪放、素志堅剛の事業家にして難局に遭遇するも屈せず力闘し、満々たる闘志の所有者たり。奮勉勵勵して努力を續け、東奔西走して事業に専念す。機智自在にして神籌鬼策よく商機を捉へてこれに乗じ、事業の發展に才腕を揮へり。斯くして事業の躍進は逐年著しく旺盛を極め、取引は全國に擴まり更に滿洲國方面を始めその他の海外諸國に及ぶ。殊に最近に於て大連、新京、ハルビ

ン等の各地とは大々的に取引を爲せり。商況繁忙を呈し、多大の好成績を擧げ、その規模頗る大を加ふ。氏は單に織物業に活躍するに止らず、寸暇を割きては他に種々の事業經營に携れり。即ち、株式會社蒲郡常盤館觀光ホテル社長の椅子に就き、充實せる設備を有するホテルを設けて、觀光客の誘致に努め、同地の發展に貢献する所大なり。又空中ケーブル株式會社社長として同社の經營にも力を盡くせり。その才腕行く所大いに發揮せられ東京財界に巍然として頭角を現せるが。氏の今後こそ大いに爲す所あるべし。資性快活にして圓轉滑脱、包擲力大にして氣宇寬宏對人に隔壁を設けず、玲瓏圓滿その身邊常に春風胎蕩たるものあり。俊銳の才智に慧敏の眼識を具へ、賦稟の商才は中京に於て嘆稱の的とせらる。因に田鶴夫人は明治二十九年加藤宗吉氏の長女として生れ、縣立第一高女の出身なり。長男昇太郎君は名古屋高商在學中にして他に一男三女あり。何れも健在にして家庭は頗る圓滿を極む。

(住所 名古屋市西區本重町四ノ一四)

鴻池信託株式會社

我國の信託法は過ぐる大正十一年四月に公

布せられ、同十二年一月より實施を觀るに至れるが、その結果全國五百餘の既設會社は二十餘社の優良會社のみを残して潰滅し、以來十六春秋を閲して長足の進歩を示し、今や歐米先進國の斯業をも凌駕する好成績を把握するに至れるは、洵に慶福に堪えざる所なり。この好成績の依而來る所の原由は、過ぐる金融恐慌或は財界の不安に苦酸を嘗め、或は刺戟されし結果一般大衆が益々信託の有利確實安全なるを認識し、之が利用に目覺めたる爲と、監督官廳の嚴格なる認可方針と、信託業者が終始國家的見地より、其經營を遂行しつゝある美譽に基くものにして、殊に斯業界に指導的地位に立てる會社が、財閥を背景に經營せるに至りては、更に安泰の感を深くすべし。我が鴻池信託株式會社は周知の如く、鴻池財閥直系會社の一にして、斯界の巨豪的存在たり。

當社は過ぐる大正八年十二年、鴻池財閥主唱の下に、關西實業界の豪者連を以て資本金百萬圓にて播津信託の稱號を以て設立せられ同十五年十一月に至りて鴻池信託と改稱すると共に、第一信託を買収、資本金を一舉二千萬圓に大増資を敢行、現に内拂込五百七十五萬圓を擁せり。創業以來鴻池財閥の羽翼下にありて順調なる業績を擧げ、近年五分配當を請願し居れり。茲に昭和十二年下期の業績を

瞥見するに、七月支那事變勃發し、爾後この事態に處する爲、前後二回に亘る臨時議會に於て、二十五億圓の軍事豫算を可決し、其の財源の大部分を公債に仰ぐ支那事變特別會計成立すると共に、臨時資金調整法、輸出入品臨時措置法等の重要經濟立法の制定を見、國際貿易は年初以來の思惑的輸入増大に加ふるに事變關係軍需資源の輸入激増に依り、遂に平和商品原料の輸入抑壓を餘議なくせしめられ、我國經濟界は純然たる戰時體制を採るに至れり。之より擧、懸案の資金評價換へ行はれ、事變の進展と共に通貨發行高の増嵩顯著にして、一時金融梗塞の聲を聞きしが、政府の機宜の處置に依りて事なきを得、金融市場は平靜に推移せり。此間株式市場に於ては事變當初には崩落を見たも、漸次引戻し歩調となり、事變推移待ちの底堅き市況を續けたるも、起債市場は依然行詰り打開を見ず、地方債社債の新規發行全く其跡を絶ちたり。

而して當社受託財産を見るに、有價證券信託は六百二十萬餘圓を増加したるも、金錢信託に於て五百十萬圓を減じたるに依り、總信託財産にては百一萬餘圓の増加を見、其期末現在高は、實に一億四千五百六十一萬餘圓に達せり。尙當期指定金錢信託配當率は長期三分八厘、短期三分六厘にして、純益金に於ては前期に比し幾分の減少を示し、三十萬五百餘

圓を擧げ得、之れに前期繰越金三十七萬八千四百餘圓を合計して六十七萬八千九百餘圓にして、之を處分するに諸準備及基金十四萬圓役員賞與金一萬六千圓、株主配當金十四萬三千七百五十圓(年五分の割)後期に三十七萬九千餘圓を繰越し、堅實にして餘裕ある決算を了す。因に東京支店は同市麹町區丸ノ内一ノ六に在り。

當社重役は關西に於ける錚々たる人物を以て布陣す。即ち、取締役社長鴻池善右衛門常務取締役前田忠 取締役岸本五兵衛 同小西新右衛門 同和田久左衛門 同鴻池新十郎 同藤井忠一 同杉村英三郎 監査役岸本鑑之助 同江崎政忠の諸氏なり。

常務取締役 前田 忠 才氣煥發の人か

否、凡にして非凡なる才能こそ、氏の地位を築き上げたる唯一のものなり。顯現しては至誠以て人を動かす、精勵格闘自づから衆の模範となりて、不知の間に心服易諾せしむる原動力となる。氏の場合この才能は時と處とを得て、益々其の光輝を増し得たりと云ふべし。

氏は明治十六年二月、鹿兒島縣士族前田正孝氏の長子として生る。大正十三年家督を繼ぐ。明治三十八年東京高商を卒業し、直ちに横濱正金銀行に入り、累進してヴェノスアイ

レス支店支配人、大連支店副支配人、新嘉坡支店支配人、神戸支店支配人に歴勤し、昭和五年六月、当社常務取締役兼に推され、翌日に至る。翻りて静かに氏の行履を顧る時、表面眞に淡々として水の如き観あるが如きも、深慮すれば幾度の盤根錯節ありて難關の荆棘の道に黙々として邁進せるなり。敬虔と云はずして何ぞ。誠實一貫以て當社の進展に盡瘁せる功績を考ふれば、社運と俱に前途洋々たるものありと謂ふべし。

(所在地 大阪市東區北濱五ノ三二)

東京合同運送株式會社

凡そ運送事業は、經濟に文化にその他百般の社會事業の發展に寄與する所絶大なるものありて、恰も心臓が身體各部の營養を掌り、之が機能の停止を見るに於ては一瞬たりとも生命を保持し得ざる如く、運送事業を缺きては社會は一日と雖も、命脈を保つ能はざるべし。首都東京の一帯に於て運送事業を營み、東京市の繁榮に寄與貢獻せる所多大なる東京合同運送株式會社は、大正六年五月の創立にして、資本金五百三十五萬圓(全額拂込済)たり。當社は數多の小運送會社の合同して創立せられたるものにして、獨占的強味を有し、而

もその營業地盤は我國政治經濟文化の中心地なれば、社會の基礎まことに牢固たるものあり。運送業の外、保險代理倉庫労働力供給を營み、事業頗る繁忙を極めて、毎期多大の好成績を挙げ、内容又頗る堅實にして、親會社に日本通運株式會社を有し、稀に見る優良會社たり。而して昭和十二年は巨額の軍事費の支出ありて、事業界は頗る活況を呈し、剩へ七月初旬支那事變の勃發するありて、軍需工業を中心とする事業會社は未曾有の盛況を現出し、之が爲めに荷動きは一段と旺盛に向ふに至れり。四月一日より九月三十日に至る昭和十二年下期成績を見るに、當社の貨物取扱數量は發送五十九萬九千六百七十七噸、到着八十九萬三千七百七十九噸、總數量一四八萬八千二百七十四噸に達し、前年同期の總數量に比して十九萬七千餘噸、一割五分の著増をなし、これが爲め利益金前期に比し七千圓を増加して四十五萬三千圓を擧ぐ。一分増配の八分配當を行へり。顧客の便宜を圖りて各所に營業所、倉庫を設置し、自動車百八臺、オートバイ百二十七臺、車輦類五百四十臺、船隻九十隻の運搬機關を備へ、更に電話百二十五本、専用電話二十五本を有し、萬端の設備完備して餘すなきものあり。昭和十二年、小運送業法並に日本通運株式會社法施行せられ、運送事業の統制確立せられるに至りしが、當社はその事業の公益

性に鑑みて銳意事業の發展に精勵しつゝあり。當社の重役に社長中野金次郎、専務三橋豊吉、取締役羽田和輔、同五十嵐明、同大森辰三郎、同井上良平、同中村正三郎、同藤崎香憲、同大江勝藏、監査役吉村佐平、同豊住輝日出の諸氏あり。

社長 中野金次郎

濶泰謹厚にして清白高朗、財界屈指の人格者として、勢望顯赫たるが中野氏にして、現時、東京商工會議所副會頭の顯職に就き、事業界の爲めに八方馳聘して席の溼まるに迫なき状態たり。氏は我國運送界が小規模會社の亂立して無秩序無統制を極め、事業の發展を阻害すること多大なるを見て奮起し、九州の一角より蹶起して、これが統一に乗り出し、千辛萬苦して遂に國際通運株式會社を創立し、我國經濟界の發展に絶大なる貢獻をなせしものにして、我運送業界の父として、その偉業は永遠に燦として輝けり。品性高雅にして襟度寛容、氣格俊逸にして心性峻潔、衆庶の欽敬を受くること厚し。

總務部長 茂呂肇二

茂呂氏は頭腦緻密なると共に、庶務を裁斷するに長じ、眞摯職務に精勵して大いに手腕を揮ひ、當社に於て重きをなせり。資性濃厚にして情誼に厚く、よく部下を指導して慈父の如くに敬仰せらる

庶務部長 松田常吉 氏は明治十三年二月福岡縣若松市に生る。多年運送事業に携りて、斯業に關する蘊蓄經驗頗る豊富にして、又甚だ才腕に富みて業界に於て多大に推敬せらる。温情に厚く、公平無私、内外に信望を博せり。

(所在地 東京市芝區汐留)

事業家 角 佐次郎

今や稀有の非常時局に際會、舉國一致國運の隆盛に邁進しつゝある時、電力國家管理案の出現に見る如く、重工業の原動力たる電氣事業こそ實にその使命たるや重大と云ふべきなり。電氣事業に缺くべからざる礎石的役割に、小たりとも電柱あるは周知の事實なり。こゝに論評せんとする角佐次郎氏こそ、實にこの國家的事業の礎石事業に轉々たる偉勳を立てたる戦士と云ふべく、今や九州木材工業株式會社の社長として隆々たる社運の發展と共にその令名は夙に高し。今日よく功を爲し人位を極めたる人物必らずや、その進路に確固たる信念と私利に迷はざる清心に不屈不撓の獻身的努力を傾注したるに外なく、氏も又業を興すに當りてこの信念に立脚、廣くその將



角 佐次郎 氏

來性と國家的責務を痛感感身したる熱血事業家と云ふべきなり、この九州木材界の巨頭たる氏は明治十年十月四日、福岡縣福島町に角圓吉翁の長男として呱呱の聲を擧ぐ、少年時代より父業たる材木商を手傳ひ、早朝床を出で、山野を馳驅し、家業の第一線に立つ。従來八女村は道路の開發されたる結果長木のまゝ運出されるところを電柱として販路を求めんか、必ずや將來電氣黃金時代現出と共に

昭和五年には電柱業者の難事とせらるコレニツト防備禦洋入の大工場を設立して株式會社となし、自ら社長となれり。その成績良好にして他の同業者を壓倒したるは勿論好轉に好轉を重ね今日の隆盛を見る。今九州各地に蜘蛛の巣の如く、張り廻らされたる電線の下に、風雨に曝され乍ら立ち並ぶ幾千萬の電柱の大半こそ、不屈不撓の氏の性格を物語るが如く、我が重工業の生命たる電動力の上に輝かしき貢獻をなしたるものと云ふべきなり。氏は今や六十二才、その濃厚篤實の人格と經倫は關係各方面の信望を擔ひたり。義に厚く情にもろき氏は又公人として名聲夙に高し。長男武男氏は日支事變勃發と共に陸軍砲兵中尉〇〇隊長として聖戰の陣頭に立ちて目下奮戰中にして、次男圓吉氏は長崎高商出身の秀才にして本年二十六才、令兄に代り氏を助けて事業の第一線に大活動をなしつゝあり。今や功成り名遂げたる氏は、外に忠勇なる武人の嚴君として敬仰され、内に秀才敏腕の良佐を受けつゝ家運昂まり、氏の面目躍如たるものあり。

(所在地 福岡縣八女郡福島町)

株式會社 玉塚商店

天候錢主義を堅持し創業以來茲に五拾年。

終始堅實經營に一貫する東株一般取引員たる
當社は今や業界の先達として、其名全國に震
憾す。而して當社は遠く明治二十四年先代玉
塚榮次郎翁の創業に係り大正八年業務の擴張
に伴ひて従来の個人經營を株式組織に革め、
同年四月二代目玉塚榮次郎氏が東京商大を卒
へて社長に任に就き、同十五年四月主務大臣
より法人取引員の免許を得て以來新社長經理
の下に、逐年事業を擴張して今日に達す。創
業幾何もなく日清戦争起り、次で國運を暗せ
る日露戦争の大波瀾に遭ひ、後歐洲大戰より
大正九年の凄慘たる財界恐慌を體驗し、更に
關東大震災の受難、昭和二年の金融恐慌等幾
多の洗練を受けたるが、其間曾一度の蹶跌
等なく、一路發展好調を辿り信用益々博大を
加へ、現に資本金三百萬圓内拂込二百二十五
萬圓を擁し居り。當社は東株一般取引員の
外、短期、實物、國債の各取引員を兼ね其當
業科目は國債、地方債、株式の引受募集及賣
買、清算實物取引、金融仲介其他有價證券に
關する所有業務を網羅し、長期清算部、實
物部、債券部、金融仲介部並に調査部の六部
門の機構能く全般の業務を分掌しつゝあり。

當社昭和十二年下期の業績は支那事變の勃
發に伴ひ統制經濟の進展、國際情勢の悪化等
にて證券市場は一時極度の不振に陥り、前途
を憂慮せられしも皇軍の連戦連捷、伊太利の
防共協定參加、九國會議の失敗、全文に漲る
新政府の樹立氣運に人氣漸次好轉して、當社
業績も舉社一致の精進と相俟ちて業界稀れに
觀る成果を収めたり。即ち收入の部に於て有
價證券利息の七萬四千圓、證券賣買益の四萬
九千圓を夫々増加せるも、委託手数料收入が
時局に禍して十七萬圓餘の減少を示したる爲
總收入は結局四萬七千圓の縮減を餘儀なくせ
り。一方支出に於ては前期業績が良好なりし
爲諸税金増増せしも賣買支拂手数料減と諸経
費の節約功を奏し、總支出は四萬六千圓減と
なり、差引利益金は一割一分四厘強の二萬圓
減益となりしが、諸償却及び税金引當支出前
の實利益は二十二萬四千圓、拂込資本金に對
し、二割の利益率に相當し、普通配當一割の
特配二分据置には何等不安なく、且つ利益處
分は責任準備積立金以下の諸積立金は同率踏
襲乍らも、特配を撤廢せし爲社外分配の配當
資金二萬圓減へ支出に於て落せし資産償却、
及び税金引當が一萬七千圓膨脹せし故に、社
内保留は十一萬一千圓、この割合五割に相當
し、前期より八分餘の向上となる等、實に堂
々たる堅實決算を了せり。因に當社の首脳部
は左の如し。

日滿アルミニウム株式會社
國防の近代化は各國政府の合言葉となり、
陸海軍裝備の機械化には各國何れも營々とし
て盡瘁しつゝあるが、これがために航空機、
自動車、器材として重要性を有するアルミニ
ウム事業は、多大の重要意義を帯びるに至り
殊にアルミニウムは、眞鍮、鋼鐵以上の性能
を有する所より、銅、鉛、眞鍮の代用品と
して、その需要まことに廣汎たり。本邦アル

ミニウム工業界に錫々を以つて稱せられる
當社は、昭和八年十月の創立にして、相次
いで増資拂込徴收行はれて、現時資本金二千
萬圓（拂込一千二百五十萬圓）となれり。こ
れに依りて生産設備の擴張、運轉資金の充實
行はれ、多大の躍進を見るに至れり。當社の
工場は富山縣東岩瀬に在りて、既に第一期計
畫年産五千尾設備は完成、次で第二期計畫七
千尾に着手したりしが、尙ほ能力不足する所
より更に大擴張を行ふことに決せり。即ち、
東北興業と提携して、資本金一千萬圓の東北
アルミニウム會社を設立し、大量生産を行ふ
こととなれり。新工場は福島縣郡山に建設せ
られ、十三年末に竣工の豫定にして年産三千
尾の能力を有する見込なり。これと共に富山
工場設備の擴張を行ひ、電爐工場、電極成
型工場其の他の附屬設備を増設せり。尙ほ當
社には滿洲輕金屬製造、富山電氣ビルヂング
等の投資會社あり。創業以來飛躍的に業績は
向上して、昭和十二年下期に於ける總收入四
百九十三萬九千圓、總支出三百七十一萬七千
圓となり、差引當期利益金一百二十二萬二千
圓に達し、前期に比し四十二萬圓、前々期に
比して七十八萬三千圓と各著増を見たり。株
主配當八分を附せり。時局關係よりして需要
は今後一段と増進し、市價又騰勢にあるを以
て、今後の業績大いに期待すべきものあり。

重役には取締役會長古田忠徳、取締役林好
文、同小畑巖三郎、同神戸徳太郎、同多田耕
象、同八巻彌一、同杉宣陳、常勤監査役深水
貞吉、監査役齋藤藤一、同諸氏あり。

取締役會長 古田 忠徳 温恭にして氣格
俊邁、其俊秀萬敏の頭腦は業界に多大の敬重
を集むる所となれり。明治十三年三月山梨縣
に生る。同四十年東京帝大法科政治科を卒業
して直ちに大藏省に入る。累進して門司稅關
長、大藏事務官、警務管財局書記官、神戸稅
關長等に歴任して、後官を辭す。曩に神戸商
工會議所特別議員、東洋モスリン取締役等に
推され、財界場裡を馳驅して、多大の信望を
博せり。新興事業アルミニウム工業界に進出
して、近時大いに頭角を現し、新界屈指の俊
髦と稱せらる。

(所在地 東京市麹町區内幸町大阪ビル)

日本醫療電氣株式會社
學術その他の文化百般を歐米諸國より輸入
し來りし我國も、何時までも歐米諸國の後塵
を拜することをせず、今や我國獨創の新境地
を開拓し、學術日本の進展はまことに顯然た
るものあり。特に本邦醫界の進歩は著しくし

て全世界の體目せる所なるが、之と共に各種
醫療機械の優秀なるは歐米製品を凌ぐものあ
りて、その聲價近時大いに高まるに至れり。
各種醫療電氣機械器具を製作し、夙に斯界に
名聲を博せるが、日本醫療電氣株式會社にし
て、その創立は昭和五年十月に拘はる。創業
以來製品の改良に鋭意研鑽し、又優秀なる新
製品の發賣をなし、多大の好評を得て需要日
を逐ひて著増し、社業年と共に發展して斯業
に牢固たる信望を得るに至れり。當社の主た
る製品はX線發生裝置並に附屬品、X線管球
物療裝置、太陽燈赤外線燈、その他一般醫療
電氣器及計量器等なり。何れもその製品精巧
にして幾多の特徴を具備し、臨床上に於て多
大の效驗を發揮して、醫界の絶讃を博する所
となれり。當社は尙ほ現狀に甘んずることな
く資金を惜しまず研究費に投じ、苦心研鑽し
て製品の改善と、新製品の創業に淬勵しつゝ
あるを以て、今後益々優秀品の製作をなして
斯界に多大の貢獻をなすことならん。當社は
本社を東京に設け、營業所を大阪、名古屋、
福岡、札幌、京城、臺北、大連の各地に置き
營業網を全國に張り、需要の増大に依りて
毎期非常なる好成绩を挙げ、業礎愈々鞏固を
加へつゝあり。

社長 奥村龜太郎 氏は頭腦敏密にして

學利明敏、學殖又頗る淵博たり。明治七年三月、滋賀縣の人奥村益藤翁の長男として生れ、總業を了ふると共に東京高等工業學校電氣化學科に學び、三十二年同校を卒業す。直ちに古河鑛所に入り、累進して日光電氣精銅所々長となり、更に日本電線製造、大日本電球重役に推され、後當社に入りて社長となる。拮据剋勉して經營に盡瘁し、技術の研鑽、新式設備の採用に力を盡して、當社の發展に多大の貢獻あり。眞摯熱誠の人にして、擁護力に富み、部下に對しては温情を以て臨み、従業員又氏を見ること慈父の如し。人格清純潔白にして謙讓、財界に多大の信望を博せり。

(所在地 東京市京橋區銀座西五丁目)

名 望 家

野 中 萬 太 郎

武人に、政治家に幾多の才傑を輩出したる豪華縣佐賀に古來三百年の昔より連綿十一代名業島岸ありは餘りにも有名なり。其販路は全國津々浦々を風靡し、朝鮮、滿洲まで飛躍的進出をなしつゝあり、年額數十萬圓の販賣収益を示し佐賀の持つ名業種商と云ふべきなり。而して其三百年の歴史を藉くに舊佐賀藩主鍋島治茂公は夙に殖産興業を圖り、藩内に産業を奨励すると共に他藩産物の移入を

禁止、當時諸國に行商したりし越中富山の丸散商人の如きも凡て藩内に入るを禁じ(天明三年)以て他藩密偵の潜入を防ぎたり。而して御施藥方に命じて、丸散製造を行はしめたるが、今を去る三百年前即ち寛政八年三月藥屋野中源兵衛五代の孫忠兵衛をして御施藥方巨醫の處方に成れる名業島岸圓を製造せしめ一手調査弘の特權を興ふると共に、忠兵衛を士籍に列し藩内丸散座頭に任じたり。爾來



野 中 萬 太 郎 氏

代々島岸圓製造販賣其の他業種商を業とし以て今日に至るなり。第七代元右衛門は慶應二年藩主鍋島直正公の命により、佐野常民伯等と共に佛國巴黎萬國博覽會に出張し彼地に客死せり。

現戸主野中萬太郎氏は源兵衛十一代の令孫にて、氏は明治廿二年十二月二十八日に生れ四十二年縣立佐賀中學を卒業し、大正二年長崎醫學專門學校藥學科を卒業、同七年陸軍

二等藥劑官に任ぜられ、正八位に叙せらる。昭和四年二月佐賀商工會議所常議員に推され同八年再選せらる。同十年六月同議員辭任、同十二年二月、更に二選し、同十二年二月、會頭に選任され多額納稅者たり。斯くて氏は佐賀市に於ける財界の元勳的存在となれり。氏は勤勉にして人格清廉、その抱懐する力量の偉大さは氏の事業の躍進と佐賀市商工界の隆盛を見るも明かなり。氏は常に一業主義の下に立脚、他の如何なる事業にも染着せず、ひたすら祖先の事業を繼承して、全智全能を集中せり。蓋し堅實實業家の規範と云ふべきなり。今や商工會議所會頭として、その非凡の識見と才腕は從横に驅馳し、その力量の成果は着々として同市發展に貢獻するところあり、全市民の信望を一身に集めつゝあり。尊神の念厚く、常に世上の推移を洞察、氏の今日あるは衆生の恩恵に依るものなりとの信望を以て、凡ゆる社會公共事業の助成に盡力せり。資性剛毅にして私心なく、正義たりと信すれば萬難極核を踏みて我往かんの氣魄あり又一面仁俠に富みて、その肉親たる他人たるを問はず、温情を垂れしは幾度ぞ。氏の人格、識見を通じ、市繁榮に寄與するところ大なるものあり乞ふ。益々自重加餐せられ、邦家の爲獻替せられんことを。

(住所 佐賀市 材木町)

事 業 家

太 田 丑 之 助

京都市千本通二條驛前に堂々たる店舖と、倉庫を有する石炭商合名會社太田商會は、太田丑之助氏の經營するところにして、新業界の老舗として知られたるが、其扱品は主として九州安川系統の明治礦業株式會社及び山口縣沖ノ山石炭等にして頗る信用あり。同商會が年と共に其業礎を固くし、現今市内に於て五指の班に列するの勢力を維持するに至るは決して一朝一夕の故に非ずして、實に堅忍不拔の精神の極化とも謂ふべき、氏の辛苦奮闘の結果に他ならざるなり。氏は明治二十二年近江の農家に呱呱の聲を擧げ、九歳にして親戚に當る太田家の養嗣子となる。當時養家は薪炭類の小賣を營みたるが、家計頗る困難加ふるに養父が病臥の人となり、幾何もなくして廢業の己むなきに至りたるため、氏は郷閭の薪炭商に年期奉公の身と爲り拮据十年、其誠實にして表裏なき言動は能く主家を感動せしめ、顧客の間にも稱嘆され、店主の良佐として信認淺からざりしが好事魔多く不幸にして店主の急逝に遭ひ、再び難境に立つるに至れり。語に曰く「歳寒くして松柏の凋むに後るゝを知る」と。人の眞價は轉刺落托、秋

霜朝風の境地に身を處するの時に於て最も遺憾無く發露するを常とす。天稟濃情篤實なるも氏は主家の情誼に報ゆるは此時なりと、遺孤を擁して毅然として起ち、爾後三年間身を忘れて一意獻替、能く類調を既倒に廻し得て主家をして其堵に安んぜしめ、自らも聊か意を安んずるところあり。爰に於て主家より興へられたる五十金を資として始めて獨立し、多年の經驗を基礎として薪炭商を營み、當初は業況極めて微々たるものにして所謂錫蠟一枝の經營に心肝を砕きたるが、世運の進展に徴し、石炭消費量の年々増大するの傾向に鑑みて石炭に主力を注ぐに至り、積勳數年、蛋くも新業界に頭角を形はし、同業組合の役員に列する事十數年の久しきに及び、聲望年と共に隆々、昭和十一年副組合長に推舉せられ今日に至る。氏こそは眞に立志傳中の士と謂ふべし。

(住所 京都市千本通二條驛前上ル)

事 業 家

伊 藤 德 太 郎

時局景氣の躍進により、我國事業界は全面的に茂盛を極め、中京財界に於ても亦これに好影響を受けて頗る活況を呈せり。伊藤德太郎氏は名古屋市中に於て機械製作並に各種工業

品販賣事業を營み、近時甚だ有針に入れり。氏は若くして俊敏、思慮深くして意志堅確なり。將來成功せんとするには事業に如くはなしとし、十五歳の時名古屋市中に出で、鐵砲町の岡谷商店へ店員として入る。克苦砥礪して謹直に勤め、眞摯その職に精勵す。而も頗る研究心に富み、その商品に關しては先輩の談話を耳に留め、或は不審の點は之を問訊する等大いに商品に關する知識の攝取に努む。この熱心なる努力に依り、瞬く間に商品に關して豊富なる知識を有するに至り、同店に於て儕輩を抜いて重用されることゝなれり。氏は聊かも驕らず高ぶらず、飽くまで謙虛に身を處し、殷勤鄭重を旨となす。昭和五年に至り意を決して獨立をなし、自己の運命を開拓すべく、名古屋市中熱田區東町横田に機械製作並に工業品販賣業を開始し業界に打つて出づ。夙起晩寢専心業務の發展に邁進し、販路の擴張に専念せり。氏の努力の効果空しからず、日進月歩の勢を以て隆盛に赴けり。近時軍需工業の活況に依り、各方面との取引繁忙を極め、自ら第一線に立ちて活躍す。元氣旺盛にして比類なき活動家なり。使用人十數名を引具して華々しき活躍をなせり。資質溫醇實實品行端正。身を持することまことに固し。頭腦犀利敏俊、頗る商才ありて、その活躍水際立ちて鮮かなるものあり。磊落落小事に拘

泥せず、寛宏にして頗る温情の士にして人格才腕まことに衆に秀ぐれ、信望甚だ厚し。氏は愛知縣知多郡横須賀町伊藤永太郎氏の長男として、明治三十七年三月を以て生る。年齒漸く三十五歳の青年實業家にして、その前途實に洋々たるものあり。趣味としては讀書並にスポーツ等ありて、殊に讀書は多方面に亘れり。文字夫人は愛知縣人安藤嘉三郎氏の長女にして明治四十一年に生る。伉儷睦まじく近隣に羨望さる。長男孝輔君、長女桂子嬢、二女俊子嬢の三子あり。

(住所) 名古屋市熱田區東町横田六九

富士瓦斯紡績株式會社

往年、東に鐘紡、西に富士紡と呼ばれ、統帥者共に因縁の妙機に經緯ある三田豊出身の逸材、片や武藤、片や和田の兩雄の對陣は、蓋し一世の偉觀たる値充分。鐘紡の馳驅する所、必らず富士紡在りと稱せられし程有名なりしは、天下周知するところ。烏鬼勿々、兩雄今や亡し。新興覇者出で、往年の對抗意識稍々失すと雖も、依然として元老の風格を誇示し、三菱財閥を背に千秋の業礎を確保し、長期好成績を持續し、隆々業界を壓する獨自の進展は蓋し偉と稱すべし。由來當社は過ぐる

明治二十九年三月、資本金百萬圓にて設立し次で百五十萬圓に増資、更に同年五月絹絲紡績業併業の爲二百萬圓に増資、同三十六年七月小名木川綿布を吸収合併して、資本金二百萬圓と爲し、同年八月更に日本絹絲紡績を買収し、同三十九年四月、五百萬圓に増資、同年九月東京瓦斯紡績を合併増資して資本金を八百萬圓とし、大正三年三月に至りて相模水電力電氣を合併増資して一千八百萬圓となり、同九年六月一躍三千八百萬圓の大會社となり、同年十二月引續き中華紡績を合併増資して四千百萬圓となし、同十一年二月大分紡績、日華絹絲紡績、東洋絹糸紡績の三社を併合四千四百三十萬圓に増資、更に同十二年四月金華紡績を合併四千五百二十萬圓に、同十四年三月月協同紡績を合併、四千五十萬圓に更に増資を行ひ現に資本金五千萬圓(内拂込三千七百三十七萬五千圓)を擁し、傍ら富士電力、滿洲紡績、富士纖維工業各會社を其傘下に措きて七百萬圓の巨費を投ずる等その躍進に刮目に値すべし。

昭和十二年下期の我綿業界は、支那事變の勃發、戰時體制に依る統制の強化等、空前の試練時代を迎へ、業績低下を豫想されしも各社の業績は比較的好調に了せり。我が富士瓦斯紡績も亦左述の如く好成績を挙げたり。即ち當期の利益金は三百三十六萬圓、利益率一

割八分に相當し、前期に比して殆んど變化なき成績なり。固定資産に對する償却金は前期同様百萬圓を計上し、當期末の固定資産は五千二百七十七萬圓なれば二十六年償却にして斯業界の償却としては聊か少額と思料するも、經費勘定にて切落せし金額も僅少でなく保留利益は相當多額に及びたれば、不安なき償却と見るべし。即ち當期の社内保留金は百六十三萬圓を計上し、之を償却金と見做せば十六ヶ年々賦となる。而も内面に潜める利益は二百五十萬圓程度に及びたれば、増配は裕に可能なりしを時局柄前途に備へて八分配當に自重せるものなり。

而して十三年上期の生産高豫想は曩に一應許可されし原棉輸入高は再削減を加へらるべく、一面青島工場は再削減を加へらるべく、一面青島工場の操業復活は當分覺束なき模様なれば、生産高は減少を餘儀なくすべく當期の生産高は内地工場七萬八千噸、青島工場七千噸合計八萬五千噸、外に織布四千百萬碼なり。十三年上期の綿糸生産高は六萬三千噸と見らる。但し人織を強制的に一割五分混紡する豫定故實際の生産高は六萬六千噸とならん。而して之に對する利益は現在利益採算極めて良好なれば自今も品不足の關係上、最高價格に近き値段にて賣約可能ならん。原棉統制税を差引き一噸當り四十圓の利益を期待され、生産高六萬六千噸に對し二百九十萬

圓の利益なり。綿布益五十萬圓、絹絲益二十萬圓、收入利息並に配當金を加算して、彼之四百萬圓に達するものと思惟す。拂込資本金三千七百三十七萬五千圓に對し、利益率二割二分に相當す。前期に比し幾分の成績低下は免れざるも八分配當踏襲に何等の不安なく依然餘裕含みなり。尙近き將來の業界豫測は輕々樂觀は許さざるも、支那事變解決の後の業界に想倒せば再び活躍時代を迎へるものと謂ふべく、從而當社も既に北支進出の計畫も進行し居れば、逐次躍進の一途を進むべく豫斷さる。

尙子會社たる富士纖維、滿洲紡績、富士電力各社の業績頗る順調にして、特に滿洲紡績は滿洲國保護下に在りて異常なる好成績を示し、その設備は紡織六萬五千錠、織機一千臺と經濟單位を擴大され、一割配當を行ひ居れるが、一割二分程度の増配も近きにあり。富士纖維亦人絹五錠、人織八錠の操業なるが、人織は十五錠程度に擴張の豫定と聞く。最近人織は棉花代用として政府より強制的に綿絲毛絲に混紡する事になり、紡績及び毛絲會社よりの需要殺到し居れば、市價も四十五圓臺より最近は七十圓揃み迄暴騰し、不計好成績を豫想されつゝあり。尙親會社の紡績擴張計畫は資金統制法により一部變更の餘儀なきに至りしが、鷺津第二工場増設工事は昨年八月

より工事に着手し、完成期は本年九月末となるが、精紡機五萬五千錠の増設にして、同工場完成後は更に一偉力を加ふることとなり、今後當社の業績に大なる寄與を爲すべく各方面より重視せられつゝあり。

因に當社重役並に首腦諸氏左の如し。
取締役會長日比谷平左衛門 專務取締役鹿村美久 常務取締役木内直 同戸坂隆吉 取締役森村市左衛門 同川崎榮助 同兼營業部長友田久雄 同阿部孝平 監査役橋本琢之助 同津田五郎 同三宅川保一 同登山武市郎 經營業部長長澤田退藏 總務部安川豊三郎 經理部長伊倉肇 總務部長長谷川良吉 庶務課長河内久彦 用度課長大月龜吉 綿原料課長仲友樹 綿原料課長片平與惣次 綿絲布課長綾貞之助 綿絲布課長宿本繪治郎 綿作業課長久次米英二 綿保全課長守安之 綿作業課長植田八郎 企畫課長酒井敏夫 秘書課長古門富太 技術課長水品潔 勞務課長赤塚勝次 調査課長川口佐市 大阪出張所長岡田文雄 名古屋出張所長村上元直 小山工場長指原亨 保土ヶ谷工場長山田榮一 川崎工場長小原源治 桐生工場長矢高實 本庄工場長村上以徳 平塚工場長國米英作 鷺津工場長河合誠一 豊橋工場長坂上恒次郎 名古屋工場長山田平彌 岐阜工場長福田榮吉 中津工場長村上庸雄 大分工場長井上五五郎 安東工

場長三浦重雄 青島支配人中西善一 青島工場長高田隆松

專務取締役 鹿村美久 その博學多識と篤實なる人格とは、夙に財界の巨頭故和田豊治氏の姻縁に適ふと共にその衣鉢を享けて富士瓦斯紡績の今日在らしめたる大恩人たり。氏は愛媛縣土族鹿村眞吉翁の三男。明治十七年五月同縣に誕生、大正四年分家一家を創む。長じて東京高商に笈を負ひ明治三十八年之を卒業す。歐米に留學すること三年、歸朝後富士瓦斯紡績に入社せしが、其知行一致の躬行と、超凡の逸材とは能く重役間に寵愛せられ、倚重を蒙りて昇進を重ね、川崎工場長、取締役を経て、昭和五年專務取締役に推舉さる。其間幾多の難關に遭遇せしも始終粉骨碎身、縱横の才腕を發揮して遂に今日富士瓦斯紡績をして、泰山の安きに措かしめたる大功勞者なり。因に氏は傍ら富士電力監査役、滿洲紡績社長、富士纖維工業取締役たり。
(所在地) 東京市日本橋區本町二丁目

吳羽紡績株式會社

工場設備之れ悉く新鋭を誇り、生産能率斷然他社を壓倒し、以て低生産費の實績を昂揚

し、近來我が紡織界に驚異的成績を挙げ、躍進振り最も顯著なり。而も尙其經營は工業的精緻に加ふるに商業的機具を配するの觀ありて、今や資本金大増資の氣運濃厚の反面、昭和入籍、濱名紡績、市居染工場、日本織維工業各社を統率せる、意氣軒昂たる新進氣鋭會社たり。

當社は昭和四年七月、綿業界の大立物にして現社長伊藤忠兵衛氏主唱の下に、綿紡績、晒加工、入籍、人織の生産を目的として、資本金一千萬圓を以て設立し、同九年三月富山紡績を併合し、現に資本金二千萬圓を擁せり。其事業規模は福野、吳羽、大門、井波、入善、庄川の諸工場を有し、其設備能力は綿紡績四十九萬六千四十錠、織機四千三百九十八臺、捻糸機一萬三千二百錠にして、棉花消費量一ヶ年六千六百餘萬貫、加工月産三十萬反を計上し、如上の設備費は綿紡換算一圓當三十二圓餘は、同業他大会社に對して低廉而も各工場の設備の完全と俱に、織機悉く新銳にして面目躍如たるものあり。而して十二年上期の生産高は、綿糸六萬六千四百八十四捆、綿布四千三百七十八萬五千碼、加工品一千二百五十八萬五千碼を計上せり。尙當社製品は輸出商系に屬し居れり。

當社近年の成績は左掲の如く、毎期二割一四割臺の利益率を擧げ恒例配當一割二分は餘

裕裡に行はれ居れるが、斯かる拔群の業績は綿布の採算頗る有利にして、且つ綿糸市況好轉の上、前叙各仔會社何れも収益期に達せる結果なり。

決算期	利益率	配當率
十一年十一月	三割一四	一割二分
十二年五月	四割七八	同
十二年十一月	三割五二	同

斯の如き高利益率を緩和する爲に、當社は資本膨脹策を講ずる必要に迫られつゝあり。その理由は單に高利益率の調節の意味のみに非ずして、一面大規模なる擴張に着手し、其方面に相當巨額の資金を必要とすればなり。即ち天津工場、入善第二工場、豊科(長野縣所在)人織紡績工場の建設等にして、増設機は綿紡績八萬九千六百錠、捻糸機四萬七千五百二十錠なり。而してこの全面的擴張建設の成の曉は、一大偉力を發揮するものと各方面より囁目せられつゝあり。

因に現重役は左の如し。
取締役社長 伊藤忠兵衛 專務取締役 井上富三 取締役 泉岡市 同 豊田利三郎 同 高橋保三 同 山田昌作 同 松岡潤吉 同 小島逸平 同 岸本吉左衛門 監査役 伊藤竹之助 同 早瀬太郎 三郎 同 大林義雄 同 田中榮八郎

取締役社長 伊藤忠兵衛 我國綿業界の巨

日本ステンレス株式會社

濱名紡績、三光紡績各取締役、東京灣汽船、日本絹織、丸紅商店各監査役に就任し、日本綿業俱樂部理事に推觀される。
(所在地 大阪市東區安土町二ノ五二)

日本ステンレス株式會社は昭和九年四月、ステンレス鋼其他各種鋼類の製造加工賣買を目的として創設され、同十二年四月東洋鋼管株式會社を合併資本金五百三十五萬圓を擁せしが、更に今回尙大なる擴張計畫の實施取行の爲、一舉五倍増資を敢行し、資本金實に二千五百三十五萬圓と爲すに決定せり。而して當社は操業以來未だ日淺きに不拘、直江津、大阪兩工場は既に整備完成す。而して製品の需要増加は頗る顯著にして漸次ニツケル、眞鍮の分野に進出し其前途の躍進を約東附けられ、殊に獨特の板軟ステンレス鋼製品は逐次厚板、薄板、ワイヤーロッド、丸棒、鑄物及びパイプ等各種の形態を以て諸方面の利用旺盛となるに至り、一般工業者の認識も深まり西洋食器の如き輸出品、鍋、洗面器の如き家庭用品として加工せらるゝのみならず、各種機械の部分品として或は銅、砲金、眞鍮、アルミニウム、ニツケル等の代用品として利

用せられ、當社所期の目的は着々達成せられ殊に海軍省關係に於ける吳工廠其他より試験購買を命ぜられたるが如きは特筆すべく、我が國刻下の非常時に際し各種金屬、特殊鋼の輸入制限の聲騒然たる際、當社は益々工場設備の進展を圖り、之れが輸入防遏に努力しつゝあるは欣快とするところなり。

而して當社は今回資本金五百三十五萬圓を五倍の二千五百三十五萬圓に増資を決定す。之れは勿論ステンレス製造能力大擴張を行ふ爲にして、換言せば事業の將來性に確信を把握せし結果にして、愈々大量生産を斷行するに決せしなり。新資金は直江津工場の擴張と新工場建設(中部地方に年産三萬噸能力工場に充當する爲めなり。當社の近き將來を見透すならば漸く眞鍮、鋼の代用品としてステンレスの眞價を認められたれば、今期は勿論順調、下期より資本負擔増大するも増産設備の活動に依り何等不安なく、一方生産増加と操作能力の向上に依りて低下する故に利益は自ら増大し、年八分配當は可能ならん。

因に重役には、取締役社長 今井五介 專務取締役 瀨黒幸市 同 國友末藏 常務取締役 樋口喜六 取締役 高島順作 同 今井彌八 同 林純之助 監査役 武田徳三郎 同 山本彦太郎 相談役 大田黒重五郎 同 増田義一の諸氏にして輝々たる布陣なり。

頭にして、斯業發展の爲寄與貢獻すること多大。氏は滋賀縣人先代伊藤忠兵衛翁の長男にして、明治十九年六月に出生。同三十六年家督を相續すると共に前名精一を改め襲名す。

周知の如く先代忠兵衛翁は、明治の初葉、凌雲の志を抱きて近江より出で、大阪に本據を定め、丸紅の屋號を以て吳服商を創始す。資性英邁にして豪膽、而も機略縱橫。商戰場裡に惡戰苦闘幾春秋、逐次異情の店績を擧げて貨殖に成功す。大正七年十二月、當主忠兵衛氏時運に鑑みて更に一段の飛躍に資すべく、業務の機構を刷新すべく伊藤忠商事株式會社を設立し目的を物品販賣業、問屋業、代理業運送業及び事業投資、有價證券所有と爲す。踵で大正十年三月に追んで資業たる吳服太物洋反物卸商を株式會社丸紅商店と組織を變更す。爾來兩社股輪の業績を擧げて以て今日に至れり。氏能く先考の血を享けて、天分俊英にして義氣漲溢の質たり。曩に、恩賜財團濟生會へ一萬圓、大阪醫科大學へ一萬圓の基金、神戸商科大學へ學生海外視察補助金として一萬圓を寄進したる外、美譽善行枚舉に遑なく、大正八年九月紺綬章を賜はり、更に昭和二年十一月、同飾版二個を下賜さる。昭和八年八月日英印度シムラ會商に派遣されたり。現時當社々長の外伊藤忠商事、天津紡績公司各社長、綾羽クワンタ會長、昭和入籍、

專務取締役 瀨黒 幸市 由來瀨黒家は信州筑摩地方に於ける舊家にして、氏は瀨黒庄平翁の長子として、明治五年六月同縣東筑摩郡壽村に出生す。天分濃厚篤實、素志確實、長するに及んで策を帝都に負ひ東京專門學校に學ぶ。後ち事業界に身を投じ、漸次頭角を顯はし現に當社專務取締役の外、中央電氣工業、志久見川電力各專務取締役、中央電力、保倉川電氣各常務取締役、魚沼水力電氣取締役、帝國蠶絲監査役等に推觀され、長野縣に於ける異數の存在たり。

專務取締役 國友 末藏 京都府國友藤九郎氏の四男、明治十四年十一月出生。京都帝大工科電氣工學科出身の技術家にして學殖豊かにして努力家、瀨黒氏と共に當社隆興に眞摯格勵し、功績少からず。現に中央電氣工業魚沼水力電氣各專務取締役たり。

常務取締役 樋口 喜六 我が織業界に令名を馳すること永年、その操履明快なり。天分氣格俊邁にして心性潔白、早出晩退以て當社常務の重任を全し、當社の發展に寄與すること多大。公平無私にして濫情に富み、部下より慈父の如くに悦服さるゝ士にして、傍ら山陽製鋼取締役たり。
(所在地 東京市京橋區京橋三ノ二)

三共株式會社大阪支店

世界有数の賣藥商屋街たる大阪道修町には、素より斯界幾多の巨店豪商櫛比し、豪華絢爛たる一大爭鬪を展開しつゝあるも、其間に處して堂々四脚を展し、其の業容の充實整備せる、或は發賣製藥品の効能卓越して而かも種類多大を極め業運の隆昌發展せること、正に驚異的存在を以て稱さるゝは、即ち三共株式會社大阪支店に他ならず。抑も同店本社は東京市日本橋區に所在し、巷間絶讃好評を博する稀有の卓品、彼の「タカチアスターゼ」或は本邦産物界に大貢獻をなし、舶來同種藥品を驅逐せるのみならず、却て海外市場に進出、以て各國需要界に絶讃を贏ち得し「國産サルチール酸」等を始め、其他數百種に亘る優秀藥品及び化粧品を製造發賣、更に理化學用諸材料、電氣絶緣材料等を製作し、亦た度量衡計器類の販賣並に關係事業投資等を營業課目に掲げて雄飛發展し、大正二年三月現社創立以來、常に業績顯著にして本邦製藥界の一大權威たり。而して東京、大阪、和歌山等に諸施設完備を誇る工場を設置し、多年の経験に加ふる不斷の研究を以て緻々優秀新製品を製出する他、大阪、臺北、大連、紐育、

其他に支店、出張所を設けて廣汎なる販賣網を整備、以て世界藥品市場に勢力を發揮し、國産製品の聲價を高揚しつゝあり。

當支店は即ち其の製造販賣網中の一機能にして、本社に次ぎて業態盛況を呈し、亦た其の諸設備の如きも、宏壯雄大にして生産能力多大なる製藥工場、或は店舗事務所、倉庫等完備し、現に事務員四十數名、倉庫係四十數名其他従業員百餘名に及ぶ多數を擁し、全員一致協力、生々發刺たる業勢を展示しつゝあり。斯くて名實共に當市斯界一方の雄たる當店は、最近専ら農業用藥品生産に努力を傾注、該品は即ち一般肥料、殊に農産物肥料として偉功を奏する最新化學肥料にして、其の殺菌的効力及び肥料的價値の絶大優秀なるは既に農村需要界の好評激讃を博し、信用難甚なるを以て實證さるゝ處たり。且つ該品製産設備として當初昭和十二年八月、和歌山縣下箕島町に農業藥品肥料工場を設置したるも、其後幾何もなく需要激増せる爲、更に舊長柄橋工場を増築、五千坪餘の大工場に擴張せしめ、所要諸設備の完備を圖ると共に、一大製産力を以て邁進、目下着々業績を挙げつゝあり。即ち業業王國三共の内容益々充實し、白熱的業勢の伸張と相俟ちて名實共に斯界に冠たる所以たり。尙ほ當社は日本ベータライト株式會社の事務一切を擔當し、當支店長荻野

虎一氏其の所長の樞樞に在り。

支店長 荻野 虎一 氏は明治二十九年一月一日の出生。夙に藥業界に曠足を伸さんと青雲の志を抱きて、愛知藥學校に入りて研究精進し、優秀拔群の成績を保持せし名藥劑士たり。而して同校卒業後大正三年を以て本社に入社し、以來臺灣、仙臺各出張所に勤務して敏腕卓才を發揮すること幾星霜、其の人物手腕の非凡超脫なるを認められ、昇進又昇進遂に昭和十一年現職に就任せり。資性敦厚調達にして溢るゝが如き人情味を有し、而かも胸底に燃ゆる稜々たる任侠の義氣は、正義を往くに水火も辭せざる烈々の氣魄を藏し、且つ慈父的態度を以て従業員に臨む處、尊敬追慕を受くること絶大なり。今や識見手腕愈々圓熟し、信用益々高大を來たし、宛然當社の至寶的存在たると共に、向後の飛躍發展期して待つ可きものあり。蓋し斯界稀に見る偉材と稱すべきか。因みに讀書、旅行に趣味を有し、當市北區東野田町七丁目十番地に自宅在りて富子夫人との間に、長男欣也君（昭和十一年生）二男卓也君（同十二年生）を挙げ、家庭頗る幸福圓滿なり。

支店長秘書兼庶務課長 三宅孝三郎 荻野支店長を輔佐して克く大任を完うする傍ら、當

店庶務課長の要職を擔ふ氏は、明治三十五年生れの新進有爲の逸材、夙に明治大學商科に學び、而かも同大學廣告研究部員として研鑽を累ね、近代商業廣告の眞髓を把握せる斯道の大家たり。資性明朗敦厚にして居常精勵格勤の譽れあり、上下の信認敬仰を受くること厚し。家庭には才色兼備の縫子夫人あり、其間長女裕子嬢（昭和九年生）、二女由起子嬢（昭和十三年生）を挙げ、琴瑟相和し近隣羨望の的たり。

（所在地 大阪市東區道修町一丁目）

大社教名古屋分院

當分院は名古屋市の内外に多數の信者ありて、平日と雖も善男善女の參拜者引きもきらざる有様なり。抑々當分院の沿革を尋ねるに大正六年六月、當時名古屋市外たりし八事山の音間山附近に地を卜して假嶺座す。江口理三郎、角田忠行、伊藤萬藏の諸氏發起人として大いに轉旋す。分院の建立成ると共に熱心布教に努めたるにより、教義次第に擴まり歸依者の數は日毎に増加を見るに至れり。これが爲めに建物は著しく狹隘を告ぐるに至りしにより、大正十年十月現在の地へ移轉せ

り、即ち、加藤三郎氏中心となり信徒一同を勸説して、東區花田町一丁目二十四番地より二十六番地に亘り敷地五百餘坪を選定し、淨財を募りて現在の神殿を建立す。その後當院の名愈々世間に喧傳せられるに伴ひ、信徒は益々増加す。現在名古屋分院長の職にあるは千家尊建師にして、學徳高く教義の宣布に力を盡し、信徒よりは多大の敬服を受け居れり。師は名古屋分院長たるの外大社教總監の要職に就き、尙ほ大阪分院長をも兼任す。近時教義の普及、信者の激増と共に神前に於て結婚式を営むもの増加するに至れり。分院創建當時一ヶ年を通じて百組餘りを數へたるが逐年激増して現今に於ては一ヶ年八百組を超えるもの景況なり。信仰の効驗には顯らかなるものあること近郷近在にまで傳はり、遠きを厭はずして神前に細づく者、踵を接するもの有様なり。

（所在地 名古屋市東區花田町一ノ二四）

東北中學校

義に於ては君臣情に於ては父子の如き之れ我國體の精華なりと謂はせられたる御聖諭を奉體し「我が學園教育の師弟關係亦本義に則り、人格を以て人格を陶冶涵養するを主體と

爲し、法を以て人格を指導開發するを客體と爲し、深遠なる理性の開發、高尚なる情操を涵養して國體精神を體得せしめ、日本民族として將た亦社會人として實生活を完成し得る中堅國民を教育す」の校是を以て創業以來實



小松島より望む東北中學校と校長風十五

に四十有餘年、終始一貫實踐躬行し我が教育界に輝かしき歴史と存在を謳はる南光學園東北中學校及び東北商業學校は、仙臺市の風致區域地帯なる原町小田原南光澤の靜雅景勝の松林の中に介在する參萬餘坪の廣潤なる學園にして、一歩出で、校庭の境界に上らば仙臺

市郊外の光景一望の下に鐘まり、近くは蔵王山景々横雲の展望を志し、遠くは金華靈峯を眺めて太平洋の碧雲を仰ぐ理想的環境地帯にして、修養學業の研磨、身體の鍛錬等あらゆる自然的基礎條件を備へたる地域に在り、中學及商業教育機關として、其の光輝ある歴史と幾多有爲の人材を世に送り、國家に貢獻したる事績は世の等しく認むるところなり。

校長 五十嵐豊吉 山形縣五十嵐仙右衛門翁の長男として明治五年十一月十二日、同縣飽海郡酒田町に生れ酒田中學の出身なり。夙に教育事業の重大なるを痛感して、明治二十七年九月、同志と共に東北中學を創立して今日に至る。今や我が中等教育機關として其の校風の崇嚴と設備の完全を以て知られたる南光學園の育ての親として格勳精勵一面學園經營の難局に處して理想信念の實現に終始し一面教壇の第一線に立ちて青年の指導開發に精進して、學園永久の教育殿堂の完成に努力すること四十有餘年、實に我が國教育史上特筆すべき偉大なる功勞者と謂ふべきなり。其の人格の清高、恬淡たること論を俟たず。今日氏の訓育を受けたる知名士は實業界に、官界に、軍部に其の數を知らず、大正十三年勳六等に叙せられ、瑞寶章を下賜せる外、翌十四年、攝政として陸軍特別大演習御統監遊ば

されし。今上陛下より特別の御恩召を以て教育功勞者として大木營に召され、單獨拜謁の光榮に浴せり。仙臺市會議員一期、現に南光學園、東北中學、東北商業の校長として益々健在、國民教育の爲専心せられつゝあり。
(所在地 仙臺市原町小田原南光澤)

圓山食堂主 大路種一

祇園の舞子、花の古都、詩の都、京都は古來悠久の歴史と共に遊覽客の往來、四季を通じてその數を知らず、幾多の名所古蹟は遠く海外まで知られたる。この名所、名物の地京都に在りて圓山食堂の存在こそ實に味覺京都の名物中の名物と云ふべきなり。夜櫻の公園圓山は園内八坂神社祭りと共に全國遊覽客の絶間なくこれと共に名物圓山食堂あるは全國を通じてあまりにも有名なり。同店自慢の湯・どうふ又遠く東京、阪神方面より客を招き、京美人の明朗サービスに舌鼓打つ名料理は深夜に及ぶも客去らずの觀を呈し、今日京都唯一の大食堂として名實共に京都の代表的存在となれり。これ實に經營者大路種一氏の克苦奮勵よく世情に通じ、大衆心理の動向に着眼大衆の食堂たるの充實に努力したる賜と云ふべきなり。今や日本の圓山食堂として堂々京

都名物の一となせし店主大路氏こそ、斯界成功者の一人と云ふべく、年中無休の大看板は一日無慮數千の客を見る盛況は、實に隆々たるものあり。氏は幼にして父に死別し母手一つに育ちたる爲、その勞苦も又一入なりき。十三才の時京都二條寺町の菓子店に奉公し將來菓子職人として身を立てんと志したるが、その清廉潔白なる心情と、ひた押しに働く努力振りは遂に店主の認むるところとなり、喫茶部開設と共にその主任となりたり。時氏の二十六才の交なりき。こゝに於て氏は大衆向營業の當を得たるを悟り、店主の了解を得、多年貯積せる貯金を以て資本となし、圓山公園八坂神社横手に、しるこ、おはぎの小店を出したるが、氏の今日あらしめたる礎となりたるなり。この小店こそ大衆遊客の食指をキヤツチしたるものと云ふべく、日一日と繁榮に繁榮を重ね、客の求めに應じ、ビール、サイダーと着々と店舗を擴張、遂に今日の如く大食堂となし名物となりたるなり。これ實に氏の辛勞努力の酬ひられたるものと云ふべく又しるこ屋閉店と共に娶りたる愛子夫人の内助の功も大に與りたるものと云ふべし。氏は又非常に孝養の念厚く、老母に對する孝行は良妻愛子夫人と共に四隣の知るところにして多大に推重せらる。
(住所 京都市圓山公園内)

新潟瓦斯株式會社

信濃川河口に燦爛たる近代文化を誇り、近來日本海時代の提唱と共に、市勢の伸張發達寔に目醒しき新潟市は、單に新潟縣首都と謂はんより、寧ろ裏日本唯一の雄都と稱すべく將又我が國屈指の重要商港と云ふ可きなり。されば各種産業の勃興飛躍著しく、人口亦た増加の一途を辿りて、光輝燦たる將來性に恵まれ居れり。我が新潟瓦斯株式會社は、實に當市瓦斯事業を獨占し、既に業績顯著なりと雖も、更に其の文化の進展、人口の増加に伴ひ、將來の一大發展を豫約されし地方瓦斯會社中の代表會社たり。

抑も當社は明治四十三年の創業に係はり、爾來瓦斯製造供給並に副産物製造販賣を營業課目に掲げて着々業務を固め、而かも斯業の公益事業たる性質に鑑み、單なる營利本位に墮せずして、只管公利民福を旨に拮据經營する處、其の堅實なる營業方針と、舉社一致協力の精勵精進とは相俟ち、業績の進展發達著しきものあり。殊に近來當市に於ける鐵道局の設置、或は新會社工場の設立に伴ふ產業界の發展、加ふるに人口増加等に依る一般市勢の膨脹躍進に隨伴し、需要漸増の傾向を辿る

や、社運の進展興隆顯著なる發展又發展、以て今日の盛況を呈するに至れり。而して副業たるコークス、コールタール等の製造販賣高も、亦た累年増加の趨勢を辿り、今や本業と相俟ちて業運益々隆昌、其の内容充實せること縣下斯業界の王座を占め、然かも獨占事業なりと雖も、銳意需要家の福利増進を圖りて遺憾なき處、正に當市生活文化の向上に寄與貢獻すること甚大なりと云ふべく、蓋し全市需要界に好評噴々たるも毫も偶然に非らざるべし。

現在資本金百五萬圓にして、其の繰込金七十七萬五千圓。亦た燈用蒸用等の引込家屋數五千二百戸を算し、製造能力は一晝夜八千五百立方米、且つ其の實際製造高は一期間百四十數萬立方米に達し居れり。因に昭和十二年度上半期營業成績を瞥見すれば、即ち瓦斯賣上高八萬二千餘圓、副産物賣上高四萬八千餘圓にして、雜收入と合算し、瓦斯總收入十四萬四千餘圓に上り、此内償却金一萬二千圓、其他諸支出を控除すれば、當期利益金三萬一千餘圓を計上し、其の株主配當率は七分なりき。次に當社重役陣容を形成せるは、社長小田友太郎、取締役兼支配人青木仁三郎、取締役石田良一、同山岸良雄、同敦井榮吉、監査役幸田慶三郎等の諸氏にして、何れも當縣實業界に名望隆々たる人材を擁せり。

取締役社長 小林友太郎 地方文化の啓沃と産業の發展は、該地方に於ける有力者の奮起に俟たざれば、到底圓滿なる發達を期し難し。

此點我が小林友太郎氏が、當地方屈指の舊門豪家として夙に先蹤的發動をなし、鵬翼を充分に張れる處、單に北日本實業界の重鎮として、名聲燦たるのみならず、亦た當縣文化の發展、産業の興隆に資して功績顯著なるは喋々の言を要せざる處なり。氏は元治元年八月十五日を以て、先代仁一郎翁長男に呱呱の聲を擧げ、明治四年父業を繼承以て石油精製業を營み、爾來努力奮闘到らざるなく、父祖傳來の家名を益々光彩陸離たらしめし一方、其の胸底に鬱勃たる事業慾を、天賦の巨腕卓才に托して縱横に發揮せしめ、夙に當縣實業界に雄飛活躍を擅にすること久し。即ち現に當社長以外、長岡合同運送取締役會長、栃尾鐵道、三條瓦斯、長岡天然瓦斯等の社長に就任、更に新發田瓦斯相談役、小林合名會社代表として勢威隆々たり。稟性寛厚篤實なるも反面剛毅不羈の精神に富み、而かも老來尙ほ嬰孺として壯者を凌ぐ氣概を有し、常に偉大なる足跡を残し居れる處、業界は素より、一般市民に絶大なる尊敬信頼を博し居れり。

取締役兼支配人 青木仁三郎 氏は岐阜縣人

青木幸次郎氏の二男、明治十八年五月九日を以て孤々の聲を發し、夙に青木ひな女の養子となれり。而して同四十五年慶大理財科を卒業するや、日本瓦斯會社に入りて實業界雄飛の第一歩を踏み、爾來非凡の識見手腕を遺憾なく發揮し、専心社務を執掌す處、着々地位昇進し、遂に同社高松出張所長に就任せり。其後大正三年當社に轉じ、同六年現職に推されたる後材の士。天性穩健實直にして人格亦た明朗高風、常に社務に精勵を怠らず、克く實際的經營の重責を完遂し居れる處、名實共に當社不可欠の柱石と稱すべく、更に餘力を三條瓦斯、鹽釜瓦斯、新發田瓦斯に揮ひ取締役を兼任、斯界に名を噴々たり。

(所在地 新潟市元下島町)

岡崎つる家

歐米人は親愛の情を示すに煙草を勧め、日本人、支那人はお茶を勧め、更に食卓を共にして、いよ／＼その親愛の度を深めるを慣とす。從而我が國には凡ゆる社交に料亭を利用せられ、料亭は又古く傳來の獨特料理と設備に非常なる苦心を拂はれるものなり。就中、京都には、古くより由緒ある一流料亭多く、何れ劣らぬ豪華なる設計に依る建築と、庭園

を有するもの多し。大谷光瑞氏の著書に「不肖は鯛の頭の山椒醬油焼を好む、つる家の特有料理なり、つる家主人は不肖の至るや當に之を調へり、極めて美味なり、恐らくは京阪人士にして不肖と感をもふする人は數千人を下らざるべし。凡そ魚中の美味は頭にあり、之に次ぐは腹部にあり……云々」とある如く京阪間には所謂食通の通ともいふべき人士多きなり、此處に紹介する、つる家は、彼の有名な東山三十六峯の翠幃を眉端に仰ぐ左京區東天王寺町に在り、既に全國的に有名にして而も京都つる家の誇りとする所は、當家の宏壯華麗な庭園にして、其の贅をこらしたる數十の座敷に、數萬金を投じて完成された大庭園に據られて、その雅致と共に獨特料理の味覺は、堂々京都隨一の稱をほしいままにし地元諸名士は勿論、連日入洛の知名の貴顯紳士の顔も見え、愈々その名聲と人氣を高めつゝあり。

當主は正に化粧されたる花崗石ならんか。當主は先代の長男にして幼にして嚴父の薫陶を享けたる少壯有爲の人材にして、先代そのまゝの氣魄と品格とを有し、其の秀でたる經營の商才は自己の主宰するや全面的に躍動し、店內組織を一變して獨創的設備に全力を傾注し、今や豪華典雅の宏大なる庭園と、獨特料理の醍醐味を天下に知らしめたる氏の非凡なる手腕こそ、京阪斯業界の霸王として君臨して自他共に許すところなり。

(所在地 京都市左京區東天王寺町)

株式 佐世保魚市場

九州西部海岸に面し魚介の豊富なる、其販賣高の巨額を以て名高き、佐世保魚市場は當初原口徳太郎氏の個人的經營下にありしが事業の合理化を達成せんが爲、此處に同市場を株式組織に改め、果然豫期の効果を収め社

礎大いに確立せられて業績頗る顯揚さるに至れり。

由來、我が國水産業中魚獲の技術は頗る幼稚なりしが、近來漸く之れが進歩をなすに至り、近時大いに斯業の勃興を見るに至れり。而して九州西部地方は國內有数の魚區にして



盛況を呈せる佐世保魚市場

魚介海産物の産出頗る旺盛なり。隨つて當魚市場の前途まことに洋々たるものあり。當社は、資本金二十二萬五千圓を以て、大正九年十二月に、原口徳太郎氏の個人經營を株式會社に改組したるものにして、爾來内容充實し

業績著しく揚り、昭和十年には、之れが大改革を成し、殊に軍港地たるの關係上特種考慮を加へ、市場館、事務所、市場倉庫、仲仕部屋、治療所に至る迄、衛生設備、採光換氣排水、淨化装置等の最新式設備を完備したる模範魚市場にして、仲買人亦多數を有し、今や一千三百餘人に上れり。販路又大いに擴大せられ、九州各縣は勿論、下關、廣島、岡山、岐阜、大阪、京都、東京各府縣其の他大連、朝鮮の遠隔の地にも及び、年販賣額二百五十萬餘圓に上り、業績は年々更に好轉を示現しつゝあり。斯くて當社は多大の隆盛をなし、内外共に絶大なる信認を博せるが當魚市場生みの親とも稱すべき當社現顧問原口徳太郎氏の功績亦没す可からざるものあり。即ち氏は佐世保市會議員として地方自治界に盡瘁するの傍ら、常に魚市場の公共的事業たるの所以を力説、之れが設備の改善に奔走の結果、遂に今日の整備されたる魚市場を實現するに至れり。曩に、氏は佐世保市會議長の要職に選出せられて市政に貢献する所多きは氏の清廉なる人格と共に衆庶の欽仰する所なり。

因に魚區は主として、南北松浦郡を中心にして、朝鮮、臺灣、壹岐對島、北海道に亘れり。(所在地 佐世保市三浦町新地先)

株式 芳澤鉛管製造所

本邦最大の耐酸硬鉛管に耐酸諸機械の製作會社として著名なる芳澤鉛管製造所は、近時愈々飛躍の一途を辿り、事業界注目焦點となれり。即ち當社は創業以來多年に亘る鉛管製造所を製造し、我國重工業に化學工業に寄與貢獻せる所甚大にして、近來の事業界の活況に乗じて、需要未曾有の激増を來し、晝夜兼行操業せるも尙之に應ずる能はず、相次いで増産計畫を樹て設備の大擴張を行へり。既設の鉛板鉛管の工場のみには、能力不足せるを以て、各工場の設備を改善して鉛より鐵への一貫作業を目指して、鐵製化學工業用機械並に諸機械を専門に製作する機械部を新設するに決し、更に陣容を新にすると共に、東京及び大阪工場を數倍に擴張し、鑄造工場機械工場を新に設立して、近く社名を改稱し、事業界に一大飛躍をなすべく着々準備に邁進しつゝあり。擴張移轉したる大阪市旭區今福町の大阪工場に於ては幅十呎物まで製造可能の鉛板機一基及び高能率鉛管機一基を増設

し、東京工場の設備の擴張と相俟つて鉛板及鉛管の増産を圖ることゝなせり。東京工場は江戸川區逆井町に有せるが舊營業所たる神田區豊島町の事務所を東京市販賣所として營業に當り、尙ほこの外大連に支店、朝鮮、九州下關の各地に出張所を置き、全國的に營業網を張り、從來百二十萬圓の資本金を一躍三百萬圓に増資して一大躍進を遂ぐ。又業績は近來の好調によりて累朝向上し、毎期一割二分の配當をなせり。昭和十二年下期に於ては總收入七百一十一萬圓、總支出六百八十九萬八千圓となり。差引當期利益金二十一萬一千圓を擧ぐ。當社今後の發展には多大に期待すべきものあり。

社長 芳澤龜太郎 芳澤氏は夙に耐酸及び耐腐蝕機械器具の自給自足が我國産業界の發展に不可欠なるに想到し、産業報國の一念を以て日夜研鑽を續け、遂に優良品の製作に成功して新界に名を成すに至れり。當社は世界に誇るに足るの優秀品にして如何なる化學工業會社も本品を使用せざるはなし。資性濃厚篤實、義氣任侠に富みて、人の窮境を見ては傍觀するを得ずして、救恤に力を惜しまざるなり。従業員を我子の如く愛し、従業員又慈父の如くに敬慕し、當社に限り勞働爭議の如き不祥事未だ嘗て生じたることなく事業

界に於ても甚だ信望高く、今後新界に大いに頭角を現すに至るべし。
(所在地 東京市神田區豊島町一三)

日本コンデンサー製作所

近年に於ける關西電器工作界の状況を云唯する者は、必らず先づ日本コンデンサー製作所の名を頭頭に擧ぐるを例とし、これを以て新界の白眉冠冕と爲すに於て、何人も異見を抱かざるものゝ如し。

願ふに是れ管に規模の廣大、施設の整備、生産能力の豊贍等、形體的乃至數量的觀測を根據とせるに止まらずして、主として其本質的優越點、即ち同製作品獨特の工作技能及び卓然として群を抜ける製品の特質に由來するものに非ざるなきを得んや。同製作所は元大阪市蘆原町に在り、昭和七年島津昌利氏の創業するところにして、製品種目はベーパー蓄電器、マイカー蓄電器、オイル蓄電器、無線用コンデンサー、電解用コンデンサー一切に及べるが、總而他の追隨を許さざる美點特質を有し、就中主製品にして用途の尤も廣汎なるベーパー蓄電器、マイカー蓄電器、オイル蓄電器の構造は同製作所の私に誇りとするところにして、精緻巧妙を極め、且つ耐久性

に於ける必須の諸條件を完備せるを以て、需要層の信用は絶對的にして、未だ嘗て難聲を聞かず。各種を通じて多方面に歡迎され、販路大に拓け、發展又發展、創業後僅か三箇年に満たざる同十年の秋には、早くも工場の狹隘を告ぐるに至り、同年十一月現所在地に移轉増築し、生産能力を倍加すると共に技術上一層の研究改良を果ね、コンデンサーの製作に於て、新界隨一の世評を博し、以て現時の隆昌を致せり。要するに同製作所の前途は將に汪洋たるものあらん。

所主 島津昌利 元治元年豊前中津に生る。累世中津藩の家臣にして幼時武士的訓練を受けたるが、長ずるに及び、同郷の先輩福澤翁の所謂士魂商才を以て、獨自の天地を開拓せり。現神戸商大の前身たる神戸商業學校卒業後、大阪商船に入社、拾有八年の久しきに亘りて格助し功勞著大、明治三十六年日本貿易銀行に入り、同行解散後共立電機相談役並に合資會社町野商店出資社員となり、茲に始めて電氣業界に其第一步を印して、獨立の素地を築くに至れり。齡正に七十五句に達せるも心身俱に生氣溢刺として壯者を凌ぐの概あり。當所を統攝して餘蘊なし。爲人寛厚にして風眉隆準、威容自ら備はれり。
(所在地 大阪市東淀川區三津屋南通二)

服部商店支配人

高木剛

名古屋市に於て各種の公職に就き、自己の利害得失を捨て、省みず、献身的に公共事業に盡瘁して、徳望顯然たるが高木氏その人なり。氏は明治十一年一月十八日、愛知縣土岐高木延世氏の長男として呱呱の聲を揚ぐ。幼少にして藝術的天分に富み、情操豊かにして感受性又頗る繊細たり。夙に京都美術工藝學校に入りて大いに研鑽を重ね、卒業後愛知縣知多郡々役所書記を拜命し、精勵勉勵職務に力を盡し、その濃厚なる人物は上司に深く愛せられ、同僚の信望又厚し。後轉じて名古屋郵便局書記となり、遞信省通信書記に任用せらる。同所に於ても氏の謹直なる勤務振りは大いにその前途を期待せられしが、大正元年に至るや招かれて服部商店に入る。早出晩退奮勉研勵、眞摯その職責に最善を盡し、斯くしてその實績大いに揚り、同商店の爲めに貢獻する所まことに大なるものあり。茲に於て氏は拔擢せられて支配人となり、同店の實績をば委託せられることゝなり、氏愈々その業に精勵し、晝夜を分たず事業に没頭して、その功績まことに大なるものあり。温雅謹恪着實堅確、温容よく人をして慕ひ寄らしめ、

又その日常の舉措頗る嚴正なり。謙虛にして寛容、上長に對して鄭重懇懇を極め、部下には常に温容を以て臨む。信念に厚く實踐躬行して、先づ己より身を以て示す。社會公共の爲には一身を犠牲に供して寄與し、困窮せる人には密そかに經濟的援助をなす等、その德行は衆庶の瞻仰して止まず。製襪せられて旗屋町總代となり、更に南區聯合町總代會副會長に推戴せられて、その人望まことに著しきものあり。尙ほ南區衛生組合聯合會副會長、名古屋衛生組合聯合會理事等にも推され、その方面に於ても大いに奔走す。寧ろ淡泊にして名利に超然、その高潔清廉の人格は中京に於ける名望を愈々高からしむ。氏敦養高く趣味豊かなるを以て知らる。國學或は風俗の研究をなしてその方面の權威者として名あり又美術演劇に造詣深く、その蘊蓄深遠なり。尙ほ養嗣子可壽男氏は現に松浦商店支配人たるの職にありて事業界に活躍せり。
(住所 名古屋市熱田區旗屋町二九〇)

參宮急行電鐵株式會社

創立以來星霜を閱すること茲に十年、幾多變轉を辿り、榮枯盛衰常ならぬ業績を示し來れりと雖も今や面目一新、全く社礎に鞏固を

加へ、伊勢神宮を中心とする大阪—三重線斷の快速無比なる近代的交通機關として、業勢の躍進目覚しきは即ち參宮急行電鐵株式會社に他ならず。

當社は昭和二年九月、資本金三千萬圓、内拂込金二千二百五十萬圓を以て設立營業を開始し、以來着々發展を果ねつゝありしも、時に業績芳しからず、無配當の状態に在りし事あり。然るに茲に關西急行開通後、親會社大阪電氣軌道株式會社並に子會社關西急行を通じて大阪・名古屋間を急行連絡し、更に名古屋豊川、三信及伊那四電鐵會社を介して遠く信州辰野方面に迄進出を想到せしめ、俄然業績好す。十三年上半期の成績を見るに現下非常時に於ては各社同様相當影響を蒙るべく思料されしも當社は戰捷祈願の參宮客多く且つ軍需景氣に因る各種工業活況を呈し特に親近伊勢方面に事業勃興せると相俟ちて本業收入百八十七萬二千圓を擧げ前年同期の百七十五萬五千圓に比し十六萬七千圓、九分七厘の増収を齎せり。九分以上の増収は關西郊外同業中に於て只大鐵と當社あるのみにしてその伸展力の旺盛さを證するに足れり。之に對して新業は收入増に伴ひ支出の増加は當然なるに當社は却つて支出額百萬四千圓と前年同期に比し一萬圓を輕減せり。其理由は税金の減少事業關聯費分擔額の輕減の爲なり。斯くて利

益金十八萬七千圓を擧げ前年同期の八萬三千圓に比し倍額以上の成績を示せり。當期は最早や繰越損は無く從て利益全部を償却に當て配當を行はざりき。

茲に於て當社の收盤期は愈々接近し、傍系關西急行は開通し、名古屋宇治山田・名古屋大阪の連絡成りて當社線路は兩經濟都市と新興事業地伊勢を控へて從來の遊覽線は移向し其の内最も好影響を受くるは即ち當社なり。されば復配決行も今や時日の問題と稱するも敢て適當に非ざるべし。而して當期の收入は鐵道、自動車、遊園地共の他合計百八十七萬八千圓、支出は鐵道經費、自動車費、遊園地共の他經營費、支拂利子合計百六十九萬一千圓なりき。

因に當社營業線は本線（櫻井—宇治山田）津支線（中川—津）、伊賀線（西名張—伊賀上野）、伊勢本線（桑名—大神宮前）、神戸線（伊勢若松—伊勢神戸）にして之れに配する快速輕妙なる車輛を以てし、交通運輸の利便に供すると共に、沿線各地の土地發展に資すること尠ならず。現在公稱資本金四千五百七十七萬圓、内拂込金額三千九十二萬圓なり。

最後に當社重役氏名を擧ぐれば陣容は次の如し。取締役社長種田虎雄、専務取締役井内彦四郎、取締役健田忠次郎、同片岡直方、同

森平藏、同五島慶太、同吉田伊兵衛、同丸亀健一郎、同越山均之助、監査役林市藏、同瀧川伊之助、同關信太郎、同小池一等の諸氏なり。

取締役社長 種田 虎雄 氏は素より明識才幹の士、而かも玲瓏高風たる人格を誦はれ全従業員の尊崇敬仰の的たるは勿論、關西事業界に名聲噴々たり、而して其の巨腕縱横に發揮さるゝ處、當社業運の伸展發達を策して遺憾なく、其の功業たるや、前社長金森又一郎氏の後を襲ひて現職に就任以來、頗る顯著なる實績を示し、過去數期に亘る繰越損失金を着々純益金に轉換せしめつゝあるは、寔に偉とすべく、之れ實に専務井内氏を始め全社員の一致協力、克く社業に精勵奮闘を擧げたる賜なりと雖も、氏の統制的卓腕に俟つこと大なり。

専務取締役 井内彦四郎 氏は高知縣人井内兼治氏の二男、明治二十一年一月を以て呱呱の聲を擧げ、大正三年分家して一家を創立す。夙に明敏英才を誦はれ、將來の飛躍發展を嚆矢とすること厚く、學序を経て東京高等商業に入り、切碇琢磨、克く學業を修め、同四十五年卒業するや、直ちに近江銀行に入り實業界雄飛の第一步を踏み、爾來精勵倍勵模

範行員たるの稱讃を博したるも、其後大阪電氣軌道株式會社に轉ず。斯くて天稟の才幹を遺憾なく發揮し、至誠努力以て社務を遂行する處、信望年月と共に聚り、昭和二年當社創立されるや、其の支配人の要職に推され、更に昇進遂に現職に就任す。今や當社樞要人物の隨一人たるの名實を兼備し、今名斯界に噴々たるものあり。亦た中勢鐵道株式會社取締役をも兼ね。資性寛厚堅實にして一面旺盛熾烈なる氣概に満ち、而かも人格識見頗る圓滿稀に見る典型的好紳士として敬仰信服の的たり。

（所在地 大阪市天王寺區上本町六丁目）

東京自動車工業株式會社

自動車は交通機關として、或は又軍用上に缺くべからざるものにして、自動車工業の進歩發達は一國々勢に至大なる影響を有し、現時各國何れもこれが發展の助長に努めつゝあるは、周知の事實なるが、我國に於ては今日に至るまで外國品の活歩する所にして、現に優秀國産自動車製作を見つゝあるにも拘らず、未だこれが充分なる普及をなさざるは甚だ遺憾たり。當社はトラクタ、バス、陸軍保

護六輪自動車、各種應用自動車、デーゼル自動車、薪瓦斯自動車、高級乗用車並びに自動車部分品を製作し、その製品甚だ優秀にして、これを歐米品に比較するも毫も遜色なく、否或る部分に於ては、歐米品を凌駕するが如き新機軸を出して非常なる稱讃を博し、社業日進を遂ひて隆興なしつゝあり。當社は我國自動車工業の確立を絶對不可缺とするの狀勢に立至りたる時代の動向に順應し、生産の統一と合理化を期して數社相合し、昭和十二年十月創立せられたるものなり。即ち、國産自動車工業界に於ける權威と仰ぶがれ、斯界最古の歴史を有し、過去二十年に亘りて幾多の辛酸を嘗めて研鑽を續け、近來「いすゞ」、「ちよだ」等の優秀なる國産自動車を製作せる自動車工業株式會社と、東京瓦斯電氣工業株式會社自動車部との合同に依りて創立せられ、これに依りて、曩にその販賣機關として創設せられし協同國産自動車も自然、これが傘下に併合を見るに至りたり。當社は技術の研究と生産費の低下に上下相戮力して研精し、良品の廉價提供に腐心しつゝあるが、既に今日に於ては同級外國車に比較して品質優るとも劣らず、價格に於ては低廉にして江湖の絶大なる歡迎を受けつゝあり。曩に商工省に於て設置せられたる自動車工業確立調査委員會の設計に幾多の改良を加へ、遂に優秀なる高級標

準車の製作を見るに至り、我自動車工業の爲めに萬丈の氣を吐けり。當社の一ちよだ・すみだ六輪自動車は堅牢無比にして、牽引力絶大なるに依り、如何なる惡路をも容易に走破し、超重量物の積載に堪へ、且つ登坂力の強大なる點他社製品の追従を許さず。而もこれが所有者には三千圓の補助金の下付せられるに依り、價格極めて低廉なり。當社に於ては一年間に消費せられる自動車燃料の九十パーセントが海外の輸入を受けつゝある所より最高の權威を以て目せらるゝ陸軍式薪瓦斯發生裝置の製作を開始せるが、我國には山林に富み薪、木炭は豊富なるに依り、これが普及は國家經濟上或は國防上まことに益する所多く、當社の努力に依りて國家燃料問題の解決に貴重なる一歩を印することゝなれり。その他の各種自動車に於ても何れも多大の特色を具備し、甚だ好評あり。當社は工場を横浜市鶴見、東京市大森、神奈川縣川崎市にそれぞれ設置せるが、生産擴充を目的として、相次いで大擴張をなし、斬新なる新式生産設備を整備し、操業頗る繁忙を呈して大いに股盛を極めり。全従業員五千名に上り、優秀なる熟練工多數揃ひ、技術の研精練磨に努め、戮力一致社業の發展に精勵せり。又顧客のサービスに就きては内地は勿論、滿鮮、臺灣地方迄販賣網を布き、優秀低廉の製品を供給し

或は部分品の補給に就いても潤澤に用意し、需要家に多大の満足を與へつゝあり。現在資本金二千七百萬圓に上り、本邦最大の自動車製造會社として重きをなし、優良車の供給をなし、斯業の發展に寄與する所絶大にして、國際貸借の改善に或は國防上に貢獻する所測り知れざるものあり。現時重役に社長松方五郎、副社長新井源水、取締役石井信太郎、同星子勇、同大久保正二、同谷口贊三郎、同内山直、同矢野美章、同松村菊男、同松永令三、同天谷知彰、同三宮吾郎、同弓削靖、同三ツ木秀治、監査役大澤佳郎、同室孝吉の諸氏あり。

取締役社長 松方 五郎 氏は故公爵松方正義氏の五男として明治四年四月に生る。夙に東京帝大法科を卒業し、曩に川崎造船所倉庫課長兼庶務課長として才腕を揮ひ、事業界に多大の注目を集めたり。祖考の血は争へず天資高邁にして、豪磊潤達俊敏の智能に卓動の才腕は事業界に多大に名を成さしめ、東京瓦斯電氣、常盤商會各社長たるの外幾多事業會社に重役として列し、財界に勢望高し。

副社長 新井 源水 頭腦犀利緻密にして氣格俊邁を以て、事業界に瞻仰せられる新井氏は明治十六年九月埼玉縣に生る。夙に東京

帝大法科を卒業し、東京煙草、大島製鋼を経て東京石川島造船所に迎へられて總務部長、要職に就き、大いに手腕を示せり。後自動工業常務となり、更に當社副社長の要職に就く。資性濃厚にして、心性峻潔を以て内外に非常なる信望あり。

(所在地 東京市品川區東品川五丁目)

住友倉庫株式會社

住友倉庫は住友財閥直系の一にして、大正十二年八月、倉庫業、製船所業、貨物揚卸役運送業を目的の下に資本金一千五百萬圓を以て設立されし斯業界の錚々たる存在にして、其事業規模即ち倉庫は本店四萬七千六百八十坪、神戸支店一萬五千二百四十六坪、東京支店一萬百三十八坪、合計七萬八千六百五十五坪を擁し、株式會社富島組、ニツケル、エンド、ライオンス、リミテツドを其傘下に措けり。設立以來堅實なる大住友の社風を堅持一貫して逐次好調を辿り、業績毎期昂揚されつゝ今日に至る。

昭和十二年十二月末締切下半年決算を觀るに、當期初め支那事變の勃發に依り、我國の經濟機構は漸次戰時體制に移り、貿易は輸入臨時措置法の公布に依り棉花及び羊毛等

著しく其輸入を抑制せられ、商品界に實需不振と、輸送の滯滞に因り、時局柄警戒裡に終始せり。從而倉庫業に於ても原料品の漸減と既成品の滞貨を示すに至れり。即ち在庫高は當期に入るも引續き増加の傾向を辿り、八月には一億二千萬圓に達せんとせるが、其後は棉花、砂糖、羊毛等の出庫著しく結局一千五百餘萬圓の出超に終れり。併し乍ら之を前年同期末に比すれば、實に二千八百餘萬圓の増加なり。次に製船、貨物運送たる埠頭業務に於ては、事變の影響により前期より何れも減少し、前年同期に比するも船隻及び鐵道貨物取扱ひ噸數以外は幾分減少を示せり。即ち取扱船隻噸數六百六隻(内當社棧橋留船噸數四百十五隻)、本船貨物取扱噸數四十一萬四千八百七十七噸、船隻貨物取扱噸數九萬四千五百一噸なり。當期純益金は二十二萬一千餘圓之に前期繰越金百九十九萬九千餘圓を加へて百三十三萬一千餘圓にして之を處分するに法定積立金二萬圓、退職慰勞準備金五萬圓とし差引百二十六萬一千餘圓を後期繰越金となしたり

因に當社の現陣容は、取締役社長小倉正恒、常務取締役松井孝長、取締役住友左衛門、同八代則彦、同古田俊之助、同兼本店支配人兼本棧 監査役國府精一、同岡橋林、本店支配人兼庶務課長高橋浩

神戸支店支配人森田嘉雄、東京支店支配人辻岡喜代次郎の諸氏なり。

常務取締役 松井孝長 明治二十四年十一月、滋賀縣松井道長氏の令息として出生。長じて東京帝大法科政治科に入り大正五年之れを卒業す、直ちに住友倉庫株式會社に入社爾來格勳二十有餘年、榮進して取締役支配人たりしが、曩に常務取締役に擧げられ、今日に至る。資質謹直寛厚の紳士たり。

(所在地 大阪市西區川口町八ノ一)

宮城縣農工銀行頭取 早川萬一

東北第一の大都會仙臺市に本據を置き、宮城縣下不動産金融界に活動して、同縣產業界に貢獻多きを宮城縣農工銀行とす。資本金五百萬圓にして毎期決算には多額の利益を内部に保留し、一割近くの配當をなすの好成績を擧ぐ。現在同行頭取の要職にあるが早川氏たり。氏は大正七年監査役として同行に迎へられ、後取締役となり、續いて常務取締役に推される。當時の頭取佐藤龜八郎氏を輔佐して多大の功績あり。その後氏の人物手腕に絶大な期待をかけられ曩に佐藤頭取の裔を享けて頭取として擁立せられるに至る。

合名スミト商會

氏頭取に就任するや、營業全般に亘りて變革を敢行し、舉措悉く機宜に適ひ、更に一層の好調を呈現し、行内の氣運穆々として行風益々昂揚して今日に迫り。氏は明治八年三月山口縣土族福原彦七氏の四男に生れ、同三十四年東北帝大畜産科を卒業す。後早川家先代早川智宣翁に見込まれて、同家の養子となる。早川家は仙臺に於て名望高く、先代智宣翁は仙臺市長たること多年市政に貢獻せること絶大なり。先代は夙に殖林並に牧場を経營せしが、氏これを繼承するに至りて更に發展し、現在六十餘頭の飼牛を放牧し、一ヶ年六百石以上の牛乳を販賣せり。その質頗る優良にして需要層に聲譽噴々たり。即ち仙臺大學病院その他に供給す。氏は又鐵鋼に關する世界的權威本多光太郎博士の研究に拘る筈びざる双物を製造するの目的を以て大正十四年八月資本金三十萬圓を以て、東洋双物株式會社を創立す。壽恰かも財界不況中なりしも氏の熱誠と信望によりて容易に右計畫實現し、以來同社は各種双物類製作に努め各方面より一般家庭迄その需要廣く販路亦全國に及び、氏は常務取締役として活躍し、多大の成績を擧げしが、曩に當行頭取たるに及び取締役となりて第一線を退きたり。手腕卓抜にして人格廉直その高風深く人の仰慕する所たり。

(住所 宮城縣仙臺市花壇)

自動車部分品販賣業合名會社スミト商會の經營者は林顯三郎氏にして、當社は「最良品の最低價格提供」を信條となして業界に特異の存在を爲し、創立日尙ほ淺きにも拘らず、その顯著なる躍進振は正に世人の驚愕する處なり。同商會は、昭和六年大阪市東區北濱四丁目に資本金五萬圓を以て創立せられ、爾來林氏孜孜として業務に精勵し、前記信條を嚴守し顧客に對しては頗る懇切を極めて多大の好評を博せり。今や當々業界に角逐して常に一頭地を抜き其目覺しき躍進振には世人の多大に注目するに至れり。嘗て同商會、日本自動車株式會社關西代理店として、其製品販賣取扱中、偶々日本自動車破綻の悲運に際會し、同商會の蒙りたる損害甚し多大なりしが、能く此難事を切り抜け損害補填し得て、何等の損害を他に及ばざりしは大いに業界の賞讃を博したり。爾來災を轉じて福となせる同商會は愈々此處に確固たる基礎を爲し、名實共に業界の第一人者たり。今や政府當局は、國産品奨励に努めつゝあるが、同商會率先して輸入防遏、舶來品壓除に努め國産品の向上進歩に寄與する所著大にして邦家の爲め貢獻せる

代表社員 林 顯三郎

氏は明治二十一年大阪に生る。夙に大阪商業學校を卒へ、廣島に轉住して材木業を營み孜孜として斯業に勉勵拾有六年、其の功ありて業績大いに好調に向ひ一大店舖を張るの旺盛を極めしが、不幸大正十二年、胃潰瘍の爲病床に呻吟する身となりしに依り、遂に材木業を斷念し、只管靜養に努めたる結果全快を見るに至りて歸阪せり。後氏の趣味的寫真術は木業を營む迄に至り、此處に寫真業林寫真館を開業せり。氏の優秀獨特の技術忽然人望を蒐め、林寫真の別名下に益々繁昌せるも、氏感ずる處ありて、これを門弟に譲り、自動車部分品販賣業、スミト商會を創立し、今日の盛況を招來するに至る。

氏は、無趣味即趣味なりと自ら述懐し、業務の精勵研磨が趣味なりとの信念を以て最良品の最低價格提供は最後の勝利者なりとの信條の下に常に最善の努力を傾注せる、其の眞摯なる態度には誠に嘆服すべきものあり。信念に生きて奮闘心を喚起するは、宗教研究に如かずとなし數年前より業務の餘暇に熱心なる信仰に入り、ひたすら安心立命の悟道の體得に努めつゝあり。尙ほ氏は頗る温情に富み忙中と雖も人訪れんか親しく迎へて禮を缺か

す、その濃厚なる人格には何人も悦服せざる者なし。

(所在地 大阪市東區北濱四ノ九)

埼玉縣 所澤町 役場

秩父山岳地帯の東、荒川、多摩の二川の間、に跨る廣大なる臺地を切りて流る、東川の流域の低窪地に發達せるが所澤町にして、往昔野老澤と呼ばしが、元祿十三年入間郡所澤と改稱し、明治十四年には町名を附し、同十二年町村制を實施して今日に至る。天正文祿の頃迄は信濃上毛方面より鎌倉へ至る宿驛となりて次第に發達し、續いて江戸開府となりて、江戸より秩父への往還當町を貫通し、人家大いに稀ならず。更に明治四十三年陸軍飛行場の開設せられるや、逐年市街膨脹して現在の如くに發展を告ぐるに至れり。當町は所澤、上新井、久米の三大字より成るも、便宜上日吉町、御幸町、壽町、元幸町、本町、金山町、宮本町、有樂町の八行政区に分つ。東西二十五町、南北一里、總面積六百九町六反たり。又戸口は昭和十年の戸口調査に依れば世帯數二千三百三十九、人口一萬一千八百一人に達す。當町の教育機關として學ぐべきものは、所澤尋常高等小學校の外、所澤青年學

校、所澤資料高等女學校、所澤商業學校の三町立學校あり。施設頗る完備して近接町村より來り學ぶ者甚だ多し。又明治四十三年八月に創立せられたる町立圖書館あり。歴代町當局者教育事業に専念して、これが爲めに年々多額の經費を投ぜり。官公署の主たるものに所澤警察署、川越區裁判所所澤出張所、埼玉縣所澤健康相談所、農林産物検査所所澤出張所等あり。又銀行會社の本支店數多ありて商業頗る發達を極む。交通機關の主要なるものとしては、東京高田ノ馬場を起點とする西武鐵道川越線、東京池袋を起點とする武蔵野鐵道飯野線この地を通過せり。その他近接市町村と聯絡する乗合自動車の線數多あり。米、麥、甘藷、蔬菜、繭等の農産物、牛乳、鶏、鵝卵等の畜産物を産し、醬油、綿織物、建具各種木製品、製茶等の工産物をも多く出す。就中所澤織物は年々多量の生産を見、多大の聲價を博せり。即ち、十一年中生産總額は一百三十二萬一千反、その價格三百四十八萬四千圓に上り、當町の發展に寄與する所多なるものあり。尙ほ醬油、織物、飛行機、諸機械等の工場數多あり。當町役場の主たる事業に職業紹介所、水道その他あり。當町は水に恵まれざるを以て有名にして昭和十年度二ヶ年權糖事業として總工費三十五萬圓を以て上水道を施設す。普及率良好にして甚だ好成

績を収めり。以上の外所澤陸軍飛行學校、陸軍航空技術學校、所澤陸軍病院、所澤憲兵分遣隊等陸軍關係の諸機關あり。又由緒ある神社佛閣尠しとせず。農工商の用件を以て近接村より來往する者多く、町勢甚だ活況を極めり。當町役場の首腦部に町長内田常光、助役大原卓爾、収入役齋藤三郎の諸氏あり。何れも俊敏高才の士にして町民の信望厚し。

町長 内田 常光 資性卓犖豪放にして氣格俊邁、甚だ行政的手腕に富み、町政の爲めに献身的活躍をなして多大の功績あり。氏は又教育の發達に意を注ぎ、現に所澤町教育會長の要職にありて貢獻する所鮮少なからず。人格清白高朗にして高義清節、衆庶の深く瞻仰してやまざる所たり。

(所在地 埼玉縣入間郡所澤町)

岡本商店主 岡本表次郎

京都製靴業界に於て、尤も信用ある老舗として知られたる岡本商店は先代半兵衛氏が、明治初年に開業せるものにして、創業の當時は販路極めて狹隘にして、微々たる状態なりしが、官公衙に出入して註文を仰ぐに至りて俄然活況を呈現して、地方裁判所、市役所

刑務所等の指定商に列し、當主表次郎氏の代に追びて更に聲價を高め、大正、昭和兩度の御大典に際しては官内省御用命の榮譽を膺へり。往年皇太后陛下、皇后陛下に在はして行啓の御、御愛用の御靴の破損修理を仰付られたる如き光榮は、氏の人格技術の卓絶を雄辯に立證するものにして、當業界に於ける無上の榮譽として世上に喧傳せられ、同業者をして羨望せしめたるは今尙市民の記憶に新なるところなり。然れども氏の成功の因を單にその技術にのみ歸するは、所謂楮の半面を見て他の半面を閉却せるものなり。他の半面を窺ふ者は其處に商人として、否、人間として總ての事に、總ての場合に、必須不可缺ならざる可からずして而も多くの人に、藏中射利に汲々たる實業家に敬遠され勝ちなる、立身成功の一要素の存在するを認むるなるべし。至誠即ち是れなり。正直即ち資本なり。神技の手腕、至誠正直の精神と相俟ちて、豈應報無くして已むべけんや。招かざるに顧客は接踵し求めざるに註文は殺到し、信用愈々加重し、販路益々開けて上記官公衙の外、基督青年會館購買部、京都市醫師會購買部其他多くの官公私立學校の指定商として、發展の一路を辿り、遂に現時の盛況を見るに至れるなり。氏は京都府の人、明治二十七年十月を以て出生十七才にして岡本家の養嗣子となり、養父の

歿後其業を繼ぎ今日に及ぶ。爲人謹厚篤實にして、市民の信望厚く、曾ては共同組合長、衛生組合長に擧げられ、現に京都商工會議所物價調査員並に勞働賃金調査員たり。夫人、名はハツ子、温良にして至仁、往年主人の實弟に當る病弱の男子を引受けて養育したる時の如き、夫人愛護の狀、寢食を忘れて治療に肝膽を砕き、其死するや我兒を失へるが如く消魂蹉跎、今尙在りし日の事を語りては追憶の涙にかき暮るゝ態、見る者感動せざるは無く、世にも稀なる温性篤行の淑女として、隣人知己の間に喧傳されつゝあり。

(住所 京都市寺町竹屋町上ル)

東京日日新聞社

帝都ビジネス・センター丸之内に宏壯なる社屋と東日會館を構へ人車の輻輳するが如く恰も一都街を爲すの觀あり。この偉容、これぞ我が東京日日新聞社なり。一西に大毎、東に東日」の語は、今や無用にて、俱に全世界に冠たる大新聞社として讃へらるゝに至れり。而して其報道する政治、經濟、社會其他運動、文藝、學藝等々百般の記事の迅速、正確、詳細を極むると、編輯の精緻卓絶なる配達の整備神速なる絶對同業他社の追隨を許さ

ず。殊に今回の日支事變に際會して當社の活躍の物法きは、日日紙面の報道にて周知の如く、當社が如何に戰時體制下に於ける報導機構の整備に萬全を期しつゝあるかは、村度に難からず。而して當社の既往を顧るは、之れ將に長江を溯源するに等しく、其創業の遼遠にして盤紆の多彩なる、爰に能く詳述するを得ず。只記するところはその鳥瞰的要概にして所謂樹幹、大枝に過ぎざるなり。當社は過ぐる明治五年の創刊にして、同七年、文豪故菊池櫻痴師が、歐洲より歸朝して社長に推されて異彩を加へ、次で末松謙澄、關直彦、伊東已代治、加藤高明、千頭清臣諸氏を経て、明治四十四年二月に迄んで、毎日電報と併合し、大阪毎日新聞社の經營に移り、此處に面目を一新して、大毎と日月相照の盛觀を現はし、聲價忽ち隆々たり。而して大正八年三月に至りて、遂に劃期的飛躍の逐行段階として其組織を株式組織に革む。爾來臨機應變の計畫悉く圖に當り、氣鋭穆々として躍進亦躍進逐次資本も増加して今や一千萬圓の大資本を擁し、斯業經營頗る困難なるも能く之を克服し、以て今日の景觀を招來し、歩武堂々斯界に君臨するに至れり。

惟ふに新聞事業たるや終始一貫、營利を度外視し、社會の木鐸として常に社會情勢を正確迅速而も詳細に觀察報道し、一面社會諸機

構の改善、思想の善導を信條として業績を擧ぐべきを要す。當社は學社一致能く言論報道に崇高なる信念を以て従事せるは、卓抜なる紙面克く之れを物語りつゝあり。且つその鉛架物に於ても絶對他社を壓倒せり。大阪毎日新聞、東京日日新聞を主流と爲し、英文東京日日、東日小學生新聞を日刊發行となし、盲人新聞たる點字大阪毎日、サンデー毎日を週刊發行と爲し、其他大衆文藝(年二回發行)經濟雜誌エコノミスト(月三回發行)毎日年鑑(年一回發行)、ホームライフ(月一回發行)寫真特報(週三回發行)、映畫とレヴュー(月一回發行)、新興婦人(月一回發行)大日本青年(月二回發行)等々の定期刊行物を發行せるに徴しても、言論報道の最高峰たるを證すべし。而して之等多數の文動刊行物の通信網に至りては所有近代科學の粹を録め、苟も通信の要に供すべきものは、之を蒐集して餘蘊なし、即ち當社専用の電話線は全國樞要地に架設して、連絡以て通信に完璧を期し、他方世界に跨る純國産製NE式電送寫真機及び移動電送寫真機を完備活用し、殊に原稿輸送に於ては飛行機、傳書鳩をも利用の先鞭を附けたり。尙印刷能力は業界にありては頗る重要事なるが、當社は現に一時間三百餘萬枚を印刷し得る、超高速度輪轉機を設備して印刷陣の變化を圖り、飽く迄「新聞報國」の旗

を鮮明に精進しつゝあり。昭和十一年末、所謂福澤精神を標目と爲し、財界有力者を背影に、一世を容れせしめたる時事新報をも其翼下に收めて吸収合併せしめ、益々其の鵬翼の大を躍示するに至る燦たる東京日日新聞の現況は、外内共に文字通り完備充實し、加ふるに、此の重責を擔任する人物も亦、我新聞界切つての猛者揃にして先づ同社取締役會長に法學博士岡實氏を始めとし、取締役社長奥村信太郎、取締役主筆取締役高石眞五郎、取締役東日主筆杉山崧、取締役理事東日營業局長山田潤二の諸氏、熱烈なる斯界の重大使命を認識して、内外多事多端に亘る業務を統制し一糸紊れざるは、前記諸氏の手腕力量の程を俾ばれて、誠に敬服に堪へざるところなり。猶當社今日の隆盛は、元より前述諸氏の偉大なる功績に據るは言を俟たざるも、二十餘年間之が柱石たりし山本彦一翁の殊功を想起せざるものなからん。尙當社は社賓として識德兼備、蓋世の大先輩峰徳富猪一郎翁の存在こそは正に當社の爲、錦上花を添へたると稱すべし。

(所在地 東京市麹町區有樂町一丁目)

衆議員議員

野中徹也

多年に亘る政界の腐敗墮落は、政黨の威信

を極度に失墜せしめ、非常時局の重壓と共に政黨は萎靡して振はず、支那事變の勃發と共に舉國一致の體制下に奮伏して、政界は依然として沈滞を極はめ、政黨は玆に完全に指導力を喪失するに至れり。斯る政界の混沌の中に燦然たる光輝を放ち、まさに明星の如くに大衆の仰望する所となれる政治家に野中徹也氏のあることは、砂礫の中に金剛石を見るの感あり。時局の重大化と共に我政治、經濟は愈々難局に達着し、國民生活の不安は一段と激成されんとするに至れるこの秋、多年の積弊を打破し、現實に即せる革新理論を提げて新日本建設の大業に邁進せる野中氏こそは、まことに迷へる大衆の利導の星と云はざるべからず。時代の動向に關しては遂徹せる認識を把握し、高遠なる理想を目標して大衆に向ひて呼號し、眞に新時代の指導者として氏にこそ大衆の一切の希望はかけらる。野中氏は埼玉縣野中廣助氏の長男として明治二十六年一月に呱呱の聲を揚ぐ。幼少より穎悟にして學業甚だ優良たり。大正八年東京帝國大學法科政治科を優秀の成績を以て卒業す。引續き同大學に止まり、熱心に研鑽に努め、學理の探求に精勵して多大の成果を擧げ、その前途に就き大いに矚目せらる。然るに、經濟學國の大望に燃えし熱情熱誠の氏は、奥深き研究室の一室に世塵を避けて、眞理の探求に耽け

り、象牙の塔に立籠ることに甘んずるを得ず、敢然研究室を出でて街頭に立ち、時事新報記者として生ける政治經濟に直面し、八方馳騁して俊敏の才を逞はる。乍併、社會事象の報導を任とするジャーナリストとして生涯を終はるも、又氏の念願とする所に非らず。さればとて、官界に進出して榮達し、或は財界に雄飛して巨富を積むも、固より氏の關心を惹くに足らず。混亂せる思想界、激化する社會不安を外にして氏は晏如として一身の榮達を計ることに汲々たるを得ず。未曾有の危局に遭遇せる皇國を泰山の安きに置き、國民をして安んじてその業に勵むを得せしむる爲めに、身を挺して大衆を率ひて立たんとす。玆に於て氏は密そかに考ふる所ありて、夫人同伴して獨逸に赴き、政治經濟の研究を爲せり。當時の獨逸は戦後の困憊に依りて思想界は極度の混亂を呈し、左右兩翼の抗争は尖鋭化して、氏は具さに政治、經濟、思想に就き深き研精を重ねるを得たり。斯くして氏は歴史の歸趨に確乎たる見解を把持し、新日本の再建の爲めの革新理論を確立して、昭和三年埼玉縣第三區より衆議院議員に立候補す。氏の脈々として理想に燃ゆる熱情と、未曾有の日本の一大危機を救はんとせる、その眞學にして、崇高なる精神は、選舉民の胸底を突き、大衆の歡呼の中に最高點を以て當選す。

爾來第三區に牢固たる地盤築かれ、選舉民は又斯る俊邁の政治的指導者を國會に送り込むを無上の榮譽とせり。氏は政界革新を絶叫して安達謙藏氏等の結成せし國民同盟の傘下に馳せ參じ、同黨の政策の確立には氏の獻策に依るもの多く爾後同黨屈指の理論家として推重せられ、黨内に重きをなせり。昭和四年には内務大臣秘書官に推され、現在國民同盟總務として同黨の興亡を一身に負へり。又埼玉縣國民同盟支部長に擁立せらる。智識敏にして犀利敏密。學識淵博にして才氣煥發。その時勢を洞察するの明は政界に比倫を見ず。高義清節にして清白高剛、眞に新時代を背負つて立つの卓抜なる政治的指導者たり。「貨幣の本質と價值に就て」その他數多の著述あり。貞子夫人は埼玉縣人永瀬庄吉氏の六女にして、跡見高女出身の才色雙絶の賢婦人たり。三子ありて家庭は頗る圓滿を極む。

(住所 東京市王子區王子町二二八八)

事業家

栗田春吾

全國織物機業界の王者として君臨せる、京都西陣はその名聲全世界に喧傳せられ、躍進日本の技術の眞髓を示すものとして、同製品は各國人の嘆稱措かざる所たり。現在西陣織

物同業組合の評議員として活躍し、その生産高は同地に於て首位を占め、織物製造業者中、近時目覚しき躍進をなせるが栗田氏とす。氏は旭日昇天の勢を以て業運發展し、西陣機業界屈指の成功者にして、夙に業界美望の的となれり。資質沈着豪膽、頭腦敏密にして用意周到、事に當り千思萬慮、一度立てば、大河の壅を決するが如く勇斷敢行、頗る卓絶せる手腕家たり。他面非常なる温情の持主にして、よく人情の機微を察知し圓轉滑脱玲瓏たるまきに玉の如し。氏職人に對しては家族的に遇し、常に慈悲をかけ、又店員職工氏を敬慕すること師父の如し。斯く上下鐵の如き堅き團結をなし、事業に一致協力して津勵せるを以て事業愈々繁榮す。氏の廉直なる人格と悠揚迫らざる舉措とは業界の徳望を大いに集め、西陣織物同業組合長に推さる。多忙の時間を割きて斯業の發展の爲めに東奔西走して多大の敬仰を受く。氏家官にして英斷西陣機業界屈指の材幹たり。又頗る研究心に富み、機械の研究、製品の品質改善の爲めに意を盡くし、自から工場に於て職工を鞭撻して事業の發展に力を傾倒す。各所に於て陳列會の催のある際には、率先製品を出品して、斯業の發展向上に協力を惜みせず、氏は又自己獨りの研究のみを以て満足せず、長子の如きは前後二回南洋に派遣して、貿易の實際を

調査せしめ、彼地より種々の資料を送付せしめて自己の研究資料となせり。研究の爲めには費用を惜しまず投じ、同業者を多大に敬服せしむ。氏は従業員の監督の便宜と自己が聊かも怠惰に陥ることなきを期せんが爲めに、自宅の裏に工場を設置せり。氏の工場には最新優秀を誇る織機數十臺が備へられ、多年の研究に依る技術を以てシオンベルベット及その他輸出織物製作せらる。その製品の優秀なるより廣く海外に絶讃を博し、印度、南洋南支を始め近時米國方面より多量の注文殺到し操業頗る活況を呈し、多大の好成績を揚げつゝあり。氏は業界に於ける代表的手腕家として、又有數の人格者としてその信望噴然たるものあり。

(住所 京都市上京區猪熊元誓願寺南入ル)

京都理髮學校

同校は京都市内當業者一千餘名の共營にして、大正四年九月十日の創立に係り、當初屢々組織及び學則其他の變更改廢を見たるが、昭和五年五月竹原富三氏の校長就任以來逐年向上進展、同八年三月に追びて更に内容の充實を計り、時代の要求する優秀なる人材を養成するの必要上従來の組織を變更し職業學校

としての機能の發揮に備ふるため、實業學校々令に依る職業學校として設立の件を、文部大臣に申請して認可を得、組織の變更と同時に京都府知事より無試験營業免許の指定あり。爾來私立學校補助規定に依り京都府より年々補助金の交付を受けることとなり、同十一年二月二十一日には、畏き邊りより御眞影下賜の光榮に浴し、關係者一同感激奮勵、爲に一層の活況を呈し、校舎の整備内容の充實と共に、入學志願者の激増を見るに至り、定員の増加を行ひ、之に加ふるに現代文化の進展に順應したる新技術者養成の要求に基き美容専修部を新設して錦上更に花を添ふるに至れり。

校長 竹原富三 明治二十六年二月滋賀縣石川町に生る。同町有志竹原友吉氏の長子。十二、三歳の頃、従前より新舞鶴町に於て、父が藥舖を經營しむる關係に由り、同地に移住し、家業の見習手傳をなし居る中、偶々藥劑師法改正の事あり、經營上種々煩雜なる事情を生じたるため、平素關心を繋ぎたる理髮界進出の意圖を抱くに至れり。當時に在りては、理髮業に對する世人の理解乏しく、一般に之を輕視するの風あり、爲に容易に兩親の肯んずるところとならず、一時大に當惑したるが、名詮自稱竹の如き強靱なる意

志を享有せる男一疋の初一念は、撓むと見え折ることなく、障礙の雪を挑ね返して、翻然と身を立直し、年去年來かす／＼の憂き節を重ねて、根幹次第に固く、枝葉速かに榮えて、日毎操る鉄の音と共に、斯界にチャキチャキと其名も高く、衆望の歸するところ、京都理髮學校長の榮位に推され、精勵健闘、以て今日の成功を致せり。古人曰ふ「名は實の實」と。氏の名に就て之を積ふるに、宜なるかな、富めるもの三つあり。曰く、溫情に富み、義氣に富み、公共心に富めり。即ち富三なり。所謂心の富めるなり。心既に富めり日常萬般の事、以て知るべきなり。

(所在地 京都市中京區丸太町御前通西入 下ル)

安田信託大阪支店支配人

小山新三郎

學業成りて身を銀行、信託界に投じ、精敏明晰なる頭腦を駆使する事爰に二拾有餘年間眞摯懸命の格闘は着々その地歩を築き上げ、今や斯業界中堅人士として、其名を馳する氏は、明治二十四年十二月京都府の藩封家小原傳之丞氏の三男、同正造氏の令弟として同府に出生す。後京都府資産家にして名望家たる小山友治郎氏の養嗣となる。天分寛容個體に

して博識たり。長じて明治四十三年山口高等商業學校を優秀なる成績を以て卒業し、大正二年京都銀行に入行、實社會生活の第一歩を踏む。勤続十年の同十二年に及んで京都銀行が業界の普宿安田銀行に合併解散實現するや抜擢されて西陣支店長に推され、次で同十五年榮進して本店支店長と爲り、愈々その才腕の眞價を高からしむ。斯くしてその精勵と謹直は、行内のみに止まらず、安田財閥直系諸會社にも洽聞するところとなり、幾何もなく安田信託東京支店副支配人に推擧され金融課長を兼務したるが更に同支配人に昇進し、昭和十二年二月大阪支店支配人に就任現に取締役に列せり。氏は夙に篤實温厚なる人格を顯はれ來れるが、俊敏犀利なる人材と稱するよりも寧ろその徳望を以て生命とする偉材なるに似て、或はメスの如き繊細なる切れ味と謂ふが如きは認められずと雖も天資徳くまで謹直であり、堅實であり、而も温厚なる長者の風格を備へたる人物と評すべく、しかも一見平凡の如く觀ゆるも然らず、才能を内に秘して胸底に流るゝが如き頭才を藏し乍ら、飽くまで其功を誇らず、氏は亦奇道を歩むことを欲せず、堂々と常道を歩みしめて、而も周密たり。何等の卓拔たる鋭謀なきが如きも微動だもせず。大探題として統率し行く氏の力の非凡さ其處に氏の興行の深きを

千葉成東中學校

同校は明治卅二年千葉縣山武郡成東町に佐倉中學校成東分校設置の件示達せられ、同年四月同町湯坂法宣寺を假校舎として入學式を舉行せるを其濫觴とし、同年六月校舎竣工現在の箇處に移轉、翌年四月分離開立して現時の名稱に改め、同年十二月に追びて、寄宿舎を建設、草創の當時は學級數僅かに八、卒業生數十名を出すに過ぎざりしが、爾來數次に亘りて敷地の擴張、舎屋の増築を行ひ、漸次發展、更に園藝用地、運動場、農業實習地の擴張、校舎及寄宿舎の大改修を行ふに及び、大いに面目を改め、學級數も漸増して現在十六、生徒定員一千名の多きに達せり。同校の特色として學々べきは、精神教育と勤勞教育に重きを置き、所謂靈肉一致の訓練によりて

天下有用の材を培養するに努めつゝある點に在り。由來育英の事たる、諸多の事業中至難のものとして稱せられ、首腦者若くは統率者の如何に由りて、其結果に霄壤の差違を生ずるは嗚々を要せざるところにして、其教導方針の長短調節の難き、或は習育に偏して無情冷血の利己主義者を作り、或は體育に専らにして粗放暴慢の氣風を作り、然らざるものは小乘的倫理訓練を以てして、心氣を萎縮せしめ守株退嬰小廉曲謹の人を作るが如き、既往の傾向比々然らざるは莫く、殊に近年都鄙の學堂を通じて農耕園藝其他我國固有の體育法を閉却して新流行の運動競技に熱狂するの弊風を生じ來れるは識者の夙に深憂するところなるが、成東中學は幸にして歴代の首腦者何れも識見卓抜の士を迎ふるを得て、如上の方針を一貫し、校訓綱領ともに名實相映ふの好成績を爲來するに至れり。當代の巨人天谷光瑞師曰く「我國土地狹小にして物乏しく人稠し。寸地尺土と雖も此を惜まざる可からず。此を惜むこと大禹の寸陰を惜むが如くならざる可からず」と。這箇國家的見地よりするも同校が農耕園藝を重視し、此を實行して年來怠らざるは識者に見て以て會心事とするところなるべく、全校を擧げて生徒の交る／＼囂鬧の間に掣動を把り、日夕營々として勤勞するところ、奮勃たる生氣の磅礴せるを見て欣快の

念慮する能はざるもの、嘗て夫れ郷黨父兄のみに止まらんや。獨特の校風風に著聞し幾多有爲の人材を出せるは故なきに非ざるなり。

校長 久保田勝彌 同校出身者中出色の英才にして、中等教育者として、教養閑歴ともに閑然するところ無く、嘗て銚子商業學校々長として令名あり。昭和十一年十二月母校に迎へられてより、新なる希望と渾身の精力を以て事に當り、如上斯界の弊習を鑒みて倫理教育を主眼とし、殊に情操の訓練に力を注ぎ、一方在來の勤勞教育を重んじ、常に躬を以て徒弟を率ひ、精勵倦むことを知らず。此を以て校規愈々振肅、校風益々發揚、業績大いに擧り、識徳力量兼備の良指導者として生徒父兄景仰の的となり、他方人士の間に聲望隆々たり。

(所在地 千葉縣山武郡成東町)

實業家 八馬兼介

現時、關西に於ける少壯實業家を云唯する者は、必らず先づ八馬兼介氏の名を劈頭に擧ぐるを常例と爲し、その將來の大成を爲すや必然なりと評するに何人も異見を抱かざるものゝ如し。元來八馬家は播磨西宮に累世居住

する豪商にして、世々精米業を營み來れる家柄なり。先々代八馬兼翁出づるに迫んで、家運益々開宏す。翁天分剛復にして卓見、而も奇略縱横の才物なりき。幕末既に近代産業及び貿易の急務を認識し、その見識に立ちて運輸交通機關の急進なる整備の必要を認め海運業に榮着す。時恰も嘉永以來國民上下を震憾せしめたる外交、通商問題の影響として一般の海事思想勃興の折柄、廢藩置縣と共に各縣所有するところの汽船を一時に民間へ抛下ぐるの機に際會す。兼介翁の先見の明に畏服す。この海運業の淵源こそは、現に威望堂々たる八馬汽船株式會社の發祥たると共に、大八馬家今日の繁榮を齎したる因據と謂ふも強ち不當に非ずして翁こそは八馬家中興の資材たるのみならず、我が海運界に貢獻せる鴻鶴たらんばあらず。

先代榮藏氏能く翁の緒言を享生し、舉一反三の才智を有し、舉措亦敏誠、内外の教養頗る重厚たるものありしが、惜むらくは天、命を齎さずして早世す。氏若し今日健在なりせば、既に偉業を樹立し、社會公共の事に眞摯し、以て其徳望隆々たるものあらん。眞に惜むべきなり。

現主兼介氏は先代榮藏氏の嫡男として、明治二十七年十二月に生誕す。八馬家傳統的品位を有ち、凛然たる風格は能く内に聰穎を藏

せしむ。長ずるに迫んで策を策下しに負ひ、早稲田大學商科を卒業す。大正六年家督を相続し、祖業たる海運業に精勵する傍ら、漸次實業界に關與して頭角を顯はすと共に、社會公共によく財を散す。大正十年三月、令弟安二良、駒雄兩氏と共に多聞合資會社を設立して八馬家の保善に資し、同十四年一月に及んで時運に鑑みて、海運業を組織變更するに八馬汽船株式會社と爲し、彼此兩社の率領に就任して祖業の榮顯に努む。昭和三年公共事業に盡瘁せる功を以て紺綬褒章同飾版三階を下賜せられ、嚮に貴族院議員に任じ勳四等を賜ふ。家門の榮華益々極れり。冷徹なる頭腦、剛毅にして義氣を藏する賢材は、今や圓熟滑脱に入らんとす。現に兵庫縣多額納税者に列し、神戸銀行取締役頭取、日本毛織、共同信託、神戸大同信託、東洋バルブ、八馬汽船、神戸土地興業、日伯拓殖各取締役、阪神急行電鐵、山陽中央水電、東京寶塚劇場、神戸海上火災保險、朝日海上火災保險、西宮酒造各監査役、多聞合資會社代表社員、寶梅園土地建物合資有限責任社員等々の銀行會社重役に推戴され、一面日本船主協會理事として斯界に寄與せるところ尠からず。

氏の前途こそは多望の一語に盡くると謂ふべし。
(住所 兵庫縣西宮市久保町)

埼玉 杉戸農業學校

「都市は人これを造り、田園は神これを造り給ふ」とは古詩人の名言なり。美にして平和なる農村の自然と純眞素朴の農村人の心とは古詩人の眼底に「神の造り給ふもの」として輝きたるは世人亦疑はざるどころならん。然るに近世産業革命は、蕩々として物質文明の弊風に依存せしめ、此の美しく平和なる農村を日に月に荒廢に導き、農村人は只徒らに光を追ふが如く、都會生活に憧憬し、之れに集中するに至りたり。斯くして都市の影眼は近世文明の象徴となり、之れにより副生せられたる田園の荒廢疲弊は深憂に堪へざる普遍的現象となりしは遺憾として識者の等しく痛感するところなり。

然れども之れは獨り我が國のみに止まらず世界共通の悩にして、而も世界大戰後の産業恐慌は更らに之れに拍車を附加し、諸産業の萎微衰頹は失業者の輩出を招致し、中小工業者の困頓を白熱化し、極度の農村行詰りを現出したると言ふの秋、之れが對策は單に對症療法のみに因らずして、その究極の原因を掘み根本療法を計るは洵に重大なる刻下の急務にして、これが眞摯なる學校教育に依つべき

もの甚大なりと言ふべし。然りと雖も從來の教育は教室の教育にして、其の結果は形式に硬化したる抽象的知識の傳達に止まり、動きつゝある實際生活に即したる眞の人格陶冶に必須なる智識技能と新時代の産業技術經營に當り得る頭腦と筋肉の併行したる實際的教育の建設を計ることを以て、農村振興の鍵と言べきなり。

我が杉戸農業學校は農業縣埼玉縣北葛飾郡杉戸町に在り、農場即教場主義を以て農業教授と實習とを不可分、體の實際化を斷行、祖國愛より出する共同精神と國際觀念を基調として農業經營上必要なる科學的訓練と人格的修養とを兼ね備へ、土地親愛、農業尊重の氣風を體得せしめ、有爲有能の農民を養成しつゝある全國有数の優秀農業學校にして、模範學校として有名なる存在なり。その設立は大正十年三月にして、高等小學校卒業程度の三ヶ年修業制となし、初代校長尾池秀雄氏より河田恵治氏を経て現校長島海茂氏に至りたるものにして、其間大正十四年一月學則を改正し、尋常小學校卒業程度を以て、入學資格とする修業年限五ヶ年生徒定員二百名に變更される外徴兵猶豫一年志願兵の特典。理化室及動力室計百二坪落成、校友會事業として兵器室十五坪の築造、二教室及講堂並に會議室建設其他倉庫室、葡萄室、醫藥室、堆肥舍、農

場内屋敷置場、畜舎、更衣室、奉安殿、ペーバーハウス等逐年校舍附帯各設備の全面的整備を敢行、殊に昭和八年二月には、畏くも賀陽宮恒憲王殿下には農業教育御視察の恩召を以て本校に御臺臨の榮を賜ひたるを以て、此の光榮を永久に記念すべく、翌九年四月模範農村を設立し「光榮之村」と名づけて本校教育の目的達成と農業及農村の榮光を招き、以て恩召に報ひ奉らんことを期しつゝあり。今や本校は敷地面積五千九百坪の宏大なる學園を有し、凡ゆる近代施設を網羅したる新進農業學校として職員二十八名、生徒總數四百名を擁し、多數有爲の人材を世に送りたる全國に優秀美を誇るに至りたるものなるが、之れ本校創立以來歴代校長並に職員一致協力の努力の芳果と稱すべきなり。

校長 島海茂敏

高等官三等待遇、從五位勳六等杉戸農業學校長としての氏は、全精力を注ぎて農業教育に盡瘁し、縣下に於ける徳學兼備の教育家として其の崇高なる奉仕的精神と勇敢なる犧牲的精神とは世の鑑識なるべく、渴仰措く能はざるところなり、氏は明治二十四年十二月七日を以て埼玉縣に呱呱の聲を擧げ、夙に東京帝國大學農科入學農業教員養成所卒業後、島根縣立農林學校教諭を拜命、以來島根縣立濱田高等女學校、埼玉縣

立熊谷農學校、同縣立職業學校各教諭を経て大正十三年公立實業學校校長兼公立實業學校教諭に任ぜられ現職に至りたるものにして、其間小學校教員檢定臨時委員、主要作物品種改良協議員、優良農具審査委員、埼玉縣湖沼改良委員、同縣北葛飾郡社會教育委員、同縣奨學資金學貸與者詮衡委員會委員、青年學校視學委員、第七回世界教育會議農業教育常任委員、時局對策農業教育調査委員會等に歴任し、昭和八年八月高等官三等を以て待遇され從五位に叙せられ、翌九年十一月天皇陛下の特別の恩召に依り、教育功勞者として埼玉縣廳正殿に於て單獨拜謁を仰付けられ、御紋菓を賜る、資性濃厚篤實にして誠實清廉、而かも氣宇潤達にして人を容るゝの器量有し、接する人をして敬慕の情を抱かしむ。子弟を導くに孜孜として教へ、諄々として訓し常に國家愛國の熱情を披瀝して罷ます、非常時局に直面し、而も農村國家對策の喧唱せられつゝあるの秋、氏の努力は我が農村更生に寄與するところ大なるべし。

(所在地 埼玉縣北葛飾郡杉戸町)

實業家

熊谷順之助

現に京都府多額納税者に列し砂糖商の最高

峰として其名を馳する沈香屋熊谷商店は氏の經營たり。明治二十五年二月先代得之助氏の長男として京都府に誕生す。資性俊敏にして頭腦明晰しかも其思想健實にして、感情の洗練されたるは實に京都實業界稀に見るところ。大正二年同志社中學在學中不幸にして尊父得之助氏の訃に遭ひて家督を相続し、卒業後家業を繼ぐ。

元來熊谷家は、京都に於ける舊家に屬し、當主たる氏は連綿八代に迫る。當家は往古より累代「沈香屋」の名の下に賣藥業を營み、その家號は京洛人に周く親しまれたる。四代前砂糖商に轉業以來益々隆昌を極め、砂糖商として一流の實績を備へたり。先考得之助氏は濃厚たる典型的人物にして、篤行のほまれ都内に高く、其人格は市民の畏敬頗る厚く、一面同業者の信用また重厚の人材たり。氏は斯る人徳高き父君の血を正しく享けて、優るとも衰らざる良き父君の繼承者たり。學成りて後は終始家業に一途精勵二十幾春秋、今や名實共に備はる都下一流の砂糖商となれり。曩に京都市砂糖商人が業界の刷新改善取引の圓滑、向上發展等を計るべく、京都砂糖商組合を結成するや、氏は榮譽ある初代同組合長に推戴され、能くその責務を完ふせるが、其の改選に當り、再任したる如きは、氏の人格が如何に同業者に反映せるかを物語る證左と

トンボ鉛筆製作所

鉛筆は西曆一五六四年英國カンパランドに於て、始めて製造せられたるものにして、我國にては明治十年東京に製造せられしを淵源とし、爾來斯業の發展顯然たるものありて今や世界屈指の生産地たるの名を博するに至れり。トンボ鉛筆製作所は多年製法と原料に苦心研究を持續し來りたるを以て、その製品

は本邦鉛筆界に比倫し得るものなく、又世界市場に於ては最優良品の名聲高くして、多大の絶讃を受けつゝあり。工場は我國最新科學の粹を採用して、その設備斯界第一を以て知られ、權威ある學究を網羅せる研究部の指導下に製作なしつゝあるが故に、その製品の優良なるはまことに當然のことと云ふべし。當社製品中精密製圖・寫眞修整に最適なるトンボ製圖用鉛筆は分子緻密・硬度整然・黒色鮮明の三大特徴を具備し、紙質を損傷することなく筆觸の明快さ他に比を見ず。科學的經營上よりして一般事務の合理化最も肝要なるがこれが爲めには使用器具の完全なるを選ばざるべからず。茲強く且つ紙を損傷することなきトンボ鉛筆は事務用として、最良の條件を備へり。如何なるザラ紙にも圓滑に書け、折損少く耐久力強きトンボ速記用鉛筆は速記・編輯用に宜用せらる。トンボ朱藍鉛筆は折損少く、朱、藍共に被覆力強く、發色又鮮明なるに依り、青寫眞等に明顯に印字するを得て、製圖用、チェック用、校正用等用途頗る廣し。一般筆記には墨色鮮明にして、且つ印字抹消を防ぐ爲硬度規準より色濃度強く、模造紙、上質ノート等の筆記用紙に適す様考案せられたるトンボ筆記用鉛筆あり。學生の就學上幾多の事情を考慮して製作せられたるトンボ學生用鉛筆、運筆上の負擔を軽減し、塗

色優美鮮麗なるトンボ婦人用鉛筆、トンボ兒童用鉛筆等あり。更に特殊品としては醫、理、工、化學上の必要品たるトンボグー・マトグラフ、圖面用、大工用に供せられる繪具鉛筆等何れも優秀を以て多大に歡迎せらる。當所の特製なる黒紫コッピは舶來品を凌駕するの輝寫回数有し、その鮮明なるは斯界の驚異となれり。以上の外當所の製品種類は三百餘種に上り、それらの用途に適すべく、數多の特質を備へ、廣々たる好評を得て國內は云ふまでもなく海外廣く市場を席捲せり。

(所在地 東京市淺草區柳橋二丁目)

名産家

西形吉次郎

福島縣事業界に鏘々を以て稱せられ、その寸暇を割きては福島市政に關與し、或は幾多の公共事業に活躍して、その名聲頗る隆々たるを西形氏といふ。氏は福島縣人西形吉太郎氏の長男にして、明治十五年十二月に呱呱の聲を擧ぐ。四十一歳君の後を襲つて味噌製造業を繼ぐ。夙に事業界に驥足を延ばし、奇策縱横その才腕は顯然として牙へ、福島財界にその地盤牢固たるものあり。現に福島電燈、鹽那電氣各社長、福島電氣鐵道、富山電氣鐵道各取締役、合資會社西形商店、合名會社信

謂ふべく、亦愛市愛町心の頗る厚き事は常に公共自治のためには敢然立つて盡すところ多く、現に堀川京極會々長に推され、昭和十二年三月京都商工會議所議員の改選せらるゝや美事當選の榮を得たり。氏は未だ四十六才の働き盛り將來市政、商工、自治に貢獻するところ蓋し期して待つ可きものあらん。目下家業は西堀川丸太町下(電話西陣三三七・六〇八番)に卸問屋を、西堀川下長者下(電話西陣八三八番)に小賣店を有し、多數店員を使用し業容益々旺なり。因に家庭には淑行高きこう夫人との間に同志社大學在學中の長男幸三君(大正六年生)の他一男四女の團樂にして家庭的にも幸福を羨望され居れり。

(住所 京都市上京區西堀川通下長者町下丸)

達鹽元賣捌各代表社員の椅子に就く。氏の社長たる福島電燈は前經營者の放漫政策により業績惡化して、收拾つかざるまでの悲境に沈淪せしことあり。氏は再三の懇望により固辭するを得ず、昭和三年同社に入りて社長となり、業務の刷新と業礎の再建に力を盡くし、種々の困難も之を克服し、難關又よく突破して快刀亂麻を斷つが如くに問題を處理せり。斯くして事業は次第に發展に赴き、業績愈々向上に向ひ、日ならずして社業は挽回されて更生全くなり、遂には今日見るが如くに顯著なる躍進をなすに至れり。當社の經營方針は一、先づ東北一二、二、日本一の善き會社、三、世界に誇る吾會社をモットーとなし、時世の進運に伴ふサービスの改善と事業の徹底的合理化を計り積極的に需要の開發に努めつゝあり。當社は東北地方に於る電氣事業の草分けにして明治二十八年十月の創立に拘る。爾來事業は一張一弛ありたりとは雖も、年を逐ひて膨脹し、現時に至りては公稱資本金一千四百二十七萬二千圓、内拂込額一千四百八萬七千圓に達す。主たる事業は電燈電力の外に瓦斯をも供給し、供給區域は福島、栃木、茨城、山形の各縣に及ぶ。當社の昨今の如き隆昌を見るは偏に現社長西形氏の手腕に負ふものなること疑説を要せず。氏の當社に在る限り、その發展は期して待つべきものあり。天

資高過にして識見高く視野又廣し。福島市々會議員に選ばれて侃諤の辯を揮ひ、又嘗て福島商工會議所副會頭に推されしことありしも現在同會議所常議員たり。即ち、福島市々政に或は同市の商工業繁榮に盡瘁すること多大にして、その功勞燦然として輝けり。事業界に政界に、或は公共方面等その活躍多方面に及び、その聲望同地方に冠たるものあり。頭腦綿密にして明晰果敢、實に俊敏なる才腕を有す。而して資性溫雅篤實、人を容るゝの度量大にして、その徳風は人の深く敬仰する所たり。語曲旅行等を趣味と爲し、品性高き好箇の紳士なり。いち子夫人は宮城縣人大沼正七氏の三女にして賢夫人を以て稱さる。長男政次君（大正四年生）三男新吉君（大正十一年生）三女ヨシ嬢（大正六年十月生）四女ナカ嬢（大正八年十二月生）の二男二女あり和氣家室に満ちて世人に羨望せらる。

（住所 福島縣福島市榮町八）

南洋拓殖株式會社

時局以來我國策遂行の重要使命を擔ひ、所謂大陸政策を緯と爲し、南進政策を經とする躍進日本の經濟的發展力を現實に顯現する拓殖事業中、我が南洋拓殖の任務は蓋し重大な

るものあらん。殊に滿洲事變並に上海事變を契機として、わが南進國策は俄然強調され、北滿が皇威の北方生命線ならば、南洋は南方皇威の洽及線なればなり。由來南洋の資源開發は久しき以前より、所謂原料自給の建前より重視せられたりしが、その開發方針の具體化は頗る消極的なりしが、南進國策の強調するに及びて、急激に具體化せしことは資源貧困の現状より鑑みて、必然的歸趨たらざるべからず。而して南洋に於ける拓殖事業として、從來比較的企業規模の大を誇示せしは、護謨栽培と製糖並に水産事業等なりき。然れ共之等の事業會社は要するに東洋拓殖の傍系會社たる南洋興發を除きては、最近に於てこそ護謨會社の國策寄與も顯著化せるも、從來は頗る消極的經營を餘儀なくせられたり。時局以來南洋資源の開發が再認識せらるゝや、政府當局は進んで國策具現の第一歩として南洋拓殖株式會社を昭和十一年十一月下流を以て設立せり。當社は資本金二千萬元、内拂込額一千二百九十萬九千五百圓（内政府出資一千五百四十六萬六千圓（拂込済）民間出資二百三十六萬三千五百圓（四分の一拂込））を擁す。政府出資は當社創立以前に南洋興發のアンガウル並にフアイス兩島の燐礦採掘權及び之が諸設備の一切を其現物出資とす。換言せば、南洋興發の燐礦採掘事業規模をその儘

擴大せるものにして、積極的増産を企圖する爲め新たに當社を設立せんと稱すべきなり。而して當社の現況は南洋興發當時の燐礦石採掘にて、現在主要採行礦區はアンガウル島より年産八萬尾内外を挙げ、從來の年産に比して一萬七千尾程度の増産を現し居れるが茲二期間中には其二倍程度の増産を豫想する。斯くてこの飛躍的増産の達成こそ本社設立の意義も生ずべく、故に當社も可及的速に増産實現に一意努力しつゝあり。燐礦石の國內需要量は現に百三十萬尾を計上し、この内約八割は之を海外輸入に俟つ状態にして、當社の増産實現が急望さるゝも故なしとせず。且つ國內燐礦石需給關係の異和調節に頗る重大なる役割を課せられつゝありと謂ふべし。昭和十二年上期の積出販賣量は、五萬三千四百五十一英噸、之は南洋興發當時のアンガウル燐礦區に於ける採掘量その儘なるが、時節柄原礦の値上り益が豫想外に達せしため收支差引八十九萬二千圓の利益金を挙げ、六分の初配當を行へり。同下期成績は上期對比尙ほ一段の向上を示すものと料さる。豫定の増産と市價昂騰に依る換算好化が、確實に期待される故なり。當社は主要事業の外傍系事業として南洋アルミ、南洋鳳梨、太陽眞珠南洋電氣等に投資し、その實權を把握せり。之等傍系事業は何れも二、三期間中には増産

増配を期待され、當社の多角經營の合理化と國策會社としての本格的發展が如實に立證されるゝ日も遠きに非らざるべし。

尙南洋興發會社傍系の南興水産も愈々當社に買収さるゝ機運となれり。

當社重役は取締役社長深尾隆太郎、理事北岡春雄 同下田文一 同杉田芳郎 監事和田駿 同林壽夫の諸氏なり。

社 長 深尾隆太郎

由來當家は、近江源氏眞野太郎定義の嫡男刑部行信の後裔にして六世を経て深尾重良に至り、高知藩祖山内一豊に仕へ、其客臣となり、土佐國佐川一萬石を食む。更に十世を経て重光に至りて維新の際勳功あり。其孫重孝明治三十九年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる。氏實は重孝の嫡孫にして父需翁の時分家せるも、茲に宗家を繼ぐ。明治十年一月大阪天王寺に於て出生同十九年需翁の家督を嗣ぎ、大正十四年當家を繼ぎ襲爵仰付けらる。長じて三十二年東京高商を卒業し實業界に入る。曩に海外興業、南米殖民、朝鮮郵船、大阪商船の重役に推され、本邦海運界の先覺として其令名治し。昭和十一年十一月南洋拓殖株式會社設立に當り初代社長の重職に擧げられ「地の利、人の和に如かず」と喝破し、白髮童顏六尺の巨軀を以て呵々大笑す。南進國策遂行の統帥として

實に適任たり。氏は傍ら日清汽船取締役を兼ね、貴族院議員に列す。

（所在地 南洋群島パラオ諸島コロル島）
（東京事務所 東京市麹町區内幸町東洋拓殖ビル内）

住友生命保險株式會社

數億の巨富を包蔵し、多角的事業に邁往して、その内容確固不動を誇示し、八紘を震盪せしむる我が住友財閥は、かつては不振滔々たりし一弱體生命保險會社を其屬翼下に收むるや、僅か十三四年にして光輝燦然たる現時の住友生命保險を築き上げたなり。

過ぐる明治四十年五月、下郷傳平翁主宰に日之出生命保險と名を打つて創業されて以來住友系に移る迄の二十年間、即ち大正十四年末の保有契約高は、僅々二千六百三十四萬圓に過ぎず、しかも、改題當時は天下恰も眞の電力國營論の物騒然たる如く、保險國營論據頭し爲に住友當事者の困難は實に想像に餘りありしが、爾後「保險國營は實現の可能性なし」との西園寺公の鶴の一聲を以て愁眉を開くを得て、以來一瀟千里、十數年間の今日に於て、實に六億數千萬圓の保有契約高を悠に突破するの一大飛躍を敢行し、今や十億圓

を目指して突進し、斯界を嚆矢たらしむるの盛觀裡に在るなり。而して此偉業達成は經營主體たる住友王國に對する社會各層の信用濃厚に據るは勿論なるも、直接經營の衝に當り萬全の才腕力量を發揮し來れる小倉會長、創立時代よりの殊勳者國府監査役、北村事務を始め、舉社一致の力調に依るは論を俟たざるどころなり。

當社近年の業績は新契約、純増加共に斷然膨脹を來し、五大會社は勿論、その發展性の急速を以て鳴る三井生命保險會社すらも凌駕する状態に在り、一面その資産内容の堅實なるは所謂住友財閥精神が銘刻され、實に面目躍如たるものあり。茲に最近即ち昭和十二年度の業績の大綱を觀るに、當期業界は事變に據る多數壯丁の應召、契約、配當率の引下、保險金課稅案、國營論の據頭等々、非常環境を迎へたるが、この間國策的諸方策を協力實施し、契約成績は依然良好に推移し、一方經理方面に於ては、戦死支拂保險金の加増（全社十二年度中被保人戦傷病死は約一萬件、一千四百萬圓と推定）保險料拂込豫期間延長從業員の應召、證券市場不況低利公債保有の勸奨、資金調整法制定等々諸事情は、財産運用上に可成の影響を豫測せしめたり。而も由來比較的濃厚を誇る斯業の財政的基礎、乃至協同的市場出動に依る買支への奏功等相俟ち

て殆んど著しき動搖を示さざりき。此間當社は新契約、純増加等各効率は十一年度より一段飛躍し、業界稀有の好成績を顯揚せしめたり。斯くて當期末保有契約高は實に六億五千二百五十四萬二千餘圓に達し、前期末の四億六千三百四十五萬九千圓に比し、一億八千九百八萬三千圓を一舉に獲得し、十億圓まで餘すところ三億五千萬圓なるが、當社の五ヶ年十億圓達成計畫（十五年度迄に）は代理店五千、外務員三千の特異營業陣容に據り、一年内外早く成就せらるべし。之を要するに當社は今十億圓達成を目指して、全能力を擧げつつあるが、實力行使が最近であるだけに、將に順風滿帆の貌なりと謂ふべし。

而して計上益は前期六十萬二千圓、當期六十一萬圓にて大差なきも、之を特別計算に依る契約者配當金及び同準備金としての年度内繰入額、前期繰越金を加減せる所謂正味益金は、前々期二百十二萬圓、前期二百五十六萬五千圓、當期二百八十二萬五千圓と、前期に比し、二十六萬圓の増益なりき。利益率分に就ては配當七分、賞與四萬圓合計十萬圓足らずにして、前々期同額なればそれだけ契約者乃至社内保留勘定に好果を齎せるなり。而して當期の収入保険料は二千九百九十一萬二千圓にして前期より一千二百四十七萬圓の著増を示し、責任準備金は四千二百六萬七

千圓、契約者配當準備金は三百二十七萬四千圓と、頗る順調を遂げたり。要之當社最近數期の營業成績は正に高潮に達し、資産膨脹も之に伴ひて急激なり。十億達成は案外速かるべし。

取締役會長小倉正恒 事務北澤敬二郎 取締役住友吉左衛門 同八代則彦 同阪本信一 同古田俊之助 監査役國府精一 同植村繁太郎

北澤敬二郎 由來住友財閥には、偉傑簇出す。氏も亦其一人として特殊なる存在なり。明治二十二年山形縣に呱呱の聲を擧ぐ。資質理非曲直感の熾烈なる逸材たる反面溫柔敦厚の士たり。大正三年東京帝大法科を卒へ、同七年渡米ブリントン大學に法學を積み歸朝後、住友王國に入り、住友電線製造所支配人たりしが後ち同系住友倉庫常務取締役兼に推され傍ら傍系富島組取締役として本領を發揮す。昭和十一年六月住友生命保險に轉じ經營の第一戰に立ちて奮闘し、不拔の功績を立てし國府精一事務が、住友合資理事に榮轉の結果其衣鉢を繼ぎ以て今日に及べり。事業的才腕に加ふるに才智にも拔群の氏の前途は將に洋々たるものあり。聖業保險の爲益々健在ならんことを。

（本社 大阪市東區北濱五ノ二）

の爲めには多忙なる時間を割きて盡瘁し、仁情に富みて困窮せる者には、救恤の手をさし伸べ、清々淡々疎々落落々悠揚迫らざるその温容は世人の聖者の如くに悦服する所たり。氏は明治九年六月を以て呱呱の聲を發し、三十五年分家す。夙に東京法學院に學び、三十年同學院を卒業して官界に身を投ず。個僅不羈にして霸氣滿々たる氏は、規矩繩規をこととする官界は、その資質に合致せず、鵬翼を事業界に張らんとし、直ちに職を辭す。三十三年には開榮株式會社の重役に擧げられ、同社の經營に參畫して敏腕を揮ひ、多大の事績を擧げて大いに名聲を博せり。爾來事業界場裡を八方活躍し、俊敏の才略と群技の巨腕を示して財界に牢固たる基礎を築けり。後に神戸湊西銀行監査役、島根合資會社監督社員、明石商業銀行相談役、湊商會相談役に推され更に末正合資會社、神戸發動機製造所、篠山電燈各社長、篠山電鐵代表取締役、新宮輕便鐵道日本網布、神戸造船所、播州倉庫、兵庫電氣軌道各取締役、神戸取引所、日本綿業、神戸共益各監査役、六ノ坪合資會社代表社員その他數多の銀行會社に重役として列して多大の貢獻あり。識見高邁にしてその抱負又頗る遠大にして、事業界の發展の爲めに幾多の寄與をなし、その功績まことに没すべからざるものあり。茲に従七位勳六等に敘せらる。

尙ほ家庭にはたけな夫人、長男治氏、二女道子嬢ありて、まことに春風駘蕩として和氣堂に充てり。

（住所 神戸市林田區梅ヶ香町一ノ二）

東京人造絹糸株式會社

我國人絹工業の躍進は全世界をして驚倒せしめつゝある所にして、米國レイヨン・オルガノン誌の調査に依れば、昭和十二年世界人絹生産高は、總額十七億二千五百萬封度に達し、その間我國生産高は、豁然世界第一を占めて合計五億封度を占め、世界の覇者として仰ふがれるに至れり。東京人造絹糸株式會社はまさに世界人絹界に於ける、日本の躍進を矚目せしむるものありて、近時の發展まことに目覚しきものあり。即ち、時局前に於ける當社の人絹生産力は、日産僅か五萬の小規模にして未だ微々たりしが、近時相次いで擴張行はれ、昨今に至りて、日産能力四十萬に飛躍し、斯界を睥睨せしめつゝあり。而も最近ステイブル・ファイバーへ進出するに決し、既に工場建設を了し、操業を進めつゝあるを以て、將來の發展まことに刮目して俟つに足る。當社は人絹界の新銳會社として業界注目

の焦點となれり。大正十五年四月に創立せら

れ、累次の増資を経て現時公積資本金一千五百萬圓、内拂込資本四百五十三萬一千五百圓生産設備に資産内容を、將又業績に頗る優秀を以て名あり。最近の營業成績を見るに七年上期無配當なりしものが、同年下期より七分配當を復活し、人絹界の活躍到來より業績大いに好轉し、九年上下兩期には利益率三割内外を擧げ、一割二分の高率配當を行へり。其後人絹界再び沈衰し、成績亦漸次低下したるを以て、當社は遂きよく一割より八分五分と減配し、内容の充實を圖りしが、十一年に至り市價昂騰して成績好轉を見たるにより、十一年下期二分増配の七分、十二年上期一分増配して八分と配當の引上げをなせり。十二年下期に於ては、支那事變の勃發に依りて市價の變動を見たるも、當社成績は終始順調を以て推移し、前期より三萬圓を増加して九十萬三千圓の利益金を擧げ、八分配當には益々餘裕を加ふるに至れり。尙ほ當社に於てはステイブル・ファイバー事業の將來性あるに着目し、新たに該事業に進出するに決し、これが設備の建設を行へり。即ち、靜岡縣沼津市に十萬坪の土地を買収し、ステイブル・ファイバー専門工場の新築をなし、工事半ばに事變の勃發、鐵材暴騰に遭遇せしも、無事この難關を切抜けて工事の竣成を見るに至り、昭和十二年十二月二十五日盛大なる落成式を舉

實業家 末正盛治

關西財界は我國事業界の中樞部を形成するものにして、その事業多種多様に亘りて、綯綯多彩を極むると、商況まことに活氣横溢して、角逐甚だ劇甚なると、或は萬般俊邁の材幹綺羅星の如くに存する等、その實勢力關東財界を凌駕するものあり。

我が末正盛治氏は財界を馳騁すること多年にして、賦稟の才腕を揮ひて赫々たる業績を擧げ、斯界有數の偉材として絶大なる聲望を博し、關西事業界の雄鎮として衆庶より多大の推敬を受く。頭腦明晰にして視野廣く、其慧敏なる眼識は事業界の趨向を洞察して、我掌を指すが如くに誤りなく、千思萬慮慎重に對策を廻ぐらし、明斷果敢神速に行動して商機を逸せず獲得し、その卓効の才腕は財界嘆服の的となれり。天資卓犖豪放にして意氣豁如、器局闊大にして抱擁力に富み、よく人の言を採用してこれを事業活動に應用し、或は人材を拔擢して要所に据え、常に超然として小事に拘泥せずして、清濁併せ呑むの雅量有し、衆を統率するの將器を具へ、眞に將に將たるの偉材たり。心性峻潔にして高義清節の人格者として多大に崇敬を受け、社會公共

行せり。工場敷地八萬九千坪、總建坪三萬五
百八十二坪にして、工場建物は本館建物を始
め附屬の發電所、藥品工場等何れも鐵筋コン
クリートの近代建築にして、その生産設備
最新式の斯界屈指の新鋭工場たり。生産能力
は日産二十五萬なるも實際能力は四十萬以上
に上ると云はる。當工場にはコスト低下策と
して硫酸製造装置、二硫化炭素、硫化曹達の
自給設備を設置せり。尙ほ吉原工場に於ても
操短による休鑄を利用してステール・フア
イバーの生産をなし、既にその製品は一流紡
績會社の間に於て多大の好評あり。當社のス
テール・フアイバーへの進出は、業界の多
大に期待をなしたる所たり。又曩にステ
ール・フアイバーの紡績加工を企圖し、資
本金一千五百萬圓の東京纖維工業を新設して
變體増資の計畫中なりしが、資金調整法の實
施によりて、一時右計畫を中止し、新たに
新株一株十二圓五十錢、總額二百五十萬圓の
拂込を徵收するの模様なり。斯くの如く當社
近來の發展頗る顯著なるものありて、今後の
躍進更に著しきものあるべし。因に重役は左
の諸氏なり。社長町田徳之助、専務下郷豊彦
常務渡邊定二、同小島喜六、取締役渡谷正吉
同前川道平、同大川鐵男、同小西喜兵衛、常
任監査役鈴木修三、監査役町田三郎、同兼房
重太郎、同伊藤竹之助、同市橋勝二。

社長 町田徳之助 關東財界の耆宿とし
て推重せらる町田氏は慶應二年四月東京淺草
に生れ、夙に樋口逸齋に就きて漢籍を學ぶ。
明治二十二年小町絲を發賣し、同年日本メリ
ヤス會社を創立して、財界に驥足を伸ばすに
至れり。後千住馬車鐵道の社長に推され、更
に八王子に蠶絲取引所を創設して、斯業の發
展に貢獻する所多く、明治四十二年には二德
商會を創立し信託業を開始す。東京貯藏銀行
東武鐵道、豊國銀行、駿豆電氣鐵道各社重役
に歴任して、賦稟の才腕を揮ひ、財界を八方
馳騁して、巨大なる業績を残せり。資性濃厚
謹恪、器局宏量、その人格高尚清朗にして德
操又嚴正、氏の高風は衆庶の深く長編する所
たり。

専務取締役 下郷 豊彦 下郷氏は明治二
十八年十月を以て生れ、大正六年熊本藥學專
門學校を卒業す。富士製紙、中ノ島製紙各社
を歴勤して仁壽生命保險株式會社に入る。累
次榮進して大阪支店次長、調査課長となる。
曩に樟太工業取締役、上毛電氣鐵道監査役に
選任せられ、大いに鋭鋒を示してその英才を
謳はる。頭腦俊敏にして奇略縱横、難關に逢
着するも勇斷決行、よくこれを突破して多大
に業績を擧ぐ、資性濃厚謹恪温情に富みて襟
度宏く、磊落豪放にして抱擁力豊かなり。社

員従業員より慈父の如くに崇敬を受く。少壯
敏腕の實業家として近時氏の名聲大いに掲れ
り。その前途刮目するに足る。
(所在地 東京市日本橋區大傳馬町二丁目)

事業家 高野馬二郎

合資會社高野時計金屬品製作所代表社員と
して、氏の盛名近時愈々隆々たるものあり。
當社は時計の製作に於ては東海屈指として聞
え其製品の優秀にして精確なること斯界に於
て既に名のある所なり。置時計を始め各種金
屬品並に木製品の製造を行ひ、時計の年産額
十五萬圓、此價格五十萬圓餘に上る。その販
路は日本全國は無論のこと、滿洲、支那、南
洋方面に大量に輸出せられ、その金額一ヶ年
に數十萬圓に達するの盛況たり。又近年の時
局關係よりして、兵器部分品の需要頗る激増
し、操業頗る多忙を極め、晝夜兼行全能力を
擧げて作業をなせり。現に海軍省指定工場た
り。製品需要の著増、業績の躍進と共に、工
場設備は逐年擴張せられ、職工数は現在六百
餘名の多數を使用し、近々更に大擴張の計畫
ありといふ。以てその盛況の程察するに足る
べし。抑々當製作所は先考高野小太郎氏時計

製作事業の將來性あるに着目して、明治三十
二年に始めて業を創む。爾來幾多の難關を克
服して斯業に精勵し、春風秋雨多年の辛苦を
經て、その大をなすに至れり。高野馬二郎氏
は小太郎氏の長男にして、明治二十五年五月
に生る。慶應義塾に學び同校卒業後先考の後
を襲ひて、合資會社高野時計金屬品製作所代
表社員として經營に専念す。氏資質慧敏にし
て着實よくその業に勉勵して倦むことを知ら
ず、父業を守りて愈々その大を達成す。人物
快活にして磊落、人に接するに虚心坦懐、名
古屋事業界に多大の信望を拂はる。氏の今後
こそまことに興味のかゝる所たり。
(住所 名古屋市中區三田町七六)

龜清兩替店

富に對する欲望は、この世に生を享けた人
間の何人にも共通する所にして、實に人間性
の根本に根ざせる本能的慾求たるものなり。
されどこの富を如何にして取得するかの問題
とならば、その手段は無限に存すれども、何
れも大同小異にして、これが蓄積の難きこと
何れにも共通す。然るに此處に一つの例外あ
り。即ち、株式投資に依る利殖の道にして、
古今東西これに依りて一舉莫大なる富を獲得

したる例數ふるに違なき有様にして、利殖手
段としての株式投資は他の如何なる手段にも
冠絶せるものといふを得べし。乍併、株式取
引店中には、往々にして投資家の事情に疎き
を奇貨となし、種々と詭計を弄して、財貨を
掠むる者未だ跡をたゝす。されば株式投資に
は投資家の多大なる戒心を要する所たり。即
ち、取引店は慎重に選擇をなし、取引には充
分なる研究を要するは論なき所たり。當店は
龜清兩替店の名を以て、斯界に絶大なる信用
を博し、その屋號は三代前の店主安田善次郎
翁と軒を並べて兩替業を營みし時、使用せし
ものにして夙に業界に喧傳せらるゝ所たり。
東京株式取引所々屬の長期、短期、實物、國
債の各取引員を兼ね、甚だ股盛を呈せり。東
京は勿論、大阪・京都・名古屋・福岡各市場
の一流取引先と最も密接頻繁なる取引をなし
常に同業者の注目を蒙り、如何なる特殊株に
ても又如何に多數の株數にても迅速有利に取
引をなすを得て、顧客は争ひて店頭に殺到す
るの盛況を呈せり。殊にそのサービス全く至
れり盡くせりにして株式始め各種有價證券に
關する調査は、投資家の取引の如何に拘らず
之れが引受けをなし、その調査たるや實に精
密にして、又極めて適確たり。當店には一般
市場の動向、世界經濟の趨勢、又各種銀行會
社の内容調査の爲めに機關を設置して、資料

の蒐集をなせるを以て有價證券に關する一切
の質疑にして判明せざるはなし。各種の刊行
物を發刊して、希望者には無料を以て配付な
すが故に、之に依りて研究なすか、或は當店
に直接相談なすかの何れを選びて株式投資を
行へば、安全且つ確實に利殖の目的を達成す
るを得べし。當店にては顧客共存共榮を旨と
なし、營業方針は堅實主義を堅持し、確實第
一を標榜せるに依り、顧客よりは多大の信用
あり。關東震災直後、東京株式取引所が、營
業繼續の認可を得て、帝都復興の爲めに一大
飛躍をなさんとするに當り、理事長郷誠之助
氏の名を以て、同店の斯業に於ける功績を讃
へ、金洋壺一對を贈りて之を表彰せり。營業
方針の堅實にして基礎の鞏固なる所より、顧
客常に店頭に雲集し、商況頗る盛況を極めて
多大の好成績を擧げつゝあり。當店の將來更
に一段と發展を辿ることならん。

經營者 山中清兵衛 山中氏は聰敏高才の
手腕家として斯界に名高く、斯界に嚮然た
る聲望あり。山中家は累代江戸に住し、舊家
として名あり。龜清の屋號を以て三代前の店
主兩替店を營みて頗る繁榮を遂げ、多大の信
用を博せり。先代清兵衛氏は夙に安田銀行に
入り、在社十八年に亘りて精勵し、大なる事
績を擧ぐ。安田善次郎翁その功績に對して氏

に援助を與へ、株式現物買賣業を創始せしむ。氏は夙起晩寢、夜々として經營に盡瘁し、後株式仲買人となりて、總清の屋敷を名乗り多大の發展をなすに至れり。當主清兵衛氏は元取引員木村源兵衛氏の三男として、明治二十一年八月東京市日本橋區に生る。夙に山名家の養子に迎へられ大正十二年家督を嗣ぎ前名金三郎を改む。明治四十二年中央商業學校を卒業し、大正六年には經濟界觀察の爲めに世界を漫遊す。數次取引員組合委員に選出せられしが、昭和八年六月には衆望を擔ひて、實物組合委員長に推戴せらる。視野廣く、蘊蓄豊富なると共に識見甚だ高邁にして、斯界有数の材幹たり。資性温恭謙恪にして氣格頗る俊邁、業界の發展の爲めには一身の利害を捨て、顧みず、東奔西走して馳騁し、その貢獻せる所没すべからざるものあり。仁情に厚く、抱擁力あり。その器局の大なる所業界に多大の推敬を受く。東株代行並に大日本證券投資會社重役に列し、事業界に多大の信望あり。宗教は眞宗にして、盆栽、音楽、旅行を趣味とす。尙ほ文夫人は兵庫縣土庫柳田農氏の令姉にして、共立女子職業學校出身の才媛たり。三男二女ありて、家堂和氣に充てり。

支配人 生方貞一 資性温恭にして謹恪眞摯熱直業務に淬勵し、當店の發展に寄與す

献身的に活動し、萩町時代に推されて同町々會議員となる。次で同萩町が市制實施に當りては、市會議員として最高點を以て當選し、爾來引續き市會議員たりしが、遂に市會副議長の重職に就くに至れり。其他、萩醫師會評議員兼理事たる事數期阿武郡醫師會評議員兼理事たる事も數期に及ぶ、猶萩市醫師會創立以來之れが役員となり現在、同醫師會副會長たり。他而出身校たる日本醫科大學同窓會山口縣支部長をも兼ね。氏に對しては、衆望常に一致し、選舉運動の如きは、市・郡・縣・國會等悉く氏の之れに參照せざるはなく、その活動の政界に及ぶる功績又顯著なるものありて、恩師山根正次氏の選舉には勿論、藤田包助氏、久原房之助氏等の代議士選舉戦等に於ても、熱烈なる氏の支援を受けざるはなし、之れ一に氏の同地方に多大の人の望あればなり。他方、地方公共方面にも貢献する處尠からず。即ち、縣社春日神社總代は二十年連続し、村社多城神社總代も實に、二十二年に亘る長期間勤め、種々斡旋盡力して貢献せし所僅少なからず。其他、大少の公共團體、自治團體等の役員たるは頗る多數に上り、以て氏の地方の社會公共方面へ寄與せる所多大なるを知るを得べきなり。

(住所 山口縣阿武郡徳佐村)

る所多大なるが生方氏となす。氏は明治十五年三月東京府生方鳳憲翁の長男に生る。明治四十年早稲田大學商科を卒業し、更に渡米ウヰスコンシン大學を卒業す。歸朝後横濱増田貿易に入社せしが、後證券界に離れんと欲して大正十二年當店に入る。直ちに鋭鋒を示して多大に實績を挙げ簡拔せられて支配人の要職に就く。温情に富み、部下の爲めに指導意りなく慈父の如くに敬慕せらる。圓滿なる家庭にははま子夫人との間に一男二子あり。(所在地 東京市日本橋區江戸橋一ノ七)

名 産 家
世 良 捨 松

萩市會副議長として萩市政界に勢望高く、又萩醫師會副會長として、同地醫界に寄與する事多大にして山口縣下に其才幹を謳はる。世良捨松氏は、當世立志傳を飾るの人物にして、氏の過去に於ける粉骨碎身眞に血みどろの苦闘史は、何人をも襟を正さしむるものありて、今更ら景仰の念禁じ難きものあり。氏は明治十六年七月山口縣の瑣々たる一農家に於て、呱呱の聲を揚ぐ。幼少より聰敏にして既に他の村童とは大いに異なるものあり。生家は甚だ貧しかりしも氏は奮勃たる野心を抱き家業の手傳に精勵しながらも、密そかに期す

水口物産株式會社

創業以來堅實主義を信條と爲し、國際的飛躍を敢行し、我が輸出入業界に特異の地歩を占有し、今やその盛名赫然たる斯業界の金字塔たり。抑々水口物産株式會社は、我が貿易界に聲望を謳はるゝこと久しき水口達氏が、永年實着に經營せし個人經營の貿易業を、大正九年四月に追んで、時勢に順應して株式組織に革め、資本金五十萬圓を以て設立せる輸出入を目的とし、特に鋼鐵材、諸織物、洋酒類を取扱ひ、以て今日に迫るが、其間水口氏の謹直高潔なる人格を、能く經營に正姿反映するところあり。頗る地味にして堅實無双の經營は、逐時業礎の確立を期すると共に、今日の旺盛を招來せしめたり。殊に取扱品中の特殊鋼は品質優秀にして、善普器針其他部分品に最適品として讃嘆されつゝあり。今や我が國現下の進むべき必至の方向としての國防の充實、國民生活の安定とは、自後の輸出の増進如何が重要視さるゝ折柄、當社今後の發展を期待さるゝや切なるものあり。

取締役社長 水口 達 本邦貿易界に夙

る所ありて、野良の餘暇に讀書研修四年、遂に父の許しを得て熱るが如き希望を抱きて郷關を後にして他郷に出でしも、素より依頼すべき人もなく、炭山、板山、商店等に蹂躪して具さに辛慘を嘗めしが、不屈不撓氏はよく之を克服せり、明治三十五年七月に同縣福地村開業醫、原正之氏の門を叩き、醫學を修むる事、苦心數年、同三十七年春、醫術開業前期試験に合格せり。漸く此處に將來の第一歩を開拓するを得たり。同三十九年遂に上京し醫學士、代議士たる山根正次氏の書生となり且又之れに師事して夜間、私立日本醫學校に學ぶ。螢雪の功空しからず、同校を卒業し、同四十年に後期學術試験に合格、次いで四十二年秋實地試験に合格、此處に目出度年來の希望を實現するに至りたり。氏の歡喜察するに餘りあり。乍然試験に合格し其資格を得たりと雖、醫は仁術にして、醫師たる者の職責の重大なるを自覺し、更に九州醫科大學及び東京に於て、消化器病、小兒科、内科學等の講習を受けたり。明治四十二年十一月、世良家に迎へられて、スエ女と結婚し、同四十四年現地に開業せり、斯業を始むるや、患者に對してはまことに親切なると共に斯業に對して研究を怠らさず。之が爲めに多大の崇敬を受けて氏の門前に集ふ患者夥しく大いに信望を加ふるに至れり。氏は尙ほ社會公共の爲めに

に其名を馳せると共に、終始一貫皇國學生の惠澤に對し、奉公殉國の誠を殊す盡忠報國の士たり。明治二十二年五月、福井縣士族水口胤津翁の長男として、同縣鯖江町に生誕す。胤津翁は純正高徳の傑士たり。氏克く翁の血を汲みて天稟克明たり。幼にして亞賢の相あり。長じて貿易界に身を投じ、その才智を發顯す。大正五年京濱通關並に神谷貿易兩社を、同九年同族を以て當社即ち水口物産を設立して社長に就任し以て今日の覇業を成す。傍ら他社重役を兼ね、曩に東京商工會議所議員に推選され、躍進日本貿易のために努力し實踐的指導者たりしは周知の事實なり。曩に桑梓の地たる鯖江町小學校に、教育奨勵資金一萬圓、日本赤十字社福井病院に建設費として巨金を寄贈する他、美事善行枚舉に遑あらず。蓋し我が貿易界の代表的人物と稱さるゝも故なしとせず。(所在地 東京市日本橋區馬喰町三ノ二)

水 先 案 内
工 匠 幸 三

名古屋港關係の事業に於て、近年工匠氏の活躍にはまことに顯著なるものあり。氏は海運界に身を置くこと既に多年。その間幾多の

危険災厄に遭遇し、九死に一生を得るの奇運に翻弄せられるなど、其行履は小説以上に奇なる冒険談の持主なり。年少にして氏は海に憧れ、海運界に活躍せんことを志して商船學校に入る。明治四十三年同校を卒業し爾來海上に於て活躍し、大正五年には甲種船の免狀を下附せらる。歐洲大戦當時歐洲航路に従事し、大正六年十月二十日適々大西洋カナリ島附近に至りたる時、獨逸潛航艇に襲撃せらる。船長たる氏は泰然として乗組員の短艇に避難するを待ちて後、重要書類を携へて短艇に移乗し、洋上を漂流すること十六時間にして、佛國汽船に救助さる。それよりスペイン國汽船或は日本郵船汽船等に便乗して翌七年二月全乗組員と共に神戸に歸着するを得たり。昭和十一年八月名古屋放送局の請により、氏はその間の苦心談をば放送せることあり。大正七年神戸港歸着後職を辭す。尙ほ氏は歐洲航路の外南北米航路の船長たりしこと有りて、東西兩半球に足跡印せられ、我海運界屈指の知識と經驗の持主なり。大正十年二月名古屋港の水先案内となる。名古屋港に於ける水先案内事業は、明治四十年頃杉江、中川兩氏愛知縣々廳より水先導導の許可を受けて營業を開始せるに始まる。名古屋港は逐年發展し、これと共に水先案内も増員せられ大正十一年には組合を結成す。昭和五年十



氏三幸匠工

二月に至り、選信省令を以て水先區指定せられ、現在に於ては六名を以て組合を結成し、氏は其鉗鎖として最も優秀なるエキスパートとして重きをなせり。天分濃厚にして圭角とれ、八面玲瓏玉の如き人格者なり。其一面世故にも長け人情にも通達し、實實にして誠直而かも宏量豪放多大に信望を受くる所なり。現に名古屋港通船會社取締役たるの外名古屋工作所の經營者として事業界にその驥足を馳せつゝあり。明治二十二年三月香川縣人工匠富三氏の長男として生る。頗る多趣味の人に於ては、弓道、撞球、ゴルフ、ハイキング等多方面に及ぶ。尙ほ良子夫人は明治二十七年生れにして神戸縣立高女の出身たり。四男一女の子嗣者にして家庭は毎に春風駘蕩として圓滿を極め四隣羨望の的となれり。(住所 名古屋市熱田區東町玉之井)

株式第一銀行

人も知る我國に於ける國立銀行の首座にして、帝國銀行發達史に絢爛を誇示する先覺たり。即ち當行は明治五年十一月制定の國立銀行條令に基き、翌六年六月、資本金二百四十四萬八百圓、株主七十一名を以て設立されたる第一國立銀行をその前身となすものにして時の大藏大丞故子爵澁澤榮一翁の熱烈なる首唱の下に實現せる由緒深き行履を有す。當初未だ日本銀行設立されず。政府の命に依り官金の出納を取扱ひ且つ紙幣發行の特權を許可せられたれば、恰も中央銀行の觀を呈せり。同二十九年九月廿五日、國立銀行としての營業滿期となり、稱號を株式會社第一銀行と改稱し、純然たる私立銀行として、面目を改むるに至れり。その間内地は勿論、同十一年には韓國釜山に早くも支店を設置し、相隨で京城、仁川其他にも支店を措き、日韓兩國の財政經濟の發展に裨益し、同三十八年勅令に依り、韓國に於て銀行券を發行する特權を賦與せられ、同國の中央銀行として活躍し、同四十二年現朝鮮銀行の前身たる韓國銀行の創立を見るに及び、其業務を讓渡し、大正元年二十銀行を、同五年京都商工銀行を各合併し、

更に昭和二年五月東海銀行を、貴に古河銀行を各吸收合併せり。而して其間大正五年迄に八回の増資を累ね、同八年二千七百三十萬圓を増資、昭和二年三月七百五十萬圓を増資し以て現資本金五千七百五十萬圓を擁するに至り、其事業規模は東京二十二ヶ所、京都五ヶ所、大阪六ヶ所、神戸二ヶ所、名古屋二ヶ所其他二十ヶ所の支店を有し居れり。支那事變突發以來、我が金融界は政府の巨額の追加豫算と臨時軍事費特別會計豫算とを議決し、出金額を十二年度の原豫算に合算せば、總額五十四億圓と謂ふ空前の膨脹を示したり。茲に於て我が經濟界は之に對應すべく政府の所謂財政經濟三原則、即ち生産力の擴充、國際收支の適合及び物資需給の三點を目標に戰時體制の整備へ一大進展を遂げつゝ來り。當行に於ては斯かる時運に即應すべく金融機關の本分に則り、國家總動員下に於ける金融業の職責を遺憾なく遂行せられつゝあるは、洵に慶福と稱すべく、尙且つ事變發生以來既に陸海軍に各二萬圓を獻金し、更に年頭各五萬圓宛を獻納せし事は、特筆に値すべき快事と云ふべし。十二年下期に於ける當行の業績を通過するに、叙上の如き緊急異常なる産業界の大勢を反映し、諸計數に少からざる變化を生ぜるを見る。先づ預金は期末殘高十一億二千餘萬圓

に達し、前期末に比すれば、六千六百餘萬圓を増加せり。之は主として當座預金、通知預金、特別當座預金等に於ける五千萬圓の著増に依るものにして、産業界の如何に活況を極めしかを如實に反映せるものと云ふべく、尙此短期の預金著増に對應して、手許準備金並にコールローンの兩者が合計五千九百萬圓を増加せり。次に貸出金は期末七億二千二百餘萬圓、前期末に對比して五千四百餘萬圓を増大せるが、之に對して有價證券保有高は國債に於て一千萬圓、地方債に於て千五百餘萬圓社債に於て千四百萬圓の減少を主なるものとして、約四千萬圓を減少し、總額三億五千二百餘萬圓となれり。上述の如き資産負債の變化に應じ、損益勘定に於ては先づ貸付金利息及び割引料の収入が前期よりも約二百八十萬圓を増加し、反對に有價證券利息収入は百八十餘萬圓を減少せるが、經常益は大體好良に推移し居れり。加之臨時益に於て有價證券賣却益其他相當多額の利益を挙げたれば、四百十餘萬圓を割きて有價證券の價額の鎖却に充當す。之れは當行の資産内容を更に堅實にして、將來財界の變動に十分耐へ得る用意と爲し、今日の困難なる國策の遂行に適應するものとして適宜の處置と云ふべし。尙當行は今回渡邊銀行を買収するに決したるが、實現の暁は神奈川縣下に營業區域を擴

大し、同縣下商工業發展の爲貢獻すべく期待されつゝあり。而して堅陣を誇る人的資源は取締役頭取明石照男、常務取締役澁澤敬三、同田中二郎、同尾上登太郎、同佐々木修二郎、取締役杉田富、同上條憲治、監査役大澤佳郎、同永井啓同竹内善造の諸氏なり。取締役頭取 明石照男 第一銀行に職を奉ずること實に三十有餘年。同行の堅實なる傳統を保守し、行運の隆盛を謀る傍ら、金融界に盡瘁せる我が財界の巨星たり。明治十四年三月、岡山縣明石靜一郎翁の長子として同縣和氣郡英保村の聚落に呱呱の聲を揚げ、大正二年家督を繼ぐ。長じて策を東京帝大に負ひ、明治三十九年法科政治科を卒業す。三菱合資會社に入りて其俊敏の才幹を顯はれ、後ち第一銀行に轉じ、大阪支店副支配人、京都支店兼伏見支店支配人、本店副支配人等に歴職す。其間澁澤青淵翁の姻縁に適ひ、愛婿となる。常務取締役を経て副頭取に推され、曩に石井頭取の後を襲ひて頭取に就任、以て今日に迫る。傍ら東京貯蓄銀行取締役を兼ね、東京銀行集會所會長、東京手形交換所理事に推舉され、本邦財界に九鼎大呂の重きを爲せり。(所在地 東京市麹町區丸ノ内一ノ二)

會社名 菊水製作所

近來國民の衛生思想益々高まり、醫藥に對する認識の度も愈々深み一方關係業者の献身的努力は能く製品の劃期的向上と相俟ち醫藥の躍進的發展は邦家のため洵に慶福に堪へざるなり。

合名會社菊水製作所は、創業以來茲に三十餘年、終始一貫眞摯而も崇高なる精神を以て誠心誠意製藥機械の製作に従事し來れる我國新界の至實的存在たり。顧るに當社創業當初は業界の黎明未だ至らず、斷然舶來機の謳歌時代たりしかば、國産機は何等の權威認められざりしために、幾多苦難に遭遇したるも百折不撓能く研鑽を異ねたり。茲にその過程を述ぶれば、即ち研究時代より工業的に推移するに及んで其技術に眞念の漲れる絶對精巧なる機械を生み、舶來品模造時代を通過して、今や獨創に依る高速度機が水準を突破し、海外にまで續々進出せるは當社の最も誇とするのみならず、躍進工業日本の爲萬丈の氣を吐きつゝあり。而して當社の生涯は明治四十年補松太郎氏の染着に係り、爾來長足の發展を遂げたるものにして、現代代表者島田留吉氏は創立當初より補氏を輔佐し、當社今日在らしめたる一大人的資源たり。

當社の各種製劑機及び醫療機械は我國に於ける最優國産品の王座を占むるものにして、醫藥界の雄大阪武田長兵衛商店並に野野義商店其他一流新業者が使用し、尙昭和七年來印度、南米、エチプト等に旺んに輸出されつゝあり。因に當社の代表者は島田留吉、補利三郎諸氏なり。

菊水製作所製作用明機

No 7-A 自動捲取製劑機
本機は超大型製劑機にて壓力の強大、能率増大、機械音響絶無等々大型最高級品として専門家の試用の結果其優秀性を認めらる。

No 8-A 四式製劑機
本機特徴は迴轉式製劑機にて各々破損し易き部分に特殊金屬を使用し、主要齒車の如きも「特殊鋼」に最新の超理法を施し、其構造堅牢壓力強力を必要とする製劑製造に適す。從來迴轉式は變型の錠子を製造し得る事至難なりしも當社の製品にて如何なる變型製劑をも任意に製劑するを得、運轉中も容易に錠子の「量」壓一等の調節頗る自由なり。

No 8 H
プリーリー60 種×8 種、ストローク45(毎分)、同轉數116回(毎分)、所屬面積一平方米、所要動力1.2馬力、重量四五〇磅。
(所在地 京都市中京區西大路押小路)

岸松館主 岸平三郎

周知の如く「岸松館」は、關西一流の料理店にして、其の暖廉の古き點に於て、斬新なる營業振りに於て、特異の存在として斷然異彩を放ち、而も業礎益々鞏固にして、隆運の一路に進展し各方面の信望を鍾めつゝあり。

當館は創業以來實に二百五十餘年の歴史を有し、其の間數代に亘る店主の堅實にして而も時代に順應せる經營とは、先づ顧客の認識を深め、業者間には終始錯錙の重きを爲し、名實共に常に關西に於ける同業の古豪として盛名を馳せつゝあり。而して當店の既往を叙するは多岐多様、累世絢爛たる業績を擧げ茲に之を詳述するは許されざるを遺憾と爲すも先代芳兵衛氏の世に遡んで、明治二十四年を以て八百八川の流れを湛へたる水都大阪の中樞長堀川畔、柳葉川風になびく好適の地に移り、堂々の建築に數寄を凝らしたる客間を以て面目を一新し、更に業務を擴張して精彩を發揮し、昭々乎々たる隆盛のまゝ當主平三郎氏に追へり。

當主平三郎氏は、先代芳兵衛氏の令弟にして先代に後繼者なく、氏が一切を繼承せるものにして、氏は明治五年四月の出生。天賦温

厚にして敏誠、廉潔にして實實なり。而して毎に聞く侃々諤々の論議は、能く人の肺腑を刺るものあり。斯業界稀世の賢材にして風骨亦至高至純、名利に恬然、阿諛せず、求めず幾多要職に推戴さるゝこと絶えざるも、殆んど固辭して享けざるも敢て冷淡に非ず。表面に立つて好まざるなり。常に裏面に在りて奔命し、専ら家業に精勵しつゝあるは蓋し畏敬さるゝ所以なり。現に大阪新町警察署管内科



岸平三郎氏

理業組合顧問たり。

富子夫人は舊三田藩九鬼子爵家老たりし武藤家より出で、温雅にして淑徳の譽れ夙に高く、當年六十二歳なり。長男博常氏(三十二歳)は天稟頭腦明晰にして寛厚の青年、その行藏父君に努駕し、現にその良佐として家業に専念し、近く隠居せんとする嚴君の後繼者として遺器を誦はれつゝあり。
(住所 大阪市西區西長堀北通三丁目)

藤山海運株式會社

藤山海運は北海道小樽に本社を置き、同地方有数の海運會社にして、社業頗る盛況を呈せり。當社を創立せるは現社長藤山良三氏の嚴父藤山要吉翁なり。翁は年少にして潮氣に富み、沈思重厚の士たり。嘉永四年七月に生れ、慶應三年十七歳の時北海道に渡り、明治五年親成に當る藤山家へ養子に迎へらる。翁は養父を説きて海運業を始め、これが經營に没頭す。適々養父の死に遭ふに及び、決然大理想に邁進せんことを期して、克苦奮勉す。

その奮闘實を結び、次第に事業發展して逐年成績向上し、明治十二年第六十五銀行小樽支店支配人に聘せられ、同地方産業開發に盡瘁す。超へて二十四年和船を廢して新たに西洋型帆船を採用、續いて二十七年汽船を建造して一大躍進を企圖す。更に翁は漁場、農業、牧畜、植林、鑛山等の開發に手を染め、或は倉庫業、鐵工業を興し、草創期に於ける本道の事業界に貢獻せる所大なり。尙海運事業發展の概況を述べんに、最初北見沿岸諸村と小樽港との航路を開き、それより日本海沿岸諸港、神戸及下關に延長し、樺太、浦鹽斯德、尼古米に及ぼし、政府の命令航路として小樽

天鹽線、函館線、函館網走線等あり。時には損失を蒙りたるも、命令を遵守し航路せること一度もなく、年々社業盛大に赴き、業績又好調を辿る。翁は又北見沿岸に漁場を開きて鱒鮭等の漁撈に従ひ、樺太、薩摩嶺にも漁場を經營し、業界、社會公共事業方面に貢獻せること數知れず、種々の公職に選ばれて各方面に幾多の功績あり。明治四十四年藍綬褒章を下賜さる。後嗣子藤山良三氏に後繼社長を譲りてその職を退く。

社長 藤山良三 嚴父の後を襲ひて藤山商店主

藤山海運、藤山倉庫各社長、泰北銀行頭取等の要職に就く。温恭典雅の好紳士にして、小樽事業界に名望高く、謙讓にして寛潤、多年勤続せる古參用人の言をよく採用し、事業の繁榮に専念す。人物眞摯謹直社務にはまことに熱心なり。明治二十四年生れの前途春秋に富む少壯實業家にして、父祖の業を發展せしめて、將來大いに名聲を高めん。

支配人阪本柚太郎並に藤山倉庫支配人吉川力松の兩氏は、三十有餘年來先代要吉翁と寢食を共にし、藤山家に貢獻せる所大なり。兩氏とも温厚篤實、精勵恪勤を以て聞え、内外の信望甚だ厚し。
(所在地 小樽市北濱町五丁目)

田林菊三郎商店

近年の我國財政の膨脹よりして「金より物へ」の動きは一段と助長せられ、株式その他の有價證券に對する投資熱はあらゆる階級に瀰漫しつつあるが、東京株式取引員中信用の堅確なるを以て知らるゝ田林菊三郎商店は顧客大いに殺到して多大の繁忙をなせり。その創業は大正三年にして、取引の堅實にして店礎の堅きを以て大いに好評を得、顧客蜂散續集して、商況年と共に股販を加ふるに至れり。創業以來取引所より「賣買高多額」なるの故を以て表彰せられしこと屢次あり。銀盡及歪を下附せられしこと十有五度に及べり。事實を以てするも、此の間の消息を察知するを得べし。相場に多大の變動ある毎に、その陰に必ずや、當店の活躍ありて、常に大量の商内をなせるを以て、當店の動きは取引員間に多大の注目を拂はるゝ所となれり。東京株式取引所々屬一般、短期、實物、國債取引員として、取引員資格中の最高の資格を有し、更に國債、地方債、社債の賣買及募集引受、一般株式賣買募集並に證券擔保金融を行ひ、證券界に於て多大の勢力あり。尙ほ當店に於ては投資家の便宜の爲めに當店特設の考査部

を一般に開放し、各種資料の蒐集研究、各會社の内容業績の調査をなして何人の質問に對しても懇切に回答す。又各方面専門家の執筆に係る嚴正の財界指針書たる「インベスター」株界關係の各種統計を蒐集採録せる「證券旬報」日々各證券出來値表「東京公債株式公表」等の定期刊行物を刊行して、一般投資家の研究參考の資とせり。以上の如く、當店是他店に見ざる幾多の特點を具備せるを以て、業界に異色ある存在として好評噴々たり。

店主故田林菊三郎 頭腦萬敏にして周匝緻密、その慧眼商機を洞察して逸せず、その天性の才智は證券界の敬服する所たり。田林氏は明治六年十月和歌山縣に生る。青雲の志を抱きて上京し、蠟鼓町所在の龜田商店に入り、次いで東株仲買人豊川商店に代表者として入店す。多年證券界に於て八方馳驅し、奇策を縱横にめぐらして大いに名を成せり。資性豪放磊落にして抱擁力大なり。曩に日本橋區より區民に推されて區會議員に立候補し、僅かに百八十圓の選挙費を以て美事最高點にて當選の榮譽を擔へるは即ち氏の人格を、單的に表示せるものにして其片鱗を窺ふに足らん。然るに、惜む可し、天氏に命を續さず。卒然として逝く。悼しき哉。享年六十五旬なり。

(所在地 東京市日本橋區兜町一丁目)

京都名望家 木俣富之助

京都市政の爲に或は社會公共事業の爲に常に献身的努力を捧げて東西盤旋し、市民よりは慈父の如く敬仰さるゝ木俣富之助氏の名は餘りにも有名なり。

氏は明治二十三年滋賀縣加藤家に呱呱の聲を擧げ、年少にして風雲の雄圖を懐きて上洛し、生絲問屋として當時名ありし井山商店に入り、勤實に十有八年に及び重席に在りしが、同店の廢業に遭ひて之を退く。後ちその非凡の材を認められて木俣家に入婿す。元來木俣家は川口樓と號して貸座敷業を営み來れる舊家なるが、氏は之を繼承せるも資性俊敏と豪快を顯はれ、江州男兒の有つ豪固なる意志と堅忍力の外氣縱横、而かも仁侠に當む、氏は之が經營を殆んど雇傭人に委ねて自らは奉仕、犧牲的精神の燃ゆるが儘に公僕に甘んじて日夜黙々として只管馬車馬の如く徒け廻りて席の温まるを知らず。常に私事を没却して市政、町治のために盡瘁する傍ら一般社會公共事業にも眞摯活動するところ多大なり。現に京都府方面委員、菊濱學區會議員、菊濱少年救護委員、菊濱教育會幹事、京都市救護委員、日本赤十字社分區長、京都

社會教育委員、七條自治會幹事、菊濱聯合會幹事等十指に餘る名譽職、役員等に推舉され市民より常に感謝「生佛」の尊稱を以て迎えられつゝある傑士たり。曩に氏が永年公益事業、教育事業に貢献せる功顯著なる故を以て京都市知事、京都市長より表彰され、其他感謝狀、褒狀を授與されし事故舉に遑あらず。最近に於ては菊濱小學校々舎一部改築案議決さるゝや、之が改築委員長に推されて能く情勵努力し、殆んど私事を顧る暇なく其責務を完ふしたるが如きは、世人の到底爲し能はざる義舉なり。而して氏は己を持するに至極嚴格にして禁酒を勵行し、規律整然たる生活を爲し居りて斯業界は言はずもがな、世上稀れに觀る人格者として信望愈々高し。時局益々重大を加ふるの秋、氏こそは救世の義民として讃へられつゝあるは宜なりといふべし。乞ふ。切に自愛以て奉公の至誠を盡されん事を。

(住所 京都市下京區六條通り河原町東)

大日本麥酒株式會社

我國麥酒界に於て覇を唱へ、その基礎牢固として揺ぎなく、その製造に尙る麥酒は甚だ美味芳醇を以て噴然たる好評を博し、愛飲黨

の絶讃措かざる所にして、近時全國各地の外廣く海外にまで進出し、當社の名聲は諸外國にまで喧傳せられるに至れり。その創立はまことに古くして、麥酒といへば直ちに大日本麥酒の名を答ふるが如くに、廣く人口に膾炙せるも謂れなきに非ずして、當社の社史こそ實に我國麥酒事業の沿革史をなせり。即ち歐米文物の輸入旺盛を極めし明治中葉の頃、我國麥酒事業も漸く盛況を現出するに至り、大小の諸會社群立して角逐し、斯業の前途まことに憂ふべき事態を呈せり。茲に於て農相清浦奎吾氏斡旋の下に、故藤澤榮一、故大倉喜八郎、故田中市兵衛、故馬越恭平の諸氏相圖りて、明治三十九年三月日本麥酒、札幌麥酒、大阪麥酒の三社合同の上、資本金五百六十萬圓の大日本麥酒株式會社を創立す。爾來當社に於てアサヒ、サツボロ、エビスの三麥酒釀造販賣せられることとなれり。當社の母體となりし日本麥酒は、明治二十年九月に創立せられ、札幌麥酒は明治九年北海道開拓使廳の設立せし札幌麥酒釀造所の後身にして、大阪麥酒は明治二十年を以て創始せられ、何れも斯界に歴史の古きと規模の大なるを誇りし大會社なれば、當社は嶄然業界に巨峯の如くに聳てり。創立以來社長故馬越恭平氏の才腕に依りて目覺しき發展を遂げ、明治四十年三月東京麥酒株式會社を買収して清涼飲料水の製

造に着手せしを手始めに、四十一年には一千二百萬圓に増資し、大正五年支那山東省青島に青島工場を設けて、支那滿洲方面に對する供給の根據地とし、同九年三千八百萬圓に増資し、同年日本硝子工場を買収して資本金を四千萬圓に増加す。翌年博多に新工場を設け十四年名古屋工場を新設、昭和三年七月には一舉八千萬圓に増資をなせり。適々昭和八年四月馬越恭平氏物故せられたるが、大橋新太郎、植村澄三郎氏等麥酒界の統制に奔走し商相中島久萬吉男の斡旋の下に根津嘉一郎氏社長たりし日本麥酒釀造株式會社(資本金一千三百九十八萬八千圓)との合同成り、資本金九千四百萬圓(拂込資本五千九百八十萬圓)の大會社として麥酒界に覇業を確立せり。次いで麒麟麥酒株式會社と提携して麥酒共同販賣株式會社を創立し、爾來同社と共同販賣を行ふこととなれり。現時當社の發賣する麥酒にアサヒ、サツボロ、エビス、ユニオン等の各種麥酒の外アサヒスタウト、リボンントロ等の各種清料飲料水あり。何れもその製品優秀にして多大の歡迎を受け、絶大なる好評を博せり。當社の工場は東京目黒及び善妻橋大阪吹田、半田、西宮、札幌、博多、名古屋青島、埼玉縣川口等の各地にあり。その工場は全國に分布し、設備頗る整備して他社の追從を許さざる所なり。その年産能力麥酒一百

二十三萬石、清涼飲料水一百五萬箱に上りて、尙ほ當社の子會社に朝鮮麥酒、滿洲麥酒、麥酒共販を始め、當社の製糖工場並にその附帯事業を分離獨立せしめし日本硝子、共榮商會あり。昭和十二年下期に於ける有價證券投資額は二千三百七十八萬三千圓に達せり。尙ほ最近の業績を見るに昭和十二年下期に於ける製品売上高三千六百十六萬圓、利息及配當收入一百八萬七千圓、その他を加算して總收入四千一百二萬八千圓に達し、他方總支出三千四百四十一萬一千圓ありて、差引當期利益金六百六十一萬七千圓となれり。對拂込資本利益率二割二分に相當す。それに對して恒例の二割二分配當を附せり。日支事變の勃發以來國民一般の自肅に依り、麥酒の需要稍減退せる傾もあるも、今後北支、中南支の明朗化と共に對支輸出は、將來多大の増加を見ることとなるべし。當社は内地需要の六割を供給してその地盤頗る鞏固なるものがあるが、更に海外輸出に於ては七割餘を占め、その販路は滿洲、支那、海峽殖民地、蘭領印度、暹羅、英領印度、南洋の各地にして、近時に至りては歐洲方面にまで輸出せられ、その品質良好にして、美味芳醇を以て多大の好評を受け、輸出は年を逐ひて増進の趨勢を示せり。當社の前途こそ定に洋々たるものありと云ふべし。重役に取締役會長大橋新太郎、専務高橋龍太郎

二十三萬石、清涼飲料水一百五萬箱に上りて、尙ほ當社の子會社に朝鮮麥酒、滿洲麥酒、麥酒共販を始め、當社の製糖工場並にその附帯事業を分離獨立せしめし日本硝子、共榮商會あり。昭和十二年下期に於ける有價證券投資額は二千三百七十八萬三千圓に達せり。尙ほ最近の業績を見るに昭和十二年下期に於ける製品売上高三千六百十六萬圓、利息及配當收入一百八萬七千圓、その他を加算して總收入四千一百二萬八千圓に達し、他方總支出三千四百四十一萬一千圓ありて、差引當期利益金六百六十一萬七千圓となれり。對拂込資本利益率二割二分に相當す。それに對して恒例の二割二分配當を附せり。日支事變の勃發以來國民一般の自肅に依り、麥酒の需要稍減退せる傾もあるも、今後北支、中南支の明朗化と共に對支輸出は、將來多大の増加を見ることとなるべし。當社は内地需要の六割を供給してその地盤頗る鞏固なるものがあるが、更に海外輸出に於ては七割餘を占め、その販路は滿洲、支那、海峽殖民地、蘭領印度、暹羅、英領印度、南洋の各地にして、近時に至りては歐洲方面にまで輸出せられ、その品質良好にして、美味芳醇を以て多大の好評を受け、輸出は年を逐ひて増進の趨勢を示せり。當社の前途こそ定に洋々たるものありと云ふべし。重役に取締役會長大橋新太郎、専務高橋龍太郎

常務渡邊得男、同山本爲三郎、取締役高杉晉同橋本卯太郎、同松丸壽、同大倉兼馬、同根津啓吉、同柴田清、監査役辰馬悅藏、同植村泰二、同宮島清次郎、同福島茂富、小坂順造の諸氏あり。

常務取締役 高橋龍太郎 高橋氏は經驗豐富淵博にして、練達堪能の士として斯界に多大の名聲あり。夙に三高工科専門部を卒業して、後獨逸に留學して、専ら麥酒の醸造法の研究をなせり。歸朝後新智識を以て大いに蘊蓄を傾けて社業に精勵し、その貢獻せる所多し。特拔せられて吹田工場長大阪支店長となり、次いで常務取締役の要椅に選出せらる。設備の改善、品質の向上に力を注ぎ、當社の發展の爲めに具さに心膽を砕き、その功績赫耀たるものありて、まさに社實的存在たると共に斯界の一大恩人たり。資性溫恭謙厚にして、心性高潔、内外より多大の景仰を受く。明治八年七月愛媛縣に生る。

常務取締役 渡邊得男 大日本麥酒株式會社に於ける重鎮として、財界に信望高き渡邊氏は、明治十七年二月埼玉縣人渡邊宗三郎氏の三男として呱呱の聲を發す。幼少より慧敏にして學才あり。郷費を了りて東京帝國大學法科政治科に入り、明治四十一年之れを卒

業す。直ちに日本銀行に入り、後第一銀行に轉じ、累進して福岡支店支配人に擧げらる。次で滋澤同族會社に入り、疊に當社常務取締役に選出せられ、更に數多の事業會社の重役を兼ね、財界を八方馳驅して群抜の手腕を顯はる。頭腦緻密にして明晰果敢、業界有數の材器たり。

常務取締役 山本爲三郎 氏は勤恪にして溫厚、博識多才たると共に、明敏淵達、當社屈指の俊魁として上下の瞻仰を受くること厚し。氏は夙に英人フランクランに師事し、大正六年渡米して同地に於て半自動式製糖機を發明して特許權を獲得せり。後和田豊治、濱口吉右衛門氏等と日本製糖會社を創立し、専務取締役に推される。後加登美麥酒及帝國礦泉と合併し、更に大日本麥酒に併せられると共に常務取締役に選出せらる。資性溫厚篤實にして人格清高、頗る信望高し。明治二十六年四月を以て生る。

氏は長崎縣實業界の重鎮たりし先代故澤山精八郎翁の長男として明治十五年に生る。氏

澤山精八郎

東京市京橋區銀座七丁目

幼名と喜多路と稱せしが、家督を相続して精八郎を襲名せり。父子二代を通じ長崎實業界に雄飛し、當主は父に劣らざるの名聲を博し益々奇才を發揮して、同縣實業界に顯著なる功績を齎らして、赫々たる名聲を博せり。氏は明治四十年慶應大學理財科を卒業するや、直ちに歸國し、次で朝鮮の釜山に渡りて澤山兄弟商會を起し、此處に將來の飛躍に備



澤山精八郎氏

ふる所ありき。當時釜山は溼窒たる一小港に過ぎざりしが、海陸の便、地の利を占めたる土地なるを以て、將來發展を考慮し此處に海運業を營むに至る。氏の眼識美事に的中して澤山兄弟商會の業績向上を極むるに至りたり素より未開地たりし釜山に於て、之れが創業は容易ならざる處にして、斯業に對する苦心又言語に絶するものありしも、此難業を克服したるは、常人の企及し能はざる處と云ふ可

く、非凡なる氏の手腕を窺知するに足らん。釜山海運界の基礎成るや、轉じて神戸に來り同地に於て、海運業を初めたるも世界的經濟不況により、海運界亦未曾有の打撃を蒙りたるを以て、當地に於ける斯業繼續の不利を覺りて歸郷す。

氏歸郷後、大正十三年、佐世保、大村灣航路の開拓に奔走、遂に之れを完成し、次で瀬戸・松島航路と延長し、近海運輸に全力を傾注活躍し、此處に社業大いに好轉を見るに至れり。氏今日まで辛酸を甜むる事多大にして難事に逢着すること一再ならずしも、不撓不屈汝々として奮闘努力なし、遂に今日の榮譽を擔ふに至れり。

氏斯業の傍ら、十八銀行取締役、佐世保商業銀行監査役等に推舉されて、東奔西走の活躍は、洽く人の知る處にして、氏の功績亦顯著なるものあり。氏は一面叢忠報國の念慮亦頗る篤く、戰時體制下に於ける統後國民の守りを強調し、同地郷軍の中心組織たる長崎古武士會の副會長となり、同會の爲めに献身的に盡瘁して多大に景仰せらる。

事業家 依田明

山口縣下切つての重工業地帯、宇部市今日

の素養は、そも何に由因するやといふに、之には多々由來する所あるとは雖、先づ、依田明氏の功績に指を屈せざる可からず。宇部市の大御所、故渡邊祐策翁に、その非凡なる才能を認められたるが、氏成功の端緒なりと雖、梅檀は双葉にして芳しきとか、氏の天才的理智、不屈不撓の精神力は、既に幼にして發し、長ずると共に鋭鋒大いに現れ、果然名聲を博し、今や宇部市の中心人物として、確固不動の地位を得るに至れり。

然るに氏の過去も亦艱難辛苦一籌の奮闘史たるを失はず、その人と爲り、誠に現世人の範とするに足るものあり。即ち、明治十七年十一月宇部市小串に産聲を擧げ、郷土にて活躍せしが智識慾抑へ難く、遂に上京、東京工學院電工學科に學び、此處に斯學の智識を收めて歸國し將來の活動に備ふる所ありたり。踵で昭和八年宇部窒素工業會社創立さるや、氏は同社の機械購入の爲獨逸へ出張し、之が購入を終へ歸途歐米に於ける化學工業を見學し、多大の知識を積み歸朝せり。直ちに關係諸會社全般的に、彼我對照し豊富なる智識を傾注之れが改善を斷行し、以て會社の能率増進を計りて、業績の向上著しきに至りたるに及び、その手腕の非凡なるを世人に認識せしめて、地歩愈々確然たる基礎を得たり。名聲擧がるに至り、氏の手腕益々圓熟を加へ、

幾何もなくして宇部市切つての錚々事業家たるに至れり。即ち沖ノ山炭礦株式會社事務取締役、宇部製糖工業株式會社事務取締役を始めとし、宇部セメント製造株式會社、宇部紡績株式會社、宇部電氣鐵道株式會社、日本發動機油株式會社、宇部曹達株式會社等の各取締役として活躍し、その名聲一段と昂りしは敢て此處に黙辯を要せざるなり。

如斯、多方面に亘りて蘊蓄せる智能を傾注して、只管宇部市事業界に貢献し、その功績まことに偉大にして、今日に於ては宇部事業界の重鎮として、勢望隆々たるものあり。

他面政治方面にも驥足を伸し、宇部市々會議員たること多年に亘りてよく職責を盡し、昭和十二年遂に同市々會議議長の重職に推されるに至れり。政界に實業界に足跡の印する處、果然顯著なる業績を獲せるは、當世稀代の逸材と云ふ可く、今や時局は非常時の難局に際會し、我が工業界の使命たるや寔に重大なるものあり、工業界屈指の手腕家たる氏に待つもの多々あるを痛感す。折角自愛我が工業界の爲に更に活躍を望む。因に圓滿なる家庭には茂子夫人あり。沖ノ山炭礦文書課長たる養子寛夫氏(東京府屬最吉氏二男)、同氏初枝夫人(長女)及び愛孫忠君、満里子嬢は別居し平和なる一家を成す。

(住所 山口縣宇部市安養寺)

新高製菓東京工場

新高製菓は我國有数の大製菓會社として知られ、その製品美味、風味佳良を以て日本全國津々浦々は云はずもがな、遠く海外にまで賞美せらる。それ等の製品は當商會の創業者たる森平太郎氏の苦心考案せしものにしてバナ、キャラメルは氏の在臺三十年間の研究の結果たり。この他氏の創製せるものにドロップス、フーセンガム等あり。森氏は明治二年佐賀縣に生れ、後製菓の技を學び、明治三十八年臺灣に渡りて新高製菓商會を創立す。間もたくバナ、の香を含むキャラメルの製造に着眼し、苦心慘澹して遂に目的を達す。その製品は非常なる歡迎を受けて、事業は飛躍的に發展し、鹿児島縣種子ケ島及び千葉縣岩井に煉乳工場を設け、次いで大連に製菓工場、大阪に製菓工場を新設するなど目覚しき發展をなせり。昭和三年に至りて東京工場を設置す。その敷地千數百坪、建坪三百二十五坪に上る。第一棟キャラメル製造工場及び包装工場、第二棟水飴製造工場、第三棟粉糖工場、原料置場、製品工場、第四棟ガム製造工場、包装工場、第五棟原料倉庫、紙器倉庫に分れ、その規模頗る大なり。その販賣機

構を見るに、各都市一流の間屋を會員とせる新高會、及び直接販賣所十一ヶ所あり。關西九州、朝鮮は大坂工場の製品を以てし、東海道、北陸、關東、東北、北海道は専ら東京工場の分擔する所たり。一ヶ年の生産高は三百万圓を突破し、販路益々擴大せられて躍進の一途を辿り、製菓界にその名を悉しいまゝにせり。

(所在地 東京市大森區大森三丁目)

田中平造

東京機械製作事業界に於て學殖深遠、經驗豊富且つ又手腕の卓動を以て、その材幹を誦はるゝが、田中氏その人とす。幼にして穎悟その智能頗る犀利緻密なり。技術家として身を立てんことを欲し、鄉費を出づるや笈を負ひて上京し、東京工科學校に入る。同校を卒

業後、明治専門學校に學び、卒業後東京石川島造船所に入社す。孜孜としてその職務に勤み、早出晚退、研精努力を盡くせり。天賦の技術的的智能は縦横に發揮せられ、その才能は人の深く嘆稱する所たり。次いで芳誠舎より招かれて技師として入り、同社の爲めに精勵す。設備の改善に新技術の採用に苦心慘澹しこれによりて同社の生産設備は、面目を一新せり。多大の信望を得て大いに重用せられ、その功績頗る顯著なるものあり。昭和元年に至り、合名會社平尾鐵工所より懸望せられて入社し、名古屋出張所長に任ぜらる。同所に於て眞摯その業務に勉勵し、制度の刷新、製品の改善に力を傾け、大いに貢献あり。氏は兼ねて獨立して事業界に一面揚げんとするの大家を有し、昭和三年に至りてその機到來し昭和機械製作所を設立して、業界に高く獨立の大旗を掲げり。拮据刻勵寢食を廢して經營に力を注ぎ、嚙起する障害に些かも屈せず奮闘し、夙起晩寢鏡意事業の發展に専念し、設備の改善充實に心血を注ぎ、製品の質的向上に晝夜を分たす苦慮をなし、更に販路の開拓顧客の吸收に東奔西走して寧日なき大活躍を爲せり。氏は技術的才腕に恵まれたるのみか事業經營にも、賦稟の頭才を有せり。而も倦むことを知らざる努力に果斷決行の勇氣は、日を逐ひて事業を躍進せしめ、昭和機械の存

在を顯著ならしむ。昭和十一年八月に至りて名古屋重工業株式會社設立せらる。資本金二十五萬圓の全額拂込済たり。富田仙之助氏社長兼事務取締役に就任し、田中氏は常務取締役に推さる。化學工業用諸機械、起重機、車輛、コンベヤー、エレベーター、粉砕機、水壓機その他の諸機械を製作す。氏は熱心にその職に携り、作業の管理に經營の苦心に、その努力まことに大なり。斯くして同社は日に月に社業發展を加へ、業績大いに好調を呈せり。近年の事業界の好況に依り、製品需要は日に日に激増し、操業愈々繁忙を加へり。氏は温箱謹厚、質實堅確の人にして徳操嚴正を以て名あり。襟度寛宏遠だ温情に富み、部下を愛すること深く、金錢物資の犠牲を惜しまず援助をなし、寡慾淡泊、謙虛磊落人に對して頗る懇懇にして、中京事業界にその信望まことに厚し。人格清白高朗にして學識該博手腕卓抜近時めき／＼と頭角を現し、人の深く瞻仰せる所となる。田中才吉氏の四男として島根縣邑智郡川戸村に於て、明治三十一年十月に生る。齡漸く不惑に達せる元氣潑刺たる少壯事業家にして、その前途まことに洋々たるものあり。嗟子夫人は明治四十年、島根縣人大上嘉吉氏の二女として生れ、濱田高女を卒業す。聰敏にして淑徳高く、近隣に嘖々たる好評あり。長女定子嬢の一子あり。伉儷

越ヶ谷高等女學校

鏡近上下瀟々として、物質文明の弊風は瀝り、徳義委を匿くして廉恥地を拂ひ、社會人心擧げて混沌たる、世相の渦中に在る教育界も近來著しくその實を失はんとしつゝあり。況して現在の女學校に於ては、形式的方面の教育のみを重んじ、ともすれば精神教育の稀薄に傾かんとするの秋に當り、獨り卓然として清節を持し、徳義を重んじ、而も其の内容充實を以て我が女子教育界に重きを爲すは埼玉縣立越ヶ谷高等女學校なりとす。

本校は大正十五年三月、修業年限二ヶ年の越ヶ谷實踐女學校と命名認可を得、遠藤正市氏を校長に推し設立されたるに創り、昭和三年三月組織を變更して越ヶ谷町立實科高等女學校と改稱し、(修業年限二ヶ年)翌四年三月學則を改正して、修業年限四ヶ年とし更に翌五年三月縣立に移管され現校名に改稱す。(修業年限四ヶ年制)古川保次氏校長兼教諭に任せられ、同七年新校舎落成し、同年十二月教育に關する勅諭藤木下賜、同九年二月天皇皇后兩陛下の御眞影奉戴、同年十一月群

馬場高崎市乗附練兵場に於て、生徒代表及附
添職員の御親臨拜受の光榮に浴す。同十年三
月校歌制定認可、同年九月自轉車置場一種増
設竣工、同十一年四月國旗掲揚場開設式舉行
同年五月榮養給食調理所竣工、同八月温泉竣
工、同十二年四月古川校長退職に依り、埼玉
縣大宮高等女學校長下山懋氏本校長に就任現
在に至るものにして、本科の他に修養年限一
ヶ年の補習科あり、縣立移管後は逐年入學志
願者の増加を來し、今日卒業生四百餘名を算
すに至る。上に縣下教育界の重鎮として學德
を顯はれる下山校長を戴き、二十四名の優秀
教職を擁する本校は、専ら優良なる日本婦人
養成に重點を置き一般學術の外に裁縫、手藝
公民、挿花、點茶、樂曲、マツサージを教授
し、以て日本婦人としての徳育に邁進するの
みならず、毎日、毎週、毎月行事として宮城
遙拜、明治天皇御製奉誦、ラヂオ體操を日課
とし、前週實行事項の反省及今週實行事項の
報告、週番課題、運動デー、週番會議を實施
して毎週行事とし、更に郷社久伊豆神社參拜
健康相談、齒科相談、大掃除、全校合同體操
ダンス、郷土神社の清掃奉仕、生徒の亡父母
の命日に際し、香華を與へて祭らしむる等凡
ゆる徳化教育に萬全を期しつゝあり。今や縣
下女子教育界の模範校として名實共に致れり
盡せりの堅實最上の存在となりたり。而して

本校はその特典として卒業生中成績相當なる
ものは、裁縫專科正教員の免許、又教育科の
檢定合格者に、尋常小學校正教員の資格免許
される外、一般卒業生は全部小學校准教員の
免許状を下附され、着々として實化教育に顯
著なる實績を收め、日に月に隆々として榮え
縣下教育界の重鎮たる地位を確保するに至り
たり。

校長 下山 懋 埼玉縣の人、天性頭
腦精緻にして聰敏、其の風骨清廉にして至高
たり。永年女子教育界に努力せられたる功績
は偉大にしてその學德の圓滿なる縣下教育界
の重鎮として令名治ねきものあり。氏は自ら
處するに儼然人に對するに厲然、而して誠實
と清廉の資質を有し、卓抜剛直にして人を容
るゝの雅量に富み、接する者をして齊しく、
その洋々たる度量に敬慕の念を抱かしむ。氏
の子弟を導くに致々として教へ、淳々として
訓し、智育に偏せず、徳育にかたよらず、ま
た體育に墮せずして、渾然三者を一丸となし
至誠以て教育に従事するところ實績顯著と
して擧り、頗る顯著なるものあり、徳望愈々
高きも蓋し當然と言ふべきなり。因に先生は
昭和十二年四月大宮高等女學校長より轉任せ
られたるなり。

(所在地 埼玉縣南埼玉郡越ヶ谷町)

京都大佛 養源院

翠幃明水四季を通じて、觀光地たる京都市
には、千古の秘史を湛へて、名所舊跡各所に
散在し、各神社佛閣の由緒深きこと、亦た他
所には多く求む可からざる處なり。茲に略述
せんとする養源院の如きも、古來血天井の名
稱を以て昔に聞え、將又京都大佛として四時
參客其の跡を絶たず。

抑も當院の由緒を尋ねれば、遠く戰國時代
に發し、稀世の英傑豊臣秀吉の側室淀君が其
父淺井長政追善の爲め、秀吉に願ひて養源院
を建立し、長政の弟成伯法印を開山の師とな
し、長政の院號を以て寺號と定む。時に之れ
文祿三年五月なりき。其後幾干もなく、祝融
の災に遭ひ、當初の堂塔伽藍灰燼に歸したる
爲、徳川秀忠の室崇源院殿秀忠に請ひて伏見
城遺構を移建す。即ち現在の本堂是なり。爾
來當院は徳川家の菩提所となり、歴代の位牌
を祭祀し、連綿星霜を閱すること三百数十年
幾多現世の變轉推移を経て現今に及び、其の
結構善美を盡せる建造物は、優雅典麗桃山御
殿として觀者の眼を奪ひ、更に境内遊園には
蒼々たる樹木配置の妙を競ひて幽邃閑靜、春
花秋月の風光は舊きに依りて減損する處なく

參客一度登臨なせば、心境自ら風塵を越えて
清淨となり、不知不識の裡に大慈大悲の本誓
に契ひ、當來を期せずして佛陀の淨土に遊ぶ
の感あらしむる。尙ほ伏見城遺構と傳ふる本
堂は伏見城落城せる時、鳥居元忠以下の將士
城を死守し、最後に元忠自刃せる廊下の板間



京都大佛 養源院 寄車御院

を天井となし、其靈を慰安せしものと云ふ。
即ち世に血天井として喧傳さるゝ所以なり。
而して本堂に於ける機及杉戸は伏見宗達の筆
と云はれ、其の幻妙雄麗なる彩色構圖、正に
日本畫法の精髓を具現し、天下の絶品たり。
されば風に國寶に指定され、殊に杉戸に畫け

る八方配みの唐獅子最も著名なり。

住職 吉永行祐 單に一山の法燈を繼
ぎて當院の住職たるのみならず、活社會の布
教淨化に献身努力して功勞多大なる名僧を我
が吉永行祐師とす。師は風に聰明穎智、而か
も頗る憐憫の情に富み、衆生濟度の大念願に
燃ゆる處、京都比叡山中學校を経て同大學に
學び、鍊骨彫身、不撓の努力を傾注して深遠
廣大なる佛教眞理の把握に精進、斯くて斯學
の眞諦を悟得し優秀なる成績を以て卒業す。
其の人格識見の高邁なる、亦た手腕非凡なる
を顯はれ、若年として由緒深き當山住職の要
位に就きたり。爾來説法の至妙、教化の懇篤
なること宗門錚々の偉材と稱され、徳望四隣
に洽く、名僧智識たるの名實兼備せり。

執事長 麻生眞徳 師は大分縣中津市の
出身、天分篤豊人士の美點を多量に具備し、
而も謹直にして清廉の高潔なる人格者たり。
幼少より耶馬溪の雄姿に親炙して自強の資と
爲す。風に上洛當寺に仕へ、其の深甚なる敬
天崇祖の念と、實直濃厚の性質とは相俟ちて
代々住職の信認を得ること篤く、而かも精進
格勵克く住職を輔佐して、執事長の重責を完
遂しつゝあり。

(所在地 京都市三十三間堂前)

日本製罐株式會社

北海道釀造製罐業界に於て至大の献替を爲
し、その業礎の鞏固生産設備の規模大を以て
知られるものに日本製罐株式會社あり。蛙、
鱒、蟹等の各種空罐類を製造し、その品質優
良にして、需要の旺盛なるを以て名あり。夙
に工場機械の整備充實に意を注ぎ、技術の研
鑽に力を盡し、製品の品質向上と能率の増進
の爲めに精勵怠りなし。されど増大する需要
に依り、事業愈々繁忙を加へ、逐期業績頗る
好調を呈せり。當社は大正十四年四月資本金
一百萬圓を以て設立し、昭和十年四月昭和製
罐を合併現に資本金一百三萬圓の全額拂込済
なり。内容堅實にして將來を嚆望さるゝ會社
たり。取締役社長小熊信一郎、常務取締役小
川彌四郎、取締役兼支配人有賀松夫の諸氏、
第一線に於て活躍しつゝあり。

取締役兼支配人 有賀松夫 明治三十年四
月長野縣人有賀重氏三男として生る。大正
九年水産講習所を卒へるや、東洋製罐株式會
社に入社す。資性謹直にして職務に研精し、
上長より信頼を受くること厚し。同社の傍系
會社名古屋製罐株式會社の創立せらるるや、

披露せられて同社の重要な位置に据へられ、天稟の才腕に早くも輝きを現す。十四年再び東洋製糖に復歸して活躍し、大いに重用せられて取締役支配人に選任せられ、同社の經營を一任さる。拮据勉勵社務に没頭して私事を省みず、業績大いに揚る。昭和八年日本製糖株式會社々長小熊信一郎氏は材幹を見込んでこれを招聘し、現職に推挙して同社の全權を擧げて氏の才腕に委託す。氏頭腦明晰にして學理に實際に研究をなし、その知識頗る淵博たり。又事業經營の手腕に長け、その眞摯なる努力と相俟つて、同社の繁榮に致せる功鮮少なからず。資性温恭なると共に至誠堅確身を持することまことに嚴格、直情徑行己の是なりと信ずれば、斷乎として邁進す。健剛の信念と不屈の意志はよく難關を克服し、事業に成功せしむる所以なりとす。氏の云ふ所赤心に満ち、測々として聞く者の胸底を衝き自ら襟を正さしむるものあり。氏は社員從業員の精神の陶冶にも平素より心を傾け、率先して兼に範を示せり。その情誼に厚く部下の爲めに時に私財を投じて盤旋をなす等、氏の温情には人の瞻仰措かざる所とす。氏は前途春秋に富む少壯事業家にして、將來北海道財界の大立物として矚目せられること大なり。

奥羽の雄縣山形縣政に、或は市政に減私奉公の献替を録すこと二十有餘年の久しきに亘り、今や名縣會議長、名市長たる轉焉たる盛名を馳せ、その操履の清純なる、その徳行の緝熙なる、眞に一世を風靡するの存在たり。米澤市は東北地方有数の大都市にして、現時戸數八千四百戸、人口四萬五千餘を算し、戸數の約三分の一は商業に従ひ、又その四分の一は工業に従事して、商工業は頗る發達せり。最近に於ける當市商工業の發展に關しては、現市長登坂又藏氏の手腕に負ふこと大なり。氏は昭和四年三月米澤市長に推され、引き続き今日までその要職にあり。又これより先市會議員として市會に議席を占むること三期十二年に上り、市政の振興刷新の爲めに盡瘁する所多し。前後二十數年間直接市政に參畫して、米澤市の發展の爲めに東西奔走し、その功績にはまことに没すべからざるものあり。氏は剛毅果斷、氣宇測達の士にして、天性自ら人の將たるの器あり、市會議員となるや、逸ち早く市會議長に選出せられて市會に於て重きをなせり。又大正四年九月縣會議員に當選し、兩來五期二十ヶ年の長きに亘りて

米澤市長 登坂 又藏

縣政の爲めに活躍し來りしが、昭和八年縣倒的多數の支持によりて、縣會議長の榮職に推される。明斷果敢、熱情熱誠。燃ゆるが如き郷土愛の持主にして、胸中一點の私心なく、地方自治の爲めに公共の福利増進の爲めに活動すること多年。その貢獻する所實に多大なるものあり。氏は産業教育の奨励に、交通土木治水の改善施設に或は農政の振起、非常時及凶作の對策、社會事業の充實、軍事の後援納稅成績の向上等に粉骨碎身して精勵し、且暮精勵して活躍し、市政に縣政に非常なる功績を遺せり。氏は山形縣士族登坂又藏氏の二男として明治八年一月を以て生る。幼名を仁太郎と云ひ、後先考の名を襲名せり。夙に東京高等工業學校を卒業し、實業に従事せしが後奥羽電氣、最上電氣その他數會社の重役となり、事業界に於て活躍す。手腕卓抜にして頭腦俊敏、多大の成績を収めて巍然と頭角を現せり。踵で政界に進出して上記の如くに手腕を揮へり。尙ほ氏は帝國農會議員に推され當地方の農事の改良發展に盡す所多し。人格清廉潔白にして温情に富み、人の爲めには犠牲を惜しまず幹旋の勞をなす。家庭には安政四年生れの母堂ミチ刀自ありて頗る壯健たりせい子夫人は山形縣士族中村忠作氏長女にして明治十六年を以て生る。賢婦人の譽高し。

(住所) 山形縣米澤市桂町)

株式會社 北中製作所

我國照器具製作業界に馳名を馳すること三十有餘年、不斷の研究努力は常に入念稀れなる良心的製品を以て江湖の信頼を博し、今やその獨勢力を、内地は勿論臺灣、朝鮮、滿洲にまで追ふ斯業界の金字塔と絶讃せられつゝあり。

由來當社は遠く明治三十四年、現代表取締役たる北中菊治郎氏が、照器具の將來性を夙に觀破し微々たる個人經營を以て、之が製作並に電氣器具及電氣工事請負を創始せるに端を發す。爾來血の滲むが如き研究努力を累ぬる傍ら凡ゆる辛酸を嘗め盡せるが、克く迂餘曲折を突破し、漸次基礎を築き信用を高むるに至り、昭和十年七月に及んで時勢に順應して、經營一切を資本金十萬圓(全額拂込済)の株式組織に革め、業況益々好調を辿り、以て現今に至れり。而して近年の製作高を見るに昭和九年度三十一萬圓、同十年度三十四萬圓、同十二年度二十九萬圓と實着たる昇昂を示現せり。其間納入先も累次開宏され、今や全東洋に亘らんとする駸々たる盛業裡に在り。

當社製品の優秀にして斯業界を如何に指導

しつゝあるかは、左掲近年の請負納品先の拔萃に依り、その片鱗を觀察するに足るべし。即ち、群山公會堂、平壤通信局保險科、忠清北道立病院、清津郵便局、神戸商科大学、大阪川崎商店、京都長久座、夙川高津邸、大阪濱新商店、甲子園野球記念塔、浪速高等商業學校、丸信百貨店、關口料理店、三共製藥大阪支店、玉屋デパート、はとや食堂、阪堺電鐵、松坂屋大阪店、城北會館、ハルビン濱江驛、奉天よねや旅館、チ、ハル會館、公主嶺ホテル、大石橋公會堂、臺北高等法院、京都東山ダンスホール、福山誠之館中學、大分一丸百貨店、甲子園水族館、阪神電鐵寶別荘丸紅商店、神戸武蔵記念館、高島屋玉造ストア、廣島銀行集會所、臺中豊原驛、多木製肥所、朝鮮貯蓄銀行、鐘淵紡績、朝日新聞京都支局、新京大和ホテル、滿洲奉天驛、大連中學校、奉天鐵道總局、奉天朝日女學校、吳海軍工廠、頼山陽記念館、熊本銀丁百貨店、同千徳百貨店、朝鮮神宮奉贊殿、京城府民館關西共同火力發電、南海鐵道地下鐵、日本窒素延岡工場、大名古屋劇場、雲仙觀光ホテル京都寶塚劇場、名古屋寶塚劇場、平安中學校神戸第一高等女學校、京都電燈福井支社、勸銀福井支店、福岡市西大橋、住友金屬工業、京都帝大内科醫院、釜山府廳舎、滿鐵社員會館、阪急百貨店第四期、臺北公會堂、仁川

神社、大阪府土木部、三菱重工業名古屋航空機製作所、中央毛織第二期、日商寄宿舎、松坂屋大阪店第二期、住友鋼管製造事務所、鐘紡淀川工場、大阪鐵道局操車場、成興稅務監督局、染織聯合會館、福井人絹會館、大阪市電地下鐵大阪驛、三菱電機製作所、新京寶山百貨店等々枚舉に遑あらず。まことに斯業界に於ける輝かしき存在にして、將來の發展こそ刮目に値せん。

代表取締役北中菊治郎、取締役北中清吉、同業西良雄、同依田又四郎、監査役進藤治三郎、同富永吉則。

(所在地) 大阪市東區南玉造町八)

素封家 都島 輝 壽

都島家は名古屋市に於て、開えたる舊家に於て、且つ大地主として、或は素封家として知名なり。氏は先代都島丈太郎氏の二男として明治二十九年七月を以て生る。夙に明治大學に學び、大正十二年に愛知縣農工銀行に入る。累進して現時同行書記長に拔擢せらる。幼時より恵まれたる環境の下に、何不足なく育ちし故か、性極めて温順にして磊落、應揚にして淡泊、聊かも些事に拘泥することなく而も奢らず高ぶらず、舉措言動恭儉にして謙

虚たり。他面目より鼻に抜ける程に聰明にして、能く人の氣心を察知して明敏なり。着實堅確身を持つること固く、寡言にして寡慾、自ら人を魅す。これが爲めに内外上下の信用厚く、人望は氏一身に歸す。まことに責任觀念に強く、自己の職責に對しては、飽くまで眞摯誠直にして、些末と雖も疎にすることをせず。事務的才腕に秀で、その行藏は微細に行き互り、計數に長じてその算出には誤算を見ることなし。その人物の俊英なる良家の出としては異にするところあり。思慮深くして事に當りては慎重、慎重なる熟慮を拂ひて後始めて斷行するといふ如き周到振なり。その爲す所常に正鵠妥當にして、何人をも首肯せしむるに足る。風貌高貴にして品格高く、人をして自ら心服せしむるものあり。將來大いに大成をなす賢材なり。濃子夫人は宮崎金次郎氏の三女にして明治三十七年に生る。二男一女ありて、家庭は圓滿を以て鳴り、四隣羨望の的とさる。

(住所) 名古屋市昭和區御器所町東藤二二

日清製粉株式會社

我國製粉界に於て、金融的基礎の鞏固なる、資産内容の堅實なるを以て知られる日

清製粉株式會社は、明治四十年三月の創立にして、現時公稱資本金二千五百萬圓、内拂込資本一千五百四十九萬八千圓に上れり。當社の工場は館林、宇都宮、水戸、高崎、佐野、鶴見、名古屋、神戸、岡山、坂出、鳥栖、野付牛、小倉等全国各地に散在して、その設備の優秀なる上に、原料の供給を受けるに多大の便宜を有し、當社の經營上著大の強味をなせり。日産能力二萬一千七百パーレルを有せるが、今後朝鮮、滿洲方面へ進出の方針にして、生産能力は更に増大をなす筈なり。尙ほ當社には日滿製粉、康徳製粉、朝鮮製粉其他の投資會社ありて、その投資額二百九十七萬三千一百圓に達す。尙又最近に至り、常磐製粉を買収するに決し、四十五萬圓の増資をなすこととなり。常磐製粉は資本金三十萬圓を有し、日産能力五百パーレルにして、工場は福岡縣羽犬塚町にあり。當社は愈々その威力を増し、業界に一大雄飛をなすに至らん。當社は近時益々社業發展を加へ、採算愈々良好となり、投資收入の増加をなすと共に利拂負擔の軽減を見て、業績大いに向上をなすことあり。昭和十二年下期決算に依れば前期より八萬圓、前年同期よりは二十萬五千圓の増益を見て、利益金百四十三萬九千圓と稱す近來なき好成绩を擧ぐ。されど利益金の大部分は内部に保留して、内容の充實と他日の發展

とに備へ、一割配當を踏襲せり。尙ほ當社は設備の擴張をなすと共に、北支進出、南洋への輸出増進を策しつゝあるを以て、今後の躍進には注目すべきものあり。取締役會長正田貞一郎、専務星野唯三、常務森田一郎、同正田英三郎、常任監査役恩賀太一郎の諸氏ありて第一線に於て活躍せり。

取締役會長 正田貞一郎 正田氏は製粉界

に活躍すること多年、業界の長老として、その聲望甚だ高し。淡然泊如、高義清節の士にして財界稀に見るの人格者たり。明治三年二月群馬縣に生る。夙に東京高商を卒業し、三十四年館林製粉を創立、續いで當社を起してこれに併合す。多年業界に活躍してその地盤牢固たるものあり。

(所在地) 東京市日本橋區小網町一丁目

事業家

中杉 徳兵衛

中京に於て製藥事業界に活躍し、少壯氣銳の意氣と卓越せる才腕を以て、事業日に日に躍進を爲し、人をして瞠目せしめつゝあるが中杉氏その人となす。幼時より伶俐にして學を好み、學業又甚だ優秀にして、大いにその前途を囑目せられたるものなり。長すると共

に頗る才氣煥發にして、智略奔放、甚だ事業的才腕あり。眼識犀利敏捷にして、商機を獲ふるに俊敏、常に一步を人に先んず。霸氣に富みて獨立不羈、小成に安んぜず志を高くに措き、剛毅果斷、氣宇瀾瀾の天資は性來人の長たるの風格あり。而もその性飽くまで温恭謹恪、謙虚にして舉措甚だ典雅、人には溢れるばかりの温情を籠めて接し、質實堅確にして極力虚飾を排し、至誠を以て事に當り、奮勉砥勵全力を盡して邁進す。その不屈の意志と旺盛なる闘志は如何なる難局もよくこれを克服して、事業界に於てよくその驥足を伸し得るの所以たり。氏は長じて大阪高商に學び、大正十三年同校を卒業す。卒業後直ちに獨逸人の經營せる化學工業會社セントクパイル商會に入る。その業務に携るやまことに勤直にして、精勵倍働倦むことを知らず精勵す。尙ほ傍ら業界に關する各方面の研究をなして幾多重要な知識を攝取して、密そかに他日の雄飛に備へり。氏の精勵なること、事業に關して深き智識を有せるとは、同商會經營者の深くこれを信認する所となり、特に氏を優遇して、重要な地位に就かしむ。雄心勃勃たる氏は、決して現狀に甘んずるを得ず、何時か獨立して羽翼を伸し事業界に飛翔せんものと、虎視眈々その機を到來するを狙へり。昭和元年遂に機會は至り、敢然として氏

は立ち、浪速商會を創立す。その事業は陶磁器用金液及ラスタの製造販賣を目的となせり。氏は尙未だ若冠、白面の一青年に過ぎずと雖も、その熱心なる奮闘と研精により事業は次第に發展に向ひ、昭和四年に至りては、組織を變更して株式會社となし、氏は専務取締役役に就任す。製品に對しては、これが品質改善に日夜意を注ぎ、優良品の供給に力を注ぐと共に、更に販路の開拓に東奔西走して席の温る暇なし。製品優秀にして氏の態度懇切丁寧且つ正直を第一義となす營業方針は、世間より多大の好評を博し、注文日を送ひて激増す。現時に至りては社礎大いに強化せられ、業績頗る好調を呈し、業界にその名聲を轟る。先年又太陽製藥株式會社を創立す。當社の製造する喘息の特効薬は、その薬効顯著にして世間より絶大なる歡迎を受け、全快者移し、製藥界に於て近時著しく躍進をなすに至れり。氏は現在同社の取締役に列す。明治三十一年三月二十七日奈良縣磯城郡中杉藤三郎氏の五男として生る。餘漸く不惑に達せる意氣澄烈たる前途有望の實業家たり。人格清廉潔白、淡然泊如の士にして、人に瞻仰せられること深し。將來中京財界に大を成す人なり。岡甚就に園藝を趣味となす。富美子夫人は愛知縣土岐林宣二氏の次女にして、東京女

祇園乙部貸座敷組合

「布圍着て寝たる姿」の東山を背景に「影を映すも羞しき」鴨の流を前に控へて青樓軒を並べ、絃聲歌舞日夜に連り、名にし負ふ「だり帯」の發祥地と、知るも知らぬも逢坂のせきとめあへぬ忍び駒、寝ても醒めても興淺からぬ洛陽隨一の溫柔境祇園新地のゆかりを釋ぬるに、今を距る一千六十有餘年。清和天皇の御宇八坂の地に感神院勸請あり。これが賽詣の人々のためとて西南門外の路傍に掛茶屋をしつらへたるが、抑々の濫觴にて、大津より奈良への道筋に當り、往き來るその人足も繁くて段々の繁榮、降つて寛元元年、西樓門外に出火ありて一たび燒失し、南北朝足利時代には屢々兵火に罹りたるが、織豊時代に追ひ京洛漸く靜謐に歸し無事なるを得、徳川の初期八坂神社修復以來詣者日に多きを加へ茶店の數も隨つて増加、此頃より賽者行客を輻ふに少婦を以てし、それも茶葉のみにては

隔靴搔痒の感ありとて、酒肴を嗜み更に管絃を用ふるの風習を生じ、併せて色を競ぐに迫り。其後幾多の變遷を累ねたるが、明治三年以降現在の東京永町、東末吉町一帯の地に娼家青樓櫛比して股賑を呈し、同十四年五月府知事の指令に依り、甲部乙部の名稱を以て之れを區分することとなり、爾來桃李對映して美を競ひ妍を争ひて今日に迫り。分離當時祇園乙部は娼家七十軒、藝妓合せて百餘人に過ぎざりしが、明治三十三年内務省令を以て娼妓取締規則の發令あり、翌年二月貸座敷組合規則の許可を得て、祇園乙部貸座敷組合の完全なる創立を見るに及び、俄然活況を呈し、逐年繁榮に向へり。初代取締は小山友次郎氏にして爾後佐伯寅藏、山下寅吉、西川繁三郎の諸氏を経て、現取締村上治郎吉氏の就任を見たが、現在貸座敷業者數二百二十餘、藝妓百九十一名、娼妓二百二十餘名にして年收約三萬五千餘圓を算せり。同組合は發展に伴ひ事務所の狹隘を告ぐるに至りたるを以て、東山線に面せる土地を相し、七十五萬圓の巨費を投じて六階建の事務所を新築することに決定し既に工事に着手せるが、此を機として外來觀光の客をして獨特の京都情調を享樂せしめんが爲め、大規模のホテル兼遊樓を建設すべく昨年来計劃準備中なり。

(所在地) 京都市東山區東山線北入ル

株式北門銀行

當行は明治二十九年創業以來、終始一貫堅實主義を採り逐年進展を辿り、今や北海道全土に其屬翼を張り活躍する事顯著にして一面帝都にまで其強翼を伸ばしつゝある、北海道金融界の香宿にして地方銀行の一異彩たり。即ち其翼下に函館、餘市、小樽、岩見澤、旭川、帯廣、室蘭の各道内都市に支店を設け、出張所を札幌市豊平三條、同市北八條東、函館市若松町、同市大町、小樽市若松町、同市花園町東、同市錦町、石狩國美唄町、同國栗山町、後志國餘市町澤町、十勝國新得町、十勝國釧路村止若に各出張所及び東京市麹町區丸ノ内に東京支店を有して其陣容整然たり。而して現今本道の財界を見るに、鯨漁業は未曾有の不漁にあるも、鯨漁業は頗る好調を告げて漁村に生色を與へ、農産物價は依然高位を保持して農村は全面的回復に趨き其他木材界の活況、鑛工業の躍進顯著なるものあり。之に伴ひ一般商取引も旺盛を極め資金の需要大いに増加して金融繁忙裡に推移せり。當行昭和十二年六月末現在の資本金は二百萬圓内拂込金七十八萬六千八百七十五圓を擁し諸預金は二千二百七十七萬圓にして、前期末

に比し、二百五十七萬圓の増加にして其内容は特別當座預金二十一萬圓減少せるに止まり其他預金何れも増加を見たり。諸貸付金及び割引手形勘定は、合計千八百九萬圓にして前期末に比し八十萬圓餘の増加を示し尙漸増の趨勢を辿れり。斯くの如くにして資金の運用に格別留意し、業績向上に努めたる結果、一般業務順調に伸展したり。尙同期の利益金は十萬六千五百三十七圓餘にして、年六分の株主配當を爲し、後期に八萬三千四百六圓を繰越し餘裕綽々たり。

因に當行現役員は左の諸氏なり。

取締役頭 壹岐準太、常務取締役 笹岡幸次郎、取締役 和田見治、同 笹沼晋彦、監査役 西森猷太郎、同 二宮重親。

取頭 壹岐準太 氏は明治十八年十二月鹿兒島縣人壹岐健輔氏の二男として出生。

同四十二年山口高商卒業後、北海道拓殖銀行に入行し其敏腕を顯はれ、本店、小樽支店各調査課員、釧路根室各支店長、本店鑑定課長、帶廣、旭川各支店長等に歴職し本店金融界に盡瘁すること多年、昭和五年現職に推舉され今日に及ぶ。傍ら現に旭川電氣軌道取締役、北海道拓殖鐵道監査役に推舉せられ、札幌商工會議所議員たり。

(所在地) 札幌市大通四ノ一

會社 重役 (故) 速水太郎

如何なる事業と雖も、其發展過程を見るに必ずや、そこに之を統率或は躍進向上せしめたる偉大なる人物の存在したる歴史あり。世は等しくこれ等偉人に對して敬意と感謝を捧ぐるものなり。

今茲に我が電業界の五十年史を編くに、その創業當時より現在迄、餘りにも有爲轉變の甚しきに驚嘆すると共に、之れが育成發展に幾多の尊き人柱と、偉大なる貢獻者の拂ひたる努力あるを回顧し、深甚の感謝と敬意を表すべきなり。現時我が電業界は其の電力工業界に、電氣製品に異數の發達を遂げ、堂々世界水準を突破したる秋、而も尙電力國家管理案の提唱さるゝの秋、斯業界に於ける重鎮として、名實共に馳名を一代に馳せたる我が速水太郎氏を論評するは最も意義深きものと云ふべきなり。

氏は既にして周知の如く、關西に於ける事業界の重鎮にして、又我が電業界の功勞者として稱揚すべき人物にして、昨春一切の事業界から引退されたるは云へ、その間歴、經驗に於て正に至寶的存在なりと云ふも敢而過言にあらざるなり。

氏は舊藤堂家支封伊賀上野藩士速水謙益翁の嫡男として、文久二年四月を以て生れ、明治二十三年分家す。長じて貿易業に従事したる後山陽鐵道株式會社に入り、次で阪鶴鐵道會社に轉じ支配人を経て取締役に擧げらる。偶々奇傑岩下清周氏の知るところとなり、爾來幾多の會社に關係したるも、その一貫せる事業は、電氣關係にして、其の實力と經驗は行くとして成らざるはなく、氏の洗練された手腕は業界の敬服するところにして、夙に山陽中央水電株式會社社長を筆頭に今津發電岡山電燈各取締役會長、阪神急行電鐵、中國合同電氣各取締役の重職たり、資性豪放潤達にして、而も濃厚、明晰なる頭腦より迸る睿智を以て、敏腕を揮ひ、慈情を以て衆庶の信望を一身に鍾めたり、其の數十年に亘る電業界に盡瘁したる貢獻は永へに傳へらるべきなり、然るに昨年不幸哉。遂に逝去されたるは國家の爲勢からざる損害と云ふの外なく弊社は氏の生前に遺されたる、即ち牧學に迫らざる功績を茲に記録し以て永久國民に傳ふるのなり。

日本油脂株式會社

當社は昭和十二年三月、日本食料工業株式

會社の魚粉、魚肥、魚油、油脂、大豆等に關する部門にベルベット石鹼株式會社、不二堂料製造所其他を併せ資本金七百五十萬圓(拂込済)の日本油脂株式會社を設立し、同年六月我國に於て最も古き歴史と權威を有し油脂工業界に王座を占むる合同油脂株式會社に合併資本金一千八百五十萬圓(拂込済)となり社名を日本油脂株式會社と改稱せり。而して當社事業の目的は無盡蔵の資源たる魚類及び大豆等の工業的利用に依り油脂、塗料、肥料、飼料、食料、化學製品等有機化學工業に關する諸事業に貢獻しつゝある業界最優最大を誇る會社たり。之等各般の事業經營に於て當社の尤も特徴とするは、原料より製品まで一貫せる綜合作業にあり。即ち水産工業に屬する魚糧工場は各地漁場の中心地に所在し、其所屬漁船に依り漁獲されし魚類(主に鰯)は當社が專賣特許を有する獨特の魚糧機に依り魚粉及魚油として生産さるゝものにして、製品には魚粉、魚粕、魚油、滋養料、飼料、餌料、肥料、調味料等なり。油脂工業に屬する油脂工場は何れも規模宏大なる模範的大工場にして、本邦魚油全生産高の過半を消化し、製品は石鹼、洗劑、蠟燭、硬化油、グリセリン、食用油脂、藥品、化粧品等なり。洗劑工場は本邦並に獨逸の特許を基礎とし設立されし物なり。塗料工場は本邦屈指の大工場にして

最新式の設備を有し、ペイント、エナメル、ニス、チタン白、ラッカー、船底塗料、船舶塗料、熔接塗料にして就中チタン工場は本邦唯一のものにして獨逸IG會社の特許法に依り同社との合資に依る共同經營なり。大豆工業に關する工場は、滿鐵との共同出資にして滿鐵中央試験所多年の研究に依り、各國の特許を得たるアルコール抽出法を採用し、大豆粉、撒大豆、大豆油、豆雪、レシチン、カゼイン、飼料、餌料の製品あり。

- ▲支店 朝鮮支店(京城府) 水産部(朝鮮清津府松郷洞新漁港) 北海道支店水産部(函館市海岸町五五)
- ▼營業所 東北營業所(仙臺市南町通一三) 東京營業所(本社と同) 大阪營業所(大阪市北區中之島二ノ一五) 九州營業所(門司市)
- ▼出張所 静岡 名古屋 金澤 長崎
- ▼試験所 兵庫縣 試験支所 鎌子市
- ▼直轄工場
 - 油脂 王子工場(東京市王子區豊島町二一四)
 - 佃工場(大阪市西淀川區佃町三四五) 尼崎工場(兵庫縣武庫郡大庄村) 兵庫工場(神戸市林田區河津通七ノ一一)
 - 塗料 五反田工場(東京市品川區五反田二ノ三六五) 川崎工場(川崎市川崎町五三)
 - 魚糧 鶴城工場(津太) 枝幸工場(北海道) 網走工場

(同上) 霧多布工場(同上) 香洲津(同場) 棉似工場(同上) 龜舞工場(同上) 三石工場(同上) 鹿部工場(同上) 白尻工場(同上) 尾札部工場(同上) 宮古工(岩手縣) 鶴町工場(大阪) 西水羅工場(朝鮮) 漁大津工場(同上) 良化工場(同上) 黄津工場(同上)

尙當社の投資會社は大豆會社一社、油脂會社五社、塗料會社二社、魚糧會社三十三社、合計四十一社に及ぶ。

當社の人的資源は錚々たる左記の諸氏を以て構成す。

- 取締役社長 二神駿吉 取締役副社長 藤田政輔 専務取締役 村山威士 常務取締役 久保田四郎 取締役 大橋退治 同長崎茂 同持田由孝 同飯山太平 同長郷幸治 同齋藤定藏 同馬上彌壽 同吉田文熊 同二見松三 同鮎川義介 同吉米地義三 同山下三郎 同監査役 石川一郎 同金光庸夫 同小西鮎太 同河邊建二 同山田敬亮 相談役 田中榮八郎

用の各種石鹼は本邦生産の大半を占め、其製品は最優秀なり。シントレックスは獨逸ベーマ會社の特許に依る新洗剤にして織維工業染色工業を始めとし洗濯、毛髪用として驚異的能力を有す。グリセリンは本邦生産額の五割に達し工業、醫藥、化粧、軍需用として重要位置を占む。ステアリン蠟燭は品質特に優秀にして光力強大、質堅く艶美しく、夏季にも絶對曲る憂ひなく、而も他品に比し、火持ちよく頗る經濟的なり。オレイン酸は人絹毛織物用として、品質外國品より優秀にして、本邦生産量の八〇%を占む。豆雪(當社豆腐原料登録名)は特許を得たる特殊の方法に依り精搾大豆を懸延せるものにして、豆腐製造に一大改革を齎すべき新商品なり。アルソ(當社大豆製品登録名)大豆粉は食料としてアルソ撒大豆は醸造原料として好評を博す。アルソレシチンは大豆油抽出の際の副産物にして製菓織維工業用として重要なり。又アルソカゼインは強き腸着劑として廣く利用さる。アルソ完全配合飼料は家畜家禽の飼料として尤も適當なるアルソ撒大豆を中心に各種の營養原料を配合せる完全飼料なり。

取締役社長 二神駿吉 氏は明治元年六月愛媛縣の郷士二神深藏翁の二男として出生す。幼少より出陣の譽あり、同二十四年東京

法學院を卒業、直ちに四國通運會社に入社せしが、後上京東京モスリン紡績會社に轉動し同卅四年三井物産に入社、敏腕を揮ひて名古屋支店長、本社石炭掛長、門司支店長等を歴職し大正十年に及んで大日本人造肥料事務に推され、漸次その頭角を現はし今日に至る。當社社長の他數會社の重役を兼ね兼に衆議院議員たり。

の註文を受けて兵器の製作に力を注ぎ、操業愈々繁忙を呈し、晝夜兼行して製作に當れり。當社は昭和九年三月資本金二十二萬圓の合資會社として設立せられ、同年七月に至りて三十二萬圓に増資せられて頗る好調を以て發展をなし、幾何もなくして、一百五十萬圓の株式會社となりて一大躍進を遂げ、社業多大の膨張をなして業界の驚異の的となれり。次いで二百萬圓に増資せられて、其設備に内容に更に充實をなし、斯界の精銳として仰ふがれるに至れり。現時工場總坪數二千五百坪に上り、従業員五百名を超え、生産設備は最新式を以て名あり。技術又當社獨特の研精に依るものにして、その製品は他の追隨を許さざる數多の特性を具備せり。當社は鋭意技術の研鑽に力を注ぎ、優秀なる製品を低廉なる價格を以て供給せんことに努力しつゝあるに依り、今後の發展には多大に注目する所なり。當社重役には社長林野之助、取締役山本吉右衛門、同山田晃、監査役潮崎藤次郎の諸氏あり。

株式 野里 工作所

近來時局景氣は我國事業界に全面的に現れ就中支那事變の勃發以來各種事業會社は何れも目覺しき活況を呈しつゝあるが、一方製品需要は日を逐ひて、著増しつゝあるに對し、他方に於ては生産手段たる機械の入手困難となり、原料資材の供給又大いに圓滑を缺く等に依り、山積する受註を前にして製造業者は悲鳴を發するの有様なり。株式會社野里工作所は水壓機、ポンプ、鑄造品、各種工作機械車輛用ジャッキの製造販賣をなし、その製品頗る優秀なる所より、非常なる好評を博し近時の事業界の好況に依りて需要大いに殺到し、毎期多大の好成績を挙げ、社業飛躍的發展をなしつゝあり。最近に至りては軍部方面

治三十七年陸軍砲兵少尉に任ぜられ、後陸軍砲工學校に學び、次いで東京帝國大學工學部

事業家 富永 政吉

合名會社富永電機商店代表社員たる富永政吉氏が、中京名古屋電機材料の巨商として斯界に重きを爲すに至りしは、偏へに氏の奮闘努力の賜にして、勤勉力行非凡なる慧眼能く其の功を収めたる處なり。氏は宇治山田市に於て明治九年七月を以て

生る。大で三十七年富永家の家督を繼承す。夙に前途の開拓に専念せし所、偶々電氣の將來性に着眼して、自己の運命開拓は斯業に在りとし、猪突的に奮闘せしに依り世人の行動を大いに怪しみたり。以て氏の才機を知るべし。幾度か難關に際會せるも、之れを克服し、遂に昭和九年二月、資本金拾萬圓の合名會社を組織し、名古屋市中區南伏見町に堂々たる營業所を設置し、自ら代表社員となりて活躍し、順風滿帆の勢を以て、業績頗る顯著に向上し、販路又全國的に擴張され、此處に愈々基礎鞏固となれり。今や當社が取扱へる賣上高は年額百五十餘萬圓を突破せるの盛況振を示めし、斯界の信用を得て製品取扱代理店として、特約ある主たる事業會社は實に左の如きものあり。

古河電氣工業株式會社、東京電氣株式會社、東海電線株式會社、東京コンチツト製造株式會社、松下電器産業株式會社、株式會社神戸電機製作所、合名會社草川電氣製作所、屋井乾電池株式會社、岡田乾電池株式會社、神保電器製作所等の代理店たり。就中會社發賣のブルドック印メンテプは夙に業界に好評を博せる處なり。

今や氏は功成り名遂げしが、實際業務修得の爲めに、氏の長子に一切を委譲し、氏は之れが大綱を統べて監督せり。氏は尙ほ推され

て名古屋マツダ取締役の要職にあり。家庭は長男仁三郎氏名古屋商業を卒業し、家業に従事す、其の令閨幸子夫人は陶磁器界の重鎮、岐阜縣多治見町加藤圓治氏の息女、縣立多治見高女出身の才媛なり。

(住所) 名古屋市西區上園町三ノ一五

日本旅行株式會社

春夏春冬四季に於ける自然の風光千姿萬態まことに變化に富み、而も足の向ふ所名勝、舊跡至る地に所在する我國に於て、實に旅行こそ津々として盡きせざる興趣あり。當社は低廉なる経費を以て、且つは輕便に旅行の愉快を盡さしめて、噴々たる好評を博せり。即ち、學校・會社・官衙・工場等の各種團體旅行、毎月僅少の掛金を積みて行ふ月掛旅行、海外視察旅行、地方より東京見物に來れる地方旅客の一切の幹旋をなす地方旅客取扱、各劇場の觀劇團體、東京市上空遊覽の航空部等の各種事業を營めり、最も歡迎を受けつゝある月掛旅行會には各種ありて、二泊の旅をなす別途積立旅行會に於ては關西・東北・北陸の各行程あり。入會者は會費二十五圓を毎月二圓五十錢宛十ヶ月間に積立て、適當の時に於て催される旅行に希望地を選択して参加なし

の一切の世話を懇切に當るを以て、低廉なる費用を以て、輕便に快適なる觀察遊覽の旅をなし得るなり。旅行の愉快は何人も知悉せる所なるも、何分経費を要し、殊に不案内の地に赴くには旅の不安ありて、何人も容易に行ひ難き事情あり。當社の如くに所要の経費は月々僅少の額を積立てることとなれば、その負擔は些したる痛痒を感ずることなく、旅行に於ては案内親切に一切の幹旋をなすを以て聊かも心遣ひを要することなく、愉快なる旅行をなすを得、而も數多の人と行を共にするを以て何等の退屈も不安をも感ぜず終始和氣霽々たるうちに旅の醍醐味を満喫なし得るなり。當社の旅行會の制度はまことに合理的にして、輕便且つ經濟的なるを以て絶讚湧くが如く、個人は勿論殊に會社、工場、商店方面より多大に利用せられ、近時益々盛況を極めつゝあり。當社は日本最初に創立せられし旅行會社にして、社業鞏固なると共に、その内容甚だ堅實なるを以て非常なる信用を博し、業績年と共に向上を辿れり。當社重役には社長大林正夫、専務取締役尾崎末吉、相談役(貴族院議員子爵)立花種忠、同(衆議院議員)岩切重雄、同丸山茂子、營業顧問(前上野驛長)清計太郎の諸氏あり。

社長 大林 正夫 資性濃厚篤實にして

心性峻潔、眞摯社業に勵精して大いに手腕を揮へり。氏は情誼に厚く、抱擁力に富み、内外に多大の信望を博せり。

(所在地) 東京市京橋區銀座五丁目

小森才治郎

氏は年少より身を極精の増城に投ぜられ、所有る世上の辛酸を試み盡し。而かも事悉く不幸失敗を反復せるも落膽せず、常に勇奮し一大勇猛心を發揮し、美事之を克服する剛放不羈較ぶ者なき所謂苦勞人たり。氏こそは實に立志傳中の純潔の一頁を飾るべき一異彩なりと謂ふべし。

現時京都市内に於ける近代的大衆食堂の最高峰として錚々比類なき聲譽を博しつゝある業界の元祖「川端食堂」は氏の經營に係るものなり。

由來小森家は累代京都に居住し來りたる家

得るなり。日歸り旅の日組にては水郷・長湯湯河原・八雲温泉・筑波山・三浦半島・東京遊覽飛行(滯空七分間)・房總・大島・箱根・三峰山・日光鬼怒川温泉・箱根十國峠・海富士三湖箱根の各行程ありて、十月乃至十二月間に亘りて毎月五十錢を積立て、五圓乃至六圓を會費とす。月組に於ては日光東照宮鬼怒川温泉・大島・磯部温泉・妙義登山・東京遊覽飛行(滯空二十分間)・赤城山・水郷鹽原温泉・房總・輕井澤・草津温泉・善光寺戸倉温泉・伊香保・水戸三瀧・修善寺温泉三津瀧・昇仙峽の各地に一泊旅行をなし、毎月一圓宛十ヶ月乃至十二月に亘りて、會費十圓乃至十二圓を積立てるなり。その他に特別コースあり。これには伊勢參宮・熱田神宮・川稻荷參拜・桃山御陵伏見稻荷參拜・伊豆一周・大島伊豆・猪苗代湖東山温泉・飯坂温泉・松島・久能山三保修善寺・成田不動尊參拜・九州一周・北海道一周・那須温泉・善光寺參拜・平穩温泉・鎌倉江ノ島・武藏嵐山松山吉見百穴・身延山參拜昇仙峽・水上温泉・上高地・朝鮮滿洲・房總一周・惠那峽・天龍峽・奥多摩・黒部宇奈月温泉等の行程ありて、申込に應じてその都度費用並びに行程の見積をなすこととなせり。尙ほ積立會費は乗物・宿泊・食事・その他祝儀等に至るまで含まれ、又旅行の際には當社の案内人終始付添ひて、食事より身邊

柄にして、氏は小森政吉翁の三男として京都府に呱呱の聲を擧ぐ。天稟聰敏にして膽大而も奇略縦横。家計豊かならざる所より氏は小學校卒業後直ちに市内某商店に丁稚奉公に出でしも、資性克己心に強く、年齢僅かに十六歳にして、既に大望を懷き、魚行商を創め早朝より天秤棒を擔ぎ苦闘せしも哀れ世事に疎く、二年半餘にして失敗に歸し、詮方なく亦奉公に出で、再起を期し、幾何の貯蓄を以て二十一歳に獨立せしも、再度失敗に墮れたるも落膽せず、更に五ヶ年間の奉公を全うして茲に美事獨立の機至りて、先づ七十圓の信用借入金と貯蓄とを資本と爲し、魚行商に苦行し逐次信用を得るに至れり。商才に長け機を觀るに敏なる氏は、大正九年一月現在の店舗を買収するを得て「川端食堂」の名の下に開店す。當初氏は依然魚行商を續けて精勵し、糟糠の妻女なつゝ女は店舗一切を切り廻し、所謂夫婦共稼ぎを敢行し、遂に能く今日の業礎と隆盛を達成す。當時市内に食堂と稱する近代的の飲食店なく、氏が夫が先達を爲したるは、氏の烟眼に據るものにして業界の鼻祖先覺者と讃へらるゝも當然と云ふべきなり。氏は現に京都川端料理飲食業組合長に推舉され、同業者の指導向上の爲多大の貢獻を爲し、人望また稱讃され信用を高めつゝあり。圓滿を誇る家庭には尊父九十六歳の高齡な

るも未だ豊饒、婦道を全うせるなつゝ夫夫人との間に四男一女を挙げ、長男弘君及び次男茂君は共に京都市立第三商業學校に在學中にして、長女福子嬢は精華高女出身にして、現に家庭に在りて婦藝習修中なり。要之氏の苦闘實に三十餘年、遂に俊敏と豪放、忍耐の結實は能く今日の覇業を爲す。今や固熟稀れに見る人格は業界敬仰の的となり、内は老境父君に萬全の孝養を盡し、子女の教育に頗る熱心なる氏こそは立志傳中の士と謂ふべし。

(住所) 京都市左京區川端道三條上門前町)

昭和肥料株式會社

空中窒素固定工業は平時に在りては農業經營上必要不可欠なる窒素肥料を製造し、國家有事の際に當りては、爆藥原料の給源として臨時も急にすべからざる重要工業にして、其の興替が國家の休戚に關すること如何に重大なるかは敢て贅言を要せず。

抑々本工業は彼の歐洲大戰を契機として勃興し、爾來世界各國は國を擧げて之が研究と確立とに没頭したるが、昭和元年頃までの我國に於ては未だ其發達の途上でありし爲、年々數千萬圓の窒素肥料を海外より仰がざるを得ざる狀況にあり、我國國家經濟上尙に遺憾に



昭和肥料株式會社川崎工場

堪えず。茲に於て昭和肥料株式會社は我國天與の水力電氣を利用して、空中窒素を固定し低廉且優秀なる窒素肥料を豊富に製造するに依り、國際貸借の改善に資すると共に、進んで我國農村振興の一助たり、將又國家的重要産業確立の爲、昭和三年現社長森島親氏主唱の許に創立を見る。爾來工場を完成して大量の生産を圖ると共に、之が製品の配給に當りては、夙に生産者より直接消費者への主義を標榜し、廣く市販の外、主として全國購買組合聯合會と提携し、良品を安價に供給し、以て農村繁榮の爲全力を盡して今日に迫る。其

昭和四年新潟縣下に鹿瀬工場を建設し、石灰窒素の製造を開始し、同六年には川崎工場を竣工して純國産の機械設備に依り、我國獨自の方法を以て硫酸アンモニヤを製造し、幾多先進國の製品を凌駕する優良品を多量に生産するに至りたるが、引續き同九年コークスを原料とする半水性瓦斯法に依る増産を計畫し、昭和十年九月之を完成し、更に目下進行中の第二次増産設備完成の際には、合成硫酸年産三十五萬噸に達す。斯くして當社は今や、國內需要の充足より進んで輸出し以て世界市場に其覇を唱へんとする現勢に達し、爰に我國産業發展のため力を盡す當社の重大使命は愈々達成の域に入らんとする現況なり。而して當社事業の概況を記せば現資本金は三千萬圓全額拂込済を擁し製品は硫酸アンモニヤ、石灰窒素、液化アンモニヤ、カーバイト合成硝酸其他副産物等にして、工場を川崎市扇町及び新潟縣東蒲原郡鹿瀬驛前に置く。前者は敷地八萬二千坪、建坪二萬餘坪の宏大を誇り製品は商工省工業試驗所法に依る日本式アンモニヤ直接合成法を以てし、製造能力年産硫酸アンモニヤ二十七萬噸、製品は硫酸アンモニヤ、液化アンモニヤ、合成硝酸、硝酸アンモニヤ、亞硫酸曹達、酸素瓦斯、液體酸素、窒素瓦斯、アルゴン瓦斯にして、電力は毎時八萬キロを東京電燈會社より受電す。

而して其製品の運輸は鐵道引込線及び五千噸級の船舶を横附する岸壁の設備ありて、海陸輸送に至便なり。後者鹿瀬工場の敷地は廣袤十一萬坪を擁し、製法は炭化石灰に空中窒素を吸收化合せしめ、石灰窒素を製造す。其製造能力年産實に十萬噸にして、製造及び設備は總て當社獨特の設計に依りて製作したる國産品を使用せり。電力は前者と同様東京電燈より毎時五萬キロを受電し運輸は引込線あり、又海陸運輸に便するため新潟港には岸壁に倉庫を設備しあり。

斯くて當社は六月一日を期して、倍額増資を斷行するに決し、十二年春買収せし北海道石狩の豊里炭礦を開發して、コークスを獲得は勿論、タール工業への進出と、將來は石炭液化まで進出の意圖の下に、先づ日産一千噸を目標に坑道を進め、軌道を延長、自家發電を行ふこととし、之等豫算六百五十萬圓を計上せり。尙早山石油と共同出資設立せる日本油化工業會社は、現在資本金百五十萬圓四分の一拂込たるが、石炭液化計畫の進捗に伴ひて行々は三千萬圓程度に増資の豫定なり、一面長津江上流約三十三萬キロの電源の開發を目的とし、東拓、東電、東邦夫れに當社が分擔出資して、資本金五千萬圓(内拂込四分の一)の江界水力を設立し、同社が工事進捗に伴ひ、未拂込の徴收あり。而して同社が三十

三萬キロを出力の際、その發電力の七割五分を以て十二年二月設立せし朝鮮化學工業(資本金一千萬圓、内拂込二百五十萬圓)へも當社が關係すべく、其の他青森縣八甲田山の開發計畫あり、諸設備に五百萬圓内外を要する豫想の下に、前叙豊里炭礦開發と並行諸種計畫を進め居れり。以上大規模なる計畫の進捗するに先立ちて、業界環視の中に川崎工場の設備轉換を行へり。即ち電解法の約半ばの十八萬噸をコークス法に轉換し、コストの低下を圖り得たることも特筆すべく、當社の多角的經營強行は眞に目覚しき限りなり。

因に當社役員は本邦實業界の錚々たる人物を網羅し、取締役會長に實業界の巨頭郷男の推戴こそ誇示すべきものあらん。

取締役會長郷誠之助 取締役社長森島親
事務取締役高橋保 取締役白勢量作 同鍵和
田良平 同鈴木忠治 同安田彦四郎 監査役
小林一三 同浦山助太郎 同佐野精一 同藤道文藝 同岡部榮一

取締役社長 森 島 親 若冠にして身を工業界に投じ、進取果敢の勇猛心と生來の事業的才腕を縦横に驅使して、着々地歩を占め今や斯業界に赫々たる聲名を馳する雄將たり。また出ては多年政界に飛躍して、その輝ける存在を知らるゝ氏は、千葉縣人森島吉氏

の長男、明治十七年十月を以て、同縣茨城郡に出生し、長ずるに及んで父業たる沃度製造に従事し同三十年房總水産株式會社を創立して其社長となり、業界への飛躍の第一歩を踏み出せり。後ち同社業務を擧げて東京電氣會社に合併し、徐々に觸手を延ばして畿内山縣製本印刷、東北電力の重役たり。千葉縣民の輿望を擔ひて衆議院議員たる事數回、立憲政友會に屬して一異彩たるは悉知の事實なり。現に當社々長の傍ら日本火工、中央電氣工業各會長、日本電氣工業、姫川電力、昭和鐵業、樺太炭業、昭和火藥、森興業各社長、東信電氣、昭和鋼管其他數社の重役を兼ね、日夜精勵席の温まるを知らず。因に氏は電氣俱樂部日本工業俱樂部各會員たり。

事務取締役 高橋 保 長野縣高橋澄彌氏の長男、明治十六年八月同縣東筑摩郡上川手村に生る。同四十二年京都帝大電氣工學科を卒業し、伊那電氣鐵道技師長を経て、同十四年長野電燈技師長に轉じ、大正八年同社顧問、同十二年取締役に就任、其間布引電氣鐵道、梓川電力、千曲川電力各會社の創立に參與して共に取締役たり。現に當社の他昭和鋼管を始め數社の重役にして、昭和七年衆議院議員たり。

(所在地) 東京市京橋區寶町一ノ七

京都雇仲居置屋業組合

山水の秀麗、大洞巨剎の宏壯、英雄傑士の事蹟に誇る古帝京たる国際觀光都市京都は、春夏秋冬内外人士の遊覽、探勝者一年百數十萬人を算すと聞く。而して當市に遊ぶ者は名所舊蹟を訪ねると共に必らずや優麗清楚の京美人と接見するならん。抑々京女人女性の中雇仲居の存在は過ぐる大正御大典の聖儀に際し、全國津々浦々より上洛する拜觀者、並びに外來者が一時に殺到するを豫想し、都下各旅館は其接待女中の補充として、一時的雇仲居を雇備して、上洛客の至便を圖りたるが、爾來二十餘年夫れが純然たる雇仲居業の存在となり、現に其數六百餘名を算す。當初雇仲居は只單に接待女中に過ぎざりしも、爾來漸次増加すると共に業界の向上刷新を圖りて、行儀作法を始め茶、花道をも教授して其素養を深からしめつゝあり。現在雇仲居を二班に分ちて梅組、竹組と分け、月二回乃至四回以上の上の強請指導を爲し居れり。今日祇園の美妓と其修養乃至素質何等異らず、一般歌舞音曲を能くし、春は花見に、夏は夕涼みに、其他四季の宴會には必要缺く可らざる存在となれり。一たび京都に遊ぶ者加茂川の源に一夕の

宴を振らんとする者一度は彼女等を招じて、京都情緒纏綿たる雇仲居に接するも亦興味津津たるものあらすや。

現時當組合の陣容は

- 組合長 小山 清一氏
- 副 長 鷲田 修氏
- 矯風會長 藤谷准一郎氏
- 副 長 釣熊 治氏

組合長 小山 清一 氏は性温厚篤實にして一般に信用厚く、當業界に通曉し、當組合の爲に献身的努力を爲し居れり。

尙當組合矯風會長藤谷准一郎氏は小山組合長と名コンビを以て謳はるゝ當組合の重職に在り、常に全雇仲居の風紀上其他の向上に努めつゝある人格識見共に卓抜せる信望高き士たり。

(所在地 京都市下京區西木屋町佛光寺下)

羽生護謨工業株式會社

羽生護謨工業は埼玉縣羽生町に一大工場を建設し、その設備優秀にして製品類の良質、事業甚だ活況を呈して斯界に潮を唱へつゝあり。當社は行田足袋の産地を基礎として、主として地下足袋袋に學生靴の製造に力を注ぎ

その製法には當社獨特の技術ありて、他の追随を許さず、需要年々ともに増加し操業頗る活況を呈せり。資本金十二萬圓、その金額僅少なれども、資産内容まことに堅實にして良好、而も毎期決算頗る好成绩を収めつゝあり。昭和十二年三月末を締切となす、十一年度下半年期決算を見るに、總收入四十二萬六千圓、總支出四十一萬六千圓。差引當期利益金一萬圓を計上せり。利益率一割六分となり、一割配當を行へり。設備の改善、技術の向上に全力を傾注しつゝあるを以て、製品の品質愈々優秀を加へ、需要益々増加に向ひつゝあり。當社の今後大いに刮目するに足る。

専務取締役 根岸 亮一 氏は前羽生郵便局長、忍商業銀行支店長の要職にありて、多大の聲望ありし根岸寛介氏の長男たり。同家は同地方有数の名家にして、世人より深く敬仰せらる。氏は頭腦敏密にして研究心に富み寸暇を惜みて、護謨の研究に精勵せり。苦心研鑽の結果護謨の配合に關して世界各國に十三の特許権を獲得す。氏の熱心なる研究に依りて製品の品質益々向上して、世間より非常なる歡迎を受け大いに需要増加をなせり。氏は日常作業服を身に着けて活動し、職工の間に伍して作業に携り或は販路の開拓に八方奔走し、その活躍まことに目覚しきものあり。

又職工の優遇に意を注ぎ、待遇の改善に力を盡くすと共に、保險衛生の諸設備に就いても萬全を期せり。これによりて同社従業員は勤勉にその職務に精勵し、和氣藹々として社業の發展に協力せり。氏は温厚篤實にしてその態度まことに謙虚にして、他面質實眞摯にして毀譽褒貶に超然とし、自己の所信に黙々として精進す。氏の手腕並びに人格は社の内外に於て畏敬せられ、その信望甚だ高し。殊に當社五百の男女職工は氏は慈父の如くに慕へり。氏の才腕に依りて社業益々茂盛を加へ當地方の發展に貢獻する所尠からず。地方産業の功勞者として縣並に内務省より再三表彰せらる。

(所在地 埼玉縣北埼玉郡羽生町上羽生)

株式 篠原機械製作所

本邦機械工作業界は今や未曾有の繁劇と活況に恵まれ眞の黄金時代に際會しつゝあり。斯業界が金解禁後の不況より、本格的に立直りを示したるは、昭和八年頃なりしが、爾來六ヶ年、好景氣状態を續け、同十年頃より業界好調も絶頂と觀測せられしが、二・二六事件並に夫れに續く、日支事變の勃發を契機として、斯の如き觀測は根底より覆えさるゝに

至り、其前途には一途茂盛を豫見せられつゝあり。我が篠原機械製作所は昭和九年十月現社社長篠原義治氏の個人經營を組織變更せしものにして、創立以來景氣の普遍化に伴ひ製作多忙の度を加へ一面經營熱心に依り逐時順調の業績を挙げ、今日の盛觀を招來し併而その將來を嚆矢するゝ新進氣鋭たり。而して主要なる製作品は各種旋盤、型削盤、手削盤、フライス盤、ボール盤、ラジヤール盤、研磨盤、金切鋸盤、油溝切盤其他一般工作機械にして現に工作機械の大増産計畫を實施中なり。即ち越ヶ谷工場に依り高級工作機械製作を計畫し、別働隊たる株式會社昭和和工作機械製作所を設立し今後の大發展に備ふべく千葉縣幕張町に七萬坪の敷地を買収設備建設を進むる一面、鑄物工場の建設にも着手す。

故に今後の擴張所要資金は莫大額に達すべく資本金二百萬圓内拂込百五十萬圓の三倍増資を來る七月中旬を期して行ひ、新株一株に就き、十二圓五十錢の拂込を徵收するに決定し、殘額五十萬圓拂込を去る五月二日期限に行はれたり。斯くて當社は五大メーカーの堅城に迫る、工作機械専門メーカーとして一大飛躍を試みる事となれり。即ち昭和和工作機械製作所は、篠原社長が高級工作機械の輸入防遏を目標として、創立着々と建設工事を進めて既に一部操業を開始し、同製作所と母體た

る當社との合併具現の曉は本邦工作機械業界を席捲するものと其動向は齊しく注目さるゝに至れり。

茲に最近即ち昭和十二年下期の業況を觀察するに、當期は事業の直接影響に依る生産力の擴充促進と爲替管理の強化に依り、國産工作機械の需要著増し、當期の賣上高は前期の五割八分増となり、支出を差引きたる利益金も九萬七千圓増を現せり。對資利益率も四割五分二厘に達し前期より三分増の一割五分配當を行ひたり。尙當期總賣上高百七十三萬八千圓を期末固定資産八十一萬九千圓に對照すれば固定の回轉率四倍二に相當し、逐期一段の光彩を放つこと論を俟たず、之れを要するに當社の注文先は民間方面に多くして、今後の増稅負擔、經費の膨脹は加重するも遂に利益減少の憂ひは毫もなく、利益率四割程度の成績を挙げ得べし。尙爾後躍進と共に増資拂込徵收等頻々と行はるために、配當負擔は自づから加はるも、成績向上は絶對確實なれば何等憂ふるところなし。

因に當社は大阪市内南區内安堂寺町二ノ四、名古屋市中區岩井通五ノ二六、小倉市大門町四四に各出張所を置いて販賣網を張り。確乎たる人的要素は、取締役社長篠原義治専務取締役篠原爲儀、常務取締役小島七藏、取締役早川由吉、監査役久保田長太郎の諸氏

販種社長 篠原 義治 一職工より身を起し今日の精進たる大徳原製作所の基礎を築き上げし、昭和立志傳中の一異彩にして斯界の慧星的存在たり。

年少にして身を苦悶の増城に究爾として投じ、野中工具店に格勤して同僚職工と共にハシマーを揮りての修業は知る人ぞ知る。大正十二年に迫んで機熟して驟然立ちて獨立す。文字通りの赤手空拳、以來血の滲む悲戦苦闘は遂に現時の大事業を築き上げた。氏の人生行路は實に「進軍難微今焉成山」なり。脂汗の結晶遂に能く今日の人間篠原氏の地位を贏ち得しむ。氏天資堅忍不拔、霸氣縱横、事に當りて冷頭熱腸、自己の満足する製作の完成する迄は假令損失を招くとも、平然自若一心不亂に精進する底の誠實さは、遂に氏今日の信譽を獲得せしむ。當年未だ不惑齡、その大成は寧ろ今後にあり。切に自重を祈る。
(所在地 東京市麹町區丸の内丸ビル内)

書齋骨董商 石田 義翁

由來生活意識の淨化と藝術作品の鑑賞玩味とは不可分の關係を有し、殊に近來提唱嘔しき所謂新興藝術品に比較し多年國土に培養育成せられたる古典藝術の鑑賞並に保存こそ實

に近代日本人の蕪雜繁激なる日常生活に無限の滋味を與ふ可きものと謂はん。而かも典雅優麗、克く世界藝術的作品の最高峰を往き、其の腹都搗曳する藝術の香氣、恰も神韻飄渺たる如き、亦た萬國に冠たる我が繪畫、骨董類の珍重寶貴に値するは、茲に論を俟たざる處なり。

我が石田義翁氏は實に是等珍寶佳什の賣買取引轉賣等に非凡の手腕を顯はれ、其の鑑識眼の透徹微塵の過誤なきは、夙に斯界の權威を以て蓋さるゝ偉材の士たり。氏は古來近江商人の發祥地として、天下に著名なる滋賀縣の出身、即ち明治二十四年を以て同縣野洲郡玉津村に産聲を發し、生家は土地屈指の舊家豪農として、連綿家歴を閉せし石田家、先代を寅造氏と呼びて近隣評判の人望家なり。氏は其の四男として、夙に家業に従事、故々精勵せしむ、其の胸底に燃ゆるが如き霸氣抑ふるに由なく、若冠二十才の時、敢然郷關を後に隣府京都に上り。爾來書畫骨董店に研鑽攻究の歲月を累ね、只曾斯道の鑑賞眼を練磨せる所、天稟の藝術的才能は遺憾なく光芒を發し幾年もなくして其の妙諦を把握せり。斯くて、將來獨立不羈の念旺盛なる氏は、獨立自營の機會至るや、敢然大阪に地を相して開業、而かも慧眼克く九州地方に不世出の珍什せるを觀破し、同地方に資料採遊せる結果

多大の成果を收め、以來、専ら南宗派繪畫の販路擴張に努力を注ぎて、拮据經營せる處其の誠實本位を標榜する商業道の現現は、名畫珍什の豊富なるに相俟ちて、業運の伸展繁榮を促進せしめ、夙に傳統古き美術商として江湖の認識を高めるに至れり。今や貴顯紳士間に信譽絶大を極め、業勢隆々として名實共に斯界の雄者たるに背かず。

資性濃厚篤實にして、襟度宏量なる一面堂々十八貫餘に及ぶ體軀に燃ゆるが如き闘志を抱き而かも玲瓏圓滿なる人格の所有者なり。蓋し斯界屈指の偉材と稱すべく、將又典型的紳商として、信用益々重きを加ふるは、當然の歸趨ならん。因みに家庭には温雅貞淑にして、賢夫人の譽れ高き千代子夫人あり、其間長男武夫君(十八才)次男義雄君(四才)長女いよ子嬢(十二才)二女弘子嬢(五才)二男二女を擧げて一家の清福圓滿、正に羨望に値すべきものあり。

(住所 大阪市南區日本橋筋一ノ四二)

鬼怒川温泉旅館組合

帝都に最も近き理想的温泉場を擧ぐるならば、先づ何人も南の熱海に北の鬼怒川に指を屈すべし。殊に鬼怒川温泉は山水溪谷の美

に富みて熱海の俗化甚だしきに比し、頗る清淨双絶なる自然美に恵まれたり。突兀たる奇巖怪石の間を急奔する溪流は噴んで吹雪を散らし、紺を滌きたるが如き、大瀑は千古の秘密を藏し、その閑寂幽遠なること仙境にあるが如し。當温泉は東武鐵道開通と同時に目覚しき發展をなし、各旅館は競つて最新式の設備を施し、或は増築擴張をなして激増する遊覽者の歡待に努めり。即ち、宏壯善美の建築物斷崖絶壁上に巍然として聳立して、甚だ偉觀を爲せり。春は新緑鬱ゆるが如く、百花撩亂と咲き亂れ、八沙の紅、山吹の黄金色研艶を競ひ、鶯啼き、又山に登り巖をとるもよし。夏は標高二千尺、滴るが如き翠緑を滑りて通ふ萬斛の涼風を滿喫し、輕舟を清流に浮べて釣魚、水浴等をなし、或は河床岩窟の湯に浸りつゝ、河鹿の鳴くに耳傾くるも一興なり。秋は紅葉して錦繡の彩りは花よりも美しく夜は清流に映る中秋の明月を賞で、妻戀ふる鹿の哀れなる聲さへ耳に入る。冬は靈泉の湯治を樂しむと共に、雪見炬燵の酒、或は雉子、山鳥、鹿狩等も面白く、又この地特有の名物と云はる樹々の梢に凍る氷晶の花の如く、まさに天下の奇觀たり。尙ほ附近一帯の地域には名所舊蹟に富み、四季を通じて行樂の地として甚だ面白し。東京より僅か二時間半の道程にして、日歸り旅行にも最適な

り、東武電車淺草雷門驛より日光行に乘車し下今市にて乗換へ鬼怒川温泉に至る。又省線にては上野驛より日光行に乗り、今泉驛にて下車し、東武電車下今市驛より乘車して當温泉に至る。東京よりの便利よく而も所要時間頗る短かくして、斯る理想的温泉郷に到達し得るを以て、遊覽浴客は四時終結と續き年と共に繁榮を呈す。當温泉の主治効能は胃腸病、神經痛、リョウマチス、婦人病、外傷性諸障害、諸病恢復期等に特効あり。又當温泉の主たるものは鬼怒川温泉ホテル、きぬ川館、鬼怒の湯旅館、一柳閣、山水閣、麻屋旅館、大出館、大瀧館、星野屋旅館等あり。各旅館鬼怒川温泉旅館組合を設立し、協力一致して業務の統一、設備の向上、旅客の吸収策等に對策を練り、當温泉場の繁榮の爲めに力を盡くし、多大の實績を擧げつゝあり。

副組合長 八木澤善八 氏は組合長を輔佐して組合の事業に奔走し、當地の發展の爲めに多大の努力を傾注せり。氏は麻屋旅館を経営し、當地温泉旅館中の古多株にして、旅館の内容外観完備せり。客室八十餘にして、舞臺付大廣間あり、浴場には千人風呂、婦人風呂、家族風呂等あり。その他娛樂機關完備し四時浴客の絶ゆる暇なし。

(所在地 栃木縣鹽谷郡藤原村)

佐藤貿易株式會社名古屋出張所長として、名古屋貿易業者の間に、その才腕を畏怖せられ、信望高きが氏なり。嚴父柴田熊三郎氏は夙に陶器の製造事業を創始し、奮闘努力して夙に陶器の製造事業を創始し、奮闘努力して活躍したるに依り年と共に發展をなして斯界に於て大を成せり。現在岐阜縣土岐郡笠原町に於て令兄修一郎氏並に令弟定夫氏は、家業を繼承して陶業に従事す。柴田清一郎氏は幼時より不羈奔放、獨立して事業界に覇を唱へんと欲し、明治四十五年名古屋に出で、柴田治三郎商店に業務見習の爲めに入る。熱心にその職に勵み、よく店主、先輩の命に服従して、具さに業務に關して研鑽を怠らず。その倦むことを知らざる努力により、各般の事

柴田 清一郎

佐藤貿易株式會社名古屋出張所長として、名古屋貿易業者の間に、その才腕を畏怖せられ、信望高きが氏なり。嚴父柴田熊三郎氏は夙に陶器の製造事業を創始し、奮闘努力して夙に陶器の製造事業を創始し、奮闘努力して活躍したるに依り年と共に發展をなして斯界に於て大を成せり。現在岐阜縣土岐郡笠原町に於て令兄修一郎氏並に令弟定夫氏は、家業を繼承して陶業に従事す。柴田清一郎氏は幼時より不羈奔放、獨立して事業界に覇を唱へんと欲し、明治四十五年名古屋に出で、柴田治三郎商店に業務見習の爲めに入る。熱心にその職に勵み、よく店主、先輩の命に服従して、具さに業務に關して研鑽を怠らず。その倦むことを知らざる努力により、各般の事

業に精通して、而もその手腕又頗る非凡なるものあるにより同店に於て多大に重用さる。温厚にして謙虚なる態度は同僚先輩よりも、畏敬を以て迎へられ、その前途多大の期待をかける。大正十五年に至り、佐藤貿易株式會社より熱望せられて入社し、同社の極端に參與し、種々と献策をなして、業務の刷新に制度の改革に多大の功績あり。直ちに同社の名古屋出張所に登用せらる。變動なき貿易界に於て、奇策を縦横に揮ひ、微妙に動く商機を敏速に捕へ、貿易界に一躍名を成せり。俊敏の才略に明断果敢の行動は、中京貿易界にその敏腕を謳はる。氏は部下を愛すること深く、襟度寛厚の士なり。淡白磊落にして清廉潔白の人格者として人の景仰する所たり。氏は柴田熊三郎氏の三男として岐阜縣土岐郡笠原町に於て、明治三十二年八月に出生す。餘不惑を越ゆること一二、視野廣く識見高邁の少壯敏腕の實業家にして、心性峻潔、洋々たる前途あり。旅行、讀書、寫眞等を趣味となす。

嚴父熊三郎氏は元治元年に、母堂ナカ女は明治八年の生れ、何れも健在にして、ミツ子夫人は水野重九郎氏の長女として明治三十七年に生れ、椛山高等女學校を卒業し、内助の功多し。長女セツ子、二女弘子の二嬢あり。
(住所 名古屋市東區權木町三ノ一四)

京都電燈株式會社

古都京都に本據を置き、關西の樞要の地域に廣大なる業陣を張り、同地方の殖産興業に或は文運の興隆に轉運たる寄與をなし、毎期多大の好成績を擧げて業礎愈々堅きを加へ、關西事業界の重鎮として仰ぶがれるものに京都電燈株式會社あり。當社の事業は頗る多岐に亘り、電燈、電力、電熱の供給事業及電氣鐵道、架空索道、自動車に依る一般運輸事業、電氣化學工業品の製造販賣等なり。發賣、貨物、電氣工事の設計、請負及其附帶事業、電氣化學工業品の製造販賣等なり。發賣所出力は水力發電所二萬二千一百九十二キロワット、火力發電所三萬五千八百キロワットを有し、外に受電々力十二萬三千一百三十キロワットあり。電燈電力の供給區域は一府三縣(京都府・兵庫縣・福井縣・滋賀縣)に跨り、五市三十六郡に達す。昭和十二年十月末に於ける電燈燈數二百四十二萬二千三百八十一燈、需要家數四十四萬八千一百四十三戸に上り、電力に於ては供給數量十五萬九千七百七十九キロワット、需要家數一萬九千五百八十戸となり、更に電熱供給は三萬五千九百四十七キロワット、需要家數一萬七千三百五十六戸

を算し、何れも毎期増加の一途を辿れり。十月末を締切となす昭和十二年下期に於ける電燈電力の總收入は、一千一百九十八萬六千圓に達せり。次ぎに電氣鐵道には越前電鐵、嵐山電鐵、叡山電鐵の各線ありて、十二期下期に於て、越前電鐵の成績は乗客總數一百二十二萬餘人、貨物五百四十餘噸となり、總收入三十一萬七千圓に上り、嵐山電鐵乗客總數四百三萬八千餘人、總收入二十二萬九千餘圓となり、叡山電鐵同じく乗客總數一百六十二萬八千餘人、總收入二十二萬八千餘圓に達し、何れも多大の好成績を収むるを得たり。當社は需要者或は顧客に對しては銳意サービスの改善に力を盡くし、或は料金の低下に努めたるに依り、非常なる好評を博し、累期業績向上をなして、社業大いに殷盛を呈せり。當社の昭和十二年下期決算に依れば、總收入一千三百四十五萬二千圓、總支出九百八十四萬四千圓となり、差引當期利益金三百六十四萬七千圓に達す。右利益金より一百一十一萬一千圓を資産の償却に充當し、各種積立金に二十八萬二千圓を計上し、株主に八分の配當を附せり。毎期多額の利益金を内部に保留せるに依り、資産内容は愈々堅實を加へつゝあり。昭和十二年下期末に於ける固定資産の總額一億三百七十三萬一千餘圓に上り、各種の設備その規模頗る廣壯なるものあり。又一千二百二十二萬一千

圓を各種事業會社に投資し、それ等の投資會社は何れも業績甚だ良好にして、毎期當社の収益に資す所多し。當社の沿革を詳めれば、その發祥頗る古く、即ち明治二十年十一月資本金十萬圓を以て創設せられ、同二十二年七月始めて營業を開始す。京都を中心とする一帯の地方の産業の發展、人口の著増に依り事業は逐年躍進して、漸次供給區域を擴大して大津・福井の兩市に支社を設置するに至り、更に京都電氣、洛北水力電氣各社の買収、或は嵐山電氣鐵道、信樂水力電氣、若狹電氣、敦賀電燈等の合併に依りその規模多大の膨脹を遂げ、此の間數次の増資を行ひ、大正六年六月一千五百萬圓の資本金が、同十五年には二千萬圓となり、昭和二年には五千萬圓に増加し、後更に八千萬圓に増資せられて今日に至る。現時總資本六千九百萬圓たり。當社は前記の如く越前電鐵、嵐山電鐵、叡山電鐵の各電氣鐵道を經營せるが、曩に免許を得たる電氣鐵道に洛西電鐵市内三條線、洛北電鐵、京滋電鐵の出願をなし、又鞍馬電鐵、愛宕電鐵の創立にも關與し、關西電氣界にも抜くべからざる勢力あり。當社の地盤には京都市を始め、福井地方の人類稠密地、但馬の海軍工廠及關係工場等ありて、その社礎牢固たるものあり。事業界の好調に依りて今後の業績は一段と躍進をなすべく多大に期待せらる。所

なり。尙ほ當社の重役並に幹部以下の如し。取締役社長田中博、取締役副社長田邊隆二、常務取締役山本和七、同石川芳次郎、取締役會野作太郎、同藤井善助、同大澤徳太郎、同中島昌夫、同田中武彦、秘書課長尾上富之助、總務部長田中武彦、調査部長村井貞三、營業部長佐伯光太郎、工務部長林堅太郎の諸氏ありて、何れも敏腕を以て業界に名聲を馳せ、



田中博氏

任を襲ひて昭和二年現職に就き、奮勉砥礪職務に盡瘁して、その巨腕を揮ひ、當社近時の目覚しき躍進を達成せしめたり。まさに氏は當社中興の功勞者と云ふべし。舊新發田藩士長谷川長宗翁の三男として慶應二年八月を以て呱呱の聲を發す。明治十八年田中家の養子に迎へられ、後家督を繼ぎて現姓を冒す。夙に學業を卒へるや、明治二十年稅務屬となり。同三十一年司稅官に昇進し、爾來青森、京都、横濱各地の稅務署長となり、次いで四十一年簡拔せられて稅務監督官に榮進す。幾何もなく官を退きて京都電燈に入り、支配人に推されて格勳精勵し、社業に勵精して功績拔群を稱され、三十四年取締役に選出せられ昭和二年現職に就く。資性温恭謙裕、器局宏量その清廉の人格を以て財界に甚だ德望高し。曩に大衆川水電社長、大同電力、比叡山鐵道各取締役、京阪電氣鐵道監査役に推舉せられ、或は京都商工會議所會頭に推立せられ事業界に貢獻する所多く、師父の如くに尊敬せらる。

取締役社長 田中 博 京都電燈今日の發展を齎せしは、創業以來當社長として社業に深勵せし大澤善助氏の貢獻に負ふ所多大なるものあるも、同社支配人として大澤氏を輔佐し、眞摯熱直業務に没頭し、東奔西走八方を馳驅して活躍せる現社長田中氏の功績に負ふること又絶大なり。田中氏は大澤氏の後

取締役副社長 田邊 隆二 頭腦敏密にして俊敏萬才、京都事業界にその才腕を嘆服せられるが田邊氏とす。氏は岡山縣人田邊彦太郎氏の二男として明治十七年一月を以て生る。同四十二年東京帝大法科政治科を卒業し、同

年高等文官試験に合格して直ちに逓信省に入る。大いに頭角を現して逓信管理局總務部長に進み、次で經理課長、大臣官房文書課長に歴任し、更に大阪逓信局長、大阪地方海員審判所長に進み、昭和二年簡易保険局長に轉じ正四位勳四等を授けらる。同三年京都電燈より迎へられて専務取締役となり、次いで副社長に就任す。熱意熱直社業に當り、八方馳騁して大いに腕を發揮し、田中社長の良佐として内外に信望高し。専ら庭球、旅行を趣味とせり。

(所在地 京都市中京區河原町蛸薬師)

臺灣合同鳳梨株式會社

臺灣の重要物産たる鳳梨は、その味の佳良を以て多大の好評を博し、殊に罐詰に於てその美味なること他に比倫を見ず、湧くが如き大歓迎を受け、全國各地は云ふまでもなく、歐米諸國、滿洲支那方面よりも年と共に需要増加して歷年輸出著増せり。當社は臺灣に於ける鳳梨罐詰製造業者の合同に依りて成立したるものにして、現時資本金七百二十萬圓、(全額拂込済)に達し、臺灣に於ける新業屈指の大會社たり。當社の自營農場は十三ヶ所三千八百九十九甲に上れるも、現在管理鳳梨畑

は約七百甲にして、當社原料の約一割を生産す。罐詰工場は全島各地に設置せるが、最近將來の増産を考慮して彰化、南投、嘉義の三ヶ所に工場を増設して製品々質の向上を期すると共に、原料集收の便に備へたり。昭和十二年夏の鳳梨生果は、昨年比して結實率概して不成績を示し、果實の品質良好なりしと消費せられたるもの比較的多く、工場受入原料は一般買収三萬八千六百九十七噸、自營農場四千一百八噸計四萬二千八百五噸となれり。昭和十二年上半期製造高在來種五十四萬一千噸、改良種二十八萬五千噸計八十二萬六千噸に達せり。一般食料品界好況の影響を受けて販賣成績甚だ良好にして内地約五十萬噸、輸出歐米約十六萬噸、滿支約五萬噸、島内約四萬噸を賣却し、内外共に需要旺盛にして品不足の状態となれり。事變以來は軍需品として非常なる好評を博せり。尙ほ鳳梨廢物利用並に閑散期に於ける工場の利用策を講じ、マンガリー、トマト、李、パインジューズ、パイン酢等を製造して市場開拓を試みつつあり。十二年上期には五十三萬圓の利益金を擧げ、十九萬五千圓を資産償却に充當し、株主配當には年五分の割合を以て十八萬圓を計上す。製品需要は、將來多大の著増を見るは火を踏るよりも明らかにして、當社の前途洵に洋々たるものあり。

るものあり。取締役社長赤司初太郎、専務取締役小濱淨齋、常務取締役星野直太郎、同大庭義祐、常任監査役西澤義徳の諸氏専ら經營の衝に當れり。

(所在地 臺灣高雄市堀江町五丁目)

日本絹襪株式會社

日本絹襪株式會社は創業以來既に二十星霜を閉し、其間夙に確固不拔の業礎を築き、業績逐期昂揚して今や東關東に於ける新業界の指導的地歩を占有する金字塔たり。由來當社は過ぐる大正七年七月、群馬縣下の有力者たる前原、書上多氏外數名發起の下に機業の淵源地たる桐生市に資本金一百萬圓を以て、機糸製造販賣を目的として設立する

爾來期を果ぬること四十期にして終始實業實主義に一貫し、漸次成績を擧げ現今の盛業を爲すに至れり。

昭和十二年五月末決算に於ける當社總資産は實に二百三十一萬六千餘圓を計上し、内主なるものは未拂込株主八萬七千圓、諸機械設備四十四萬六千餘圓、地所二十五萬八千餘圓、家屋二十一萬六千餘圓、受取手形二十七萬八千餘圓、得意先勘定九萬三千餘圓、原料品四十九萬餘圓、仕掛品二十一萬九千餘圓等にして、同期利益金四萬五千七百餘圓、之に前期繰越金一萬二千二百餘圓を合し、五萬七千九百圓を擧げ、之を處分するに準備金八千圓、従業員退職基金三千圓、賞與及交際費四千五百圓、株主配當金二萬七千三百九十圓(年六分)後期繰越金一萬五千餘圓と、餘裕綽々たるものありき。

堅陣を誇る首腦部陣容、取締役社長前原悠一郎、常務取締役海野幸世、取締役書上文左衛門、同茂木米吉、監査役齋藤源作、同齋藤武助、工場長早川二郎、經理部長山面虎三、技師長今井元吉、商務部長前原一治

取締役社長 前原悠一郎 群馬縣に於ける異數の實業家として、其號名を馳すること久しき氏は、明治六年十月、素封家前原傳次郎翁の長男として出生、天賦温厚にして利根、

同三十年東京高工染織科を優等にて卒業、爾來新業界に挺身し、技術の研鑽に没頭す。現に當社統帥の傍ら第二日本絹襪、書上商店、桐生機織各取締役たり。

常務取締役 海野幸世 終始一貫技術に眞摯躬身し、前原社長の良佐として名を轟かす。

明治二十二年十月、福島縣土族海野正太郎氏の長子として生誕す。大正二年京都高工を卒業し、支那山東工業專門學校教授に任ぜられ、後進の啓蒙に資すること多大、同五年當社に入り工場長として格勤し、昭和六年常務取締役に擧げられ以て今日に迫る。資性頭腦精緻、部下の畏敬の焦點たり。

(所在地 桐生市巴町二丁目)

嘉門

近畿刀圭界に名聲顯著なる氏は浮動剝削以て今日の大成をなせし士にして、明治十年六月三重縣度會郡南海村大字相賀浦に於て呱呱の聲を揚ぐ。家計豊かならず、長ずると共に家業の漁業に従事す。氏は幼少にして氣宇瀟灑、剛毅高邁にして、十七歳の時郡司大尉の企圖せる千島諸島探險の事に参加せんと欲し

て單身エトロフ島に渡る。後日清戦争の勃發するありて歸郷して徴兵検査を受け合格して歩兵三十三聯隊に看護卒として入營す。茲に於て圖らずも氏の醫學に對する關心旺盛として湧き興り、軍務の寸暇を盡んでは醫書をば取讀す。氏の熱心にはまことに恐るべきものありて、短日月にこれを讀破せるのみか、戰役中に於て早くも前期免狀をさへ獲得するに至れり。氏の醫學者たるの天分早くも茲に現れ、目出度凱旋して原隊に歸還すると共に退役となり、然ゆるが如き醫學への憧憬は寸刻も猶豫ならず、一旦歸郷することせず、直ちに上京して齊生學舎に入る。在學一年にして後期試験に合格し開業醫の免狀を受く、その智識常鱗凡介ならざるを知るべし。錦を着て歸郷し、宇治山田市に於て開業せしが、間もなく日露戰役には應召して三等軍醫となり、拔擢の勳功を樹立し、戰功により二等軍醫に果進して歸郷す。宇治山田市に於て梅毒皮膚科専門の病院を開業し、尙ほその餘暇には汝々として研究に従事し、斯くして大正六年に至り淋疾特效薬ウラルゴール薬を発見して醫學界に大いに名を成せり。直ちにこの權利を東京某製藥會社に譲渡し、得たる金を持つて勇躍してアメリカへ渡航す。紐育市に至り故野口英世氏を訪ね、同氏の指導の下に研究をなすこととなれり。日本が生みし世界的醫學

者野口博士と同博士に似たる経路を辿りて大成せる畑氏との會合、まさに好箇の語柄をなすものといふべし。氏は紐育市ポトグラジエニエト大学院に学ぶこと一年有餘にして、ドクトルの學位を授けらる。それより直ちに歸朝して更に新らたなる研究に着手す。即ち天然海水の人體注射を研究し、日ならずしてこれを完成して新藥劑を創製し、大阪武田商店に權利を譲渡せり。續いて更に従來醫學界に於て無視されし皇漢醫學に着目してその方面より淋疾藥物療法の研究をなして醫學界に多大なる衝動を起し、一書を著して天下に之を公表す。後ノームスなる藥品を創製しノームス療法なる書物を公刊して世の注目を集めたり。氏は醫學者として又臨床家として日夜研鑽相勵みて續々と新研究新發見をなし、その眞摯にして熱烈なる探求は日本醫學を世界的に躍進せしめ、氏の名聲又世界的に喧傳せられるに至れり。現在三重縣醫師會副會長、三重縣學校衛生會副會長、山田市醫師會々長等の公職にありて、三重縣醫界の重鎮たり。更に又山田市會議員として市政に盡くして信望甚だ高し。尙ほ氏は有名な伊勢音頭の復興の爲めに私財數萬圓を投じて、今日に見るが如き普及を計るなど、郷里の爲めに貢献する所まことに著大なるものあり。

(住所 宇治山田市宮後町)

昭和鑛業株式會社

當社取締役社長森島親氏の事業家としての信念は、非常時日本の國難打開、國家的必要なる資材の國産化にあり。即ち輸入品に待ちしものを國産化し、國富の増進と共に軍需工業品を自給自足し、他國國民大衆の生活向上に寄與することにあり。この意味より當社を起し最も困難なるニツケルの國産化と、産銅其他を爲さんとするに在り。而してその業況は既に技術的に成功し、企業的成功に邁進しつつあり。

當社は森コンツェルンの總帥にして夙に非鐵金屬生産工業に多大の成果を収めたる森島親氏の手により、昭和九年一月資本金三百萬圓を以て、創立せるを搖籃となし現に資本金三千萬圓(全額拂込済)を擁せり。

爾來金銀銅の採掘製煉の意嚮を以て、優良鑛區の買収開發契島、日比多製鍊所の新設擴張、竹原電鑛工場の建設等若々事業設備の擴充に専念し、之れと雁行して鑛業關係の七會社を新設或は買収して、之れを傘下に收め、原料資源の確保に萬全を期する一面、昭和十二年九月昭和仲銅をも合併して、金銀銅の採掘製鍊より加工部門に至る迄、完全なる一貫

作業の經營形態を完成、今日の大を爲すに至れり。斯くて愈々収益時代を迎へんとして、偶々時局の急轉回業界未曾有の好況に直面し當社事業は臨時資金調整法に依り、甲のイに屬するものと指定され、重要産業として強力なる國家的掩護を享くるに至りしのみならず金融關係に於て興銀の絶對的支持を約束され、又事業的には森財閥の姉妹會社との間原料の仕入、製品の販賣等他社に見られざる連絡と便宜を有せる事は亦看過し難き一特徴たらすんばならず。當社の營業種目は金、銀、銅、硫黃鐵の採掘製鍊、銅並にアルミニウムの壓延加工、硫酸、明礬及び硫酸鹽土の製造等を主體と爲し、之に關する船舶運輸事業等頗る廣範圍に亘れるが、要は各部門共原料より完成品に至る迄、秩序整然として完全なる一貫作業を行ふ點にあり。尙又内鮮及滿洲國に亘りて、確保せる國産資源に總面積實に二億七千六百餘萬坪を算し、鑛區數四百六十八、此の内稼行中のもの百十餘萬坪に及べり。當製鍊事業の主體を爲すものは、契島及び日比多製鍊所にして、此處に製鍊さるる金、銀、銅粗銅は竹原電鑛工場に送られて、製品化せられ、其一たる電氣銅は更に大阪仲銅所に送られて、各種製鍊品に壓延加工さる。前叙を以て當社事業は採掘より精鍊電解と各種の加工工程を経て完成に至る迄一貫作業に依りて行

はる事判明せん。

創業以來僅々數ヶ年にして今日の偉業を達成せし事業基礎と工場設備は十二年九月決算迄は全く建設時代に於て其収益状態は、尙本格的ならざりき。勿論營業收入に關する限りに於て前期の夫れは七百三十六萬餘圓、前々期の二百五十六萬三千圓、前年同期の百三十六萬八千圓に比し、著しき増勢を示現せるが、一面設備擴張に伴ふ建設關係の諸負擔も亦巨額を計上せり。即ち契島製鍊所の擴張(十二年二月完成)日比製鍊所(十二年九月完成)並に竹原電鑛工場(十二年七月通電)の建設更に之に對應して、各鑛山の大部分の探鑛に主力を注ぎし爲、収益關係は寧ろ不利の事情多かりしにも不拘、前期純益金百二十四萬餘圓を擧げ、利益率一割六分九厘の實績は稱讚するに餘ありと云ふべし。今期は前期以上に餘裕ある一割配當を待望せられるが、四月以降の來期に至れば、有望鑛區の開発發行、自山鑛の加速度的増加、日比製鍊所の増産設備擴充等々に依り、一層顯著なる好轉を見るは明かなるべし。

當社舊に舊株式三萬株(額面五十圓)新株式二萬株(二十五圓拂込)合計五萬株を公開せるが、當社は既に前叙の如く収益時代に入りしのみならず、近く拂込徴収及び倍額増資實現てふ、資本的妙味を加へる外三菱鑛業、

古河鑛業、日本鑛業、藤田組、住友鑛業等を網羅する舊水曜會の事業を繼承して結成されし、日本鋼統制組合にアウトサイダーの位置を脱して新に加盟せし等人氣を呼びて五倍の應募ありたり。之を要するに當社の前途は正に洋々として、一般より刮目されつゝある所なり。

因に其陣容は、取締役社長森島親 常務取締役森島 同岩田清藏 同半田貢 取締役安西直一 同岩崎清七 同千葉三郎 同石原新三郎 監査役岩瀬亮 同濱崎佐一郎 同三嘴舜太郎の諸氏なり。

常務取締役 岩田 清藏 明治製菓專務、小穴製作所取締役として事業界中堅の士にして、曩に大藏省理財局に奉職して、金融方面にも相當の蘊蓄を有ち、曩に當社の常務取締役に就任し今後の活躍期待せらる。

常務取締役 半田 貢 岩田氏と同時に當社常務に就任し、三河鐵道、關西急行各取締役を兼ね。夙に東京帝大電氣科を卒業し、我國電氣事業界に錚々の名を馳せ、曩に小田原急行鐵道、伊勢電鐵、伊那電鐵、京濱電鐵等の重役を歴任す、頭腦精密にして手腕群抜の頭材たり。

(所在地 東京市京橋區寶町一ノ七)

篠田 信一

篠田氏は中京醫界に於て學識淵博、臨床的技術の卓効を以て名聲高く、且つ又縣政界を縱横に馳騁して、その材幹は世人の敬仰措かざる所なり。氏は頭腦俊英にして周匝嚴密、慧敏なる洞察力と奔放自在の天才あり。思慮慎重にして輕々に事を處理せず、熟慮の後勇斷決行す。圓熟せる常識を具へ、その判斷頗る妥當適切、何人をも悦服せしむるに足るものあり。資性濃厚にして宏潤、襟度寛容にして人をよく抱擁し、而も又氣魄雄渾、氣宇瀾瀾、剛過不屈の資質を具へり。内に白熱の如き熱情ありて、剛志又滿々。高遠なる識見と堅剛の信念を把持して勇往邁進し、氏の往く所翕然として何人も之に従はざるはなし。權門に媚びず名利に超然とし、衆庶の爲めに社會の爲めに或は國家の爲に敢然として、難に赴く義氣任侠の士たり。清白峻潔、高義清節の人格の士にして、衆庶に深く畏懼せらる。名古屋市篠田信太郎氏の長男として、明治二十九年六月二十四日に生る。大正九年愛知醫學專門學校を卒業し、後名古屋醫科大學酒井内科に於て研鑽す。氏は専心研究に没頭し、他事を顧みず、秀拔なる頭才を以て學業大い

に進み、新進俊秀の學徒としてその前途を囑目せらる。切瑛琢磨の功を積み論文提出、昭和五年醫學博士の學位を受け、同年名古屋に於て開業す。氏は懇切丁寧な患者に接しその診断正確、治療速効の好評を博せり。氏の名聲の喧傳せられるに伴ひ、遠きを嫌はず患者踵を接して至り、之によりて同醫院は多大に繁榮し、甚大なる名譽を揚ぐることとなれり。氏の高邁なる識見と烈々たる熱情とは醫業の世界に踏踏するに堪えられず、昭和八年民政黨より推されるに、決然として縣會議員補選に打つて出で、見事これに當選し、爾來縣政に貢獻する所甚大なり。昭和九年に至りて縣會議員の改選あるや、再び立候補して再選し、縣會に於て華々しき活躍を續行す。氏の豪放磊落の天資と卓抜なる政治的手腕により、縣政界の信望をば一身に集め、縣政に寄與せる殊功絶大なるものあり。曩に市會副議長に選任せられて活躍をなしつつあるが、氏は縣下民政黨の重鎮として推重せられ、その前途洋々たるものありて、少壯氣銳の烈々たる氣魄を以て進めば、將來大を成すは明らかなり。磊落落にして名利に超然とし、常に衆庶の指導啓蒙と國家社會の興隆を念願として利害得失を顧慮せず挺身して事に當り、貢獻赫々たるものあり。

(住所) 名古屋市南区御剣町三ノ一〇

日本電力株式會社

滿洲事變に次ぐ日支事變と近時我國は歴史的一大難關に直面し、今や戰時體制下に朝野一體となり、全國民舉げて一致戮力し、時艱の克服に邁進しつつあるが、刻下の危局突破の要諦は、國民精神總動員と生産力の擴充を措きて他に方途は非らざるなり。殊に生産力の擴充は動力資源の開拓充實を不可缺條件となし、就中電力事業の發展の如きは忽がせにすべからざる所なり。當社は我國電力界の雄鎮にして、五大電力會社の尤を以て稱せられ産業の發展、文化の興隆に寄與する所多大なるものありて、我が國事業界に堅確不拔の業礎を築けり。大正八年十二月資本金五千萬元を以て創立せらる。乍併、その創業の計畫は之より早く樹立せられしものにして、即ち嘗て我國電力界が火力發電に依る電燈供給を主となし、一般工業用動力としての電力利用はまことに微々として振はざりしが、火力發電は幾何もなくして水力によりて代り、而も其需要大いに著増するを察知して、水量豊富にして地形又最適の條件を備ふる日本アルプス山系の水利を開發し、その發生電力を先づ關西方面に供給するの目的を以て、明治四十四

年關西電力會社設立せらる。之れ當社の濫觴たり。その後間もなくして諸般の工業勃興し電力需要は飛躍的激増を見ることとなりたれば、嘗に岐阜縣の水利を開發するのみならず進んで富山縣の水利權を獲得して、大正八年當社の創立を見たり。社長には大阪商船副社長として財界に聲望を博せし故山岡順太郎氏就任し、専務には現在當社々長たる池尾芳藏氏並びに現に宇治川電氣社長の椅子にある林安繁氏就任して經營に當ることとなれり。時恰も歐洲大戰の影響を受けて、諸工業の勃興著しく、之が爲めに關西事業界は電力飢饉に陥り、當社の出現は大早にまさに慈雨を得たるの感ありたり。當社は應急策として、大正十一年五月大垣、大阪間七萬七千ボルトの假送電線を施設して揖斐川電氣の横山發電所の發生電力約一萬キロを大阪へ送電し、次いで大正十一年九月竹原發電所を完成し、十二月には富山縣津波を起點として、大阪に至る二百哩の長距離電線を架設し、更に十三年一月釜田川筋に出力二萬七千キロの瀬戸發電所の設立をなす等、創業以來當社の躍進には世人の多大に矚目する所となれり。即ち、大正十二年には越中電力を合併し、同十五年には倍額増資をなし、超えて昭和三年小田原電氣、相武電力、東洋アルミを傘下に收め、同九年八月一千九百萬圓の増資を行ひ、次いで

十一年七月には半額増資をなして、現時資本金二億一千萬圓(拂込資本一億五千七百五十萬圓)の巨額に至れり。現在の發電所數並に出力は水力發電所十一ヶ所出力二十二萬七千七百キロ、火力發電所二ヶ所二十萬四千キロワットを有せり。低廉なる新鋭水力發電所を所有するに依り、建設費は他社に比して著しく割安となれり。昭和十二年九月末締切の當社下期に於ける販賣電力を見るに、關西方面に於て二十二萬六千八百キロワット、中京方面十一萬四千五百キロワット、關東方面八萬八千六百キロワット、北陸方面八萬二千二百キロワット、合計五十一萬二千一百キロワットに達し、前期に比し二萬一千キロワットを増加せり。又電燈取付數は期末現在に於て三十三萬七千八百燈に上り、前期末に比し一萬九千燈の増加となれり。又當社には日電證券、關西電力、庄川水力電氣、箱根登山鐵道、墨部鐵道、關西共同火力發電、中部共同火力發電、朝鮮電力、北支電力興業その他投資會社ありて、右投資額五千六百九十五萬六千圓に上る。何れも相當の好成績を擧げ當社の収益に寄與する所多大なり。昭和十二年下期決算に依れば、總收入二千四百八十三萬三千圓、總支出一千四百六十三萬七千圓となり、差引當期利益金一千九百六十六千圓に達す。右利益金中より資産償却に三百八十八萬

三千圓を當て、株主に恒例の七分配當をなせり。毎期多額の資産償却をなし、或は利益金の内部保留をなせるに依り、資産内容甚だ堅實たり。尙ほ當社は墨部川第三水力、瀬戸第二發電所の擴張工事をなしつつあるが、これが竣工の際には更に一段と威力を加ふることとなり、又關西、北陸方面の需要今後愈々旺盛となる筈なれば引續き好調を期待せらる。重役には社長池尾芳藏、副社長内藤熊喜、専務岸田幸雄、同高津啓一、取締役石原正太郎、同秋山武三郎、同武藤嘉門、同後藤勘治、同石井頼一郎、同大石直次郎、監査役田中榮八郎、同溝口直亮、同三木國太郎、同寺村富次郎、同六角宇太郎。

取締役社長 池尾芳藏 我國電力界の重鎮として、名聲赫々たる池尾氏は、識見高邁にして卓犖豪放、社會各方面に八方馳驅してその功績まことに絶大なるものあり。人格清白高朗、名利に超脱し、常に一身の利害得失を顧慮することなく、國家社會に爲めに献身的に活躍す。夙に電氣協會理事長に推されしが、適々電力國營論の擡頭するや、右政策の國益に寄與する所尠く、却つて産業界に弊害を及ぼすとの輿論擡頭するや、敢然として驍起し、之が阻止の爲めに寢食を忘れて奔走し業界の爲め、千辛萬苦して盡瘁せり。氏は明

治十一年三月滋賀縣人池尾與兵衛氏の長男として呱呱の聲を發す。夙に東京帝大法科を卒業して官界に入り、後實業界に轉じて日本郵船に入り、當社の創立と共に専務の要職に推さる。持統經營して當社を關西より、北陸、中京、關東へと躍進せしめて我國有數の大電力會社として發展せしめてその才腕を謳れ、今日見るが如き我財界の巨擘として仰ぶがれに至れり。器局宏量にして襟度廣く、道念堅固にして操行嚴正、業界に於て師父の如くに瞻仰せらる。

取締役副社長 内藤熊喜 資性温恭にして謙讓を以て内外に信望高く、頭腦明敏にして、手腕卓抜を以て業界に重きをなせるが、内藤氏にして、氏は明治十四年四月熊本縣に生る。明治三十七年東亞同文書院商務科を卒業し、後東邦電力に入り、大いに頭才を示して名古屋支店長に擧げらる。次いで當社に入り、累進して現職に推さる。心性峻潔にして温情に富み、部下より多大に敬重せらる。

東京出張所長 齋藤武五郎 齋藤氏は明治二十四年東京府に於て生る。大正八年東京帝大を卒業し、後當社に入る。熱誠熱直社業に勵精し、大いに機鋒を示して功績多く、簡拔せられて東京出張所長に就任せり。頭腦萬敏

にして犀利精密、常社屈指の俊逸として、その材器は業界に多大に推敬せられる所たり。濃厚にして仁情に富み、部下の指導に力を盡くして慈父の如くに景仰せらる。將來大いに頭角を現すに至るべし。

(本社所在地 大阪市北町宗是町一番地)
(東京出張所 東京市麴町區内幸町)

サロン紅茶株式會社

當社は終始國産品の顯揚、輸入品防遏に一徹し、臺灣國産紅茶に多大なる犠牲と努力と捧げて研鑽に没頭し、今や輸入紅茶の夫れと何等遜色なき、優良品の生産に成功し、完膚なきまで之を驅逐し、以て社業愈々隆々として斯業界を光被しつゝある新進氣鋭たり。過去の昭和九年四月、現代表取締役關はるゑ女史を始め現重役諸氏發起の下に、資本金十萬圓内拂込五萬圓を以て、紅茶製造及び加工品販賣輸出を目的として創立せられしが、その信條は飽くまで、輸入防遏の大乗的見地に立ちて拮据經營以て今日に至り。

過ぐる第七十五議會に於て、爲替管理は次第に強化せられ、貿易管理の方向に一步を進められ、輸出入調節の爲めに、不急不用品を勉めて抑制する事となり、更に支那事變勃

發を契機として各種の經濟政策と共に貿易も否應なしに準戰時體制へと移行し、去る臨時議會に於て輸入品に關する臨時措置法案が省令を以て實施され、代用品あるものは極力代用品を奨励し、輸入品は禁止乃至制限を加へらるゝ事となれり。而して紅茶の如きは國産品を以て、充分に國內の供給を圓滑に充たすを得るのみならず、海外諸國への輸出も非常なる進展を示現し、現時に於ては重要輸物産の一に數へらるゝ状態にて、自然輸入紅茶は國家的見地に於ても、不急不用品として此の法令の適用を受くるに至れるは當然の事なりとす。當社使用の紅茶は國産臺灣紅茶を専用し(セイロン種茶樹)數年來眞摯之れが研究に躬身したる結果、遂に輸入品を完全に驅逐し得るに至れる事は、國家的事業として然かも對外的にも、我が國重要輸出品として益々増進しつゝあるは、洵に欣快に堪えざる

ところなり。コヒー、ココア等は我が國內に栽培を見ざる今日、之れが國産代用品とはなく、この法令の適用を受くる事となりてコヒー界の受ける打撃は頗る大にして、此際コヒー黨は須らく國家福利増進のため紅茶に轉向して、之れが輸入品を排し、擧げて國産紅茶愛用の秋にありと言ふべし。斯かる情勢裡に當社は爰に創業五周年を迎え、業礎既に確乎不動、經營の積極化に拍車をかけて

一段の事業の擴充進展を期し、嚮に記念計畫敢行として、輸入紅茶の代用品として最優良品ダージリン種を以てサロン紅茶特製「青レベル種」を新製發賣したるが「黃種」と共に好評噴々、業界を席捲しつゝあり。今や當社は従来の販路たる關西、中國、九州、四國地方のみに止らず、國産品奨励の好機到來せるに當り、之れが愛用層を獲得するに、益々陣容を整備し、藤野支配人を總帥として、全國的に宣傳しつゝあるが、その成果頗る顯著なるものありて、その前途多幸と言ふべし。

因に當社の陣容は、代表取締役關はるゑ、取締役藤尾末治、同春藤守三郎、同村主傳四郎、同宮島貞一、監査役黒川敏雄、支配人藤野和秀の諸氏なり。

實業家 八田精一

(所在地 大阪市東區高麗橋一ノ五)
明治十四年二月兵庫縣明石市に生る。大阪高等商業卒業後私設關西鐵道に入り、俊爽瀟灑なる活動家として、其才能を認められ、同社の國有西部鐵道の管理となるに迫り、同米子等重要驛勤務を経て旅客係長(現今の課長)に昇進、是れ氏が多年の官吏生活に於ける最も得意の時代にして、其獨特の才腕を揮

ひて各部面に改革を加へ、人事關係の弊害を是正し、以て所管事務の能率を増大し、拔群の功績を顯せり。凡百の官吏多くは小廉曲謹にして規矩準繩に捕はれ、事に當りて臨機應變の手法を缺き、爲に事務の滯滞停頓を招くのみならず世人に意想外の困惑損害を與ふることなき保し難し。是れ官界の宿弊として識者の夙に洪敷するところなるが、氏は這箇の弊みに倣はず、法規に拘泥することなく、其行ふところ大乗的と謂ふを憚るべくんば常識的にして、常に國民大衆の利便を念頭に置き社會正義の基準に照して事を斷じ、唐突の事變其他煩瑣なる葛藤錯節に接することあるも、嘗て粘固滯滞せず快刀亂麻を斷つが如き速かに決裁し去るを其特長とし、爲に大に一般の信望を博せり。多數の部下吏員も其氣象に傾倒推服し、部内上級者亦斯界に於ける稀觀の人材として矚目したるが、氏は自己の性格に鑑みて官場が久戀の園に非ざるを覺り、實業に後半生を委ねんことを欲して昭和六年七月退職せり。由來鐵道關係の吏員は退職後安易なる道を選び、諸會社方面に奉職するを常とせるが、氏の特徴たる不羈特立の氣象は氏をして寧ろ鶏口となるも、牛後となるを肯ぜしめず、獨自の壇場を築かしむるに至れり。現在經營の鐵道省久太郎町小荷物取扱所則ち是れ。昭和七年六月創業以來氏は既往の

關係に於て得たる運輸交通上の豊富なる知識と荷扱上の體験とを基礎として事に當り、常に荷主の便を圖り、丁寧迅速を旨とし大いに精勵したるを以て業況日に日に盛大に赴き、數年を出でずして同業者間に一頭地を抜くに至れり。氏は實業家と謂はんよりは寧ろ政治家肌の人にして、毫も更臈を帯びず、毀譽褒貶に囚はれず、剛毅果斷なる半面に温かなる情操を宿し、又任侠の氣象に富み、知己親朋の爲に周旋盡力するところ妙からず。往年の衆議院議員選舉に形勢不利を傳へられたる某候補者を極力支援して首尾よく當選の榮を膺ふに至らしめたることの如き、則ち其一例にして、業界稀觀の硬骨男兒として名聲噴々たるものあり。

(住所 大阪市東區北久太郎町三ノ三五) 株式會社 日本ドラム罐製作所

當製作所はその規模東都隨一を以て稱せられ、現に陸海軍の指定工場となり、その製品は優秀なる他に比肩し得るものなし。ドラム罐は各種液體の運搬並に貯藏用の鋼板製容器にして、近時その需要は愈々激増を見るに至れり。當所の製品は堅牢にして耐久性に富み内壁には塗料を施して酸蝕を防止する等幾多の長所を具備して他社製品の追従を許さず

國産品の王座を占むる所なり。當所製品の出現によりて舶來品は我市場より驅逐されるに至れり。昭和七年三月資本金三萬圓の合資會社として創立せられ、逐年業況發展して九年十月には資本金十萬圓の株式會社に改組せらる。爾來愈々業勢發達を呈し、毎期多大の好成績を擧げ社業の伸張顯著なるものありて昨年末大日本製罐を合併、資本金廿五萬圓(全額拂込済)に増資し、軍需を中心として事業以來受註幅積を見、消化に追はれ更に一段の生産擴充の要に近迫し爲に曩に倍額増資を斷行五十萬圓内拂込四十萬圓と爲し、更に八幡市に分工場を開設するの盛況裡に在り。

專務取締役 本野吉彦

資性剛毅果斷にして氣格俊邁。頗る事業經營の手腕に長じて東奔西走八方に馳驅し、常に獨創の商陣を張りて多大の成功を収めり。才氣煥發、少壯氣銳の敏腕家たり。明治三十年十月佐賀縣に生る。大正十三年小幡亞鉛鍍金工場を創立し、昭和二年これを合資會社に改む。越えて昭和七年日本ドラム罐製作所を創立し、日ならずして多大の發展を遂げ、氏の才腕は業界の瞻目する所となれり。頭腦明敏にして超凡の手腕を有し今後益々鵬志を伸張するに至らん。

(所在地 東京市東區龜戸町一丁目)

株式 戸上電機製作所

由來佐賀市は商業都市として發展して、工業は比較的不振の状態なりしが、最近の一般産業界の勃興に依りて、全国的に各種事業の發達を誘致し、各地に工業の勃興を見るに至り、佐賀市も此の趨勢に隨伴し工業の隆盛を見るに至り、就中當社は當市唯一最大の電機工業會社として、今日その名聲縣下に冠たるに至り。抑々當社は、取締役社長戸上信文氏が大正八年戸上式自動配電装置其他幾多の發明を爲し、我が國及諸外國の特許權を得當時の日本電機鐵工株式會社の一部に於て製造販賣を開始せしが、漸次需要の増加を見て専門的に大量生産の必要に迫られ、大正十四年三月新に資本金百二十萬圓を以て株式會社戸上電機製作所を創立せり。爾來舉社一致奮闘の功空しからず業績頗る順調を辿り、工場増築擴張相次いで行はれ、今日では工場敷地八千五百九坪、工場建物二千五百十坪に達し、従業員六百七十八名を算する堂々たる大會社として躍進を見るに至り。更に同社專屬指定工場九ヶ所ありて、之れが従業員二百五十名に上り、その年産額實に二百八十餘萬圓に及ぶ盛況なり。



氏文信上戸と所製作機電上戸

當社の主要なる製品は、戸上式特許各種配電用自動開閉器、紡織・礦山用各種開閉器配電盤特高器具、遠方監視制御装置用器具、電氣バリカン等々にして、同社の所有する特許並に實用新案は二百件に達し、その製品

の優秀なるを以て斯界に噴々たる好評あり。同社近時の發展亦宜なる哉。

本社を、佐賀市大財町に、東京出張所を、東京市芝罘新橋に、大阪出張所を、大阪市北區梅田新道大平ビルに、名古屋出張所を、名古屋市中區廣小路通に、廣島出張所を、廣島

と共に、その言説亦味ふ可きもの多々ありと云ふ可きなり。

氏は明治二十八年五月戸上信次氏の長男として生れ、同四十五年三菱工業學校を卒業して上京東京電機學校を大正二年卒業せり。次で逓信省電氣事業主任技術試験に見事合格し同七年佐賀紡績會社電氣部主任技術師となり、崎戸電燈會社主任技術師を兼ね、同年五月日本電機鐵工會社電機部技術師に轉じ、同九年戸上式配電裝置を發明し、同十四年同社を創立之れが取締役社長となれり。爾來益々天賦の才能を發揮して、今日の如き名聲を博するに至れり。又一面社外に於ては、市の爲めに盡瘁する處亦尠からず。如何なる犠牲も敢て辭せざる公共心を以て衆望を蒐め、現に同市商會議所會頭を始めとし、北天草電氣、日本タンクステン兩社の取締役たり。

氏は工場従業員に對する福利施設に對し、多大なる注意を拂ひ、技術の研修に將又人格涵養に力を盡くし、戸上電機青年學校の設立も全く此の此の従業員を見ること我が子の如き至情に出でたるものなり。従業員亦氏を慈父の如く崇敬せるは他工場會社に見られざる淳風として誠に感激に堪えざる處なり。

嘗て昭和五年十一月、氏は産業福利協會總裁安達謙蔵閣下より褒状を受領し、同六年二月佐賀縣實業功勞者として佐賀縣知事より表

彰せらる、氏の事業界に對する功績まことに没すべからざるものあり。

(所在地 佐賀市大財町)

日本水産株式會社

水産日本の眞面目を全世界に發揮し、日魯漁業と共に日本水産業界の双璧と稱せられ、その名聲内外に顯然たる日本水産株式會社は、大正十五年四月の創立にして、創業以來多大の好成績を挙げ、昭和十一年五月蓬萊漁業公司を買収し、次いで日本合同工船、日本捕鯨共同漁業、日本食料工業等の有力會社と合同して一大膨脹を遂げ、現時公稱資本金九千三百萬圓、内拂込資本六千七百五十萬圓の巨資を擁せり。而も當社は日魯漁業の北洋漁業専門なるに對し、北洋の外に近海、東洋、濠洲中米、南氷洋等廣く各方面に活躍せり。即ち蟹工船は勘察加東西兩海岸及白令海。トロイ船は東海、黃海、南支那海、濠洲北西部、中米方面。捕鯨船は日本沿海南緯五十度以南の海面及南氷洋に出動す。當社の營業種目は頗る多岐に亘り漁撈、蟹漁業、捕鯨の外に製氷、冷凍、水産工業（魚糶、魚肥、魚油、各種加工工場）等にして、殊に食料工業の如きは他の追随を許さざる所たり。製氷工場全國各

市八丁堀八八に、京城出張所を京城府黃金町一朝鮮ビル内に設置し、販路亦内地各方面は勿論、朝鮮、臺灣、滿洲國、支那等に亘り廣汎なる販賣網を有し益々發展の道を辿れり。同社は、大正十五年十一月、先帝陛下侍從御差遣の光榮に浴し、更に同年同月閑院宮殿下製品台覽の榮を賜はり、誠に多大の面目を施せり。

次で大正十五年大阪市に於ける電氣協會主催の電氣大博覽會、昭和二年帝國發明品展覽會（帝國發明協會主催）、昭和三年仙台市に於ける東北産業博覽會、昭和六年鹿兒島振興博覽會等に於て、何れも金牌を授與せられたり。誠に當社の功績絶大なるものありて、業界屈指の模範會社たり。

因に同社附屬の私立戸上電機青年學校（公認）は、修業年限六ヶ年を以て技術の修得並びに人格の陶冶を圖り、優秀の模範的技術者を養成し教育界注目目的となれり。

取締役社長 戸上信文 氏は天才的發明家として夙に名高く、氏の驚く可き多數の發明品中、戸上式自動配電裝置は配電器の革命とまで激賞せられ、日、英、米、獨、伊五ヶ國の特許權を得たるを見ても、如何に優秀卓越せるかを知るに足るべし。氏近時發明立國論を唱道せるは氏の預才の超凡なるを示す

地に二百三十八、冷凍工場二百三十八、罐詰工場大阪鶴町、鹽釜、戸畑、根室、凍卵工場豊橋。ドライアイス、東京築地、銀翅。竹輪工場、戸畑。鮫革及鯨皮工場は鶴見の各地にありて何れも設備整備し製品は内外各地より多大の歡迎を受け居れり。十二年七月末に於ける當社の船隻總數は一百九十六隻總噸數八萬八千八百二十三噸に達す。内蒸氣トロール船四十八隻、ディーゼル・トロール船十三隻、底曳網機船五十八隻に及び、その内五十餘隻は九州戸畑を根據地として支那東海、黃海を漁場として活動す。蟹漁業に於ては母船八隻、獨航漁船二十一隻に上り、蟹工船の許可數東徑百五十度以東のオホツク海にて十八隻、製造噸數三十二萬噸と定められたるが、この全部が當社の所有に拘る所たり。又勘察加東海岸白令海に於ても、政府許可數の九割九分を占む。捕鯨關係に於ては母船一隻、捕鯨船二十一隻を有し、近海方面に於て許可數の七割五分、南氷洋に於て許可數五隻の内三隻を擁せり。南氷洋に於ける母船式捕鯨は近年開始せられたるものなるが、當社は先年捕鯨母船南丸を購入して南氷洋に進出したる所頗る好成績を得たるにより、更に第二圖南丸、第三圖南丸の建造を行へり。兩船共に二萬四千噸にして、世界第二位の巨船たり。第二圖南丸は既に完成して、十二年秋壯途に上れ

り。第三圖南丸は十三年秋竣工の豫定なり。又一萬一百噸の鯨油輪船最島丸は十二年末に竣工して、鯨油運搬の爲めに既に南米洋に出動せり。尙ほ此の外捕鯨船、底曳網機船、ディーゼル・トロール船等の建造完成し、或は目下建造中のものあり。又汽船四隻、冷蔵運搬船五隻、運搬船三隻、小型漁船十一隻を有し、我水産界の覇者として廣く海洋に活躍して、當社の名聲は海外諸國にまで喧傳せられるに至れり。當社は優秀船の補充と技術の進歩とによりて生産高は年を逐ひて躍進し、業績異期多大の向上を示せり。即ち、トロール船及び手繰船漁獲高は昭和七年度百七萬九千噸が十年度百三十七萬八千噸に著増し、十一年度百五十三萬五千噸に達し、十二年七月末締切の十二年度上期に於ては、百五十三萬三千噸に上り、前年同期に比して約一割を増加せり。海外新漁場の調査に就き鋭意努力なしつゝあるを以て、今後の増産は多大に期待せらる。即ち、墨西哥に於ける事業は近く日墨合辦會社を設立して、本格的に經營を行ふこととなり、ベネガル灣、印度洋方面の漁場も亦頗る有望たり。北洋漁業の蟹類生産高は七年度十七萬三千噸、十年度十七萬一千噸、十一年度十八萬噸と漁獲制限あるも、僅かながらも増加しつゝあり。十二年四月以降勘察知、白令海に於て操業の結果豊漁に恵

まれたるに依り操業期間を一ヶ月短縮し二十萬四千噸の製造をなして引揚げをなせり。當期間價格の引上げをなしたるにも拘らず、輸出頗る旺盛を極めたり。又捕鯨事業は七年度七百四十二頭を捕獲し、九年度より南米洋に進出することとなりたるに依り、俄然捕獲高は激増し、十年度一千四百七十九頭、十一年度一千七百五十一頭と著増するに至れり。十二年度上期に於ては近海六百九十九頭、南水洋八百四十二頭、計一千五百四十一頭を捕獲す。又十二年上期に於ては製氷の賣行良好を極め、又近年各地冷蔵庫の利用著しく普及して、一般冷蔵貨物の寄託は品種類数共に激増を見つゝあり。各種生産物の増進と共に以てその生産物の品質の良好なるより非常なる好評を博し、需要大いに殺到して内地販賣の投資會社に日之出漁業、日滿漁業、日東漁業、合同漁業、ボルネオ水産、日本製氷、土佐製氷冷蔵、多度津製氷冷蔵、日本漁網船具日墨合辦水産會社等ありて、其業績概ね良好たり。以上の如く十二年上期成績は各部門共に順調を示し、總益金二千七百三萬五千圓、差引總損金一千九百九十三萬五千圓となり、差引當期利益金七百十萬圓を擧ぐ。利益率二割五分七厘に對して一割二分の配當をなし、利益金の大部分を内部に保留せり。業績の良好な

るのみならず、資産内容又頗る堅實にして、その將來には更に一段の飛躍的發展を見るものと期待せらる。當社の目覚しき活躍は水産日本の威力を全世界に示すものにして、國力の伸長に寄與するところ絶大なるものあり。當社の第一線に立つ常勤重役には取締役會長鮎川義介、取締役社長田村啓三、植木憲吉、常務取締役養田靜夫、同加藤重治の諸氏たり。

取締役社長 田村啓三 俊敏篤才、手腕卓動の實業家として近時田村氏の名聲、斯界に噴々たるものあり。明治二十三年二月に呱呱の聲を揚げ、大正三年東京帝大工科を卒業す。曩に歐米を漫遊して廣く事業界を視察せるが、その視野の廣きと蘊蓄の大なるを以て内外に瞻仰を受くること厚し。幾多の事業會社に重役として列し、その信望財界に牢固たるものあり。

專務取締役 故國司浩助 氏は明治二十二年二月山口縣に生る。同四十年水産講習所を卒業す。夙に鮎川氏の主宰せし日産に入り取締役兼水産部長となり、後當社專務に選任せらる。頭腦敏密にして研究心に富み、水産方面に關する知識甚だ淵博なるを以て知らる。惜しむべし、過般忽然として逝去せらる。

專務取締役 植木憲吉 明治四十一年水産講習所漁撈科を出で、水産事業を始め各種事業の經營に參畫して大いに敏腕を揮へり。

日本蟹類共同販賣代表取締役、日本合同工船專務等の要職に就き多大の成績を擧ぐ。頭腦敏密にして氣格俊邁の敏腕家たり。

常務取締役 養田靜夫 資性濃厚篤實、周匝敏密にして責任觀念に強く、上下に信望甚だ厚し。明治十七年十月を以て生れ、明治四十五年水産講習所を卒業す。夙に日本魚網船具常務、共同漁業專務に列して才腕を示し業界に大いに名を成せり。資性濃厚にして勤格、眞摯業務に精勵して功績著大なり。今後更に頭角を現すに至るべし。

常務取締役 加藤重治 加藤氏は明治十四年九月東京市に生れ、夙に東京高工機械科を卒業す。直ちに芝浦製作所に入り、後日本製氷株式會社に轉ず。機械方面の技術研究の爲めに屢次渡米し、學識甚だ該博たり。曩に日本食料工業常務に推さる。頭腦俊敏にして心性頗る潔白、寛容にして敦厚、上下に多大の聲望あり。業界稀有の傑材として崇敬を受くること至大にして、將來我水産界を統率して立つの將器として矚目さる。

(所在地 東京市芝區田村町一丁目)

株式會社 吉田定七商店

關西に於ける銅、眞鍮地金問屋の業況を云唯する者は必らず先づ老舖たる「吉田定七商店」の名を擧頭に擧ぐるを例と爲し、當店を以て斯業界の指針白眉と爲すに於て何人も異見を抱かざるどころなり。惟ふに之れ當店の對人對物兩信用の重厚に由来するものなり。

抑々當店は先々代吉田定七翁が遠逝嘉永三年を以て現所に於て銅、眞鍮等の地金販賣を興したるに淵源を發せる斯業界の錫錫たり。翁は爲人商才に長じ獨立邁往の氣宇ありて、堅實主義を以て店務に臨み、加ふるに義氣を以て鳴るの商傑たりと聞く。先代定七氏亦異材にして濃厚にして勤敏家たりし爲、業績益々昂揚すると共に官殖し、店務の伸長は驚嘆と賞揚を誦めたり。而して現店主定七氏之を繼承し、店務益々好調を辿りて昭和十一年十二月に道んで從來の個人經營を擧げて之を株式會社に改組し、資本金五十萬圓(全額拂込済)と爲す。之れ氏が時流に順應せる明智の改革たりと云ふべし。其間當店は住友金屬工業、古河電氣工業、三菱商事等斯業界第一流生産會社と其製品特約販賣を提携し來り、現に店員五拾餘名を僱し業況隆々たり。而し

て取扱品はアルミニウム、半田錫、各種銀類、雜鐵、アスファルト、フェルト、眞鍮、銅、鉛、亞鉛等の各種製品地金を網羅す。現時戰時體制下に於ける之等地金の商況は頗る活潑にして就中銅の需要は著しく激増し、十二年中内地需要高は十八萬噸と豫想され、十一年度に對し一躍五萬三千噸、即ち四割一分の著増を示現し、今後は尙ほ一層深刻化を免れざる筋合にあり。最近の外電に依るも一月中世界銅需要高十三萬九千五百噸と報ぜられ十二年十二月よりも一萬七千五百噸一割四分の増加なり。尙ほ世界第一の需要國たる北米に於ては一段と増加し、實に三割八分の増加を示現し、他方供給高は十二年十二月より再減産を實施され、産銅増加の不安は解消せり。從て世界銅界も漸く底入れを了し、漸次恢復歩調にあるものと思料されれば、我が産銅界は一層ショツクを受ける筈にして、銅界には黄金時代を出現せしむるならん。斯かる商況に乗じて當店は益々その強靱性を發揚し、業績は愈々激刺たるを辿るならん。

當店はその陣容も同族を以て布陣せらる。取締役社長吉田定七、取締役武井市兵衛、同橋本正太郎、監査役吉田久博の諸氏なり。

取締役社長 吉田定七 資性温良にして

利根、先見と明智は商才を長ぜしめて斯界の長老的存在たり。明治十七年十二月、大阪府前田嘉兵衛翁の四男に生れ、後ち先代定七氏の養子となる。昭和五年家督相続を爲すと共に前名徳藏を改め襲名す。昭和十一年十二月資業を擧げて株式組織に改め、自ら取締役社長に就任、名譽領として今日に迫る。店員を遇養するに慈光裡に剛氣果斷の精神力を培養し、皆その徳に欽仰す。

(所在地) 大阪市南區大寶寺仲之町四二

小倉倉庫株式會社

北海道に於ける有数の倉庫會社として、當社は業界にその名顯然たるものあり。その創立は大正九年にして函館倉庫を買収し、同事業を繼承して、小倉倉庫株式會社と改稱す。財界に幾多の變動ありたりと雖も、當事者よくその策を誤らず、業績年と共に向上をなして、現時公稱資本百萬元、内拂込資本八十萬元に達せり。刻下の時局關係よりして、各種事業は近來著しく活況を呈し、物價昂騰と商品需要の旺盛より荷動き又活潑となり倉庫事業も頗る好調を來せり。當社に於ても亦主要取扱ひ貨物たる砂糖、鮭、鱈、鱈詰の入庫激増し鹽魚類も多數の入庫を見、更に冷蔵商

品も順調なる荷動きをなしつつあることとして今後の業績には大いに期待すべきものあり。

取締役社長 小倉信一郎

嚴父小倉幸一郎翁豪邁の士にして、明治二十三年單身北海道函館に渡り、漁業の將來性あるに着目し、數人の漁夫を傭入れて自らも帆船に乗船し、カムチャツカに於て鮭、鱈類の漁獲をなし、更に之を東京方面に大量輸送をなして販賣を行へり。掃風淋雨奮闘努力すること多年、遂には今日の大をなすに至れり。幸一郎翁は公共事業には惜しまず、私財を投じ、函館教育會に十數萬圓、米價調節購入費に一萬圓、商工會議所、圖書館の各建築費に五萬圓を始め幾多の寄附をなし、更に同地の産業發展の爲めに東奔西走して、献身的奮闘をなせり。北洋漁業開拓の先驅者として、函館發展の功勞者として、氏の名聲隆々たるものあり。大正九年紺綬褒章を、昭和三年藍綬褒章を授與せられ、同十一年北海道大演習に於て産業特別功勞者として單獨拜調仰付けらる。小倉信一郎氏は幸一郎翁の長男にして明治二十八年六月に生る。大正八年慶應義塾大學理財科を卒業し、後米國ハーバード大學に學ぶ。氏嚴父の薫陶を受けて温雅典雅、實實謹恪の好紳士たり。大正九年小倉倉庫の創立せられるに及び社長に就任す。尙ほ日本製糖社長、茅沼炭礦

株式會社 長尾商店

辨天倉庫、函館水電、北日本農林各取締役たるの外、函館商工會議所議員を兼ね。頭腦犀利にして少壯俊敏の實業家としてその前途は人の注目する所たり。

(所在地) 函館市仲濱町三

株式會社 長尾商店

株式會社長尾商店は、本邦製織界の至寶的存在にして、其人格識見俱に敬仰せらるる、古豪長尾傳藏翁の天業たり。當社の創業は明治四十一年翁が獨立して、長尾染織工場を旗幟を掲げたに始まり、爾來着實なる翁の天賦を反映せしめて、飽くまで堅實主義を遵守し、逐次顯著なる業績を擧げつゝ、大正十四

年五月之を株式會社に革め、益々進展を辿り資本金二百萬圓を擁する四國隨一の業界一流會社として今日に迫る。其間當社は常に工場店內を通じて能率向上に努め、打ち續き業界の不況時に直面せしも、能く之を打開し、或は新製品の研究に、或は小口注文の受注に懸命の努力を爲し、更に所謂經營の多角化の一步として上點養工場を擴張し、小幡人絹織機二百台並に之が準備機械を整備し、更に染糸工場の擴張強化を爲す等その發展振り物姿きものあり。

茲に當社の現勢を見るに大阪市東區本町三丁目二十七番地に支店を設けて新商品の研究販路の開拓に努力し、現に其販路は内地は勿論、輸出部を設けて朝鮮、台灣、支那、滿洲、濠洲、印度等にして一方横濱、神戸、大阪所在の商館を通じて海外各國に輸出し居れり。工場は徳島市北佐古町松ノ内に佐古工場、徳島縣名東郡加藤村乾ノ上に點養工場を有し、設備整頓し織機基數綿機二千台、人絹機二百台を以て年産三千萬碼を計上し活況を呈せり。因に當社の役員陣は

取締役社長長尾傳藏 取締役長尾好明 同長尾義光 同山下真雄 同長尾順次 監査役長尾友三郎 同長尾卓一の諸氏なり。

尙現時業務の總ては長男取締役長尾好明氏が擔當し居れるが、氏も能く父君の血を享け

て濃厚にして頭腦明晰の人材にして當年四十三歳の男盛り、其將來を囑望され居れり。

取締役社長 長尾傳藏

徳島縣白川善平翁の二男として慶應三年八月同縣三好郡加茂村に誕生す。天稟濃厚寛容商才に長ず。幼にして商法に志し徳島市に出で、某呉服屋に丁稚奉公を爲す。終始一貫正直に實務を修める事十年餘、二十五才にして僅かの貯蓄を資本として獨立して呉服商を創む。爾來勤勉努力を續け、漸次盛業其緒に着く。其間長尾家を嗣ぎ、逐次業礎を固め、縣下及び隣縣高知に亘りて次第に手廣く卸商を營むに至れり。之れ翁の商才淋漓にして毫も輕佻なく、その堅實味は當時既に培はれて底知れぬ發展の餘地を其將來に期待され居たり。明治四十一年に及んで織物製造の有望なるに着眼し、直ちに小幡織機百台を購入し、徳島市北佐古町松ノ内に工場を設置し、綿木綿の製織を開始し、名を長尾染織工場と冠す。後時勢の趨向を察し、廣幅織物の有望なるに着目し、同四十五年六月従來の小幡織機を廢して、廣幅織機を英國より購入し、四枚綾、五枚朱子の製織に轉ず。而して大正五年阿波染織同業組合より派遣せられ支那、朝鮮の各市場を視察し來れるが、殊に上海市場に於ける綿朱子及び變り織の需要旺盛なるを見て、歸朝後直ちに之が

製織に嚮心し中支市場への進出を企圖す。當時上海市場に於ける綿製品は、英國品の獨占下に在り、就中需要の大なる綿朱子は歐洲大戰に際して英國品拂底せるに不拘、本邦品の微々たる状態を踏みて大いに慨き英國品に對抗する爲、當時の我國紡績並に織布の實狀に即して「右綾綿朱子」を創案して輸出したるに意外の好評を博し、以來工場の擴張強化を行ひ、之が製造に専念するに至れり。之れ實に我國輸出綿布の首位を占むる五枚朱子八枚朱子の起原を爲し、我が對支輸出綿布界に一斬機軸を劃するに至れるものにして、翁の功蓋し著大なるものあり。其後屢次支那、南洋市場を視察し、益々製織改良に鑲骨彫身すると共に市場の擴張を圖り「製織報國」の實を擧ぐ。大正十四年五月に及んで全經營を擧げて之を株式組織に革めて株式會社長尾商店と爲し、翁自ら社長に就任し以て今日に至る。

翁、今や七十一才の高齡に達したるも嬰傑壯者を凌ぎ、潮氣旺盛なるものあり。當社を總帥の傍ら、四國銀行監査役、阿波織物工業組合理事長に推され居れり。過ぐる昭和三年十月翁多年事業界に貢献せる功勞に依り、日本産業協會總裁宮殿下より表彰状を賜ふ。曩に徳島市民の熱望を擔ひて、徳島市會議員、徳島商工會議所副會頭に推舉されて市政に干與し、一面公共事業等に關心し敬仰を集め居

れり。因に翁は植林に留意し、四十年來一千五百餘町歩の植林事業を爲せり。
(所在地 徳島市北佐古町松ノ内)

鈴木絹糸紡績所

鈴木絹糸紡績所はその製品頗る特色を有し併せてその内容の堅實と業績の良好を以て、東海地方紡績界に異色ある存在をなせり。即ち、各種織維屑物利用の紡績にして、その製品は絹、毛、人絹、屑等の特殊紡績品たり。需要頗る多く毎期成績好調を以て推移せり。現在職工七十餘名を使用し、年産額十餘萬圓に上る。同所は上下和氣富々として事業に精勵し、一致協力して事業の發展に力を盡くせり。設備よく完備し、製品の品質又良好なるに依り、今後需要は更に増大を見ん。當所の前途まことに洋々たるものありと云ふべし。

所主鈴木憲平

鈴木絹糸紡績所を経営し、業界にその才腕を認められるが鈴木氏なり。夙に愛知第二中學を卒業し、後家事に従事す。若くして預備。個體不羈、熱情熱誠の資性を有し、智能俊英にして明晰敢爲、頗る事業的手腕に富む。大正六年天津に赴きて、天津綿毛紡績株式會社を創立して、自ら常務

名 達 家 太地五郎作

に就任せり。専ら天津カーベットの原絲の製造販賣を行ふ。氏の鮮かなる才腕に依り、事業日に日に發展して業績頗る殷盛を極めり。線太く人を容るゝの度量大にして義氣任侠に富みて、好んで人の難に赴くもの士たり。日支兩國の爲に陰に盡くす所多く、頗る信望を博したり。昭和二年に至りて家事を繼承する爲めに歸國し、爾來鈴木絹糸紡績所の經營に當れり。氏は朝は早くより夜は遅くまで身を粉にして活躍し、事業の發展に全力を傾けしが、その努力と卓抜なる手腕相俟つて年々業績好調を呈し、事業頗る殷盛を極めり。多數従業員に對して慈父の如き温情を以て臨みこれが福利の増進には大いに意を用ふ。昭和十一年十月には多數の人士の懇望を受け、市會議員選舉に立候補し、優秀なる成績を以て當選せり。その高邁なる識見と豊富なる蘊蓄によりて市會に重きをなし、現在市參事會員に推される。尙ほその他町總代或は氏子總代に推され、同市屈指の名望家たり。因に先代鈴木六三郎氏は縣市産業組合長、三河紡績同業組合長、岡崎區裁判所商事調停員或は町會議員等の要職に就き、或は産業功勞者として縣市等より表彰せられ、自治功勞者として又頗る信望ありたり。當主鈴木憲平氏は先考を凌ぐ穎材として世人に矚目せられ居れり。
(所在地 岡崎市明大寺町中道)

功を致し、益々その超凡の大家を認められ、人格を敬慕さる。現に和歌山信用組合専務理事役の要職に擧げられ縣下農工商業金融機關の圓滑なる發達に寄與すること多大なり。今や氏の人格は圓熟其極に達し、滿々たる理智と才能の冴えは眞に當代紀州人尊崇の的として、絶讃されつゝあり。而して氏天性、寡言にして多くを語らず、爲に退嬰的に批判する者あるとするも、それは氏の外觀を一瞥するに止まるのみ。賣名を忌み、世間的なる喝采などは意に介せず、飽くまで自己の仕事は忠實に而も堂々と歩まんとする信念は其行履に於て既に推知し得らる可し。衆望を一身に擔ひ只林の如き静けさを以て黙々實行する氏なるも、一たび自治、公益問題に觸れんか、堂々たる所信は烈々たる氣魄に燃えて懸河の辯を以てし、その是非を論撃し、卒直に單的に吐露するに當り、一生の辯論家の貫録を悠に示すものあり。とまれ澎湃として悠々迫らざる態度所信を一貫して節を拵げざる意志力こそ現時縣下の至實的人格と稱さるゝも宜なり。
(住所 和歌山 市 新 通)

小布施商店

明治維新以來我が經濟界は、驚異的進展を

遂げ、今や歐米列強に比して遜色を認めざる點に達し、近代産業は大量生産を原則とする故企業規模は益々大となり。爲に資本の合本運動を喚起し、殊に株式企業の發達は株式數量を増加せしむるに止らず社債發行を誘發し、國家並に地方團體は其公益事業の擴大擴充に従ひて、公債増發を餘儀なくされ、斯くして國民財産は累年有價證券化しつゝあり。株式企業の發達は株式取引所の存在を必要ならしめ、取引所は實に國民經濟の必要機關となり、斯くして取引所の職能亦益々重大を加へつゝあり。我が小布施商店は、先代小布施新三郎翁創業以來二代繼承、既に五拾有餘年變遷極まりなき經濟界の波動を乗り越えて、店礎益々鞏固、信用の増大を以て克く我が國最古の取引員の實績を誇示し、證券流通の爲盡瘁し來れり。而して先代新三郎翁は弘化二年小布施民藏翁の二男として信州に誕生。天賦稟賦にして進取に富む。その行履盤紆は實に波瀾曲折を極め、少壯にして離郷、横濱に來りて兩替店六十二番館に入店、辛酸苦悶幾春秋。小布施商店現今の覇業の素地は往時既に培はれしものにして、其稱號六二も之れに由來すと聞く。斯くて翁は明治十二年に及んで素懷を證券業に拓くべく上京す。然るに當時斯界は松方正義氏が不換紙幣の整理に没頭せし折柄とて、國內は不景氣の最底にありしか

ば、苦行言語に絶するものありたるも、翁は超凡の不撓精神を以て鍊骨碎心、惡戰苦闘、克く之を突破す。國運の伸暢と共に經濟界の變遷亦著しく其間幾多の難關に遭遇し、幾多の試練を経、時に消長ありしも未だ一度も累卵の機に遭はず。彼の日清、日露兩戰役前後の財界波瀾、歐洲大戰を通じて翁は終始快速の才腕を揮ひて地歩を築き、遂に業界の元老として其偉名を轟かせり。大正十二年八十餘才の天壽を全ふし大木の倒れるが如く、清雅なる城西目白臺の邸に永眠す。而して翁は理財に頓脫せるのみならず寧ろ其職名は「人間小布施」として其本領を發揮せるの觀あり。即ち翁は熱心なる佛教信者にして、確固不動の信仰を有し、其社會的公共事業に貢獻せる幾多の義舉は、多くは此信仰心に胚胎せり。微賤の野夫より身を立て赤手空拳以て克苦勉勵し、起伏重疊の過程を顧るに、聊かの權謀術策を用ひたる痕跡なく、常に常道を歩みて而も異常の業績を收め得たるどころ、眞に偉傑と稱すべし。この巨人の數奇なる行履を述る時、吾人は實に豊富なる教訓を見出すものあり。殊に翁は常に小我を離れて大我の境地より天業を進めたることに想到する時、誰かこの鴻鵠を讃仰せざる者あらんや。

當主 小布施新三郎

先考の後繼者とし

て無窮適應。その風概の崇高なる、その才院の非凡なる、之を先考に較ぶるも優るとも劣らずして更に一段の光彩を加ふるの感あり。氏は明治六年四月、先代新三郎翁の長子として横濱に出生す。資性頭腦明敏にして義侠心に富む。前名を福太郎と謂ひ、長じて慶應義塾を卒業し、爾來父業を輔佐し孝養亦厚し。大正六年に追んで家督を相続し、父業を踏襲す。しかも店是たる簡素實着方針は聊かも變更せず。株界掲げて混亂を呈する場合あるも氏は只黙々として獨想に耽けるのみ。機至らば即斷即決直ちに行動する氏の風爽として面目躍如たるは知る人ぞ知る。先考以來の信望にて東株相談役、或は商議員と、常に要職に推擧さるゝに拘らず、氏自らは全然之を欲する事なきが如し。然れども氏は決して業界乃至公共に無關心に非ず。只黙々と盡力するのみ業に業界不振にして不安に陥りし時、氏の盡せし功績は蓋し大なるものありしも、之を一切秘して語らざる等は、その人格の片鱗を窺ふに足るべし。而して滿洲事變以來巨額の獻金を爲すこと屢次、各地の災害に際しては率先して大金を義捐す。しかもその美事善行は一切秘密に附す。曩の軍用機廠納の際、家人さへ新紙に依りて知りたる程なりと云ふ。氏は亦先考の影響を受けて佛教に歸依す。默思斷行、隣人愛と奉仕精神こそ氏の本領なら

事業家 永尾 群 八

んか。而して小布施商店の構成は、店舗を堀留町と兜町に置き、前者は小布施家の同族會社たる小布施合資會社の本陣たると同時に、株式店にして實物部を既設し、後者は株式店の清算部即ち長期及び短期を取扱ひ居れり。營業は頗る地味にして、飽くまで堅實一貫主義。然れども一旦確信を得ば敢然と立ちて巨大なる註文を發して、風雲を捲き起すこと屢々、堂々として軍を進め、悠然と矛を收むる時の鮮かなる態度こそは絶讚に値すべし。先代の遺訓を享けて更に透徹せる商才は、義侠と情味を醸成せしめて、先代の名聲を顯揚す。當店は二代に亘る傑物を得て益々隆々發展を辿るべし。氏を稱して「昭和の義民」と謂ふ。因に氏は小布施商店を主宰するの傍ら、曩に大日本證券投資會長に推され、東株相談役として當業界の長老として遇せらる。 (事務所 東京市日本橋區兜町一丁目) (營業所 東京市日本橋區堀留町一丁目)

思一行に留意し、臆心なく、仁と義と忠とを實踐する、所謂仁義の勇者たる、我が永尾群八氏を叙するも亦快學ならずや。氏は長崎縣の一寒村たる、南高來郡愛野村に身を興す。天賦眼明手快の逸物、而かも正義、義氣を藏する熱腸漢たり。來門居を定めて既に三十星霜を閱す。夙に製糖業界の大宗たる藤山雷太翁の惘眼に和し、其の豪放不羈と仁俠を愛さるゝこと切々、以來「永尾組」を統督して、大日本製糖株式會社大里工場専屬勞力請負供給業に、拮据營々能く今時の盛業を達成す。元來人夫集團場に於ては、粗暴の行爲を爲す輩ありて、時に亂闘して物情騒然たる例尠しとせず。然るに我が永尾組に在りては未だ之れき聞かず。萍々として諸國を轉々とする徒輩も、一たび流轉來門し、その組下に職を求めんか、氏の仁俠の風骨に慄々として敬仰し嚴霜の陽光に融くるが如く、自ら反省前非を改悔して立身すと謂ふ。故に氏の徳風を欽慕して其の組下に跪く者日夜踵を接すと云ふ。 其の義氣、其の至純夙に傳はりて市民の畏敬著しく、輿望を擔ひて市政に參與し、其の信頼に應ふる事、既に四期に達す。侃侃諤諤の論は正義堂々、奇骨陵々の態度は、公明正大の化身たり。曩に市長選舉施行せらるゝや政友、民政兩派の間に立ちて儼然、遂に無條件を以て中立派に一任せしめたり。之れ氏が

終始一貫市民の希望を以て自己の理念となせばなり。市民の瞻仰故なしとせず。 時局以來の門司市の發展は實に目覚しきものあり。彭脹躍進に伴ふ市政の改善、實施の要務益々増大の今日、人格高潔なる我が永尾群八氏を得たる門司市民の幸福は、蓋し筆舌に絶するものあり。氏も亦夫れに應ふべく全身全靈を市政に投擲して、公僕の範たらんとす。洵に壯と言ふべきなり。 (住所 門司市大里町)

在郷陸軍少將 田内 三 吉

田内氏は正三位勳一等在郷陸軍少將にして宮中顧問官の顯職に就き、その人格の清廉にして、徳操の堅固を以て名望甚だ高し。氏は多數勤王の志士を輩出せるを以て著名なる、土佐藩の出身にして、忠君愛國の赤誠に厚きも亦、土佐藩傳統の血汐の然らしむる所なるべし。 其の資性温恭謹厚。慈父の如き暖き温情の持主にして、人に接してはまことに謙虚たると共に襟度頗る寛容たり。剛直にして正義を愛すること深く、不正不義に對しては假借せず、峻烈にこれを排撃す。身を持することまことに固く、行往坐臥實に謹嚴を極めり。

天資誠實眞摯、終始一貫して變らず、剛毅果斷にして素志堅剛たり。名利に恬淡たると共に人格又清廉潔白を以て衆庶に畏懼せられ、高義清節、熱情熱誠の典型的武人として深く欣慕さる。氏は舊土佐藩士田内銘吾氏の二男として、安政三年二月高知市に於て呱呱の聲を揚げ、明治十二年陸軍士官學校工兵科を優秀の成績を以て卒業す。頭腦敏密にして用意周到、勇斷敢爲その判斷行動まことに迅速たり。精勵格勤汝々として軍務に研精し、豪腹大量の膽と相俟つて大いにその前途を囑目せらる。明治三十一年選拔せられて東宮武官となり、爾來累進して明治三十一年陸軍少將に任ぜらる。直ちに豫備役に編入せられ、間もなく宮中顧問兼東宮侍從を拜し、後侍從に任ぜられたり。大正三年に至り、閑院宮附別當となり、翌四年には澄宮附御養育掛長を仰付らる。謹直にその職務に奉仕し、多大の信望あり。昭和二年別當を退任し、同三年には大禮使典儀官として千歳一遇の御盛儀たる御大禮の儀式に參じて多大の光榮に浴せり。現時宮中顧問官の要職を拜命して老來愈々襟、その職に勤精せり。讀書誦曲を趣味となす。龍子夫人は高知縣士族藤井守馬翁の二女として慶應三年に生る。五男三女の子福者なり。長男一郎氏は陸軍歩兵少佐たり。長女多鶴女は少軍中將山室宗武氏に、二女久女は陸軍中將

會社名 三星繪具製造所

繪具と言へば、三歳の童子と雖も直ちに「三星」の「ぐ」を聯想するほど「三星」の「ぐ」の聲望は一般に認められ、且つ廣く普及せられつゝあり。曩に商工省當局より優良國産品として選定さるゝや、從來製圖用として舶來品に依存されし各官廳は殆ど「三星」の「ぐ」を使用することとなり、水彩繪具、製圖用繪具は總て「三星」の「ぐ」を使用するに至れり。斯くして舶來繪具は我が國の市場より姿を消し、爰に當社永年に亘る苦心研究の功奏し、以て凱歌を擧ぐるに至れり。近衛内閣の重要政策たる國際收支の適合の観点より見れば、「三星」の「ぐ」こそは、將にその銷路たる存在なり。 而して當社事業の發祥は既に二十有餘年前にして當時國産繪具は總て瀬戸物の容器を用ひたりしかば、使用上實に不便を極め、且つ無駄を生ずること夥しき爲、當社は之れを頗る遺憾として其改善に腐心せる結果、チュウ

プを採するに至れり。是れ我國最初の試みにして爾來使用者間に歡喜好評を博し、製品の絶對優秀たるに相俟ちて、忽ち燈原の火の如く全國津々浦々の小學校にまで擴がり、今や國內は勿論滿洲、支那、南洋等にも輸出漸増を見る盛運を呈するに至れり。而して當社は創業以來終始一貫製品の向上に細心留意し、夙に研究所を設置して凡ゆる微細の點まで改善に躬身の努力を拂ひ來りたる爲、逐年製品優良化し現在に於ては高級舶來品に劣らざるのみならず、斷然之れを凌駕して聲價隆々を誇示するに至れり。

嚮に記者は既知中學生に對し「君は何故に三星をのぐを愛用してゐるか」と、質問せるに、彼は速座に「色が良くてムラがなく思ふ通りの色が出る上に安いから……」と答へたるが、尙ほ某専門愛用家の寸話に「三星ののぐは發色頗る鮮明にして筆さばき實に良く氣運の變化に固結或は分離作用等なく、容器も他製品より便利に考察せられ居れば、使用の際非常に氣持ちよく便利であり、しかも廉價である」と。この批評こそは一般愛用者の偽らざる告白ならん。而して當社の製品を大別すれば、三星水彩ののぐ、三星製圖ののぐ、三星圖案ののぐ、三星油ののぐ、三星テンペラののぐ、三星畫用具等々なるが、何れも品質優秀にして價格低廉、納入先の主なるもの

には大藏省、鐵道省、陸軍省、海軍省、學習院、女子學習院、東京美術學校、東京高等師範學校、日本女子大學其他官衙各地諸學校々々等枚舉に遑あらず。尙且つ「三星ののぐ」は既往博覽會或は國產振興會等にて賞牌を授與さるゝこと數十回に餘り、殊に東亞勸業博覽會（輸入對抗優良國產品）、御大典記念名古屋大博覽會、大禮記念京都大博覽會、御大典記念國產振興東京博覽會等に於て、金牌を受領せり。

當社並に整備せる工場は江戸の面影を偲ぶに相應しき神田川の上流の河畔、清寂にして風致絶佳の地に敷地七百餘坪、建坪四百五十餘坪を擁し、現に工事中の護岸工事竣工の際は更に工場を擴張内容を強化する事に決した。其製品は多様多彩にして、組合せもの約八十種、色の種類は實に二百種に迫り、且つ當社は曩に自働式充填端折機を發明し、一分間六十木程度の充填能率を挙げつゝあるが、工場の採光装置の明快にして、清澄なるは更に職人の要なく、熟練従業員の誠實なる作業は、豫期以上の優秀なる業績を挙げ、百數十名の従業員は長戸社長の敏磨にして温情なる人格を欽仰し、一家族主義的統制の下に一糸紊れざる精進協力は、慶福に堪えざるものあり。

之れを要するに、當社は文運の發達に伴ひ

繪具の用途擴大と共に、其前途は將に春波洋々たるの觀多なるものありと言ふべし。
(所在地 東京市豊島區高田南町三丁目)

埼玉縣立商業學校

商業教育の興替如何は、直ちに産業全體の消長に甚大なる影響を及ぼし、更に國運興隆を左右すべき一要素たるは敢て茲に論を俟たざる處なり。されば夙に商業教育の普及發達著しく、今や全國各府縣に幾多優秀なる商業學校經營せられて、教育の成果顯然たるものあり。是實に吾人の衷心慶賀に堪えざる所と云ふ可きなり。而して當埼玉縣立商業學校の如き、即ち是等優秀校の一にして、既に數多有爲の人材を輩出し、學燈燦々たる當縣下唯一の模範校たり。

抑も當校は商業學校規定に依り、將來商業に従事する者に、須要なる知識技能を授け、兼て徳性の涵養に力むるを教育目的となし、開校以來歴代校長を始め、全教職員眞摯熱誠、克く教員報國の赤心を披瀝して、銳意生徒の指導訓育に盡せる處、常に學業優秀にして品行方正、而かも身體壯健なる模範的學生多數存在し、茲に必然他校に誇る可き傳統の學風を樹立する一方、各教室、講堂、運動

場、其他建築物、諸施設の改善擴張を圖るは勿論。亦た各種の教材資料等も、着々斬新豊富に整備充實せられ、今や内容外觀共に堂々整頓的偉容を示すに至れり。

現在修業年限五ヶ年、每週教授時間數は第一學年及第二學年二十九時間、第三學年三十二時間、第四學年及第五學年三十三時間にして生徒定員七百五十名、而して教職員には縣下育英界有爲の材幹を擁し、各自擔任課目に適切懇篤なる教授を施す處、規律嚴正なる裡に和氣篤々たる雰圍氣を醸成し、師第一體、克く研學精勵の實を挙げ居れり。即ち其の深烈融合せる健全且つ淳厚なる校風は、正に以て他の範と爲す可きものあり。斯くて校名縣下一帯に洽く、入學志願者の如き、年々増加の一途を辿れり。

校長 雄治

氏は明治十九年六月二十四日を以て、神奈川縣愛甲縣中津村に呱呱の聲を擧ぐ。夙に聰明穎智、而かも熾烈なる向學心を抱き、同四十二年三月、同縣立第三中學校を卒へるや、直ちに山口高等商業學校に進み、更に切砥琢磨、克く優秀拔群の成績を保持して同四十四年に卒業、大正六年十二月を以て滋賀縣立八幡商業學校教諭を拜命斯くて中等教育界に第一歩を印し、爾來、靜岡縣立濱松商業學校、愛知縣豊橋市立商業學

校各教諭を経て大正十五年六月、岐阜縣中津商業學校校長に榮轉し、其後昭和八年七月十三日、當校々長に就任せり。其間至誠一貫、孜孜として我が國商業教育界に貢獻せる功績顯著を極め、即ち昭和十一年八月一日高等官三等を以て待遇せられ、更に同月十五日從五位を賜ふるの光榮に浴す。資性濃厚謹直にして稀に見る高潔なる人格を有し、而かも學徳共に高く、温威兼備の名校長として全校學生は勿論、一般父兄及び教職員の尊敬欽慕の的となり、徳望隆々たる斯界紳々の偉材にして將來大成の兆歴然たり。
(所在地 埼玉縣大里郡幡羅村)

辯護士 柴山 寛

清白高朗、高義正節の士にして頭腦明晰、雄舌宏辭を以て名古屋法曹界に勢望顯然たるが氏なり。明治二十七年二月五日岐阜縣武儀郡關町に於て、柴山忠三郎氏の長男として呱呱の聲を擧ぐ。當家は代々飛騨物産の問屋を業となして頗る繁榮を極め、同地方切つての名望家として名あり。先考忠三郎氏は政界或は公共方面に馳騁して、頗る崇仰せらる。氏の六歳の折一家は愛知縣西加茂郡母母町に轉住するに至り氏は學母小濱に學ぶ。學業頗る

に優秀にして卒業後直に西加茂郡母母町に職員講習會に入る。優良なる成績を以て修了し、代用教員を拜命して同郡保見村第二尋常小學校に赴任す。野心滿々たる氏は現狀に甘んずるを得ず、鵬翼を張るの機会を狙ひしが、十七歳の時名古屋に出で、安藤公證人役場に勤務せり。寸暇を見ては勉學に努め、孜孜として倦むことを知らず。大正二年に至りて名古屋裁判所雇となり更に熱心に研鑽に努め、氏の努力は見事實を結び、大正五年には裁判所書記試験に合格せり。續いて書記に採用せられ、その職に精勵せしが、大望ある氏は少しもこれに満足せず、専心法律の勉學をなさんが爲めに、大正七年には意を決して職を辭し、直ちに村瀬辯護士の門に入り研精相努めしが、不運にも同辯護士の長逝したるに依り勉學を志して上京せり。氏は困窮をも介意せず、障害にも屈せず、獨學を以て法律の研究に没頭す。千辛萬苦具さに苦難を味ひて奮勉砥勵し、辯護士試験を受けたるに、優秀の成績を以てこれをパスし、榮冠は燦として氏の頭上に輝くことゝなれり。幼少にして父を喪ひ、惠まれざる境遇の下に成長せしにも拘らず、獨立獨行よく逆境と闘ひて今日の輝かしき地歩を獲得したるは一に不撓不屈の堅志と明晰聰敏の頭腦に負ふものなり。深淵なる法律知識に環路整然、論理明快の辯論は中京法

青界にその名聲を轟はる。因に氏は民事を最も得意とす。濃厚篤實にして剛毅果斷。磊落清白にして豪熱恬淡の人格者たり。義の爲めには欣然として難に赴くの義氣を有し、少壯氣鋭、活氣横溢その前途洋々たるものあり。初子夫人は舊名古屋藩にて千石餘を領し、名家として知られたる内藤功重翁の長女にして名古屋第一高女出身なり。三令嬢ありて家庭圓滿たり。

(住所 名古屋市南區御剣町三ノ一〇)

京都名所遊覽

乗合自動車株式會社

皇統連綿たる我國體の歴史を最も雄辯に物語り、而かも仰げば高き比叡の峯、或は鞍馬愛宕、或は東山、北山、西山等の諸山千古の翠嶽を湛へて四圍を守り、其中に散在する社寺を始め、洛中洛外に點在する諸陵、諸社、諸寺其他の史蹟に至る迄、長くも皇室に深き御由緒を有する京都は、山嵐水明にして雅麗極まりなき觀光の古都、四季を通じて懐古によく、行樂によく、空に映する堂塔伽藍の蔭に法燈揺らぐ神祕の古都にして、名所舊蹟に富めること六大都市中の随一たるべく、其の天與の美觀と人工の妙景とは相俟ちて、老若

男女齊しく、該地に憧憬を寄せるの所以たり。而して遊歩行樂に最善の利便を圖るべく現今スピード時代に相應しき施設完全なる模範的交通機關として、遊客の絶讃好評を博するものに京都名所遊覽乗合自動車株式會社の偉大なる事業あり。

抑も當社は昭和四年四月、時代の要求の然らしむる處、資本金五十萬圓を以て設立創業せられ、以來逐年順調なる業績を擧げて、遂に今日の業運隆盛を見るに至る。而して當社使用遊覽自動車は近代的超大型ローマンスカーにして、乗心地頗る好く而も輕快なる速度を以て走驅する車窓より悠々沿道の風景を見物するを得、且つ一臺毎に洗練されたる専門の美人案内係乗車し、遊覽箇所に至れば親切丁寧以て個々の歴史傳説を詳細に説明し、乘客の行樂探勝に智識を與へ、而かも一度當社バスに乗車せんか、絶対に乗越或は乗換の心配なく、如何に交通頻繁なる箇所と雖も安全に遊覽の目的を達す。加ふるに従業員の懇切丁寧なる接客態度は、悉く乘客に満足を與へて、間然する處なく、當社營業方針が如何に乘客本位を第一モットーとなせるか窺知するに足る。而して該遊覽展覧車の出發場所に省線京都驛降車口前、京阪電氣鐵道三條驛前、同京阪京都前驛の三箇所にして、出發時刻は午前八時及同九時、亦た團體用車は隨時出車

なして其の利便を圖り、周遊時間一巡約八時間なりと。其他團體割引、前賣乗車券、ツーリストクーポン券、京阪電車連絡遊覽券等の發賣、或は食食用の當社指定食堂の施設、更に乘客遊覽記念の爲め平安神宮又は嵐山に於ける撮影等、只管廉價利便を標榜する營業方針の下に諸事業を經營、以て益々好評湧くが如く、社業日に日に繁榮を加へて業勢の激刺躍動せること刮目に値す。

取替役兼支配人 吉川與治兵衛

當社經營の實際的重責を擔ひ、犀利縱横なる手腕を發揮して今日の社業を確立せしめたる同社の至實の偉材たり。氏は大阪府吉川三太郎氏の二男、明治二十三年九月十一日を以て呱呱の聲を擧げ、夙に聰明俊敏能く將來を期待さる。學を卒へるや、實業界に雄圖を抱き、大正十四年阪和電氣鐵道に入りて格働者々地位を高め、遂に同社和歌山支店計理課長の要職に

就く。斯くて非凡の手腕を顯はれ、内外に信望を博したる後、昭和四年現社創立と共に入社し、以來一意専心社業の發展隆榮を圖りて努力奮闘に一貫する處、遂に當社現今の隆盛を贏ち得しめたる隨一の功勞者たり。資性濃厚にして寛容、従業員より慈父の如き敬慕を受くる反面、亦た秋霜烈日、事業上の企劃遂行に至るや、一些事と雖も苟もせず、綿密周到なる用意の下に必ず初志を貫徹するの實行力を有し、而かも人格高潔、識見博大、稀に見る偉材と稱すべきか、蓋し名聲業界に冠たる當然の歸趨なり。

(所在地 京都市東山區大和通路三條 下ル西側五軒町)

豊畑炭礦株式會社

時局の重大化と共に戰時體制はあらゆる領域に亘りて強化せられ、更に國民精神總動員と生産力の擴大に依りて如何なる事態にも即應なし得るの態勢を整へつゝある刻下の情勢に於て、燃料問題こそ邦家の直面せる重要問題中の一をなすものなり。近時事業界の活況に依りて、石炭需要多大の激増をなし、増送増産に各業者は非常なる努力をなすつゝあるが、尙ほ不足を告ぐるの有様にして、石炭界

は非常なる好況を現出せり。當社は昭和十二年四月資本金六百萬圓(拂込一百五十萬圓)を以て創立せられ、事業地は樺太名好郡名好村なり。炭質頗る優秀にして、その埋藏量亦甚だ豊富なるものあり。創立日淺くして最近に至り、採行を開始したるものなるが、その將來性質に洋々たるものを有せり。昭和十二年四月創立後、直ちに各種建築物、發電所、軌道、運搬機關、道路等の建設をなせしが、既に全く完成を見たり。各種施設何れも完備し、今後の發展には大いに期待すべきものあり。昭和十三年度は十萬噸の出炭量の豫定なるが、相次いで増産設備施工せられる筈なれば出炭量は將來大いに増大する見込にて、十四年度にては二十萬噸、十五年度に至りては三十萬噸と累増する筈なり。當社所有礦區は埋藏量豊富なると共に炭質甚だ優秀なるを以て多大の需要を見るべく、殊に事業界は今後一段と好調を持續するの筋合にあるに依り、當社の將來こそ大いに刮目に依つては、

の重職にある齋藤氏は、資性勁骨濃厚にして眞摯熱直業務に淬勵し、大いに才腕を發揮せり。氏は頗る温情に富み、部下を愛すること深く、上下に多大の信望ありて推重せられ、將來業界に驥足を延すに至るべく、その前途頗る期待せらる。

常務取締役 中村敦太郎

中村氏は頭腦明晰にして周匝敏密、頗る社業に勵精して東奔西走多大の活躍をなし、秀技の才腕を揮ひて貢獻する所多し。當社は創業未だ日尙淺きにも拘らず、氏の如き俊魁の頭才の活躍あるに依り今後社業多大の隆運を見るに至らん。氏は資性溫恭謹恪、襟度宏く、抱擁力に富み衆を統率するの才ありて、眞に一方の將たるの材器を具へり。心性峻潔にして氣格俊邁、事業界に翺翼を伸すに至るべし。

(所在地 東京市麴町區丸ノ内二丁目)

東京イーシー工業株式會社

總ゆる文化の淵藪たり、事業百般の策源地たる帝都には、大小新古幾多の工場相混雜し具眼の士に非ずんば、容易に其の薰陶を辨ぜずと雖も、苟くも東部工業界の情勢を語り、電氣材料製造業界に關心を有する者は、其の

専務取締役 齋藤 定吉 當社専務取締役

製品の優良確實を謳はれ、而かも業績頗る順調にして信望甚なる代表的中堅業者に、東京イシー工業株式会社の光輝燦たる存在を逸するを得ず。

即ち當社は大正八年三月を以て設立せられ前述電気材料並に護謨製品、航空機材料等の製造販賣を營み、現在資本金百萬圓、内拂込金六十萬圓の會社なり。而して創業以來常に堅實新なる營業方針を持ち、更に技術の向上に伴ふ製品の改良を圖りて、拮据經營に一貫せる結果、漸次斯界に頭角を現はし、業礎の鞏固不搖を加ふるに至れり。斯くて滿洲事變勃發し、俄然我が工業界の飛躍的發展時代の到来するや、茲に生産諸施設の整備擴張を期し以て旺盛激甚なる需要を消化充足せしめんと、舉社努力奮闘を怠らざる處、業勢の伸展發達殊に著しく、今や當地に堂々近代設備を誇る工場を有し、諸製品の品質優秀、耐久力の強大なること業界の自肩を以て推され需要界に絶對的好評を博し居れり。是實に時代の要求の然らしむる處と雖も、亦以て經營首腦者の卓見巨腕能く常人凡介の企及し得ざるを窺知す可きなり。

因みに第三十七期決算報告に據れば、總資産百三十一萬五千六百餘圓にして、當期利益金十萬五千八百餘圓を計上し、而かも時局の推移、容易に豫斷を許さず、國防經濟益々強

化する、必然的趨勢に在る處、近き將來に於ける社運の飛躍發展こそ、眞に刮目に値するものあり。尙ほ大阪市西區阿波座中道に大阪出張所を設置し、東西相呼應して販路開拓に昭々たる實績を示し居れり。現在重役は専務取締役兼技師長齋藤正平、取締役桐島一、同小池厚之助、同武田秀雄、監査役小早川常雄、同境豊吉等の諸氏にして、何れも斯界錚々たる俊秀の士たり。

専務取締役兼技師長 齋藤正平 宮城縣

士族齋藤正三氏の三男、明治七年三月を以て生れ同二十七年本家絶家するや、之を再興して今日に至る。夙に工業界に雄志を馳せ、奮然技術の研鑽或は業務修得に精勵すること多年、着々として地歩を固め茲に藤倉電線株式會社取締役として敏腕卓才を顯はれ、當社に在りては技師長を兼ねて斷然重きをなせる偉材の士。資性濃厚誠實にして熾烈なる研究心を有し、而かも常に謙讓の美德に富みて功を誇らず責任を重んじ、且つ玲瓏圓滿なる人格の所有者なり。今や當社不可缺の至寶的人物として内外の尊崇敬仰を蒙り、令名愈々光輝を加へ居れり。圓滿なる家庭にはマツエ夫人嗣子正秀氏、同令閨順子夫人（貴族院議員塚本清治氏三女）あり。

（所在地 東京市世田谷區池尻町四三七）

株式大阪精錫所

躍進影服其の限度を知らざる本邦工業界の發達に伴ひ、夙に商工業の覇府として繁榮隆盛を顯はれし當大阪は、近來益々工業的發展を齎して、今や大小幾多の工場簇出し、煤煙滿天を蔽ひて動力機械の響音耳を聳するが如く、其の活氣横溢せること驚嘆に値するものあり、正に東洋のマンチエスターたるの名實を兼備せり。而して同市工業界に在りて創立年處未だ多からずと雖も、泰然不動の業礎に立ちて加ふるに新興發達たる業勢を有し、而かも製品の優良確實を以て、需要界に信望藉甚たるものを擧ぐれば、株式會社大阪精錫所を推すに躊躇を感ぜず。當社は資本金三十萬圓を以て昭和八年十一月に創立せられ、總株數四千株、拂込金額二十萬圓にして資本金額敢て大ならざるも、堅實なる營業方針下に錫原料製造販賣を業務となし、造兵局を始め日本製鐵、神戸製鋼所等の官衙一流大會社は勿論、一般問屋筋に得意先を有せりと聞く。而かも信用愈々厚きを加へつゝある當社將來の發展飛躍は業界人齊しく刮目する處なり。因みに當社第八期に於ける利益金は十一萬七千九百七十六圓八十五錢を算し、株主配當金

總額六萬二千五百圓の好配當を爲せり。斯の如く業績頗る顯著なるは、一に經營當事者の手腕卓越し、而かも不斷の努力を傾注せる結果にして、今日の隆榮を招來せしも蓋し偶然の歸趨ならざるべし。

因みに同社製品規格を掲ぐれば等級特上品に於て其の品質九九・五パーセントを保證され、以下特等品九九・三パーセント保證、一號品九九・九パーセント保證、二號品九九・五パーセント内外、三號品九十七・七パーセント以上、四號品九十六・六パーセント等の規格品を産し、殊に特上及び特等品は陸海軍省の用命を蒙る優秀品として定評あり。尙ほ實費を以て折錫又は異型の註文に應じ、技術卓拔なるを謳はれつゝあり。

専務取締役 和田卯一郎

氏は明治四年十一月二十四日を以て、石川縣能美郡小松町に出生し、夙に雄心勃々たる處、生涯故郷の小天地に躊躇するを屑しとせず、奮然鐵鋼界に雄飛せんと來阪し、鋼鐵問屋板本商店に入りて業務見習に従事すること數星霜、其間努力精勵至らざるなく、克く儔輩を抜きんじて卓腕を顯はれ、遂に斯業經營の眞髓を把握するや、大正二年を以て敢然獨立創業なすに至れり。然るに其後大正七年、感ずる處ありて錫商に轉じ爾來拮据經營着々業運を伸展せしめ

昭和三年には合名會社を創立、更に同八年に至るや、業界好況の波に乗じて業務の一大擴充を斷行、茲に株式會社大阪精錫所を起し、以來益々堅實主義を奉じて合理的經營に一貫する處、遂に同社今日の隆榮を招來するに至れり。資性濃厚篤實にして圓滿玲瓏たる人格を備へ、識見手腕共に斯界の長老たる名に恥ぢず、さればこそ同業者の齊しく推す處となり、現に大阪電解錫工業組合理事長の要職に就任、多年に亘りて斯業發達、業者の和合親睦に貢獻せる功績没す可からざるものあり。亦た一方出で、は、當大阪市勢の發展、市民の福利増進を圖るべく幾多公共事業に關與し至誠一貫克く其の實を擧ぐる處、衆譽の尊崇を蒙ること多大、當社益々光輝を加へつゝあり。氏は又大阪酸素株式會社常務取締役を兼ねて、同社の樞機に參じ社業興隆に資する處尠なからず。因みに念佛を信奉すること厚く、亦た趣味として謡曲を好み、技既に素人の域を脱せりと聞く。令閨タネ子夫人は梅井友次郎氏令妹にして明治三十三年の誕生。能く夫君を授けて内助の譽れ高き賢夫人たり。

常務取締役 眞鍋竹治郎

氏は愛媛縣宇摩郡土居村の出身、眞鍋政平氏二男にして明治二十九年三月二十日に呱呱の聲を擧ぐ、學序を経て關西大學法科に學び、大正十五年優秀

なる成績にて卒業後、昭和二年現社に入りて精勤恪勵、孜々として職務を完遂する處、信認年月と共に厚きを加へ、其後株式會社に組織變更されるや常務取締役に推される。斯くて社務の樞機に與るや、鋭鋒愈々鋭く敏腕卓才を充分に發揮し、今や専務和田氏に代りて社務を綜攬、百數十名の社員職工を心服せしめて遺憾なく、名實共に同社の柱石として至寶的人物と稱揚され、名聲内外に噴々たり。資性穩健着實にして温情亦流露たるものあり。全従業員より恰も慈父の如き敬慕を受く。而して一方第二株式會社大阪精錫所重役を兼ね更に令兄と協同事業を開始、郷里愛媛縣下に眞鍋製水合名會社を創立經營なして業績顯著たり。

（所在地 大阪市西區津守町八六九）

機業家 黒澤萬藏

秩父銘仙の名を以て天下を風靡する秩父織物は、その起源極めて古く、絹織物として我國最古のものと稱せらる。幾多の年代を経て改良に改良を加へられて發達せしが、近代文明の影響を受くるや、飛躍的發展を遂げ、古き歴史とその比類なき新柄意匠を以て斷然他産地品を超越せり。氏は秩父機業界に寄與貢

獻する所僅少なからず、その手腕卓抜にして事業甚だ殷盛を極め、聲望同地方に冠絶せり。氏は若くして霸氣に富み、俊敏萬才にして氣魄凛然たるものあり。夙に機業家として身を立てんと欲し、虎視眈々その機に到來するを待ちしが、大正三年に至り蹶然として起ち、業界に打つて出づ。臥薪嘗膽幾度となく辛酸を嘗めて志愈々堅く、具さに生絹並に絞銘仙の製造に苦心慘愴し、寢食を廢して研究に没頭し、種々の障害にも屈せず不撓不屈目的の貫徹に邁進せしが、倦むことを知らざる熱心なる努力と、慧敏なる智能とは幾多の難關を突破して多大の成功を収むるを得たり。即ち一時衰頹の悲境にありし生絹の製品も、氏の奮闘に依りて頹勢を挽回し、至大なる隆盛を見ることとなれり。これに依りて同業者も大いにその恩恵を蒙りて、事業好調に向ひて窮境を脱し、氏を業界の功勞者としてその徳を讃ふること多大なり。今や氏の事業繁榮して規模宏壯となり、業界屈指の材器として數へらる。而も尚ほ多忙の時間を割きては斯業の發展の爲めに活躍し、現に同業者を糾合して生絹同盟會を組織して會長に推戴されて業界の爲めに奔走し、その貢獻する所まことに甚大なるものあり。熱心にして犠牲的なる活躍は同業者の深く感謝して罷まざる所なり。昭和六年には秩父織物工業組合理事に選任せら

れ、秩父機業界發展の爲めに盡瘁す。資質重厚にして剛毅不屈、情誼に厚く人を容るゝの雅量に富む。人に對して謙讓にして至誠を以て接し隨壁を設けず。業界に關する造詣深く識見抱負亦頗る大なり。公共事業には率先身を挺して當り、人の苦境に對しては私財を投じて救ふ等頗る義氣任侠の士たり。當地方に於ける徳望甚だ高く、氏に信服する者夥しとせず。明治十六年二月を以て生る。秩父機業界の重鎮として氏今後の活躍こそまことに目覺しきものあらん。

(住所 埼玉縣秩父郡皆野町)

興國山大光院

その創建古くして由緒あり、信者の崇敬を集めて參詣者踵を接し、その名聲高きが大光院なり。當院は慶長八年徳川家康公の第四子忠吉公の建立せしものにして同曆十一年七月尾張國西春日井郡寺野村の内御朱印百石を賜りて寺産となす。元和六年には徳川義直公春日井郡寺野村に於て寺産百石の御黒印を賜はり、兩來慶應三年に至る二百六十五年間大いに繁榮をなせり。然るに明治元年に至りて寺産は土地となり、全く無産の寺院と化し、堂宇荒廢に委ねて復た舊觀を見るべからず。後

其の創建古くして由緒あり、信者の崇敬を集めて參詣者踵を接し、その名聲高きが大光院なり。當院は慶長八年徳川家康公の第四子忠吉公の建立せしものにして同曆十一年七月尾張國西春日井郡寺野村の内御朱印百石を賜りて寺産となす。元和六年には徳川義直公春日井郡寺野村に於て寺産百石の御黒印を賜はり、兩來慶應三年に至る二百六十五年間大いに繁榮をなせり。然るに明治元年に至りて寺産は土地となり、全く無産の寺院と化し、堂宇荒廢に委ねて復た舊觀を見るべからず。後

住職はこの衰頹を憂へて自覺發奮し、他面時勢の進展に由りて、遂には現下の如く檀信徒諸賢の歸向を繋ぐことを得るに至れり。慶長八年の創建以來三百三十有餘年、時にその間盛衰ありと雖も、法燈今日まで絶ゆることなく、宗風を中外に宣傳し、尾張名古屋大光院の名稱は、日本全土に知らるゝに至れり。當院は明治維新以來極端なる消極主義を守りて唯廢滅を免れんことのみ汲々たりしが近年に至りて積極主義に一轉して大いに教線を擴張し、不斷に宗風を宣傳高揚して、昔時の大光院を偲ばしむるが如き、興隆を見ることとなれり。參詣者常に引きもきらざる有様にして法燈燦々たり。

住職 田中懷光

師は大光院三十三世の方丈にして、學深く識廣く徳高く、衆庶の瞻仰措かざる所なり。當院を今日の如く盛ならしむるに至大なる功績あり。數年前より病床に臥し、目下靜養中にして、その本復の日一日も早かれと人々は衷心よりこれを祈れり。現在師の高弟田中光圓師法丈の代理を勤む。師は愛知縣中島郡大里村奥田、田中壽三郎氏の三男にして明治三十四年を以て生る。九歳の時大光院に於て出家得道す。後東京駒澤大學を優秀の成績を以て卒業し、學殖深くして田中懷光師の秘藏弟子たり。懷光師の病

床に就くや、師は當院の一切を擔當し、恩師をして、聊かも憂念をも抱かしめず。道念堅固にして清白高朗、信徒に厚く敬仰せられ、第三十四世大光院方丈として囑目せらる。尙ほ大光院内に明光院あり。下の病を治療するに靈驗あらたかにして、毎月二十八日には朝來より深夜まで參詣者踵を接して頗る混雜を呈す。

(所在地 名古屋市中區門前町二丁目)

南葵産業株式會社

徳川御三家の一たる紀州家は徳川家康公の第十子頼宣公の後裔にして、代々和歌山に居城して五十五萬五千石を領し、その勢威鬱然として天下を壓し、諸侯諸藩士より土民の末に至るまで、多大の崇敬を拂ひしが、明治維新の王政復古を見るに及び、多年の勳功に依りて侯爵を授けらる。當家は我國華胄界の名流として深く一世の尊信を受け、貴顯紳士の推敬を拂はるゝこと厚し。當主徳川頼貞侯は天資英明にして識見高く、常に國事に深憂を抱き、社會公共の爲めに力を竭くし、高風亮節の瞻仰する所たり。侯は南葵文庫、南葵音樂圖書館、南葵育英會を始め、諸多の文化事業を主宰して、貢獻する所多かりしが、後南

葵産業株式會社を創立して殖産興業の發展を企圖し、華胄界稀有の偉材として世人を推服せしめたり。南葵産業株式會社は紀州徳川侯爵家を大株主として、昭和八年二月に設立せられ、現時資本金三百萬圓の大會社たり。その事業は農業、礦業、商業、土地建物賣買及賃貸借、有價證券賣買、金銀貸付、保險代理業等甚だ廣汎に及び。農業は朝鮮全羅南道に米作農場約三百萬坪を經營し、食糧問題の解決に資すると共に、半島同邦の生活安定を目的として、鋭意これが發展に力を盡くし來り、現今に至りては多大の好成績を挙げつゝあり。礦業は同じく朝鮮全羅南道求禮面、順天面並に寶城面、その他の各地に金礦區約二百萬坪ありて、これが經營を行へり。時局の重大化に依り、金の蓄積は重大意義を帯ぶるに至り、政府は産金獎勵に多大の力を注ぎつゝあるが、當社に於てもこの趣旨に基き極力全従業員を督勵して増産に努め、成績目を逐ひて躍進をなしつゝあり。商事の經營に於ては電氣並に一般機械器具及び附屬品、パイプ其他金物製品、塗料、燃料、建築土木用材料食料品、香料の販賣並に輸出入をなせり。その商品は吟味精選し、その取引又確實を旨とせるを以て、内外共に好評ありて、販路大いに擴まれり。不動産の賣買、管理並に賃貸其他の利用をなし、又有價證券の賣買を爲みて

これ又毎期多大の収益を擧ぐ。次に事業の發展に寄與せんが爲めに、有望事業に對してはこれを援助するの意味に於て融資、又は投資をなせり。又生命、火災並に傷害保險の代理業を營みつゝあるが、これは各種優秀保險會社の保險を江湖に提供すると共に保險業の健全なる發展に寄與せんとするの意圖に出でたるものにして、代理保險會社は三井生命、明治生命、日華生命、日本火災、大倉火災、日本共立火災、帝國火災の諸會社なり。本社を東京に置き、支店を朝鮮全羅南道松汀面、出張所を南洋シマバ島バタバヤ市に設置す。當社創立の精神は、單なる營利を目的とせるものに非らざることは述上の如くなるも、毎期多大の好成績を擧げ、事業界に富強の如く屹立せり。取締役社長山東誠三郎、常務取締役藤村稻造、同義野保之、取締役岸田佐二、同草野繁、常任監査役木下友三郎、監査役三浦英太郎、同中村巍の諸氏重役として業務に執掌し、大いに手腕を揮へり。

取締役社長 山東誠三郎

山東氏は頭腦慧敏にして、學殖淵博を以て知られ、銳意社業に勵精格勤し、その卓勁の才腕を以て斯界に令名高し。氏は和歌山縣土族山東重成氏の三男として、明治二十一年八月に呱呱の聲を揚ぐ。夙に慶應義塾を卒業し、後倫敦大學に留

學す。大正八年には萬國労働會議に日本委員として参列し、同十年には徳川頼貞侯に從ひて歐洲各國を視察せり。視野廣く識見高邁にして事業的手腕に秀で、洗練せられたる品性と廉直なる人格を備へ財界に重きをなせり。

常務取締役 藤村 稻造 氏は明治二十一年一月東京府人藤村清次郎氏の二男として生る。大正二年慶應義塾理財科を卒業し、直ちに大倉組に入る。夙に滿洲、支那或は北米方面を視察し、海外事情に通ずること深し。東邦商會取締役、坂本商會監査役等を歴任して後當社常務に推される。資性温恭謹厚にして素志堅確、東奔西走して社業に盡瘁し、大いに敏腕を揮ひて名聲を博せり。
(所在地 東京市京橋區銀座六交詢社ビル)

日産化學工業常務取締役 田中 壽一

我國化學工業界の最高峰として業界に重きをなせるが、日産化學工業株式會社にして、同社の常務取締役として經營に執筆し、天賦の才腕を揮ひて、業界注目の的となれるが、田中壽一氏その人とす。氏は頭腦明晰にして頗る温厚、眞摯格勤して社業に盡瘁すると共に寸暇には學理の研修に没頭して新知識の攝

取に怠りなく、業界屈指の俊魁として氏の名聲近時大いに著聞す。氏は財界の音宿として、明治二十七年十二月に呱呱の聲を擧ぐ。幼少より穎悟にして、學業頗る優秀たり。夙に東京高等工業學校應用化學科に學び、大正六年同校を卒業せり。大正八年關東製糖株式會社に入り、眞摯社業に精勵して大いに英才を發揮す。昭和八年に至りて嚴父の經營せし大日本人造肥料株式會社の取締役に擧げられ、工務部長を兼務して大いに蘊蓄を傾倒し、多大の實績を擧ぐ。昭和十二年五月同社が日本炭礦株式會社と合同し、日本化學工業株式會社となるに及び、取締役兼第一企畫部長の要職に就き、次いで同年十二月日産化學工業株式會社と社名の改稱せらるゝと共に、常務取締役に選出せられ、専ら經營の衝に當り、獨創の業陣を張りて新界の麒麟兒として畏敬せられるに至れり。氏は大正十年、同十二年、昭和三年、同四年、同七年の五回に亘り、長きは三ヶ年間、歐米各地を視察し、具さに事業界各方面の調査研究に従ひ、多大の新知識を得て歸朝せり。學識頗る淵博にして、その蘊蓄甚だ該博を以て令名あり。家門の榮光と傳統の良系を承き、眞に玲瓏玉の如き人品を備へ而も飽くまで實實剛健を尙ぶ處事業家として類稀れなる材幹にして、學理に偏せず、實地

に盲從せず、更に絶倫の精力を以て當時研精を怠らず、常に先徹的獨身の創意を扶植してその才腕頗みに聲價を昂めつゝあり。教養高く品性典雅にして、辭禮まことに鄭重たると共に、その舉措甚だ謙虛にして、實に洗練せられたる典型的紳士と云ふべし。器局宏量にして抱擁力に富みて、仁情に厚く而かも、寬嚴宜しき得、實に人を統率するの手腕に長じ、嚴父を凌ぐ將器を備へり。日産化學工業株式會社は資本金一億二千五百萬圓を擁する大會社なるが、斯る人材を常務に戴くを以て今後の躍進蓋し刮目に値すべし。氏は未だ前途春秋に富み、將來我財界の雄嶺としてその頭角を拔んずるものと期待せらる。
(住所 東京市麻布區廣尾町一五)

宇治川電氣株式會社

當社は所謂五大電力會社の一として威望噴々として六合を遍照するの概あり。

而して其の淵源は明治三十九年一月に拘り當初大阪商船系を中心とする大阪組と京都滋賀の富臺連より成る一派と、大倉喜八郎、福原有信兩翁を代表する東京組との共同出資に依り一千二百五十萬圓の資本金を以て設立し、初代社長に中橋徳五郎氏の就任を見る。

爾來増資、合併を果ぬること屢次、漸次擴張をなせるが、日産化學工業株式會社にして、同社の常務取締役として經營に執筆し、天賦の才腕を揮ひて、業界注目の的となれるが、田中壽一氏その人とす。氏は頭腦明晰にして頗る温厚、眞摯格勤して社業に盡瘁すると共に寸暇には學理の研修に没頭して新知識の攝

特筆大書すべき美譽たるべし。尙問題の電力國家管理案の通過に依り、愈々法としての實施期に移行せんとしつゝある今日、業況盛業を誇る其前途は正に注目し得るものあるべし。

取締役社長 林 安繁

天資温良篤實の典型的人物にして、雄將割據の電力界に於ける元老たると共に、關西事業界に特異の地歩を占むる確乎たる存在たり。明治九年二月林文二郎翁の長子として石川縣に出生す。長じて同三十四年東大英法科を卒へ、直ちに大阪商船に入社、本店詰、厦門出張所主任、上海漢口兩支店助役に昇進す。同四十年四月、日清汽船の創立せらるゝや、同社に轉じ上海支店長事務取扱に就任、四十二年大阪商船に復歸して神戸支店長に推されしが、宇治川電氣の設立後、總務部長に推舉され、尋で營業課長、支配人に進み大正三年取締役に就任支配人を兼ね。六年歐米を遍遊し歸朝後常務に、次で副社長に就任、同十三年社長の椅子に推

も商船系の錚々たる人物にして、兩社が死闘を試みたる理由は種々あるとするも直接の動機は日産電氣の得意先たる京都電燈へ電力を賣込みし爲なりと謂はれたるが、要するに電力事業が保護時代より自由競争時代に突入せし當然の現象なりと評すべし。堅實主義の林氏が所有する日産電氣を市場に賣り放ちて増資を控へる日産電氣を三、四回方暴落せしむる如き放れ業を演ぜしめ、宇治電本社から賣叩きの號令をかけし氏の俊敏さと、之れに應戦せし池尾日産社長との同志は共に電力争覇戦上の逸話と云ひ得らるべし。

氏は賣名を忌み世間的の喝采等を眼中にせず、飽くまで眞面目と堅實を以て努力す。故に宇治電の經營精神は常に氏の人格を反映せしめて、地味にして靜かなること林の如く、群雄を睥睨すところ、林氏の實力と人格を譽譽せしめらるべし。
(所在地 大阪市北區梅ヶ枝町)

京都帝國大學

我が國最高學府の一として聲名高く、大學本然の使命に立脚し、全國の俊秀を擁め、學術の研鑽、人格の陶冶に當り、我國文運の勃興に貢獻する所多大なる我が京都帝國大學は

取に怠りなく、業界屈指の俊魁として氏の名聲近時大いに著聞す。氏は財界の音宿として、明治二十七年十二月に呱呱の聲を擧ぐ。幼少より穎悟にして、學業頗る優秀たり。夙に東京高等工業學校應用化學科に學び、大正六年同校を卒業せり。大正八年關東製糖株式會社に入り、眞摯社業に精勵して大いに英才を發揮す。昭和八年に至りて嚴父の經營せし大日本人造肥料株式會社の取締役に擧げられ、工務部長を兼務して大いに蘊蓄を傾倒し、多大の實績を擧ぐ。昭和十二年五月同社が日本炭礦株式會社と合同し、日本化學工業株式會社となるに及び、取締役兼第一企畫部長の要職に就き、次いで同年十二月日産化學工業株式會社と社名の改稱せらるゝと共に、常務取締役に選出せられ、専ら經營の衝に當り、獨創の業陣を張りて新界の麒麟兒として畏敬せられるに至れり。氏は大正十年、同十二年、昭和三年、同四年、同七年の五回に亘り、長きは三ヶ年間、歐米各地を視察し、具さに事業界各方面の調査研究に従ひ、多大の新知識を得て歸朝せり。學識頗る淵博にして、その蘊蓄甚だ該博を以て令名あり。家門の榮光と傳統の良系を承き、眞に玲瓏玉の如き人品を備へ而も飽くまで實實剛健を尙ぶ處事業家として類稀れなる材幹にして、學理に偏せず、實地

取に怠りなく、業界屈指の俊魁として氏の名聲近時大いに著聞す。氏は財界の音宿として、明治二十七年十二月に呱呱の聲を擧ぐ。幼少より穎悟にして、學業頗る優秀たり。夙に東京高等工業學校應用化學科に學び、大正六年同校を卒業せり。大正八年關東製糖株式會社に入り、眞摯社業に精勵して大いに英才を發揮す。昭和八年に至りて嚴父の經營せし大日本人造肥料株式會社の取締役に擧げられ、工務部長を兼務して大いに蘊蓄を傾倒し、多大の實績を擧ぐ。昭和十二年五月同社が日本炭礦株式會社と合同し、日本化學工業株式會社となるに及び、取締役兼第一企畫部長の要職に就き、次いで同年十二月日産化學工業株式會社と社名の改稱せらるゝと共に、常務取締役に選出せられ、専ら經營の衝に當り、獨創の業陣を張りて新界の麒麟兒として畏敬せられるに至れり。氏は大正十年、同十二年、昭和三年、同四年、同七年の五回に亘り、長きは三ヶ年間、歐米各地を視察し、具さに事業界各方面の調査研究に従ひ、多大の新知識を得て歸朝せり。學識頗る淵博にして、その蘊蓄甚だ該博を以て令名あり。家門の榮光と傳統の良系を承き、眞に玲瓏玉の如き人品を備へ而も飽くまで實實剛健を尙ぶ處事業家として類稀れなる材幹にして、學理に偏せず、實地

勅令を以て明治三十年京都市に設立せらる。

明治初期以來中期に亘る我が文化は、歐米諸國より各種の學術を移入するに例野擧げて力を傾倒し、青年子弟は争ひて、之が研修に精勵せり。而して政府に於ても學術研究の獎勵に力を注ぎ、時の文部大臣西園寺公望公、關西の地を下し京都市に大學を設置し、初代大學總長に當時文部省專門學務局長たる法學博士木下廣次氏を任命せり。

當初同大學は理工科大學として開校せられ、土木工學科、機械工學科の兩科なりしが、時勢の變遷此處に、四十有餘年大正八年に至り學制を改革して、法學部、醫學部、工學部、文學部、理學部の諸部の整備充實をなし、我國文化の源泉として我學界の最高峰として、青年學徒渴仰の的たり。爾來發達隆々として興り、今日同大學卒業生は、無量二萬二千七百六十有餘名の多數に上り、現時卒業生は社會各方面に於いて活躍なし、その貢獻せる處蓋し絶大なるものあり。

惟ふに一國の文運の隆昌は、學術の振興に基くものなるは言を俟たざる處と雖、學理の探求に熱直なるの餘り、學生の人格陶冶の兎角闕却せられるの傾向なしとせず。然るに同大學は夙に學生の人格陶冶に力むると共に、國家觀念の涵養に留意し、頗る顯著なる成績

を擧げつゝあるは同大學の誇示するに足る事相の一たるべし。

京洛の北端閑雅靜寂の地に豪莊秀麗なる大建築物巍然として聳てるが、我が京都帝大にして建坪實に三萬七千二百餘坪、總坪數拾六萬八千五百餘坪に上り、その諸施設に於ても歐米諸大學を凌駕するものありて、輪奐の美に於て、將た又その内容に於てまさに世界的の學府と稱すべきなり。

總長 濱田 耕作 先生は明治十四年二月大阪府士族濱田源十郎翁長男として生る。

同三十八年東京帝國大學文科史學科を卒業し更に大學院に於て研鑽す。尋で京都帝國大學講師となり、助教に任ぜられ、大正六年教授に任命さる。氏の眞摯なる研鑽とその淵博なる學識は學界に赫赫たる名聲を博し、昭和五年文學部長となり、更に同十二年六月京都帝國大學總長に任命せらる。

先生資性高潔にして緝熙、その履迹文質彬々たり。過ぐる大正元年、英、佛、伊各國に留學を命ぜられ、歸朝後、文學博士の學位を授與せらる。多年に亘る我が國最高教育に盡瘁せるの功績正に顯著たり。曩に朝廷其功を録せらるゝに正四位に叙せられ、勳二等を賜ふ。

(所在地 京都市左京區吉田本町)

和歌山染工株式會社

本邦織物染色工業界に卓然傑出を占むる和歌山工業界には、素より幾多の業者各自發展を果ね見る可き多大の業績を示しつゝあるも我が和歌山染工株式會社の如く、儼乎たる基礎を有して絢爛確實なる業績を謳はれ、而かも技術の優秀、製品の良質を以て汎く需要界の賞讃を博し、躍進又躍進、益々社業旺盛なるは多く求む可らざる處なり。

茲に當社の發端を尋ねれば、大正六年十月を以て設立せられ、爾來當事者の拮据經營せるは勿論更に全社員打つて一丸となり、汝々として業務に精勵、克く染色技術の改良進歩を圖り、或は經營の合理化を實踐、斯くて着々社業を鞏固ならしめ、又た能く業界變遷の間に處して間然する處なく、常に縣下斯界の模範會社たる實績を擧げつゝ發展を來たし、昭和九年九月に至るや、納定染工株式會社を合併、茲に從來の資本金百五十萬圓を現在額たる百九十萬圓に増資し、業務の一大擴張を實現するに至る。而して工場施設の改良、生産能力の増加、或は販路の擴張を圖りて遂に今日見るが如き規模を形成し、亦た業運隆盛を來たして斯界有數の代表的會社となれり。

於ける變動増加は論を要せず。又た同期損益計算書の要項を掲げんか、即ち收入の部に於ては、營業總收入金三百九十三萬七千餘圓、雜收入及雜益金十九萬四千餘圓、合計四百一十三萬千餘圓にして、支出の部は、諸税金二萬一千五百餘圓、支拂利息及保險料三萬六千二百餘圓、營業諸費三百七十七萬七千七百餘圓を算し、之が利益金二十九萬五千八百餘圓なり。因に當社重役氏名を列記すれば、取締役社長土生信一、専務取締役高垣良三郎、取締役伊藤萬治郎、同平松徳三郎、同高田榮治郎、同並河久次郎、同池田増次郎、監査役伊藤萬助、同田村駒次郎、同山崎幸太郎の諸氏にして何れも業界屈指の人材を擁せり。

取締役社長 土生 信一 氏は縣下那賀郡山崎村を播藍の地として、明治十一年六月に呱呱の聲を發し、父君を重右衛門氏と呼びて其の二男、幼時既に聰明俊敏を謳はれて前途を嚆望されること厚く、夙に和歌山藩校徳修學校に學びたる後、將來雄飛發展の天地を紡織界に求めて大阪紡績會社に勤務、以來専心斯業の研鑽に鏗骨精進の星霜を累ね、更に職務に努力發展を傾注せる處、天賦の才幹と相俟つて、漸次社内に頭角を現はすに至り、其後和歌山紡績取締役兼技師長に就任、斯くて同社の至寶的存在として、名聲噴々たるに及

名 鑑 家 田 上 孫 作

(所在地 和歌山市石橋町一)

現時山口縣會議員、下關市會議員の要職に推戴さるゝ傍ら、實業界にもその驥足を伸暢せしめ、潮氣滿々たる氣概を以て馳驟し、今やその動向を凝視さるゝ山口縣の有つ至寶的人材たり。

明治十五年十一月、山口縣田上傳右衛門翁の三男として生誕す。後ち田上源次郎翁の養嗣となる。由來田上家は縣下に於ける異數の素封家として著聞し、世々信望を保持する名望家なり。氏天性聰明測達にして思想堅實、

今や本社工場の建物坪數二千四百九十三坪餘、擦染機十一臺、コップローラー六千三百九十本及び之に要する汽罐汽機其他電動機諸機械裝置一式整備充實し、其他什器工具、消火器及備品等其の固定資本金六十二萬二千餘圓を有し、亦精練工場は敷地六百餘坪、建物坪數四百六十餘坪、機械キヤー八台及び之に要する諸機械一式、此の金額三萬五千餘圓、起毛工場は敷地五百九十餘坪、其建坪三百八十餘坪、機械起毛機十六臺及之に要する諸機械一式、更に彫刻工場は敷地百四十六坪、建坪九十五坪、機械彫刻用諸器械裝置一式一萬三千餘圓を有し、尼崎工場は敷地三千八百二十四坪、建坪千二百二十九坪餘、機械漂白諸機械一式十五萬七千餘圓を有し、紡績工場の如きは土地延坪數實に一萬九千八百六十坪餘、建物延坪數亦た七千四百七十六坪餘にして、之が使用機械は紡機三萬二千二百餘、落棉紡機三千五百二十八餘、並に所要諸機械設備一式及び什器、工具其他備品の金額二百四十四萬二千餘圓を算し、一方納定工場に於ては敷地八千三百三十三坪餘、建坪三千十三坪餘、機械擦染機八臺及所要の諸機械一式並びに什器一式此の金額七十一萬千餘圓を有す。而した前述事項は當社第二十回即ち自昭和十年十二月至昭和十一年十一月末に於ける財産目錄の一部として、隆榮年月と共に旺盛なる處、以後に



田上 伊作 氏

識見手腕亦非凡の器にして、縣、市民の信頼顯著なり。大正十四年以降市民より選起を促されて、下關市議員に立つこと四回、毎回高位の當選率を得て之れに列し、連續的に就任すること十有餘年なり。市政刷新の鉅額として自他俱に容し明暢誇々の論は終始肇國の大精神に溢みて堂々にして切實たり。周知の如く今や下關市は、重要國策の一たる關門トンネルの竣工を目睫に控える傍ら、下關飛行場の建設あり、國際交通の重要據點として、西日本躍進の鍵を握る代表的都市たり。氏は常に之れが完成の高潮強化を絶叫し、之が快駛達成に奮闘しつゝあり。而して昭和十一年に迫んで、全市民の切望に依りて下關消防組頭に推されて就任し、以來非常時體制下の防火監督として、且暮執筆す。斯くの如く氏は公的に於て熱腸を挺する傍ら、他面私的關係に於ても、接するに温情を以てし、諸するに親切を以てし、市民の公僕、羽翼に甘じて經

濟的、精神的の相談相手となり、如何なる物事にても、正義と自負すれば之れを諾し、以て儼手たる信念に依り之れが燃焼力となり、水火を辭せず解決に奔命す、其の義學詢に敬服讃嘆に値すべし。殊に特筆大書すべき善行は、大衆の經濟を憂然たらしむべき方策として、卒先之れが金融機關設立を主唱し、東奔西走努力の結果、昭和十年實業無盡株式會社を創設實現し、氏は其の取締役社長に就任せるが、庶民階級の欣喜奮躍言語に絶するものありき。爾來同社は業績順調の一途を辿り、今日に至れり。

氏こそは正に將に將たる巨材にして、純忠赤誠の化身なり。其行履を顧る時、肅然として襟を正しむなり。切に自愛加餐せられよ。

(住所 下關市上田中町)

株式會社 帝國鑿岩機製作所

人類が有する大自然征服の強力武器として鑿岩機にトンネル工事に、その威力を發揮せるが鑿岩機にして、近時その進歩發達著しく文運の興隆に資するもの多し。木邦鑿岩機製作業界に重きをなせる當社は、昭和七年社長伊藤金太郎氏の創始に拘はる。伊藤氏鑿岩機製作の事業に携ること多年、經驗・蘊蓄共に

豊かなるものありしが、本邦業界の不振にして進歩の遅々たるを見て奮然獨立を決行す。爾來幾多の研究をなして相次いで改良を加へその製品の優良なるは廣く認識せられ註文日を送つて激増せり。三井、三菱、住友、日鐵等の各大鑿岩機は競つて當所品を採用し、これが優秀性を實證せり。大正十二年頃までは鑿岩機は専ら舶來品の獨占する所なりしが、一度優秀なる當社製品が市場に現れるや、外國品は完全に我國内より驅逐せられ、當所の新業發展に貢獻せし功まことに没すべからず。

又氏はエヤー・コンプレッサーの専門製作所の僅少にして、而もこれが重要性の益々加り来るを見て、過般第二工場をコンプレッサー専門工場となし同品の研究改良に意を注ぐ。斯くて創立以來事業大いに繁昌を呈し、製品需要激増し、設備は不足を告ぐるに至り、十二年一月初旬規模を擴大し、組織を株式に變更して氏は社長に就任す。資本金を五十萬圓となし、設備の大擴張を斷行せり。名古屋市熱田區新田二三の第一工場の外に同區新田乙一割に第二工場を増設し、従業員は百三十名に達す。事業の發展に呼應して東京、北海道滿洲に各營業所を設け、販路の開發に力を盡し、成績の向上に全力を傾倒せり。

社長 伊藤金太郎 氏は鑿岩機製作に従

事すること實に二十餘年。その學殖に經驗に或は技術に於て、鑿岩機に關する權威者として斯界に名あり。明治二十五年七月愛知縣豊橋市伊藤一五郎氏の長男として、同市花田町に呱呱の聲を揚ぐ。明治四十三年古河合名に入る。精勵格勤その業に没頭して前途を嚆矢せられしが、大正十四年に至るや鑿岩機製作を企圖し名古屋に於て共同經營を以て事業界に進出す。氏は頗る頭腦緻密にして研究心に富み、心血を注ぎて鑿岩機の改良に意を致し、苦心慘澹して一步一步改良を進め、遂に舶來品に優る同品の製作に成功をなすに至れり。斯くして舶來品は我國市場より姿を没し斯業の發達に致せる貢獻まことに赫々たるものあり。熱情熱誠、氣魄凛烈、童顏の奥に秘む火の如き剛志には接する者の心魂を衝く。氏は温情に富み部下を愛すること深く、各従業員又氏を敬慕すること厚く、協力一致して社業の爲めに献身的に努力す。名古屋事業界に於ける氏の存在益々重きを加ふるに至り、その前途汪洋たり。

(所在地 名古屋市熱田區新田東組)

川澄煉炭株式會社

「三筋の豆炭」と言へば、今や我が豆炭界

の最高級品として一般家庭は勿論、業界に於て其品位を絶讃せられつゝあり。昭和六年十二月大阪府主催の燃料博覽會に於て、斷然優秀を立證され無煙、無臭は元より悪瓦斯を發せず、火附きよく、火持ち適度の硬度、更に熱量亦偉大にして名實俱に同種豆炭類の追随を許さず。今や新興家庭燃料として、豆炭が懸河の霸勢を以て各家庭に歡迎さるゝに至りしは、木炭に比し極めて經濟的たる事情に因るが、殊に「三筋」の豆炭の如き品質優良なるもの出現こそ一家の經濟はもとより國家的見地より見るも、慶賀に堪えず。當社はこの三筋の豆炭の製造所にして其設立は大正十年五月にして正に豆炭界の元祖たり。しかも當社常務取締役川澄政氏は本邦燃料界の顯著なる存在にして、豆炭の發明者として其名洽聞す。而して當社は資本金十萬圓(拂込済)を擁し、今や従業員百五十餘名を使用し川澄氏考案の特許を有つ機械を専ら操業し、年産額實に五百萬圓を製造し業態愈々旺盛なり。因に現役員は取締役社長白井齋知、常務取締役川澄政、取締役末次幸二郎、監査役増井敬太郎の諸氏なり。

當時屢々歐洲に渡航し、其の際進歩せる各國の煉炭製造法を見習ひて將來一身を煉炭製造法の研究に投すべく決心し、海軍退役後直に朝鮮無煙炭礦株式會社技師長に推されて渡鮮し、朝鮮全土に亘りて無煙粉炭が徒らに土塊に没して省みられざるを慨き、之を以て煉炭を製造すべく着目し、爾來鍊骨彫身、血と汗との必死の努力は遂に報ひられ、大正九年一月川澄煉炭工場なる匿名組合を組織し、現所に工場を開き、同十年業務一切を擧げて、株式組織に革め、氏は常務取締役に就任し現在に及ぶ。當社が豆炭製造の鼻祖として今や光輝ある歴史と信用は、堅實なる内容を基礎として益々昂揚されつゝあるは蓋し氏の功とするところなり。

(所在地 大阪市大正區福町二ノ四三)

株式會社 清水組

近代建築の豪華史は、大正三年に起れる歐洲大戰をエポックとして展開され、凡ゆるものゝ上に一大變革を齎らしめたり。即ち露國の革命に次ぐに獨逸の革命を以てし、自由平等、個人尊重の思想は、滔々として一世の風となし、住宅建築の要求は勃然として興ち、且つ都會集中の傾向は愈々甚しく、機械本位

常務取締役 川澄 政 氏は愛知縣澤美郡田原町に於て出生す。生來發明心に富み、頭腦明晰。長じて海軍兵として軍務に服す。

の生活機械化は、建築構装をも機械化せしめ就中、電力事業、機械工業の發達と相俟つて施行期間の短縮を極度に要求され、之れが爲め機械力の利用と鐵筋鐵骨を骨格とする混泥土建築が益々流行し、また力學理論の發達に伴ふ施行方法の進歩と、交通運輸の發達に伴ふ材料供給の敏速さと、更に近代都市美の上に案出されたる斬新なる設計と優秀なる建材の創見とにより、現在の建築は歐米先進國をも凌駕すると云ふ技術的躍進を収むるに至れるは慶福に堪えざるなり。

我が清水組は此の大戦の渦の中にも誕生し所謂耐震耐火の近代建築に於て先驅者の榮譽を以て断然壓倒的の聲望を博する本邦建築界の重鎮にして西の大木と共に本邦建築界の双璧と謳はるゝ偉大なる存在と稱すべきなり。今や當社は近代産業資本の體系を整へてオール日本を縦断すると共に、新興滿洲國に於て目覚しき飛躍を見せ、また技術の巧緻と獨創の才華を驅つて文明先進國に肉迫し、國際請負の新記録を傳へる等、眞に驚嘆すべき業績を有するものなり。抑も同社は文化元年の創立にかゝる初代清水喜助氏より、連綿四代を累ねて當代清水釘吉氏に及んで絢爛の多彩を加へるに至りしもの。三代までは個人經營として特異の業勢を伸展し、よく今日あるの基礎を固めたり。然して歐洲大戦勃發の直後な

る大正四年十月、清水釘吉、清水一雄、清水揚之助、清水康雄、佐野利器の五氏を出資者として、資本金三百萬圓の合資會社を組織し釘吉氏推されて代表社員となり、財界の至寶商工の神と謳はれし故薩澤榮一翁を最大のバックとして、益々驥足を伸べ、逐年内外の面目を革めて有機的堅實なる經營に任じ、舊に倍する大活躍をなし、躍進に次ぐ躍進を以て遂に萬代不易の基礎を築き、斯界の覇者として、世界的の聲名を轟はるゝに至りしが、更に昭和十二年十一月、愈々積極的世界制覇の大理想の下に之を一躍資本一千三百萬圓の株式組織となし、清水康雄氏を會長に、清水釘吉氏社長に就任、副社長に清水一雄、清水揚之助、常務副社長に清水一雄、清水揚之助、取締役高遠夫、同海野浩太郎、同八木憲一、同富永長治、常任監査清水俊雄、同清水正雄、監査役森田正太郎以上諸豪の一大豪華陣容を擁したる世界に燦たる建築事業の慧星の一大豪華版を現出するに至りたり。其の得意先は陸軍省、海軍省、鐵道省、逓信省、文部省、東京府市其の他各官廳、民間有力會社、銀行、商店等全國に跨り、今又夙に同社の副社長にして建築學會會長工學博士佐野利器氏の滿洲國顧問進出を機に、昭和八年より大連に本部を設置し、奉天、新京其の他に支部を設け、大々飛躍を遂げつゝあり。尙當

社は從來より財閥の知遇を得、また陸海軍當局の寵眷厚く、他者の追従を許さぬ多くの潛勢力を扶植しつゝあるは、眞に力強き次第なりと言ふべし。其工事の重なるものは、朝鮮兵器製造所、陸軍航空學校及氣球隊本部其他鐵道省赤羽發電所、白木屋、霞ヶ浦飛行機及航空船格納庫、芝浦製作所、東京電氣局假廳舎、富士瓦斯紡績川崎、保土ヶ谷兩工場、東京中央電話局分室、帝大工學部等々にして最近に於ける日比谷の第一生命ビルの如き、其の耐震耐火設備は凡ゆる新學術の粹を集め堂々東京第一を誇るものとして、内外の注目を一身に集中しつゝあり。又々新興北支に進出を企圖したる當社は副社長清水揚之助氏自ら現地の視察を行ひ、愈々進出の實現を見るに至りたり。而して當社の年請負額は實に三億五千萬圓を突破し京都、大阪、名古屋、福岡、朝鮮、大連に支店を置き、更に出張所十數ヶ所を有し、新たに北滿、北支を加へて益々一段の飛躍を敢行しつゝあり。

社長 清水釘吉 氏は舊丹後宮津藩士小野高永翁の二男にして、慶應三年十一月を以て産れ、明治二十四年、先代清水揚之助氏の養嗣となり、分家して一家を爲せり。長じて帝國大學に學び工學の蘊奥を究め、同二十四年卒業、一年志願兵として現役を了へ、日

清戦役に陸軍歩兵少尉に任ぜられ小隊長として出征遼東の野に戦ひ、功を樹て中尉に昇進同三十七、八年日露戦役に北韓地に戦ひ殊勳を以て、大尉に進み勳五等に叙せらる。在學時代に第一銀行の工事監督を務め、老巧先輩を抜く業績を挙げ、同三十四年海外を具さに視察し、斯界の見聞新機運を究めて歸朝し、歐米近代建築を我が國に擴め、先驅者の名を得、後ち資業を合資會社清水組に改組して其の代表社員に就任し、更に昭和十二年十一月之を千三百萬圓の株式會社に革め社長となり今日に至る。曩に沖電氣其他數社の會社重役に推戴さる。我が建築界の巨豪なり。

副社長 清水揚之助 氏は千葉縣菊池兵三郎氏の長男にして、明治二十年十月に生れ、後清水家に入り大正二年分家す。明治四十五年慶應義塾理財科を卒業し昭和三年斯業視察の爲渡歐す。現時當社副社長の傍ら、日本耐火スレート、權太養蠟、都市土木、三生製藥各社長、那須ゴルフ、アカシヤ木工、南方産業各取締役たり。交詢社、日本工業、程ヶ谷カンツリー、東京ゴルフ、武蔵野カンツリー各俱樂部及清交社會員たり、人格識見共に高邁にして俊才の聞へ高く、趣味は撞球、ゴルフ等にして何れも練達堪能にして深造あり。(所在地 東京市京橋區寶町二ノ一)

料理専門 大 市



由緒深き大市の女

數ある上方料理の中に於て無双の佳味として、夙に世に喧傳せらるゝところの「大市」のスツポン料理は京都名物の班に加ふるを妨げざるものにして、苟くも食通を以て自ら任ずるほどの者にして、其味を知らざるは無き有様にて、經營者堀井定次郎氏が日本一を以て自負するも亦決して單なる浮誇の言に非ざるなり。此料理の本舖「大市」は開創以來三百年の古き歴史を有する老舗にして、元祿年間に近江屋と稱し、現在の箇處に於て開業せるを其起源とし、代々其業を繼ぎ來りて明治初年より「大市」と改稱を改め當主定次郎氏は實に九代目に當る。店頭より臺所及座敷の一部は尙創業當時の構造のままに遺存して雅致を呈せり。由來當店の特色として持味さる

ところは代々料理人を使用せずして主人みづから包厨の事に當るに在り。是れ即ち同家獨特の家風にして、當主亦これに従ひて且夕厨房に盤旋す。蓋し、調理上他の窺知を許さざる秘法あるを以てなり。而して其秘法中の秘法とも謂ふべきはスツポンの鑑別にして、之を能くするには多年の經驗を必要とし、果世相傳へて最も重んずるところなり。同店の繁榮は主として先代堀井三郎氏の努力に由る。氏は専門のスツポン料理は勿論、諸多の調理に亘り、非凡の技倆を有したりし人にして、明治初年以來如上の秘法に加ふるに時代必遇の新工風を以てしたれば、大に世評を高め精神賞顯の鶴を狂ぐるもの尠からず。久邇宮家を首め各宮家より屢々御用命を賜り知名の人にして特に此を賞味したるものに西園寺公あり、近衛公あり、松方公あり、後藤新平伯あり、加藤定吉大將あり。床次竹二郎氏の如きは入洛の度毎に當店を訪るゝを例とせりといふ。當主定次郎氏は亡主の長男にして青年時代より病弱の父を扶けて、家業に精勵し、父亡き後は令弟善之助氏と俱に經營に當り、由緒を尙び家風を重んじ、調理接客法に一層の工風を重ね、新機軸を出して家運の發展に努めたる結果、世人をして「スツポン料理」と云へば大市、大市と云へばスツポン料理」と、聯想せしむる程風評を高むるに至り

京都全市近畿地方は云ふも更なり、遠く東京方面よりも、續々注文を受くるの盛況を見るに至り。

(所在地 京都市小野六番町)

事業家 末永保藏

宮城縣鹽釜町に於て鑄造製造を以て名だる鈴木謙助所代表社員として、活躍せる末永保藏氏は餘僅かに三十歳の白面の一青年事業家にして、その卓効の才腕は宮城縣事業界の畏怖して止まざる所たり。明治四十二年に風々の聲を揚げ、昭和六年東京水産講習所を卒業し、直ちに歩兵第四聯隊一年志願兵として入營、陸軍歩兵少尉に任ぜらる。除隊後鹽釜町中ノ島埋立地の現在の地に宏大なる工場を設立す。氏頭腦明晰、時流を洞察するに敏なり。事業中最大の難事とせられる鑄造事業に手を染め、創業日ならずして早くも成功したるを見るも、若冠の氏既に常備員介ならざるを知るべし。氏の叔父或は義兄に聞えたる資産家あるにも拘らず、決して支授を仰ぐこととなく、獨力を以て經營に邁進す。創業當初五ヶ年計畫を樹立し、功を一気に急ぐことなく、慎重に着實に計畫を實施せり。且つ又氏は専門知識の探求と實際業務の研究に寧日な

く、事業の發展に奮勵す。斯くして事業は躍進し、最近米國向け鮎の油漬五千餘ケース、内地向け鮎の味付一千餘ケース、内地向けサバポイルド五千ケース、肥料鮎の絞糟四百石に及べり。就中、サバポイルドは風味佳良にして多大の歡迎を受く。當社製品の八割は海外輸出にして、我國際貨物の改善に資する所大なり。現在従業員百餘名に上り、本店を仙臺市に分工場を青森市に置く。氏の前途こそ實に洋々たるものあり。

(住所 宮城縣鹽釜町)

日本畫家 川村曼舟

近年畫壇の巨匠大家相亞いで世を去り、人材寥々の感あるとき、三木翠山氏と相並んで所謂京都派の双璧と稱せられ、喬嶽の巍然として群峰の間に屹立するの觀あるものを川村曼舟氏となす。その畫風の雄渾華麗にして、無限の風趣に富めるは世既に定評あり。近來心身影響ともに健にして筆致愈々精妙の域に達し、一如の光彩を放つに至れるは、斯界のために大に意を強うするに足る。氏は明治十三年七月京都市の吳服商川村巳之助氏の六男として山紫水明の境に呱呱の聲を擧げたるが其天賦の畫才は翠嵐紫烟に蘊蓄され、山嵐詩



川村曼舟畫像

卓越せるのみならず、心性潔白にして器宇寛調なるを以て、師の信認厚く、其推戴によりて檣頭の機運に恵まれ、明治三十五年廿三歳の弱齡を以て、美術工藝學校教授に任ぜられ大正八年帝展第一回の審査員に擧げらる。爾來學望益々高く、大正十一年繪畫美術專門學校教授に任ぜられ、次いで帝國美術院會員となり、十餘年の久しきに亘りて、後進の指導に盡瘁し、美術界の進運に貢献するところ尠からず。昭和十一年後進のために道を聞くべ

く、一旦同校教授の職を辭したるも、同年六月菊池契月氏の後を承けて再び前職に復し、精勵今日に至る。氏が臨池上の特長は所謂五日に一石を畫き、十日に一水を畫く底の古人の習辭と、其選を異にし、神來の興の湧生し來るところ快腕一揮、直ちに雲烟龍蛇を走らしむる的天才的技能在り。山水は其最も得意とするところにして、從來の作品中不朽の名作逸品として喧傳されたるもの枚擧に遑あらず。その絶妙の大作に至つては眞に神韻飄渺として、殆ど古代名匠の壘を塵すの概ありと稱せらる。氏の特徴は管に此に止まらずして花鳥、人物、飛禽走獸、之として可ならざるなく、宛ら水の物に隨つて形を成すが如き縱横無礙の趣あるところ、眞に得易からざる近世の達人と評するも、敢て溢美に非ざるべし。

(住所 京都市右京區嵯峨天龍寺芒馬場)

法人 東京銀行集會所

明治九年國立銀行條例の改正後、國立銀行の設立漸く増加し、翌十年には全國を通じて其數二十に上り、東京に於ては國立及び私立銀行の本支店十一を數ふ、茲に於て第一國立銀行頭取藤澤榮一氏は、銀行業者會合の必要

を主唱し、東京府下同業者多數の同意を得て同年七月二日、東京海運橋際第一國立銀行に會合を開き「操善會」を組織す。蓋し善き者を選びて之に従ふの意。是れ實に我が東京銀行集會所の嚆矢にして、亦我國銀行家會合の嚆矢たり。加入銀行は本支店を通じて、十一行、第一國立銀行、第十五國立銀行及び三井銀行推されて幹事となる。會務は第一國立銀行に於て處理し毎月一回會合を開く、爾來國立銀行の増設に伴ひ、本會に加入する銀行も亦増加し、其數遂に三十に達せり。隨て明治十三年八月三日、操善會の會合に於て、同月二十二日限り同會を解散、之に代ふべき會の組織を決議し、創立委員として、第三、第六、第二十、第三十二、第百の五國立銀行を擧ぐ同年九月一日其創立成り東京銀行集會所と稱す。事務所を東京市日本橋區萬町一番地第百國立銀行内に措き事務員を採用庶務を取扱はしむ。同十五年十一月事務所を日本橋區兜町四番地に移す。翌十六年一月集會所新築を決議し、同區坂本町四十番地の官有地を拂下げ第三國立銀行取締役松下一郎右衛門、第二十國立銀行支配人佐々木愼思郎、第二十七國立銀行取締役兼支配人安藤利助の三氏を擧げて新築委員とし、同十八年六月新築の工を竣り事務所を同所に移せり。同年十二月に迫んで全國の銀行業者互に聲息を通じて營業の便益

を圖り、併て自他の得失に鑑み營業上の知識を開發するの機關として毎月一回銀行通信録を發行して現在に至る。先是操善會幹事の發行あり、明治十一年五月理財新報と改稱して毎月發行せしも、同十二年一月、第九號を以て廢刊以來雜誌發行の中絶久しきに及びたるも、茲に再び刊行を見るに至れり。而して當集會所同盟銀行中、有志の發起に依り、明治二十年十二月一日手形交換所を創立し、同二十四年三月一日其組織を改正す。當時の組合銀行は第一、第十五、第二十、第二十七、第百十九の各國立銀行、第十三、第三十二各國立銀行支店及び三井、安田の十行にして、以上を發起銀行とし、日本銀行を客員とし、委員は藤澤榮一、佐々木愼思郎、山中麟之助の三氏、委員長に藤澤榮一氏當選、監事には集會所書記長山中謙三氏當選、事後手形交換事務所は當所に於て取扱ひたるも、明治三十三年八月分離獨立す。即ち現今の東京手形交換所是れなり。次で明治二十九年二月九日に至りて、當集會所同盟銀行中有志の發起に依り東京興信所を創立、同年三月十四日發起人會を開き規約を定め、評議員を選擧す。評議員には第一銀行藤澤榮一、三菱銀行部豊川良平、三井銀行波多野永五郎、第百銀行池田謙三、横濱正金銀行山川勇木の五氏當選、評議員會

長には澁澤榮一氏當選 所長には森下岩楠氏
就任す。明治二十九年十月十五日の定式集會
に於て豊川良平、池田謙三氏建議の當集會所
内に經濟文庫設置の件を決議し同年十二月十
五日の定式集會に於て翌三十年一月廿日より
開館のことに決定、内外金融經濟に關する圖
書を收藏し銀行員並に篤志家の閱覽に供す。
現在和洋圖書二萬冊、内外雜誌五千冊を所藏
す。明治三十二年七月二十五日銀行俱樂部設
置委員會を開き、其組織方法を協議し、同年
九月七日の第二回委員會に於て、會員は當集
會所組合銀行員に限る旨決定、之を同月十五
日の定式集會に於て議決し、豫て構内に増築
中の新築家屋に於て、同年十一月一日より開
館すること、定め、豫定の如く同日集會所新
館に於て開館式を舉行す。同年十二月五日第
二回會員總會に於て、委員二十名を選挙、委
員長に岡田孝吉氏、常務委員に池田謙三、波
多野承五郎兩氏當選就任せり。明治四十三年
八月二十七日組合銀行臨時總會に於て、當集
會所を社團法人とすることに決し、定款を作
成當時の組合銀行五十六行を設立者として、
調印を了し、同年十一月二十五日附を以て、
東京府を經由、大藏大臣へ社團法人許可申請
書を提出、同年十二月十六日附を以て命令書
と共に許可狀を交付せられ、翌十七日之を受
領す。是に於て從來支店名義を以て加入せし

地方銀行は本店名義を以て加入すること、な
り、東京銀行集會所の法律上に於ける地位初
めて確立す。而て理事は三名とし従來の澁澤
會長、豊川、岡田兩副會長を理事に選舉す。
越て大正五年十二月定款を改正して理事七名
監事三名を置くことに決し、以て現今に及べ
り。大正三年一月十九日の通常總會に於て、
新に集會所建築の議を決し、建築委員十二名
(後に二十二名に増員)を挙げ、其中より三井
銀行早川千吉郎、十五銀行成瀬正恭、村井銀
行村井貞之助の三氏を建築常務委員に推し、
三菱合資會社所有の麹町區水樂町二丁目五、
六番地(現在の丸の内一丁目八番地)の地所
を借入れ、同年五月新築工事に着手し、大正
五年九月竣工す。
會長子爵澁澤榮一氏は大正五年七月第一銀
行頭取辭任と共に當集會所會長をも辭任せら
れたる爲、同會長の功勞を記念する肖像を新
館二階ホールに建設し、建物と共に竣工を告
げたを以て、同月二十五日除幕式を行ひ、
且つ同年十二月十五日同子爵の爲新築集會所
に銀行團體主催の慰勞晚餐會を開催す。
而して現在社員數は本店十七行、支店二十
六行、合計四十三行にして、銀行通信録は號
を重ぬる事六百數十號、銀行叢書は三十數編
に及び、尙内外各般の金融經濟狀勢を調査發
表すると共に世界の名著をも翻譯出版し居れ

り。因に銀行俱樂部の會員數は名譽會員、客
員を合して五百數十名に達す。因に現機構は
會長加藤武雄 副會長明石照男 副會長關
根善作 理事方代昭四郎 同森廣藏 同田島
道治 同野原大輔 監事伊庭謙治 同關孝次
同野田哲造 書記長中村忠彰
書記長 中村忠彰 資性謹直にして、博
學多識を誦はるゝこと多年。當集會所書記長
として適材たり。明治二十二年九月、千葉縣
人長次郎氏の長子として誕生す。大正二年、
東京高商を優秀の成績を以て卒業し、同年高
文に見事合格、同四年同校專攻部銀行科を修
了後、臺灣銀行東京支店に入り、日大講師を
兼ね、後爲督課長を経て倫敦支店長に榮進、
同十二年歸朝、東京本店支店課長、東京頭取
席調査課長、貯蓄銀行協會書記長等に歴職し
昭和九年、東京銀行集會所書記長、東京手形
交換所主事に就任以て今日に至る。
(所在地 東京市麹町區丸の内一ノ八)

株式會社 久保田鐵工所

各種鑄物類、各種發動機、衝器、自動給炭
機を始め幾多の製品を製作し、優秀なる技術
と卓越せる品質を以て新界に君臨し、今や海

外にまでその名聲の轟けるを久保田鐵工所と
す。當社は明治二十二年二月久保田權四郎氏
に依りて創設せられしものにして、當時我國
の水道及び瓦斯用鑄鐵管は悉く輸入品に俟つ
の外なきを慨し、氏は敢然としてこれが製作
に志せり。千辛萬苦の幾多の辛苦を嘗めて遂
に鐵管鑄造法を完成し、品質價格共に外國品
を遙かに凌駕するの優秀品の製造に成功し、
完全に輸入品を防遏するに至れり。引續き附
屬品の制水弁、消火栓その他の介類に對して
も卓絶せる材質に獨特の工作を加へ、精巧な
る構造を有せる製品を製作して、新界に絶讚
を博せり。創業以來年を逐ひて發展をなし、
多年の經驗に依る秀抜なる技術と、完備せる
諸設備を有し、業界に牢固たる地盤を占むる
に至れり。當社は諸機械製作材たる各種鑄物
の製作加工に多大の研鑽を積めるを以て、後
各種機械の製作をなすこととなり、これ又至
大の好評を受く。當所の製品は水道瓦斯用高
級鑄鐵管、特殊耐熱、耐酸、耐アルカリ鑄物
及び一般鑄物類、クボタデール機關、陸船
用各種發動機、衝器殊に特殊大型計重機並び
に衝器材料、自動給炭機、節炭機、水道瓦斯
用弁類、消火栓等の各種に及びり。當社の製
品は國內に歡迎を受くるに止まらず。更に東
洋市場を征服し、進んで廣く海外市場に躍進
して久保田鐵工所の名は世界的に喧傳せられ

ること、なれり。當社の本社は鐵工所と機械
部の二部門に分れ、船出町の外恵加島町、市
岡、尼崎、堺の各地の外裝に鑄鋼工場を新設
し、尙ほ東京丸ビル、小倉市紺屋町に出張所
を設く。現に資本金一千萬圓(内拂込八百五
十萬圓)を擁し、十二年下期は前期より更に
増益し、純益金六十九萬七千圓、之に前期繰
越金五萬六千圓を合し七十五萬四千圓を挙げ
恒例一割配當を餘裕裡に行へり。
社長 久保田權四郎 明治三年十月廣島
縣に生れ、同三十年久保田藤四郎氏の養子に
迎へらる。資性卓犖豪放にして、剛毅果斷、
はなはだ卓抜なる手腕の持主たり。不撓不屈
の如き堅志を以つて業界に活躍し、新界の
發展に貢献せる所多大なり。人格廉直にして
眞摯誠實、大阪財界に非常なる聲望あり。從
業員の爲めに福利施設を設け、困窮せるもの
には惜しまず私財を投じ、慈父の如くに仰が
る。昭和六年十月、紺綬褒章飾版を下賜せら
る。(所在地 大阪市浪速區船出町)

埼玉浦和中學校

縣下中學校中屈指の優秀中學校として非常

なる信用を博し、職員に優秀の人材集り、設
備又頗る完備せるを以つて知らるゝが、浦和
中學校とす。その沿革を見るに明治二十八年
六月浦和町に設立せられ、埼玉縣第一尋常中
學校と稱す。續いて明治三十二年四月埼玉縣
第一中學校と改め、更に三十四年八月埼玉縣
立浦和中學校と改稱せり。創立以來年々とも
に發展をなし、創立當初生徒の定員二百五十
名なりしが、明治三十五年には五百名に増加
せられ、大正十年七百名、昭和三年九百五十
名、更に同六年に至りて一千名に増加せられ
て今日に至れり。卒業總數は昭和十一年三月
末現在に於て二千九百二十七名に達し、現在
にては三千名を突破す。卒業生或は在學生に
して上級學校に學ぶ者多數に及び昭和十一年
三月に於て官公立各種學校に入學せる者六十
四名、私立大學專門學校に入學せる者百十三
名の多數を數ふ。當校卒業生にして社會各方
面に於て活躍し、樞要の社會的地位を占むる
人僅少なからず。當校の教育方針は教育勸語其
他の聖訓を本體服膺せしめ、常操中正の教育
を施すにあり。至誠一貫を以て信條となし、
「忠以行己」 信以接人 敬以當事」を校訓と
す。職員は何れも優秀なる人材を備めて生徒
の指導訓育に當らしむると共に、又職員の間
に教授法研究会、各科研究会、知識交換會、
講演會等組織せられ、又體力増進の爲めにテ

＝ス・野球・登山・武道等の備あり。學科教授に就いて不遜に研究をなし、生徒の學識の向上に力を盡くしつつあるが、當校は教授の根本方針を高邁周旋なる識見の養成と全人的訓練を施すを主眼とせるを以て、德育、體育にも又大いに傾倒せり。先づ校旗を當校設立の根本精神の象徴として生徒をして、嚴かにこれを尊重することを教ふ。生徒の服装並に教具の検査を勵行して規律を正しく校内の清掃美化に努めしむると共に、校舍校具樹木養護の觀念の涵養を圖る。更に學校をして家庭的和氣あらしめ、生徒の黨團を全からしめんとして、職員生徒相互間の懇話、學校長と生徒との懇談、校友追悼祭等種々の會を開く。體育としては各種の運動競技をなさしめて生徒の體力を練磨すると共に、健康診断或は衛生に關する各種の備をなす等、細心の注意を拂へり。以上の如く當校はその施設周到を極め、その設備に内容に甚だ充實をなせり。生徒の學識亦頗る優秀にして逐年入學試験は激甚を極め、秀才は相争つて集る。今後大いに人材を輩出するに至るべし。

校長今井精一 氏は昭和二年九月當校に校長として赴任す。夙に東京帝國大學を卒業し、頭腦明哲にして學殖該博たり。經驗蘊蓄共に豊富にして埼玉縣下教育界屈指の練達堪能の士なり。人格高く修養を積み、その徳望頗る高し。氏の熱心なる努力により、浦和中學校は今後更に校運一段と勃興を見るに至るや必せり。

(所在地) 埼玉縣浦和市

會社 川副商會

日支事變の異狀なる進展に伴ひ、今や我が國は長期戰克服の戦時々代を現出せしが、我が海の南方作戦根據地軍港佐世保は正に白熱的非常時に直面したり。我が合資會社川副商會は軍港佐世保屈指の事業會社にして、海軍省御用連業代理、石炭運搬業、機械商の營業主目の示す如く、今次時局反映に重大なる使命を課せられたるは論を俟たず。その永年の業績の隆盛たると共に、近年の飛躍的活動は實に目醒しきものあり。邦家の爲眞に意義深きものと云ふべきたり。

經營者 川副綱隆 明治初年一漁村たりし佐世保村をして堂々世界屈指の軍港佐世保たらしめたる裏面に、氏の繁榮に盡したる功績は實に偉大と云ふべく、その足跡は市發展の礎石として大佐世保市の伸長を背負ひて立ちし偉勳者たるは、同市開發史の示すところ



川副綱隆氏

界の重鎮として一世を風靡せるが不幸病を得て引退せしは同市の爲痛惜に耐えず。而して當商會の取引先は川西倉庫、戸上電氣製作所其他重要工業會社にして現在二男正巳氏萬事を主宰し、益々業務を擴張しつつあり。夙に早稻田大學出身の秀才にして資性剛毅調達、殊に柔道の達人にして武道練磨の堂々たる體軀は正に大實業家たるの貫祿躍如たり。又現に代表社員たる長男隆氏は昭和十二年の總選舉に馬を中原に進め、見事當選の榮譽を獲得

民政黨所屬の政治、財政の中堅政治家としてその前途洋々たるものあり。氏は大正四年帝大法科卒業後直ちに三菱に入り、果進して船舶部長代理となり、才智手腕を顯はれたりしが、昭和六年同社を退き、實業界に入る、川副商會代表社員たる外、佐世保商業銀行取締役、佐世保魚市場取締役、共榮土地取締役、丸三肥料取締役、九北運輸合資會社代表社員、會陽汽船取締役等に推れて活躍し、今やその一舉一投は微妙なる波動となりて財界の運用伸縮に關與しつつあり、斯くて躍進川副商會一家の前途は益々輝かしき前途を嚆望され父君綱隆老は令孫を相手に閑雲野鶴の生活を爲し療養に専心しつつあり、夫人せい子自刀は賢夫人の譽れ高く幾多社會事業に盡瘁されしことは夙に洽聞せり。

(所在地) 佐世保市松浦町

名 家 川名博夫

千葉醫界の重鎮にして、學識人格兼備はり、縣下にその聲望並びなきを川名博夫氏その人となす。氏は川名近太郎翁の二男にして千葉縣安房郡富浦に、元治元年六月を以て生れ後分家して一家を創立す。夙に東京帝國大學醫科に學び明治二十二年之を卒業し、明治

二十四年に至り獨立開業を決意して館山病院を開設せり。その業に携るの餘暇學理の攻究に没頭し、寢食を忘れて研究に精勵す。一面患者に對しては懇切なる態度を以て診察に當りその藥効著しく本復迅速なるを以て忽ちにして名聲高まり、斯くしてその名洽聞すると共に患者は日と共に増加し、門前識るが如くに難關を呈せり。その規模年々擴張せられて俊秀の醫員は集められ、諸設備は充實せられて今や縣下屈指の大病院となり、その信用は顯著に高まるに至れり。大正十二年の大震災に遭遇し、當病院も家屋倒潰し、その他の被害を蒙りたるにも拘らず、直ちに復興して舊に倍する迄に大を成せり。氏學殖該博經驗豊富を以て、縣下刀圭界の大長老として、崇敬せらる。現在館山病院顧問として第一線を退き、千葉縣醫師會長、郡醫師會長の要職に就きて、醫界の爲めに奔走す。尙ほ縣社會事業協會及縣衛生協會の評議員に推され、公共事業に貢献せる所夥しとせず。氏資質卓犖豪放、識見高邁にして視野廣し。田中内閣時代政友同志會を組織して、その會長となり現在に及べり。町會議員として自治に盡瘁す。高風深く敬仰せられ館山北條町の九鼎大呂の偉傑たり。尙ほ亡兄正吉氏は縣會議員として縣政に盡し富浦町長を三期勤続して名望あり。とり子夫人は、保險界の巨擘故福原有信翁の

長女にして、長男秀夫氏は慶應義塾大學を出で現に三井生命に勤む。二女露子氏は東京女學館を卒業し、現館山病院院長榎坂與博博士に嫁せり。

(住所) 千葉縣安房郡富浦山北條町眞倉

高速機關工業株式會社

高速機關工業株式會社は、昭和十年四月、三井物産株式會社取締役たる住井辰男氏を始め、同社技術部門の諸々たる齋藤實理氏等發起の下に資本金一百萬圓、内拂込額二十五萬圓を以て、内燃機關、運輸機具製作販賣、修理加工並に部分品製作販賣を目的として設立せられたる新業界の新星鋭矢たり。

而して當社は創業以來未だ日尙ほ淺きも既に品川工場を東京市品川區東品川五丁目五十番地に、神田工場を同市神田區岩本町九番地に設置し、着々業績を挙げ來れるが、殊に役員諸氏は何れも斯界に造詣深く、優秀なる技術手腕を顯はるゝ逸材を網羅せる爲、諸製作品の優秀なるを讃嘆され、從て當社將來の動向は一般より重視せられつつあり。

昭和十二年三月末決算(第四期)の現況を觀るに總資産二百三十六萬九千餘圓を算し、内主なるものを摘記せば、土地建物機械備品

八十四萬七千餘圓、諸權利十三萬圓、貯蔵品
製品並部分品十四萬九千餘圓、半製品十五萬
一千餘圓、銀行預金現金九萬餘圓を經し居れ
り。斯業界は時局以來活況を呈し、殊に支那
事變勃發以來益々濃化し來れるに伴ひ、當
社も亦この時運に乗じ、好調に次々に好調を
以てし、現に受註殺到して之に應じ切れざる
状態に在り、舉社一致眞摯この衝に當りつゝ
あり。之れを要するに當社の前途は汪洋とし
て正に春海を臨む概ありと言ふべし。
鞏固を誇る陣容 専務取締役齋藤實理 同
福井孝一 取締役藤野至人 同兼工務部長野
口豊 同住井辰男 同兼技術部長太田祐雄
監査役尾崎獎 同坂田實徳。

軍務取締役 齋藤 實理 我國造船技術界
の俊敏にして現に三井物産株式會社造船部副
部長、玉造船所取締役の要職に在り。

明治十六年八月、兵庫縣土旅齋藤實文翁の
長子として生誕す。資性頭腦明晰にして温健
同四十二年東京帝大工科造船科を優等の成績
を以て卒業し、直ちに三井物産造船部に入社
し、天與の超凡なる手腕力量を驅使し、造船
工作課長、造船部長代理と榮進し、昭和十年
造船部副部長に起用されて今日に迫る。傍ら
東洋豆相製造取締役を兼ね。

(所在地 東京市品川區東品川五ノ五)

事業家 柴田 鐵吉



氏 吉 鐵 田 柴

名古屋市鐵工業界屈指の名望家にして、近
時その事業一段と盛況を呈し、操業繁忙業績
好調を以て衆目を集むるが柴田鐵吉氏その人
とす。嚴君柴田太郎氏は剛毅卓犖志氣堅剛
の士にして、尾張の一寒村より徒手空拳名古
屋に出で、鐵工業を創始す。尙少の資本を以
て事業を開始し、幾多の困難、障碍をも意と
することなく奮闘し、剋勉精勵全力を擧げて
精進す。氏機略縱橫、勇斷敢爲、積極の一途
を以てその業に携り、神壽鬼策の才院は逐
年躍進して業界に多大に頭角を現はし、規模
を擴張し、技術を練磨してその向上發展の爲
めにあらゆる工作をなせり。斯くしてその聲
望と信用大いに昂まりて、注文益々激増して
躍進に次ぐ躍進を以てす。明治四十三年組織

を變更して合名會社柴田鐵工場となし、氏代
表社員に就任せり。如斯氏は襟一貫を以て事
業を起し數十萬の資産を蓄積せる立志傳中の
人物として敬仰を受けたるが、昭和十年長逝
せらる。當主柴田鐵吉氏は明治二十三年一月
を以て呱呱の聲を揚げ、夙に名古屋市第一商
業學校に學び、卒業と共に家業に従事す。資
質濃厚諸格熟心に家業に従ふ。頭腦敏密にし
て思慮慎重、充分に熟慮をめぐらしたる後に
始めて斷行し、事を爲すに際して研鑽を加へ
て、確信成りて始めて行動に移すを例とす。
謙虛にして宏量、よく人の言を容れてこれを
實行し、衆智を集めて事業の成功を期せり。
時局景氣の勃興以來事業界中これが恩恵を受
くるもの多々あるが、當工場はその技術の優
秀なるを一般に知悉せられたるが故に、近時
注文殺到して操業多忙を極め、晝夜兼行して
事業に當れり。斯くして事業は大いに繁榮に
赴き、設備は擴張せられ、業礎鞏固となり、
柴田鐵工場は業界の矚目する所たり。現在從
業員は二百餘名に上り、一年の生産高は六十
餘萬圓に達して頗る活況を呈せり。現時名古
屋熱田新尾頭町に工場を設け、更に同市同區
二野に二野工場あり。中京財界に於ける柴田
氏の熱望愈々高まり、その將來著大の躍進を
なさん。家庭には母堂カマ刀自老來益々鑿鑿
たり。定子夫人は名古屋市神戶幸太郎氏の長

女にして内助の功あり。長男仲治君、長女維
子嬢ありて和氣瀟々家堂に春風漂へり。
(住所 名古屋市熱田區尾頭町六)

京都 腦 病 院

時代の混迷と世相の複雑に伴ひ、精神病
者激増の傾向にあるはまことに苦心に堪へざ
る所にして、悲惨なる時代の犠牲者に對して
心身の恢復の爲めに努力精進せる京都腦病院
の如き、まことに崇高なる社會事業の尤なる
ものと云ふべきなり。當病院は昭和二年一月
樋口、寺島兩博士の發起に對し、今熊野の名
門岩坪熊次郎氏の義侠的出資によりて創立せ
らる。兩博士相次いで病歿せられるに及び、
岩坪氏院主として經營の衝に當り、新に斯界
の權威岡田強博士を招聘して、院長となし、
相次いで擴張工事を行ひて、今日觀るが如き
外觀に内部の諸施設に全國屈指の模範腦病院
となるに至れり。當病院は京阪電車六地藏驛
に近く、四邊閑靜にして空氣清澄たり。内務
省衛生局の發表に依れば「建物坪數に對し運
動場その他の空地廣く設備萬端完備せる點」
大阪府立中宮病院、神奈川縣立芹香病院と相
並びて本邦三大腦病院の一に數へられ、私立
病院としては全國第一位たり。即ち、敷地總

坪數一萬二千坪に達す。普通病室と監置病室
を合して數多の病室を有せるほかに、炊事場
事務室、談話室、靜養室、醫務室、診察室、
藥劑室等ありて、何れも通風採光の設備完備
し、まことに理想的腦病院の好評を博せり。
尙ほ最近新築を見たる保養室は患者を家族と
同居せしめて家庭に於けるが如き安息を與へ
て治療の目的を達せんとする新施設にして、
斯る當院の着想には學界の注目する所となれ
り。又賄部に於ては患者に供する食事に就い
て美味にして營養に富むものを吟味精選し、
患者並家族より多大の感謝を受けつゝあり。
當病院は精神病患者の施療に就いては、非營
利的主旨の下に創立せられたるものにして、
昭和三年には京都府代用病院となり、入院料
の如きも他に比して頗る低廉なるを以て入院
患者續々殺到して跡を絶たず。現在收容患者
三百餘名に上れり。院長醫學博士岡田強氏は
精神病學界最高權威として名聲高く、醫員に
は造詣深き人材を集め、經營の衝に當れる三
浦事務長は生涯を精神病者の救済に盡すべく
獻身的に活動し、看護長岡田正藏氏と共に多
數の患者より慈父の如くに敬慕せらる。幽遠
閑寂なる自然の良き環境の中に、完備せる施
設に優秀なる園手揃ひ、而もその費用の低廉
なるを以て、當病院こそまさに我國腦病院中
隨一のものとして推奨するに足る。

院長 岡田 強 我國精神病學界の最
高權威として重きをなせる岡田氏は、夙に九
州帝大醫學部を首席を以て卒業し、後京都帝
大醫學部精神病科講師に推され、次いで當病
院長の樞軸に就けり。患者の治療に當る傍ら
京大醫學部に出講して後身の指導に任す。資
性濃厚謹嚴患者に對しては懇切を極め、微細
なる點にまで注意を拂ひ、その獻身的施療に
は絶大なる感謝を拂はれつゝあり。周匝緻密
眞摯熱誠研鑽に従ひ、關西醫界にその名望甚
だ高し。當代稀に見る學德兼備はる名園手
と云ふべし。
(所在地 京都府宇治郡木幡町)

桐生機械株式會社

機業地としてその名聲全國に冠たる桐生市
に於て織物機械を製作し、その製品優秀にし
て精巧、他社製品に遙かに卓越し、各機業地
の禮讚的となれるが當社とす。明治中葉期
以來我國織物業大いに勃興し、その生産額多
量に上りしが、これが使用機械の大部分は輸
入に仰ふが、而もその價格たるや頗る高價に
して、應用も自然限定せられ、斯業の發展を
阻害すること大なるものありき。特に重要な
織物製造の準備工程の機械の研究甚だ振は

す、當社代表取締役前原準一郎氏等夙にこれを愛へて同志を糾合し、明治三十九年合資會社桐生製作所を設立し、機械製作に進出。當初當地に於て熟練工を得ること困難なるにより熟練を要せざる専門機械を備へて、これが製作に當る等、その經營に幾多の苦心拂はれ、生産方法に新機軸を出して事業界注視の焦點となれり。爾來歷年製品に大改良加へられ、優秀精巧の機械製作に成功して斯界に多大の嘆稱を博せり。當社に依りて低廉にして優秀なる製品供給せられるに至り機業界は競ひてこれを求め、斯くして我國機業界の發展に寄與せる功没すべからざるものあり。當社は時代の進運に蓋み、設備の改良に努めしが産業、國防上高級機械製作施設の急務を要するに思を致して、昭和八年新式機械を購入して設備を一新し、生産力舊に數倍するに至れり。又その設備は飛行機、自動車各種兵器の製作をもなし得る極めて優秀高度の工作設備を備へり。當社製品は各工場、工業學校、試験場等に設置せられ、非常なる好評を受く。尙ほ製品の一部は海外に輸出せられ、その效率の大なることは諸外國に於て驚嘆の的となれり。尙ほ當社は大正六年株式會社に改組せられ、現時資本金六十五萬圓、資産内容甚だ堅實にして、業績又頗る良好なり。従業員三百數十名を數ふ。製品並に施設の優秀を以て

表彰せられたること數回あり。當工場は近隣の農村より工員として傭入れ、農村過剩勞力を吸収して、農家の爲めに寄與せる所亦僅少ならず。當社重役は代表取締役前原準一郎、取締役書上文左衛門、前原悠一郎、木村偉三郎、中里新太郎、藤田徳治、監査役遠坂伊太郎、森口伊太郎の諸氏なり。

代表取締役 前原準一郎 明治十二年五月に生れ、夙に東京高等工業を卒業し、更に同校専攻科に於て機械學を専攻す。東京深川鐵工場、群馬縣立桐生織物學校教諭を経て、明治三十九年桐生製作所を創立せり。拮据奮勉大いに經營に精勵して、當社の發展を達成し業界に轉々たる聲望あり。頭腦緻密にして手腕卓抜、資性濃厚にして人格高邁。熱誠その業に精勵し、地方産業の發展に貢獻せること大なり。群馬財界の第一人者として深く衆庶に畏稱せらる。

名 望 家 野 口 榮 橋

今や非常時局は益々深刻味を深め、凡ゆる革新政策は庶政刷新政綱の具現と共に轉を並べて提出され殊に疲弊農村の更生策の審議こ

そ我が農村生命の死活問題として有馬農相の動きは各方面より重大なる關心を以て目されつゝある折から、茲に荒廢疲弊の一農村の更生に一身を投げ打ち、獻身的努力に依つて教育に産業に明朗なる模範村を建設したる濃厚篤實なる義人野口榮橋村長あるは、その政綱政策を超越したる眞に愛國、愛村の至情に燃ゆる名村長と云ふべく、地方自治行政史上に輝しい功績を飾りたるものにして絶讃に價ひすべき人傑と云ふべきなり。

茲に傳せんとする野口氏は、筑豊人士の美點を多分に具備せる一種の人傑にして、氣骨の稜々たる犠牲的精神の豊贍なる、當代稀れに見る俊異たるは縣下の土の認むる處なり。

氏は明治二十二年四月十六日、福岡縣三潁郡安武村に同村耕地整理の元祖として生前の功績により、在命中記念碑建立の榮譽を膺ふ故野口弘轉翁の長男として生れ、長じて小倉鐵道學校、九州鐵道驛務傳習所を卒へ、鐵道界に入りしが後轉じて福岡酒造組合酒造研究所に學び、醸造學並びに實地體験に依り斯業に一家を爲したるも、氏は夙に愛村の情深く農村疲弊更生に心血を注ぎたるなり、氏は故貴族院議員吉原正隆氏の從弟の間柄にあり、氏と交友するうち吉原氏の熱情的愛國心に共鳴氏と生死を契ひ、一時政界に一大希望を持したるも、吉原氏の早世の爲政界進出を斷念

日本ダイヤル工業株式會社

當社は昭和十年十二月發動機製造、軍用器材、機械器具製造輸出入を目的の下に資本金六百萬圓を以て現社長安達堅造氏等發起に依り創立を見たる新進氣鋭たり。

由來燃料問題が我國策中尤も重要なものとして、朝野の専門家に依りて研究されて數年。茲に當社がダイヤル油を採用する工業會社としての出現は國家經濟上の建前は勿論、國防上、能率増進上尤も慶賀すべきなり。當社現資本金は二千萬圓内拂込額一千萬圓にして、工場を東京の隣郊たる工部川口市に建設し、其敷地二萬一千餘坪に及ぶ廣大なるものなり。

當社現役員は斯界一流人物を網羅せり。即ち社長後備陸軍航空兵中佐安達堅造、副社長清家三郎、常務取締役元高田商會總務理事田口義三郎、取締役兼技師長元三菱航空機株式會社取締役技師長松本辰三郎の諸氏なり。而して本計畫一度發表さるゝや業界各方面より著大なる注目を惹き其業績は時局の波に乗り計畫事業共に順調に運び、昭和十一年十二月年六分の初配當を爲し、同十二年上期之を踏襲して極めて幸先よき成績を擧ぐるに至

れり。其の主要なる營業課目を茲に列擧せば
高速小型ダイヤル發動機、ドイツエツセン
ス市フリードリッヒヒオルツツの特許トルツプ
エンジン對向活塞式二衝程高速小型發動機
及びこれに關聯する車輛、其他この發動機の
用途は頗る廣く大、中型貨物自動車、砲車索
引車、戰車、道路及び農耕用牽引車、バス軌
道車等孰れにも用ひられ、獨逸陸軍に於ても
既に之を制式として軍用に決定、目下大量製
産中なり。而して當社は現在既に之が特許料
の支拂を完了し、將來の製作數に對しては特
許使用料の支拂を要せず、西班牙を除く世界
各國の販賣權を掌握するに至れり。而して本
邦に於ける製作の爲に先に注文せしトルツプ
工場に於けるものと同一の工作機械は既に製
作を完了し、着々到着中にして据付を行はれ
つゝあり。之が製作の爲に當社にては技師二
名、職工一名は、嚮にトルツプ工場に實習せ
しめつゝありしが、目的達成歸社と同時にク
ルツプ工場より既に二名の技師を三ヶ年の契
約の許に派遣し來り、現に當社工場に於て活
動中なり。鑄製品を全然トルツプ製のもの、
(獨逸陸軍規格)と同一ならしむる條件として
有事の際には相互に職員、製品を融通するの
内約に依り近くトルツプ技師長取締役アドケ
ロート氏も渡日の豫定にして、其他高級鑄物
工等も續々増派の豫定と聞く。

爾來地方自治の爲一身を捧げんと決意したるものなり。以來十年一日の如く農村更生に奔命したるものにして、時恰も世界的の不況の跡を受けて同村の疲弊其の極に達し、昭和九年古賀銀行破産の爲村財政は極度に窮迫、爲めに學校は廢墟の如く荒廢し、重大なる兒童教育も停止せるの止むなきに立ち至らんとするに迫り、村長の重責を痛感したる氏は決然立つて學校建築の重大なるを叫びたり。その寢食を忘れたる氏の熱情は篤志家を感じ導き、同十一年三月には五萬餘圓の寄附金を募り三潁郡下に誇る堂々たる大建築を完成せしめたり。其神の如き人格と愛村に溢るゝ眞情的村行政は農村開發に村財政の膨脹に著々成果を收め、又氏の熱情に共鳴感動せざる村民一人たりとはなく現在全國有數の更生模範村たる面目を保持せるは、實にこの野口氏の努力の賜と云ふも過言にあらず。昭和十一年十二月再選せられ村長として村治に専心しつゝある外、同村農會會長として活躍しつゝあり。その清廉潔白の人格は村繁榮の指導者として明則村政の向上を計りたる稀有の名村長と謂ふべきなり。人情に厚く、村民の禍福は常に我が事の如く憂ひ且喜び、村民よりは慈父の如く敬親せらるゝ、内助の功高かりしカツヨ夫人の他界せしは氏の爲め痛惜に耐えず。

(住所 福岡縣三潁郡安武村)

高級小型乗用自動車ディゼル發動機 英國コペンハーゲン市タイベン技師の四衝程装置及び船用ディゼル發動機はブルドワイ、ディゼルとして加奈陀に於て最優秀品として汎く實用せられるが、該品をタイベン技師と當社の合作として之を改造し、現下汎く使用されつゝあるフォード、シボレー、ウヰツク、クライスラー、アウスチン、フキアット、ハドソン、リンカーン等の通俗乗用車及び輕貨物自動車の車臺を其儘利用して、單に發動機の置換へを以て足る程度の強力なるもの、製出を企圖し、三十五馬力級、回轉數四千に及ぶものを目標となせり。

自動變速ギヤ 從來操縱席に槓桿を有する變速裝置は徒に座席を狭むること、突差の間に於て特に惡路上に於ける操作は、頗る不便なりしため、之が改變は斯界の問題にて電氣、壓搾空氣、瓦斯管各種の考案ありしも、何れも取扱ひの不便と脆弱を免れざりしが、過般獨逸クライス技師の發明に依る機械的自動變速ギヤは堅牢にして機能確實なるため、獨逸陸軍當局に於ては、之を制式と決定し、乍ら戰車のギヤボックスで砲車牽引車に及ぼすこととなりしが、當社にては獨逸陸軍が制式に決定前に特許權を獲得せしものにて目下各種地形の實驗中なり。右は在來のギヤボックスの改良に依ることを得る爲に

當社は日本、支那、滿洲に於ける之が特許製造權を有せり。

自動軍用輸送車 現に獨逸陸軍全自動車携帶用として使用せる惡路、砂土、氷雪上滑止車輪用鋼は、其構造極めて簡單にして、攝裝は僅か一分を要するのみにて金貨は尤も優良なるものなり。

尙特筆すべきは彼のニューボー飛行機の創製飛行機前方機銃聯動裝置の創作、飛行機回轉機銃架創作、歐洲大戰に於ける「タウペ」飛行機其他三百餘種の兵器發明を以て、獨逸航空器材史の大半を飾り、ツエツペリン、ユンカース、ドルニエ、ゲルラー、ルンブラー氏等と獨逸發明界六人男と稱せられる獨逸人フランツ・シュナイダー氏が曩に社長安達氏の招聘に依り、永久に日本に在住して我兵器界に貢献せられんとする一事たり。而して安達社長はこの巨匠を一會社に於て所有する事は國家的に見て忍びざるところとし、廣く帝國軍事工業界に同氏の知識を利用して廣く自由にて其才幹を揮はしむることとなれり。要之上述の各種優秀なる特許權讓渡に當りて安達社長に對するクルツツ會社の信頼は絶大なるものあり。斯の如く國防上重要な特許權の易々と我國に讓渡せられしも全く當社長の人格識見の賜物といふべきなり。

社長 安達 堅造 氏は永らく軍籍に在りて、只管航空機の發達助成に力を注ぎ、航空機研究の爲歐米に遊ぶ事屢次。野に下つてよりも報知新聞社顧問、逓信省囑記、帝國飛行協會の有力なるメンバーとして、航空界發展に貢献を爲せり。偶々氏が獨逸に渡航せし際故ユンケル博士と深交を結びてより我國に於けるディゼル發動機の特許權讓渡の内諾を得置きたるに依り、昭和十年に至りて、氏主唱の下に財界有力者の後援を得て、之を企業化すべく當社を設立華々しく工業界に進出するに至る。

氏は東京府安達重因氏の二男、明治十四年六月神田區に誕生す。既に其才器非凡を謳はれし逸材にして緻密なる頭腦と豪快な性格は陸軍時代用兵よりも、寧ろ技術方面に威名を馳せり。從而眼孔は實に廣く、學者的なる深察力と思考力に富み、事業家的なる經綸手腕に卓絶し居れり。曩に「世界航空の現勢」、「國際航空公法の研究」等の名著あり。
(所在地 東京市麹町區丸の内三丁目)

細川流盆石家元 勝野博園

明治開化以來急速に發展したる我が國は西歐文明の吸收に依り、凡ゆる部門に於て一

大飛躍を遂げたり。殊に藝術の歐米化はその行くところを知らず、その長短是非は免も角稍々もすれば我が國傳來の藝術中滅失するやも知れずと、心ある士を憂しめし事例なきにしも非らず。然るに近時非常時局の進展と共に皇道日本の宣揚さるゝ時、細川流盆石家元として全國にその聲名高き勝野博園氏が本邦古來の藝術に研精しつゝあるは、時節柄多大の意義を有するものといふべし。氏は慶應三年五月、岐阜縣武儀郡神淵村に出生す。本名秀五郎、撫石と號し後東雅堂博園と改稱す。氏は幼少の頃より風雅の志篤く後年名古屋に出で、盆石の技を學びしが、後細川流の妙趣を北國の人山中氏に學び明治三十年京都に赴き、三浦光啓氏に師事して、斯道の研究に力を傾注し其の秘奥を極めたり。氏は斯道に依る人格陶冶に偉大なる妙味あるを悟り、其の流布に努力する一面、益々研鑽の功を積みしが、徒らに舊法を墨守せず、時代の進運に伴ひ、技法に新意を凝らし、作品に藝術的眞價あらしむる等數々の苦心を累ねて遂に古今獨歩の境地を拓き、同流を大成するに至らしめたり。大正十三年三月氏は全國幹部の進言と周圍の事情に顧み、遂に細川流盆石家元中興を樹立するに至りたり、之れ實に氏の斯道に偉大なる貢獻せしものと謂ふべきなり。明治三十八年 明治大帝伊勢路行幸の御間盆石

御飾りの光榮に浴して以來昭和二年、陸軍特別大演習御統監の爲名古屋難宮に御駐蹕中の大元帥陛下に對し奉り御飾の光榮に浴す。續いて昭和十二年六月廿九日、長くも 皇太后陛下關西御行啓の御間にも御座所及御謁見所に於て盆石御飾の光榮に浴し、重ね／＼の光榮に感泣したる氏は、益々斯道の爲碎身粉骨しつゝあり。尙ほ氏は學習院女學部常盤會及び陸海軍將校婦人會の招聘に依りて東京に出張教授を行ひつゝありしも、現に氏の長男晴夫氏が在任して氏の代行を勤めつゝあり。氏も又一意斯道流勢の伸展に努め、長くも大宮御所御座所に盆石御飾の光榮を持続しつゝあり。父子二代を通じて重ね／＼の光榮に感激一意奉公を期し斯道藝術發展の爲萬丈の氣を吐きつゝあるは偉とすべし。
(住所 名古屋市中區小市場町二ノ一二)

東北女子職業學校

本校は東北文化の中心にして教育の要闡たる仙臺の清水小路に在り。岩手縣人三島駒治同よし夫妻の協力經營に依り、明治三十六年十月創始せられ、東北地方に於ける女子實業教育の振興發展を企圖せんことを目的の下に開營せるものにして、同年十一月、三島よし

先生校長に就任、同三十四年七月、現在地に敷地二千餘坪を買収、校舍及び附屬舎を新築大正二年九月移轉す。爾來三十有餘年間、三島夫妻の努力經營は克く今日の盛大を臻し、七千有餘名の卒業生を世に送り、教職員五十餘名總て斯界の權威者を網羅し、其の間故子爵齋藤實氏の絶力なる援助協力あり、今や我が國教育界の偉大なる貢獻者として亦東北女子教育界の重鎮として、其の光輝ある譽歴と共に隆々たる飛躍をなしつゝあり。尙大正十三年には職業學校規定に依る文部大臣の認可を受け、本科卒業生は女子專門學校並に女子高等師範學校の入學資格並に文部省中等教員檢定試験の受験資格を有することとなり。尙且つ昭和三年三月以降の高等師範科卒業生は無試験檢定に依り裁縫科中等教員免狀授與の特典を受け、既に免許狀を授けられたるもの二百數十名に及び東北地方に於ける私學の特典としては、本校を以て實に其嚆矢と爲す、曩に 大正天皇 東宮殿下に御在せし御時、東北地方行啓の御間、縣下中等學校生徒成績品台覽の際、特に本校生徒製作の袋物三點を御嘉納の恩命の光榮に浴したり。

校長 三島よし 女史は、現同校創立者にして、顧問たる夫君三島駒治氏と協力、幾多の辛苦を嘗め、遂に今日の隆盛を致した

我が國女子教育界の誇りたる功勞者たり。若手縣水澤の産。明治五年二月に出生。夙に女子教育の重大なるに鑑み、斯學業の爲盡力せられたるものにして、大正十二年教育功勞者として宮城縣知事より選擧せられ表彰狀並に銀盃二個を授與され、同十四年十月十九日創立者三島勸三郎先生



東北女子職業學校校長三島先生

今上陛下 攝政宮殿下御時代東北地方行啓に際し特に侍從牧野子爵を御差遣の光榮を賜はり、同時に獻上品御嘉納の光榮を拜したり。昭和三年十一月 今上天皇御大禮の際勳六等に叙し、瑞寶章を下賜せられ、女史は其無上の光榮に恐懼感激一層教育報國を誓ひたり。

昭和八年十一月帝國教育會五十年記念式に際し、教育功勞者として表彰せられ、引續き同九年六月教育擁護會より、同十月實業教育五十年記念式に際し、同上の表彰を授與せられたり。尙女史は昭和十年清水小路所在の宅地二百五十坪を購入し、寄宿舎五棟を増築合生百餘名に家族的生活をなさしめ、自ら舎監長として子女に對する愛撫訓育に専心されつゝあり。其の人格資性の崇高にして、濃厚なる正に日本婦人の生ける總藍と謂ふべきなり。

(所在地 仙台市清水小路)

川島勸三郎商店

川島勸三郎商店は本邦印刷機械業界の古豪川島勸三郎氏の個人經營に拘り、内容の鞏固業態の旺盛なる事は、改めて取々を要せず。當店は世界印刷機械界の最大權威たる獨逸ハイドルベルグ號自動高速度印刷機械東洋總代理店にして、傍ら印刷高級諸材料直輸入商を爲す事永年、其店歴の赫々たる行履は之を詳述する紙面を有せざるを遺憾とす。唯當店が世界業界の最高峰たるハイドルベルグ機の輸入に成功し、之が東洋總代理店を獲得せし店主川島勸三郎氏の終始不撓の努力を絶讃し、

傍ら該機の概要を録して紹介せんとす。

ハイドルベルグ自動高速度印刷機械の驚嘆すべき性能は「如何にして印刷物を低廉に、迅速に、大量生産に、經濟的に得らるゝや」の印刷業者が永年苦悶せる問題を一舉に解決する理想的機械たり。本機はハイドルベルグアウトマチック會社が、多年研究鑛骨を重ね凡ゆる熟練者の智能を啓發し、遂に製作に成功せるものにして、一九二六年「ライプチヒ」に發表せらるゝや、歐米各國の印刷業者を讚嘆せしめ、忽ちにして七千有餘の賣約を締結せる事實に徴して、其盛況は本機の驚くべき優秀にして時勢に即應せるを證明せるもなり。當時當店主川島勸三郎氏は「ライプチヒ」に開併せられし商品大取引市場を參觀し、我が印刷界に此福音を齎らす爲、親しく實用の狀況を觀察し、本機に依る特長の益々廣大なるを感じ、爾來凡ゆる努力を拂ひ、遂に其東洋總代理店を獲得するに至れり。而して本機製造會社は世界有數の大會社にして、各部分的作業に依り、大量生産を爲すが故に、其製品は確實にして、譬ひ銀一本たりとも寸分の相異なく、常に一定正誤なる製作を爲すが故に、機械は耐久力堅固にして部分品の取り換え極めて簡單なり。依而永久に確實なる財産を爲し得るものなり。

本機の操縦は至極簡單にして、本機一臺を

操縦すれば、更らに二臺、三臺を操縦し得るも容易なる事を覺へ、更に數臺の作業も一人の操縦者にて作業し得る。而も何等の智能を要せず婦女子之を操縦するも容易なり。

本機の特長

- 据付場所 四尺平方 狹隘なる場所に据付得る。
- 能率 一時間三千枚 封筒及カード二枚掛六千枚
- 動力 僅に半馬力
- 版面 縦十三吋半横一吋四分の一 縦十五吋半横一吋
- 印刷 常に平均にして活字の磨滅なく、印刷の仕上り鮮明にして高級美術印刷に適す。
- インキ消費 手刷機の三分の一の量
- 版換準備 極めて簡單手間を要せず時間の短縮
- 自動給紙 微妙の装置に依り用紙を「ツツ」にする事なし
- 自動休止 印刷紙の終了したる時は自動にて休止し途中刷り損じある時は自動にて停止す
- 印刷用紙 厚き物「ボール」紙四十オンス、表紙の厚さより模造紙三十斤の薄物に至る迄任意印刷し得る

インキ取換 インキ壺は簡單にして洗ひ換へるの装置あれば取換へ極めて簡單なり

印刷版 獨特の鋼鐵を以て製せる、爲堅牢無比永久不變にして種々の特長ある印刷技工を爲し得る。

而して本機一臺は從來の手刷機械の三倍の能率を上げ、二臺若くは三臺使用する時は十倍の生産を擧ぐ。而も人件費は一人にて足るれば常に人件費は茲に節約せられ、印刷物を爲すに全く低廉ならしめ、生産正確にして注文者に對し迅速に納入し得るなり。而も印刷物仕上りは極めて鮮明優美なれば、注文者をして満足せしむ。依而本機使用一日を運るれば、一日の利益を失ふものなれば、即刻採用を推奨す。宜べなるかな、今日まで本機を購入して當店に感謝狀を贈らる業者枚舉に遑あらず、東京市山縣製本印刷株式會社、大阪市磯野印刷所、中西印刷合名會社等は十年前より既に本機の裨益を受ける著例と爲す。

因に當店は東京市京橋區京橋二丁目一番地(電話京橋二〇三四番)に出張所を設けて東日本の營業網に遺憾なきを期し居れり。

今や當店は内容既に鞏固を誇示すると共に其將來の發展期して候つべし。

(所在地 大阪市西區土佐堀通一ノ三〇)

京阪自動車株式會社

關西地方に於ける交通運輸事業は、近年異常の發達を示し、法人組織を以て經營せるものも、僅指の類に堪へざるの狀態なるが、其間に嶄然群を抜きて隆々たる盛況を示しつゝあるものを京阪自動車株式會社となす。同社は、大正十一年の創立にして、資本金三十一萬圓(拂込済)此を他の同業の會社に比すれば敢て巨資と稱するに足らず、往年河内聯合自動車會社を併合して五千圓の増資を見たる以前何等増補するところ無かりしにも關らず、其運用宜しきを得て、相當の成績を挙げ來れるが、其躍進的發展を示して世上より驚異の目を以て迎へらるゝに至りたるは、實に現在の重役幹部諸氏就任以來の事に屬す。由來地の利と人の和を得るの必要なるは、常に優武戦兵の場合に於て然るのみならず、現行實業の大半、殊に交通運輸事業に於て其最も然るべきものたるや、説明を要せざるところなるが、當社は幸にして其一半の條件に恵まれたり。即ち無數の名山勝區を四圍に控へたる舊都を以て、其業務の中樞とせるの強味なり。然も如何に有利の地を確保すると雖も、若し首腦部其人を得ず、隨つて人の和の點に於て缺

くるところあらば、柄響相容れずして業務の遂行上支障を来すべきは見易きの理なり。同社幹部は茲に鑒みるところあり、地理順應の合理的積極政策を講ずるの一面、内部の人事關係を重視して其融和統制に力めたるを以て業績大に擧り、遂に今日の隆盛を見るに至れるなり。同社の路線は逐年伸長、京阪神樞要の地に互り、蜘蛛の巣の如く錯綜し活況を呈せるが、今その内容を示せば

- △京阪國道線(七條大宮・今市間)三九・七軒△御陵宇治線八・二軒△師團前勤修寺線四・三軒△京都山崎線一六・六軒△向日町柳谷線七・八軒△京津國道線一・二軒△三條六地藏線一四・七軒△大津市内線八・〇軒△宇治川ライン線一・二・六軒△大津雄琴線一四・七軒△高槻山崎線一四・一軒△枚方池田線二八・一軒△車作高槻線一六・四軒△長柄唐崎線一六軒△高槻四條線古川橋線二・一軒

にして其延長二百五十キロに達し、斯界の最高位に在り。社長佐藤辰二氏は氣宇寛大にして、自から首領たるの風格を備へ、謹厚穩健なる山本常務と相俟つて内外の信望厚し。

支配人 西村 章 氏は眞摯剛直の人格者にして、貴公子然たる風格の裡に縦横の機才を藏し、業務の刷新に内外の技術に人心の性濃恭謹格にして素志甚だ堅剛なり。青年時代に租衣粗食に甘んじて、金銭は悉く研究費に投じ、他事を顧みず、研究に傾倒して先輩同僚より嘆服せらる。金鐘物資或は名譽榮譽には甚だ活潑にして、唯技術を練り想を凝らして快心の傑作を創造するを最上の愉快とせる眞に名人氣骨の士たり。襟度寛容にしてよく後進の者を懇切に指導し、困窮せる者あらば惜まず、私財を投じて之を救済し、世人より多大に敬仰せらる。

(住所 大阪市西淀川區野里町)

駕馬本店主 石川治一郎

靈柩車、葬儀用品請負業として、其名京中に周き「駕馬本店」は石川治一郎氏の主宰に拘る斯界の古豪的存在たり。氏は京都の産。天賦頭腦明晰にして機敏而も商業に長ず。由來靈柩は市街地に於ても主として駕籠を用ひたりしが、氏は二十餘年前、率先之に代ふるに自動車を使用し、以て業界人を唖然たらしむ。是れ我國に於ける靈柩自動車の先驅にして俄然その名譽を馳するに至る。爾來多少の迂餘曲折は免れざりしも、大局的に好調の業績を擧げ以て今日に迫り。

氏は其間同業者と謀りて、京都靈柩自動車

融和に所謂三面六臂の働きをなし、精勵倍勤十年一日の如く、其功勞の著大なるは社内外の齊しく認むるところにして、多くの従業員より師父の如く敬愛され、同社の柱石として推重されつゝあり。

(所在地 京都市伏見桃山)

勝子切子所 勝 幸助

大阪市西淀川區に於て、カットグラスの工場を経営し、その技術の優秀にして製品の傑出せるを以て噴々たる好評を博し、その名譽斯界に冠たる人に勝氏あり。氏は二十五歳にして大阪に出で直ちにガラス界に入り、一職工として新業に携り孜孜として技術の練磨に没頭す。氏の倦むことを知らざる熱誠なる切磋琢磨の功に依り、その技術の進境目覚ましく、氏の苦心になる創案に依りて幾多の新手法創始せられ、斯界に卓越せる名人として大いにその至藝を誦はれるに至り。氏のカットグラス製法の技術は神技とまで絶讃せられて他の追従を許さず、世人より多大の尊敬を拂はる。斯界の權威者として欽仰せられ、京都高等工藝學校及大阪高等工業學校よりは、特に懇請せられて、ガラス製法の教授を爲せり。カットグラス製法には技術者多しと雖も



勝幸助氏

氏の如く學生並に學究に對してガラス製法の教授を爲し得るまでに製法の各種技術を研究せる士は、實に曉天の星を數ふるが如く寥々たり。勝子切子所西淀川工場には、多數の熟練工その業に精勵して事業頗る盛況を極めその製品甚だ優良にして世間より多大の歡迎を受け、需要日に日に著増せり。同工場の製品は一般素封家、或は大會社方面より大量の需要ありて、贈答品、記念品等に供せられつ

株式会社を設立し、代表取締役任に推選され、能くその責務を達成するところありしが、後ち一部株主間との意見の相違開陳を招來せし爲、過ぐる昭和二年該社と絶縁し、爾來家業たる駕馬本店を統理し遂に今日の覇業を爲すに至り。

現時本店を河原町荒神口上るに措き、府立醫科大學前(電話上四二〇三番)東山線二條上る(電話上一五一六番)に各自動車部を設置して陣容を固め、一般靈柩自動車請負の他靈柩自動車(患者送迎用)高級貨自動車拾數臺をも所有し、府立醫科大學病院を始め、市内著名病院の用途を爲す傍ら、神佛葬儀用品製造販賣並に式事用具、造花、花環、告別式場裝飾請負、諸用人夫請負等の合理的經營を營み、常に業界の先達に任じつゝあり。一面氏は徒らに自家の収益のみに奔命せず、舉名の上に汲々たるが如く既往三十餘年間斯業界發展の爲に盡力し來れるは著聞するところにして、其間同業組合の代議員に選出さるゝこと屢次に及び、その操履明快にして、道譽高きも故なしとせず。

とまれ、その行藏頗る確然として業績亦赫然として斯界を照破す。氏こそは斯業界改革の先覺者たるのみならず、事業界に於ける一方の旗頭たりと謂ふべきなり。

(住所 京都市河原町荒神口上ル)

株式 小松製作所

現に陸海軍、鐵道、農林各省の指定工場に列せられ、我が國重工業界の新進氣鋭として譽名六合を壓し、今やその發展性の神速さを驚嘆さるゝは、即ち我が小松製作所なりとす。

抑々小松製作所は、彼の北陸の白山連峰が雲表に聳え、その麓より流るゝ手取川の支流が北陸線と交叉するところの小松町を距ること二里餘に所在したる遊泉寺銅山の專屬機械工場として該銅山の所有者たる竹内明太郎氏が經營に染着せる大正六年を以て其淵源と爲す。種で該銅山の廢礦となるや其機械工場に使備せる多數従業員の離職を見るに忍びず、大正十年正月之を獨立の機械工場と爲し、資本金一百萬圓を以て、株式會社を設立せるに端を發す。翌同十一年小松電氣製鋼所を合併し、同十四年現取締役社長中村稅氏之れが經營を擔當するに及んで、該銅山との關係を絶ちて小松製作所と改稱すると共に半額減資を斷行し、以て根本的改革を行ひたり。翌十五年第二期擴張を爲して次第に發展の芳芽を萌さしめ、昭和四年三月再び百萬圓に増資し漸次好轉す。同九年に至りて第四期擴張を行

ひて益々その標價を漲はれ、盛運を開宏し、更に同十一年三月生産力擴充政策に呼應して一舉五倍増資を遂行して、資本金五百萬圓を擁するに至れり。今や當社は二箇所に至る廣袤六萬七千餘坪、建坪五千五百餘坪、従業員二千名に垂んとするの飛躍的發展を具顯し、業礎愈々鞏固にして偉業赫々として新業界を照破しつゝあり。

當社の製品の内容は、頗る廣汎多岐に亘り軍需品は勿論にして、全面的に擴大せるが、主要製品は新機工作機械、各種水壓機、高壓ポンプ、高壓バルブ、トラベリングストロカー、電気ホイス、各種運搬機械、ガソリントラクター、ジャックハンマー、ロツクドリルの如きは著名なるものにして、凡そ機械工業、化學工業、鐵道工業、機械農業、軍需工業等に關するものにして、當社に於て生産されざるはなく、一面製鋼品としては機關車、客車、貨車等の製出さるゝもの夥しき數に達せり。殊に最近英國ナショナル・コンパツジョン會社が世界に特許を有する優秀なるレストーカーにも着目して之れが國産化に進出し而して我國のボイラー設備に對して、新裝置を普及し以て錯錘たることを慶福に堪えざるなり。

而して當社は夙に高級製品製作に進出せる爲め、技術は超凡の優秀を顯はるゝ上コスト

頗る低廉、しかも工場は石川縣小松並に粟津の如きに在る關係上、人件費安く更に創業當初より熟練工の養成に専念しつゝあり。即ち小松製作所青年學校を開辦して普通科は三年を修めて、工業學校卒業程度、高等科は二年の修學を以て専門學校卒業程度の實力を與へ技術の指導養成に努力しつゝあるは特筆大書すべきなり。

茲に當社昭和十二年下期の業績を見るに、利益金四十四萬二千圓を挙げ、この利益率四割四分二厘なりき。之を前期に比すれば利益金に於て二十二萬圓二千圓、利益率に於ては三割七分六厘減少せるが、之は前期は公募株式のプレミアム三十萬圓を計上せる所以にして之を除けば、事業利益は三十六萬四千圓なり。從て利益率は六厘の低下を示せるも現在擴張過度期上にある故に、好成績たるに變りなく、配當は引續き一割を据置けり。尙當社は時局以來好調に際し、終始堅實決算を續行せるは定評既に存するところにして、從て固定資産剩安顯著なり。製品引渡高は著増し爲に資本の効率は逐期向上を辿り、同期には擴張の過度期にも不拘、年四十三割餘に達した。洵に目醒しき躍進と稱讚すべきなり。

去る三月一日一株二十五圓の拂込を徴收し未拂込は一百萬圓に過ぎず。當社は前述の如く技術優秀にして製品内容は凡て時局の要望

するところなれば現下の規模にては到底需註に應じ切れざるを以て更に未拂込を徴收し増資へと一氣加勢に進むも茲二期にあらんか而して當社は時局以來政府の生産力擴充政策に呼應して急激なる擴張を斷行し、以て時局製品製作に當る一方、事變後の發展に備ふる爲め、高級プレツス、トラクター、ストロカー、ロツクドリル、高級バルブ、特殊設計の工作機械、自動車並飛行機部分品用の機械特殊鋼、鑄物の製作に進出しつゝあり。國際關係は茲當分緩和されざる情勢にあれば、時局關係製作は引續き繁劇を呈すると思惟さるゝが、前記の如く既に平時の對策を講じつゝあるこの際洵に賢明と云ふべし。滿洲、北支への進出は着々準備を進められつゝあり。之を要するに當社の前途は益々躍進、隆々たる飛躍を遂ぐるは自明の理たり。

因に堅陣を誇る人的要素は、取締役社長中村稅 取締役八十島五郎右衛門 同兼支配人 森本嘉一 同兼東京營業所長眞野吉一 同兼大阪營業所長矢野政義 同各務員幸 監査役 今村信吉 同白石多士良の諸氏なり。

取締役社長 中村 稅 小松製作所を今日在らしめたる事業的創造力と忍耐不屈の奮闘力を敦崇せらるゝのみならず、昭和聖代に絢爛を誇り得る譽倫篇に編まるべき故蹟たり

明治九年宮城縣に生誕し、長ずるに及んで關西學院に學び進んで東京高商に雲雪の功を積み、同三十五年之を卒業後、日本郵船に入社し、後之を辭して猪苗代水力電氣會社に入りたるが同社が東京電燈會社に合併さるゝや東電重役に推轉さる。幾許もなく世界遍遊の途に上り、歐米各國の事業を視察して歸朝し、斯くて大正十三年小松製作所に入る。爾來拮据々々克く今日の地位を獲得す。其間前創立者たる竹内明太郎氏の遺志を重んじ全面的に當社の發展に専念し來れるが、其終始一貫せる道義的精神と百難を排して奮迅せる非凡の才腕は社内信服と關係者の信用とを深めて今や我國工業界の第一人者と嘆嘆さるゝに至れり。然り其明朗なる人格と信義の操履は、今や偏在せる北陸地方の爲にも地民の生活に潤澤たらしめつゝあるは偉とすべきなり。茲に中村稅氏の行履を擧げて叙すと謂ふ。

(所在地 石川縣能美郡小松町八日市町)
(東京營業所 麹町區丸ノ内二丁目二番地)

東松軒事務取締役 森 崎 了 三

時代趨勢の進展は、一時一瞬の停滯を許さず、社會各部各層に亘つて、事物の變遷は吾人の等しく驚異するところとなり、それ開

明の駒の如し。駁々として將に驚毛の地を蹂躪せんとし、勢恰も千里を走る猛虎も何のその豈奮を墨守して店頭に顧客を待つべきの時ならんや。百里の山河一睡の夢を乗せゆく汽車の旅を謳はるゝスピード時代に於てをや茲に時代職業の尖端を行くものあり。即ち株式會社東松軒にして、列車食堂の經營に任じ常格にして不斷、晝夜を煩たず、到る處に顧客を吸收して其の業況の絢爛たるものあり。蓋し時代の寵兒として矚目するに足るべし。我が森崎了三氏は即ち東松軒の事務取締役に於て、同社の一切を把握振興する人材にして、新設時代の先駒となすも豈に過評ならざるべし、今や經營の新鮮味は一段と多彩となり、氏の先見遠識は、能く旅客の琴線に觸れ好評噴々たり。また列車ボーイは花の如き美少女を以て優雅清爽なるサービスは、一段と江湖の好評を蒐めつゝあり、現時東京日本橋區本石町四丁目、下關市豊前町、京都市下京區東洞院鹽小路町に出張所を置き、本業を通じて交通文化の一つに寄與し、また社會公共的の見地より幾多の改善施設を實施し主務官廳、關係官廳はもとより衆庶の信望絶讃たるはこれ實に氏の明敏先達の致すところにして、克く世相を洞察し、社會進展の機微に超然たる手腕の致すところなるべし。氏は東松軒前社長故森崎理也氏の長男にして明治

三十年を以て生れ、神戸高等商業學校を優秀の成績を以て卒業したる秀才にして、直に父君を輔佐して森崎合名及東松軒の實務に執掌し、卓拔なる手腕を發揮し嚴毅後之を統理す。齡漸く四十一才、正に油の乗り切るところ人格手腕は完全に圓熟してその行くところを知らず。謹直恪勤の剛志は又一面社會公共人として熱血に燃え、現時縣會議員として議政壇上に才腕を揮ひ、實業人として商會議所議員に推され實業界肅正向上の爲め渾身の努力を傾注しつゝあり。正に猛虎の千里を行くの氣魄縱横にして業界はもとより世人の等しく師表とすべき人物たり。資性豪毅、黙々として事に當り、機宜を捉へて正に飛龍の如き跳躍を爲す伸縮自在の商策の所有者、而も一面温情豊かにして他人の困惑を見るに我が事の如く、愛情は溢れて數々の善行を爲し、從業員を見ること我が子の如く從業員又氏を慈父の如く敬慕す。家庭には母堂せい刀自を中心し、美佐雄夫人との間に長男一二君、長女閑嬢、二女トミ子嬢あり、外に實妹光子女と共に和氣瀟々たり。

因に令府理也氏は才氣煥發にして機械、夙に列車食堂經營を營み、大正十五年三月之を資本金五十萬圓の株式組織に變更せる新業界の先覺者として冷開せる士たりき。

(住所 神戸市湊東區中町通二ノ三五)

埼玉県川越高等女學校

時局の重大性愈々加重し來りて、銃後の護りを固むるの任にある婦人の仕務やまことに重大なるものがあるが、斯る時代に於ける女子教育の事業こそ眞に時局の要望に合致し得るの精神の修養と智育の研精と肉體の鍛練に一段の努力拂はるること肝要なり。埼玉縣立川越高等女學校は設備の整備充實せんと教職員に人材網羅せられたるとを以て著名なるが、夙に非常時局下に於ける銃後婦人の精神の振興こそ急がせにすべからずとなし、奉安殿を建設して、日常國體觀念の涵養に努めつゝあり。近時學校教育は稍々もすれば智育の偏重に流れ女學校に學びたるが爲めに實務に疎とくなり、徒らに浮薄なる思想を抱懐することとなり、識者の聲を招くが如き事例夥しとせず。茲に於てか當校は學級編成に特色を示し、學業と家庭との關係を緊密ならしめ本縣教育界に率先して作業教育を實施し、多大の効果を收めつゝあり。更に體育の向上を圖る爲めに體育館を建設し、或は全國に魁して全校生徒に榮養食を給する等、その教育方針に施設に實に創意に富みて教育上の價値まことに大なるものあり。その外温室の建築をなし

寄宿舎に各種施設を設置する等、設備大いに充實し、生徒又頗る優秀を以て近時當校の名益々昂まるに至り教育界注目目的となれり。

前校長 逸見 宮吉

氏は明治十七年四月埼玉縣秩父郡國神村に生る。當家は逸見若狹守義常の末裔にして、同地方有数の名家として知らる。義常秩父に高松城を築き、大通院甲源院等を開基せり。逸見宮吉氏の出生せる當時家道振はず、氏は苦學力行して、埼玉縣立師範學校を経て、廣島高等師範學校を卒業。直に青森師範學校教諭を拜命し、後埼玉縣立川越高等女學校に轉ず。簡拔せられて埼玉縣立忍高等女學校校長に榮進し、同校を實科高等女學校より高等女學校として組織の變更をなし、設備の充實、校舎の新築を行ひて多大の功績あり。後川越高等女學校長として赴任。日夜教育事業に研精し、各種の新機軸を創案して教育界に貢獻する所多し。

校長 岡田 嘉一

終始一貫育英に挺身して其の威望隆々たり。曩に逸見校長の裔を承けて當校長に任ぜらる。資性謹直にして至純、超凡の才幹は既に定評噴々たるところに於て、父先生徒の畏敬を拂はるゝこと絶大。其將來大成の兆歴然たるものあり。
(所在地 埼玉縣川越市川越)

株式神戶製鋼所

關西機械工作業界の巨擘たるは勿論、汎く本邦工業界の代表的存在たると共に、亦た製鋼會社として特異毅然たる地位を占め、株式投資家の垂涎措く能はざるもの、即ち株式會社神戶製鋼所の如きは、寔に較近長足顯著なる發展進歩を遂げし、我が國斯業の一縮圖と稱すべく、其の堅實巨大、廣汎無比の營業振りは斷然他の追隨を許さず、今や名實共に斯界に冠たる光輝を發し、業績赫々たること驚嘆に値するものあり。

抑も當社は嘗て財界の一大王國たりし、彼の鈴木商店經營に係る會社を前身となし、明治三十五年頃より製鋼事業を企劃、同四十四年七月に設立營業を開始し、資本金二十萬圓なりき。

其の後業界幾多の波瀾に遭遇したるも、克く善處して益々業礎を固めて、大正十二年以來工場の新増築を續行、高級工作機械設備を完備たらしめ、更に常格不斷の研鑽努力を累ねて技術の進歩を圖る處、其の製品は斯界の白眉を以て稱讃さるゝに至り、陸海軍及各省を始め、民間有力大會社の指定工場として信望頓に高まり、業運順調に發展隆榮せり。其

後昭和六年滿洲事變勃發を契機として俄然勃興せる自熱的軍需工業時代の波に乗じ、業勢の伸展膨脹一段たるものあり。斯くて昭和十二年三月、遂ひに業容の一大擴充を實現すべく、一舉資本金を四千五百萬圓に増額、以て兵庫縣加古郡平岡村の第四機械分工場、名古屋伸銅工場等の建設、或は投資會社たる滿洲鑄工所の設備を充實せしむ。以上の如く業勢正に斯界の王者たるに相應しく當社營業科目を舉ぐれば、鑄鋼、鍛鋼、製鐵、伸銅、船舶、汽機、汽罐、電氣機械其他の諸機械及び附屬品の製造販賣及設計修理、二、一般海運業及船舶の賣買、三、土木建築橋梁工事、四、一般製造工業、鑛業、海陸運輸業及電氣事業に對する投資、五、前記事業に直接關聯せる事業其他代理業並に輸入業等にして、其の規模の宏大、業務の多岐に亘る事、寔に斯界に類絶すと云ふべし。因みに當社第五十三回、即ち昭和十二年度下半期に於ける營業概況を述べんか、則ち當期も引續き非常時局關係に依る各種新工業に對する諸設備の建設並に重工業界の飛躍發展に依り、本社所屬各工場を始め、各地散在の工場全能力を擧げて作業し益々目覺しき業績を示せり。茲に各工場事業概況を摘記すれば、本社工場に在りては軍需品、内燃機關、空氣並に各種瓦斯壓搾機、冷却機械、水壓機、化學工業用諸機械、車輛用

品、造船並に造機材料、高級工具等註文殺到し、殊に爲替管理に依る輸入品防遏の爲め各種水壓機並に土木用電氣シヨベルの受註多



神戶製鋼所の偉觀

く、又新興化學工業用各種壓搾機、粉碎機等並にドライアイス製造、製氷冷却機械、製糖機械等に於ても、新設又は増設工場用として

注文多數。一方、門司伸銅工場、新設名古屋工場、鳥羽電機製作工場等に在りても、夫々繁忙多端、恰も戦場の如き活況裡に顯著なる業績を擧げたり。尙ほ名古屋工場は建設完成と共に、從來門司伸銅工場に在りし輕合金鑄物工場を之に移轉し、同年四月一日より操業開始せりと聞く。次に當社重役陣容を形成するは取締役社長田宮嘉右衛門氏、常務取締役森本準一氏、同淺田長平氏、取締役土屋行藏氏、同酒井重之助氏、同小田島修三氏、同和田信房氏、同川上義弘氏、監査役曾我祐邦氏、同佐々木義彦氏等、業界屈指の偉材を網羅し亦た本社總務部長の要職に在るは小栗正氏にして當社の柱石的存在たり。

取締役社長 田宮嘉右衛門

前社長永安晋次郎氏が在任當時、専務取締役の重責を擔ひて克く輔佐の任を完うし、當事實務を掌握せる人。氏は明治八年八月を以て愛媛縣田宮伊平氏の令弟に誕生。同三十六年分家一家を創立せり。夙に東都に遊學、東京高等商業學校を卒業するや、住友樟腦部の招聘に應じ入社し以來勤恪。能く儕輩に垂範の實を示し、信望高まりし處、後年鈴木商店に迎へられ、献身努力以て大いに事業的卓腕を發揮し、其後神戶製鋼所に組織變更されるや、直ちに入社、其の豊富深甚なる學識を經とし、非凡卓

拔なる手腕を練として、社運の興隆に献替する處多。斯くて累次昇進、取替役、専務を経て遂に現職に推され、以て今日に至る。資性穩健着實にして亦た細密透徹せる頭腦を有し、而かも不撓不屈の努力家たり。其の圓滿玲瓏たる人格は老來愈々光輝を加へ、現に當社以外に日本エヤブレイキ、紡機製造各取締役を兼ね、關西工業界屈指の偉材として名聲益々高きを加へ居れり。

常務取締役 森本 準一 氏は山口縣の出身、明治二十一年三月を以て森本長平氏長男に生れ、昭和三年家督繼承するや、父祖傳來の家に一段たる光彩を添えしめ、更に出でば實業界に驥足を伸ばして聲望を博す。現時當社の外、播磨造船所、浪華倉庫等の監査役を兼ね。資性剛毅調達なる一面、温情流露たるものあり、克く社員の敬仰を聚めて遺憾なし。

總務部長 小栗 正 氏は明治二十年二月十四日を以て高知縣島内政兵衛氏二男に呱呱の聲を擧げ、後年小栗寅之助氏の養子となり同家を相続す。夙に青雲の志に燃えて奮然上京、日本大學に於て切實琢磨の功を積み、學成るや實業界に雄飛活躍せんと決然大正六年を以て當社に入る。爾來粉骨碎身、至

誠努力を標榜して職務に恪勤を抽んずる處、信認歲月と共に厚く、令名内外に輝きて昇進又昇進、遂に總務部長の要椅に擧げられ、今日に及ぶ。天性剛毅不屈にして萬難を突破克服する氣概を有する反面、温情湧くが如く、頗る快心に富みて全社員敬慕の的たり。而かも識見手腕共に卓抜、且つ益々圓熟せるものありて、向後の活躍こそ、正に刮目期待するに値すべし。

(所在地 神戸市葺合區藤濱町二丁目)

機業家 金 田 梅 藏

銘仙といへば直ちに秩父の名を想起せられるが如くに、秩父銘仙の名は古來より甚だ名聲高し。その品質頗る堅牢たると共に、更に近代流行界に銘仙の覇者たるの地歩を確保せり。金田氏は秩父郡高橋村に於て織物工場を経営し、事業頗る活況を呈して、同村有数の機業家たり。當家は從來農業を以て業となせしが、氏は早くより織物業に趣味を有し、家業を投げ打ちて斯業に進出するに至れり。氏は努力奮闘の士にして、夙起晩寢して事業に一身を傾倒なし、前途を遮るる荆棘を打破して、不撓不屈着實に一步一步邁進せり。その熱心なる努力に依り事業次第に繁榮して、遂

年業務を擴張す。後義兄吉田恭太郎氏と共に三進會を創立し、大規模に織物製造を行ひ、工場設備充實し技術頗る秀ぐれ、斯界に於て多大に注目を惹くに至れり。専ら大柄模様の製織をなし、目覚しき成功をなせり。需要年と共に増加して操業頗る盛況を呈し、多大の隆盛を見るに至る。氏は資質濃厚、素志堅剛、進取積極の士にして、如何なる障害にも屈せず勇往邁進し、偉大なる努力家にして又卓抜なる手腕家たり。その對策周匝緻密たると共にその行動勇斷敢爲、秩父地方に於ける傑出せる材幹たり。仁俠義氣の士にして人の爲めには好んで幹旋の勞をとる。頗る信望ありて、將來更に大をなす額材たり。因に氏は明治二十八年の出生なり。

(住所 埼玉縣秩父郡高橋村山田)

株式 東京石川島造船所

過去十年以來不況の裡に呻吟せし、我國造船界は昭和九年上期より十年度に亘りて、突如一大飛躍を爲し、殊に最近に及んで驚異的發展を遂げつゝあり。この好轉の原因は金再禁以來、海外貿易の急激なる進展に依る海運界の好轉、軍事豫算の膨脹、更に政府の實施せる船質改善助成施設に、支那事變の勃發は

不經濟船の解體、新船建造の機運を誘致し、之を動機として各船主は競ひて不經濟なる古朽船を廢して、新造船に代ふる等々重複事情簇出し來れり。かゝる繁劇裡にある東京石川島造船所の場合には更に軍需工業の隆盛、化學工業の進展に拍車をかけ來れり。何となれば當社は稱號こそ造船會社の名を負ふも、現在の主力は、造船機工にあればなり。故に最近は造船、造船方面の製作高著増し、記録的好成績を擧げ、殊に時局向の緊急事業なれば層層當社の發展を促進しつゝあり。

當社は人も知る本邦造船界の元老にして、六十年の久しきに亘る豊富なる経験と、超凡の技術を誇示する業界の至寶的存在たり。當社の既往を述ぶるは汨々たる長江を溯源するに等しく、その遡路の遼遠にして而も多様多彩、迂餘曲折。爰に叙するは其粗枝大葉に止まるなり。即ち當社は本邦最古の民間造船所として明治九年の創業、同二十二年一月資本金十七萬五千圓の株式組織に變更、同二十七年六月五十萬圓に増資、次で日清戦争後設備を擴充して同三十年に百萬圓、同三十二年に百五十萬圓に増資す。然るに戦後の反動を受けて同三十五年に六十萬圓減資、翌年更に三十五萬圓の減資を餘儀なくし、同四十年五十二萬圓に増資、續いて歐洲大戰の好況に恵まれて事業を擴張し、大正七年に及んで一舉五

百萬圓に増資せしが、亦復戦後の反動を受け且つ軍縮と同十二年突發の大震災に遭遇し、資本金と同額の大損害を蒙り、爲に翌年二月資本金を二百萬圓に減資し、爾來堅忍不拔、あらゆる苦闘を経、石川島獨自の精神社風を昂揚し、赤字決算を續け乍らも舉社一致更生努力を敢行し來れるが、幸にして時局景氣に恵まれて昭和九年以降増資を斷行すること三回、現に資本金一千六百萬圓内拂込一千二百萬圓を擁すに至れり。而して經營事業は從來は小型船舶の建造と船舶修理に全魂を打ち込みしも、震災後より造船機工方面に轉向し、老巧なる經營と優秀なる技術は何時しか國內有数の機械製造會社として認めらるゝに至れり。即ち造船部門に於ては陸上用及船舶用各種タービン、艦船用主補機械、各種起重機、仰筒、鋼橋桁、鐵管、捲揚機、壓縮機、送風機、マングラ、減速裝置、復水器、自動車部分品、熱交換機、採金船、カボンプレス、ダイゼスター、運炭裝置、各種タンク等々の製作を中心として、一面にありては飛行機エンジン、部分品製作、石炭液化装置にも進出し、投資會社たる自動車工業、石川島芝浦タービン會社を通じて自動車、タービン製作をも開始し以て時運に照應する積極方針に轉換し、合理的經營の完備を達成しつゝあり。而して當社近年の業績を見るに、他の時局

會社同様良好を辿りつゝあるが、拂込資本金が膨脹するに不拘、利益金の増加は逐次顯著となれり。昭和九年上期以來二割三分以上の利益率を把握せるに對し、配當は八分五厘に止め居れば、利益處分に餘裕は増しつゝあり。昭和十二年下期の利益金は百一十一萬三千圓、利益率は二割三分、社内保留金は六十三萬五千圓、上期の五十八萬六千圓を合して一年間實に百二十二萬一千圓の蓄積を得たり。製作引渡高は一千三百四十萬圓、上期に比して二百八十萬圓の増加となり、空前の大収入を示せり。即ち固定資産に對比して年率五倍に相當す。固定資産は五百八十三萬圓にして、昭和八年下期の六百九十四萬圓に比して百五十萬圓の減少となる。減資せし後、前後累計二百五十萬圓の償却を續行せる結果にして平均資産の運用率五倍たる點に於ても、驚異的記録と稱すべし。今や政府は國力充實計畫を促進すべく決定し、米、英は大軍擴を發表し内外時を同くしての軍擴計畫は當社として絶大の力を賦與せらるゝものと謂ふべし。しかも當社は從來より海軍省と緊密なる關係あるに思ひ至れば其將來の發展期して俟つべし。前述の如く當社は隆々たる霸勢を以て跳躍に次々に跳躍を以てせる爲に造船、造船部門の全面的擴張計畫も今や必至の事情に在り先づ飛行機エンジン並に部分品への進出に於

ては石川島自動車工場等に建設の豫定なるが、差し當り部分品の製作に邁進し、大型飛行機各種發動機に進む方針の下に、着々實施中なり。一方横浜市磯子區杉田所在の鑄物工場建設も進捗し、更に來らんとする航空時代に對應して、立川町附近に四萬八千坪の敷地も購入済なり。次に造船工場の擴張に關しては東京港に於て造船臺三箇、船渠二箇の築造を計畫し、一面設備工作として東京港新埠頭に進出すべく、既に月島五號地三萬坪は買収済なり。起重機工場の擴張は本社工場内に設立されるが、其他既設々備に對しても全面的に部分擴張を行はる。當社傘下の各社事業の擴張も緊切を要し、先づ東京瓦斯電氣工業會社と共同に係る東京自動車工業會社、芝浦製作所と協同の石川島芝浦タービン會社及奉天製作所、立川飛行機會社等の能力擴充に應じて出資の増加を招來せり。何れも好成績の維持は確實なれば、第三回の拂込は徴收目録に迫れると謂ふべし。

當社重役並に幹部員左の諸氏なり
社長 松村菊勇 専務 淺川眞砂 常務 村田愷
取締 栗田金太郎 同兼 企畫部長 末常共
介 同兼 營業部長 橋本辰吾 同兼 發動機部長
庄司健吉 監査役 新井源水 常任 監査役 保田
藤一 監査役 大澤佳郎 造船部長 山口徳次郎
研究部長 松田和三 總務部長 中山正則 造船

工作部長 笠原逸二 監査部長 末松直敬 機關
設計部長 堀田末吉 機械設計部長 林寛之 起
重機部長 南里竹一

取締役社長 松村菊勇 佐賀縣士族海軍少將故松村安種翁の次男、海軍中將故松村龍雄氏の令弟として、明治七年十月出生。同二十九年海軍兵學校を卒業、同三十一年海軍少尉に任官、累進して海軍中將に陞る。其間海軍大學を卒業、英米に出張爾來常備艦隊參謀第一艦隊參謀、春日副長、海軍大學校教官、海軍々令部副官、鎮海要港部司令官、海軍々令部出陣司令官、鎮海要港部司令官、海軍々令部出陣等に歷補、大正十五年豫備役仰付らる。後ち當社の常務取締役に推される。昭和八年專務取締役に就任し、曩に社長に推舉される。資性豪放にして俊銳、業界に鋒鏑を放つ偉材。傍ら石川島芝浦タービン取締役會長たり。

專務取締役 淺川眞砂 人も知る永年第一銀行に格動して名探題の名を恣にし、博學多識と温厚篤實なる人格とは夙に定評あり。後輩の錫鏑として今尙その風骨を敬仰する。明治十六年長野縣に呱呱の聲を發す。長じて東京帝大法政政治科に學び、明治四十年優秀を以て卒業す。直ちに第一銀行に入り、兵庫支店副支配人、門司、札幌、小樽支店支配人

京城支店長を歴職し、昭和九年當社に轉ず。爾來只當社運の進展に意を濟め心魂を碎き、不退轉の努力を捧ぐ。曩に氏の當社に轉ずるに當りて巷間その頭敏を認むれど金融界よりの轉換を危惧する者ありしが、その俊邁なる才腕能く當社の旺盛を誘致す。大器と稱すべし。現に立川飛行機取締役を兼務す。
(所在地 東京市京橋區佃島)

事業家 渡邊剛二

山口縣唯一の工業都市宇部市は沖ノ山炭礦を中心としてセメント、鐵道、鐵工所、窯業、紡績、電氣等一切の事業を網羅したる總資本一億圓突破の驚異的躍進を遂げつゝあり。而もこの一億圓資本の工業都市を形成せしめたる渡邊王國こそ、實に宇部市發展の功勞者たるのみならず、正に日本工業史に特筆すべき貢獻者たるは言を俟たざるところなり。當主渡邊剛二氏は沖ノ山炭礦株式會社、宇部窯業工業株式會社、宇部セメント製造株式會社、宇部電氣鐵道株式會社の社長として、又宇部曹達工業株式會社、宇部紡績株式會社、宇部鐵道株式會社、日本發動機油株式會社の取締役として實に十餘の會社に關係而も其實權を掌握せる巨人として令名高し。

氏の略歴を摘記するに明治十九年九月二十四日宇部市大字小串に生る。同三十八年山口縣立中學校卒業、同四十二年熊本醫學專門學校卒業、同四十三年一年志願兵として入隊、大正三年三等軍醫任官、同六年三月京都帝大醫學部選科卒業。同十二年二等軍醫に任ぜられ昭和六年山口縣會議員に當選、同八年宇部市會議員に當選し副議長に推される、同九年山口縣醫師會副會長に就任、以上なるも茲に特筆すべきは氏が斯る刀圭界の出身たると共に實業界の大立物たり、議政壇上の新鋭人たるなり。依是觀是如何に氏の非凡卓越せる經倫識見の大なるかを認知するに充分なり。然し氏の今日あるはその嚴父故渡邊祐策翁に負ふところ又大なり、宇部市が生みし財界、政界の雄故翁の處世の大道「萬邊に處して一心を貫く」なる心力の結晶こそ、今や宇部市の誇り一億圓資本の偉業を事實上に顯現せしめたる礎石と云ふべきなり。然りと雖も之を所謂鈍兒の頭上にゆだねんか、畢竟猫に小判の比喩を免れず。こゝにその王國繼承者剛二氏の非凡なる才腕發揚の機を得たり。氏は故祐策翁の長男にして、翁の最も苦難なりし時に生を受け、今日渡邊王國の支配者として嚴父の偉業を繼承し、十餘の會社の社長、取締役に就任し機略縱横の手腕を揮ひつゝあるは、學識の英智にあらず、實に嚴父の遺訓たる「萬邊

に處して一心を貫く」を實踐躬行したる努力の賜と云ふべきなり。特筆すべきは宇部に於ける一切の事業の徹底的合理化を期するためコンツエルの計畫より實行へと發展の過程に進めしめつゝある事にして、現下に於ける日本經濟統制強化の上に即して喜ぶべきことなり。氏は又非常に涙もろく部下を愛すること慈父の如く、接する人をして親愛の情を抱かしむ。而も一度事を處するに斷の一字を吐かんか、如何なる反對をも押し切り、其鋭鋒の迫力は人をして畏怖せしむること屢なり。又氏は常に大乘の見地をはなれず、或は社會公共事業に、或は愛善運動に幾多の蔭れたる德行あるを聞く。その人格者たるは世人の知れるところなり。
(住所 宇部市小串一八一九)

川治温泉ホテル

栃木縣下鬼怒川と男鹿川の清流の相合する邊り初夏の新緑と秋の紅葉の美觀を以て、將た又溪谷美の絶勝を以て、近時大いに天下に名を爲すに至りしを川治温泉なりとす。同温泉の發祥に就いて聞くに、往時男鹿川が日光山塊の自然崩壊によりて遮斷せられて、五十里湖なる湖水生ぜしが、享保三年この湖水の

塘堤決裂せり。之に依りて地形に變化を生じて温泉の湧出を見るに至りしと傳へらる。爾來當地方唯一の温泉場として各地より湯治に來る者甚だ多し。近年東武鐵道の開通と自動車道路の完成より都人士のこの地に遊ぶ者著く増し、施設完備せる旅館數多設立せられ、風景の美と共に快適なる温泉郷として、一躍天下に名を成せり。この地に於ける湧出温泉の全部は近江屋川治温泉ホテルの所有たり。エマナチオンは散逸せず、紫外線を滿喫し得る岩窟風呂の温泉として、その効果頗る顯著なるものあり。當ホテル經營者は高橋秀治氏にして始祖以來八代目に當る。その祖先は小屋掛の浴場を設けて創業せしが、逐年發展し當主高橋秀治氏の時代に至りて目覺しき發展をなせり。即ち、現在三階乃至四階建五棟、延坪千餘坪、收容客數五百名。日本間は總次の間付にして壁仕切ありて百二十三室、西洋間はダブルベット付五室あり。更に宴會場用舞臺付廣間六ヶ所、其他長春亭三十三疊、轟銀亭四十疊、月ノ間四十疊、花ノ間二十四疊、蓬來閣二十四疊等。更に又食堂、酒場、應接室、談話室、展覽室、暗室、化粧室、賣店等あり。娛樂設備には撞球、卓球、麻雀、圍碁將棋、大弓場、庭球場、貸舟、スキー場等を設置す。其他大小五棟の貸別荘の設けあり。宏莊美觀の建物、完備充實せる施設、且又致

れり盡くせりのサービス等保養に清遊に甚だ
良し。宿泊料は和室にて三圓より六圓まで、
洋室五圓より二十四圓まで(朝夕二食付)尙ほ
又自炊貸間は一室一日二圓より十圓までの規
定となれり。低廉なる費用を以て、充分に歡
を盡くすを得るなり。當温泉の主治効能は動
脈硬化防止、老衰豫防、リウマチス、骨膜炎
胃腸病
脚氣、
痛痛、
持疾、
打撲切
創傷、
火傷、
るいれ
き、子
宮病、
婦人病
一般病



温泉ホテルの風景

經痲痺症、或は結膜、角膜等の眼病に特効あり。其他又或は清流に魚を釣るに良く、或は山林に狩獵、茸狩、蕨狩を爲すによく、されば遊覽の客は四季を通じて絶へず、當ホテルの如きは常に千客萬來して多大の活況を呈し來遊者に至大の満足と興へつゝありて、眞に理想的温泉地として推奨するに足る。
(所在地 栃木縣鹽谷郡藤原村)

難波工所社長 難波又三郎

氏は鐵工業を始め、各種の事業に手を染め
機略縱横、才略披靡、業界に盛名轟々たり。
明治九年四月を以て生る。先考難波又三郎氏
は鐵鋼販賣業を営み、頗る殷盛を極む。氏は
幼名を又治と云ひ、明治三十六年に至りて又
三郎を襲名す。若冠にして既に企業的才腕を
發揮し明治二十五年十一月長岡市に鐵工所を
創立す。株式會社難波鐵工所即ち之にして氏
は社長に就任す。同社は社業大いに勃興し、
年々規模は擴大せられ、工作機械の製造を以
てその名を知らる。長岡工場は昭和五年二月資本
金百五十萬圓を以て、株式會社東京鐵工所を
創立す。昭和八年埼玉縣大宮町に工場を設立
し、工作機械製造を行ふ。年と共に事業繁忙
を極め、現在従業員は七十名に上る。氏は我
國鐵工業の先驅者の一人にして、鐵工業經營
に成功してその名を成せるのみならず、又新
業の技術の進歩向上に寄與貢獻せる所鮮少な
らず。業界に於ける氏の存在愈々重きを加ふる
に至れり。頭腦まことに鋭敏緻密、その立案
周到を極めて聊かも疎漏なし。事を爲すに
飽くまで冷静に熟慮を拂ひ、然る後に果敢に

決行す。不慮の難局に遭遇するも周章せず、
その策を誤ることなく事態に善處し、その沈
着その機智には何人も嗟嘆してやまざる所た
り。氏の經營する難波鐵工所といひ、或は東
京鐵工所といひ、幾多の難關に遭遇しながら
もこれを突破し、日に月に業績の躍進を見る
に至りたるは氏の卓抜なる手腕に負ふものな
り。現在難波鐵工所、東京鐵工所の社長たる
外、大日本石油鐵業、新潟板紙の取締役を兼
ぬ。新潟事業界に聲望高く、現在新潟縣長岡
市商工會議所議員に推され、同地産業界の爲
め盤旋する所勢しとせず。
(住所 東京市芝區芝公園二十五號地)

京都成安女子學院

洛北に聳立せる靈峰大比叡の山麓に、百花
の開くに魁けて綻べる白梅の如く、清澄温雅
の學風を以て江湖に好評高きが當學院とす。
その創立は大正七年にして、和洋裁縫手藝教
習所と稱せしが、創立者瀨尾チカ子女士の懇
切なる薰陶と、時流に適合せる教育方針に依
りて瞬く間に發展し、瀟洒たる輪奐の美を誇
る校舍と完備せる設備を成せる成安女子學院
となりて校運隆々として興るに至れり。瀨尾
女士の建學の精神は當校々名の成安の意義に

表示せられしものにして、成は功半り業成就
するを意味し、安は家庭の和樂を現し、家に
在りては良妻賢母、外にありては國家忠良の
臣民たる婦人を養成するにあり。知育徳育を
併せ行ひ、智即行を徹底せしむることを目標
とせるが當校の教育方針なり。女士が固き信
念を以て女子教育の事業に身を投じて既に二
十年、福風沐雨自己の家庭を省みる暇なく
只管女子教育に献身的に盡瘁し、遂に今日の
如き發展を見るに至れるは、眞に我國女子教
育家の驍蓋たるものにして、その功績はまさ
に金玉の文字を以て綴るに足る。女士織手を
以てその經營に没頭せるを見て、京都帝大醫
學部教授名川博士はいたく感動し多大の支援
を與へて、一時學院長に就任せしことあり。
又清浦伯爵は同夫人も助力を寄せられ、現
に伯爵は當學院顧問たり。女士の熱誠なる活
躍は、數多知名の人士を感激せしめて舉つて
之が援助を集むるに至り、遂に現時見るが如
き目覚しき發展を見ることゝなれり。當校の
主體は財團法人京都成安女子學院にありて文
部大臣指定京都成安女子學院には専攻部、高
等女學部、裁縫部の三部を置き、専攻部には
高等師範科、家庭科、保育科あり。裁縫部は
中等教員、小學校専科正教員、幼稚園保母等
の無試験資格の特典あり。成安高等禮日女學
校は特に夜間開校し、又京都府認可成安幼稚

園を設ける等諸制度完備し、内容充實せる一
大綜合女子教育機關として、關西女子教育界
の一大高峰をなせり。その信用顯然として高
く年々當校の入学を志願する者多數に上る。

院長 瀨尾チカ子

女士は松浦藩士藤松
宇佐美氏の長女として明治二十年に生る。郷
費を卒ふるや、東京に上り、東京共立女子職
業學校繪畫及裁縫科を専修す。卒業の際には
其學業の優秀なるを以て、畏くも、皇后陛下
御下賜金に依る優等賞を授與せらる。資性温
恭謹格にして、氣格甚だ優適たり。心性頗る
皎潔の女性にして女子教育の事以外に他念な
く眞摯これに没入し、名利に恬淡、眞に教育
家中の教育家と稱すべきなり。慈愛深くして
温情に富み、多數卒業生並に生徒より慈母の
如くに敬慕せらる。實に我國教育界の一異彩
をなすものあり。
(所在地 京都市相國寺北門前町)

西出商事株式會社

當社々長西出孫左衛門氏は石川縣の出身に
して西出家は代々水陸物産販賣を業とせり。
即ち、石川縣江沼郡橋立村を本據として古く
より、家業を営み來りしが、現社長より三代

以前に始めて兩館に支店を設く。當時既に大
和船十數艘を所有して、大阪方面に海産物を
移出し、大阪方面よりは食料雜貨を積込み來
る等、頗る手廣く營業を營めり。四十數年前
逸ち早くロシア人と協定を結び、カムサツカ
の鮭鱈定置漁業を開始、更に日露戰役後ポー
ツマス條約の締結成るに及んで、直接ロシア
政府より漁場を租借し北洋漁業に活躍す。爾
來大いに好成績を挙げ、業績順調を辿り來り
しが、昭和七年に至りて日魯漁業と合併す。
翌八年には新に北千島の漁業に着手せり。當
社は資本金一百万圓にして、内拂込資本七十
萬圓に上る。元來當社は北千島漁業會社に多
額の投資をなし居るが、近年同社頗る好調を
示せる爲めに、利拂ひ配當收入等にて尠から
ざる利益を挙げつゝあり。

社長 西出孫左衛門

西出商事社長とし
て社務を總攬せる氏は、元治元年生れにして
元氣旺盛まさに壯者を凌ぐものあり。温厚篤
實、世事に練れて八面玲瓏まさに玉の如くに
圓熟せる人物なり。而も他面頗る剛膽にし
て氣宇又潤達、眼界廣く腹中密そかに經綸を
藏す。氏は經營せる事業を通じて自己の抱懐
せる經綸をば實現せんことを念願となし、そ
の事業精神を擲すれば、國土のそれに異る所
なし。事業家として見る時には俊敏なる經營

の才を有し、不撓不屈鐵石をも貫く果敢なる
氣魄に添ふるに綿密にして、周到なる智能あ
り。機に臨みては變に應じ、難關もよくこれ
を突破して縱横に才腕を揮ひ、今日の大をな
すに至りたるものにして、北洋漁業發展の功
勞者として、或は函館事業界の重鎮として、
その信望まことに隆々たり。

取締役 西出 悌二

氏は西出社長の令息にして明治二十七年に生れ、夙に早稲田大學に學ぶ。少壯敏腕の實業家にして函館事業界に近時頗る頭角を現す。父君の老齡なるに依り、西出商事は氏が實際的に經營の衝に當り大いに繁榮を招来しつつあり。頭腦明敏にして飽くまで積極の一途を進み、悠容迫らず恬淡にして磊落、人を容るゝの雅量大なる所將に將たるの器にして、氏の將來を約するものといふべし。西出商事取締役たるの外、北千島漁業株式會社取締役社長として同社を一手を以つて經營し、或は日本製罐の取締役に列し、事業界に目覺しき活躍をなせり。尙ほ北方總組合長、北守俱樂部會長等の公職にありて、社會公共方面に盡瘁する所大なり。その趣味極めて多方面に及び、教養高く、品性高潔にして實に洗練せられたる好紳士にして洋々たる前途を有す。

(所在地 函館市西濱町一九)

事業家 瀧藤 治三郎

現今我が國貿易界の巨人的存在として、明治中期西歐文明吸收に滔々たる時より早くも斯業の重要性を認知し、夙に海外を遊歴、彼の文化の長を研鑽、歸朝以來今日に至る迄、斯業の爲専心献身したる、陶磁器及雜



氏郎三治藤瀧

貨貿易株式會社瀧藤商會社長瀧藤治三郎氏こそ、正に我が國文化發展史上特筆すべき功勞者と云ふべきなり。

氏は明治七年十二月、辻源三郎の長男として岐阜金華山麓長良村に生る。十五才にして青雲の志を抱き郷關を出づ、當時神戸第一の貿易商たる大橋商店に入り書は實務に精勵夜は語學の勉學に努め他日の雄飛に備へたり。その精勵格闘は實に文字通り寢食を忘るゝ底の登雪振りなりき。明治二十七年過去五ヶ年

の努力空しからずして、年少廿才にして選ばれて歐洲に派遣せらるゝに至る。是れ氏が今日を爲す成功の第一歩となりたるなり。在歐九年、各地の事情を精査見學したる氏は歸途印度を初め、東洋各地をも視察、幾多の新知識を吸収歸朝したるは他日我が貿易業者として活躍するに多大の資となりし事は言を俟たざるところなり。歸朝間も無く陶磁器貿易界の第一人者たる名古屋の瀧藤萬次郎氏に知られ其非凡の才智と新進の氣鋭を認められて同三十二年、其の養子に迎へられ、後分家して一家を創立したり。翌同三十三年、巴里に萬國大博覽會の開催せられるや、愛知縣出品人總代兼大日本出品協會渡航事務員として渡歐し、その活躍は多大の成果を収めたり。

翌同三十四年三月、北米合衆國に渡り、紐育市代理店を設置し歸朝す。越同三十七年二月、セントルイス世界大博覽會開催さるゝや、再び選ばれて愛知縣出品人總代として渡米し、任務終了と共に歸朝す。明治三十八年多年苦心研究を重ねたる陶磁器、雜貨貿易の營業を米國シカゴ市に創業、瀧藤小川商會と商號し、翌年名古屋市中に其の出張所を設置在米邦人中の巨商と仰がれ、世界大戰當時の好況來に乗り一舉に巨利を収め、大正三年紐育市に支店を横濱市に出張所を開設せり。然るに其後營業益々盛なるに及び紐育を本店とし

シカゴを支店とし、更に神戸市に支店を設置す。その隆々たる發展は正に旭日の如し。

大正八年多治見貿易株式會社を合併し、大洋商工株式會社を設立専務取締役に任ぜり。同四月紐育市の瀧藤小川商會を株式組織に變更、大洋貿易株式會社と改稱、その社長に就任せり。次で同十一年五月アルゼンチン國ブエノスアイレス市に支店を開設、尙同十三年五月松風陶器製造株式會社を創立取締役に就任、翌十四年七月名古屋市中に大洋貿易株式會社出張所、瀧藤商會を設立す。昭和八年一月に至りて名古屋市産業調査會貿易部委員に擧がる、同年十二月瀧藤合名會社を設立し代表社員、同九年一月日亞貿易株式會社創設社長に就任、同年二月大洋貿易株式會社出張所瀧藤商會を株式會社瀧藤商會と改稱社長となる。其後前記諸職に推舉せられ、中京陶磁器業界の巨人として重きをなせり。

尙氏の海外雄飛の跡を見るに支那往復四回、歐洲方面三回、南米方面二回、北米方面實に三十回、印度方面一回。如上氏の世界各地の事情に精通したる正に我が國業界の第一人者たりと謂ふべし。資性濃厚にして、人情に厚く、奇才縱横の才腕と共に信望益々高く、實に我が貿易界の元勳と評するも過言にあらざるなり。

(住所 名古屋市東區東芳野町二ノ七六)

東邦電力株式會社

本邦電力界に覇を唱へ、廣大たる營業網を張りて斯界の王座に就き、牢固たる基礎と優秀なる業績を以て辨々たる名聲を博し、社業隆々と旭日の如くに興隆しつゝあるが當社なり。明治三十八年資本金十五萬圓を以て創設せられ、當初關西水力と稱せしが、爾來順調なる發展をなし、大正十年名古屋知多電氣を合併、同十五年名古屋瓦斯を併合して、後東邦電力と改稱す。累次増資せられて現時資本金二億六千六百萬圓、我國有數の大會社として重きをなせり。當社は電燈電力の供給の外鐵道軌道並に瓦斯事業を兼營す。電燈電力の供給區域は愛知、岐阜、三重、奈良、和歌山、淡路、徳島、福岡、長崎、佐賀、熊本等頗る廣汎なる地域に及びり。昭和十二年十月末現在電燈取付燈數は六百一萬五千九百一十一燈にして、前期末に比し六十八萬七千七百六十七燈を増加す。電力に於ては動力供給六十六萬四千二百二十三馬力、電熱供給五萬五千八百六十八キロワットに上り、之を前期末に比して増加量合計馬力換算八萬九千四百四十六馬力となれり。電鐵を三重、和歌山縣下に經營せるが昭和十二年下期末に於ける乗客總數八百八十

五萬一千名に達せり。昭和十二年下期に於て中部電力株式會社、周參見水力電氣株式會社、海部水力電氣株式會社及び肥前電氣株式會社を合併したるに依りて、供給區域は更に擴大せられ、現在一府十三縣即ち二十四市、二百五十九町、千七十四村に及ぶ。昭和十二年下期決算に依れば、總收入四千五百六十二萬圓總支出三千三十九萬七千圓に達し、當期利益金一千五百二十二萬三千圓に上れり。八分配當を踏襲し決算は愈々餘裕を増すに至れり。當社は事業の擴張を行ふと共に他面大いに經營の合理化に努めつゝあるを以て収益力は多大に増大しつゝあり。尙ほ又資産内容に於ても頗る充實し、固定資産の低廉なること我國電力界隨一たり。事業界の好調に依り、今後の業績益々好調を辿るに至るべし。當社の重役は取締役社長松永安左工門、専務海東要造、常務竹岡陽一、同宮川竹馬、同清水收吉、取締役名取和作、同堀三太郎、同西山信一、同小坂順造、同山田平十郎、同市川春吉、監査役門野幾之進、同大島小太郎、同豊田利三郎、同田邊九萬三の諸氏たり。

取締役社長 松永安左工門 天資高邁にして卓犖豪放、我國電力界の重鎮として崇敬せられること厚き松永氏は、明治八年十二月長崎縣に生る。夙に慶應義塾に學び、後財界に

進出し賦性の才腕を揮ひて八方馳騁し、遂に財界に不拔の地歩を築けり。嘗に衆議院議員に選出せらる。識見高遠にして蘊蓄該博、現に當社の外幾多の役員を兼ね、我財界稀に見る偉傑として聲望甚だ高し。

常務取締役 宮川 竹馬

宮川氏は資性温恭謹格にして淵達磊落、襟度寛容にして仁情に富み、内外の信望甚だ厚し。明治二十年四月高知縣人宮川圓次郎氏の二男として呱呱の聲を揚ぐ。明治四十三年東京高工電氣科を卒業し後ち博多電燈株式會社に入る。それより九州電鐵に轉じ、技術課長に就任して、多大に才腕を發揮せり。大正十一年東邦電力に迎へられ、簡拔せられて理事兼常務部長となる。萍動剋勉業務に精勵して大いに功績あり。後現職に推舉せらる。氏は頭腦俊敏にして犀利緻密、明斷果敢快刀亂麻を斷つて裁斷を下し其敏腕は事業界の多大に推重せる所なり。人格清廉潔白にして名利に恬淡、謙虛にして敦厚、公務を處理するに公平無私、人に對しては温情を以て接し社員よりは慈父の如くに悅服せらる。現時幾多の事業會社に關與せるが氏の手腕愈々砥礪せられ、思慮益々圓熟の境に進み、人物大いに貫祿を加へ來れるを以て今後事業界に多大に驍足を伸すに至るべし。
(所在地 東京市麹町區丸ノ内一丁目)

京都文化商品配給研究所長 猪田 松太郎

江州の商傑猪田松右衛門翁の裔、同駒次郎氏の嫡男として、神崎郡南五ヶ莊村に明治二十一年五月呱呱の聲を擧ぐ。天分頭腦極めて精緻、江州人傳統の堅忍不群の精神力放膽にして而も機敏なり。垂髫時代既に才人を誦はる。小費を卒へて十四歳にして上洛し、織物業界の老舗たる外興商店に奉公す。爾來滄風悲雨、秋霜烈日の恪勤を閑すること三十餘星霜。舖主の信頼を一身に莫め儕輩を後へに支配人に推戴せらる。と共に、その清爽たる人格は内外欽仰の的たりしが、昭和十年五月、後進に途を開くべく惜まれて退店す。雖で京都文化商品配給研究所の標題を掲げて獨立するや、其の業務の斬新たるを、氏の力量手腕に期待されて忽ち市内名士後援者百數十名に上る。而して當所の使命たるところは凡ゆる文化商品を蒐めて、眞の生産獎勵を爲し、一面之れが紹介並に普及を圖り、中間搾取を排撃する生産者と需要者間の所謂製品の販賣合理化の力行を目的とし、爲めに從來消費者に轉化されたる負擔を幾分にも軽減せんとする福利増進と利便を興ふるを信條と爲す一面贈答品研究並に陳列會を開催して、一般顧客の

批判を仰ぎ、記念品、表彰品、贈答用品等の定め苦心を容易ならしめ、その製作と蒐集に力めて其の供給の責任を果し、最も自信ある優良品と、需要家本位の廉賣を以て購買者に充分なる満足を興ふべく努力しつつあり既に京都府商工課を始め、中京會其他各方面より讃嘆され、續々受注し、各學校用品等の納品も多額を計上し、輒近は主として金銀系の變り懸糸に力を注げり。創業日尙ほ淺きも實着にして高潔なる氏の人格は能く事業上に反映し、統制と合理的經營に依り、現に二十數名の店員を使備し、「K・B・K」のマークの下に所期の目的達成に奔命せるが、その將來は各方面より多大の關心を以て重視されつつあり。

尙ほ氏は織物に深詣あることは、今更喋々する要なく、斯業界の改善發達、各産地の開發に寄與貢獻するところ功多く、關東織物盛興會會長、桐生織物京都聯盟幹事長、關東織物商業組合理事長、日本染織物見本委員長、京都廣告協會幹事長等々の要職に推戴され、業界の發展の爲めに東奔西走して賦性的活躍をなし、その貢獻寔に没すべからざるものあり。氏の信望隆々として揚り、斯界の雄嶺として絶大なる敬仰を受けつつありて、その前途亦多幸たりと言ふべし。
(住所 京都市四條東洞院角)

德田證券株式會社

株式取引所は單に有價證券の賣買機關たるのみならず、財界の消長を指示するのバロメーターとして重大意義を有するものにして、現時我國には主要都市十二ヶ所に株式取引所設置せられ、その主座に位するが、東京株式取引所とす。當社は東京株式取引所々屬の長期取引、短期取引、實物取引、國債取引の各取引員にして、併せて内外國債、地方債、社債及株式の募集取扱又は引受、金融の仲介、資金の融通、その他證券に關する一切の業務を營み、斯界に牢固たる基礎を据え、多大の信用を博せり。當社の前身は德田商店にして明治二十一年始めて東京株式取引所仲介人の免許を受け、爾來有價證券の賣買を營み、商況甚だ活況を呈するに至り、多大の發展を見る事となれり。大正七年創立三十周年を機會に實物部を擴張して、別に資本金百萬圓全部拂込濟の株式會社德田商會を設立し、實物取引及有價證券募集引受取扱及附帶事業を營み德田商店に於ては一般取引員として活躍し、兩店一體となりて終始一貫、堅實主義の下に經營をなしたりしに依り、信望大いに加はり、多大の繁榮をなすに至れり。而して先年

法人の取引員許可せられる事となるに及び、大正十五年兩店を合併し、株式會社德田商會として一般取引員の免許を受け、引續き營業を營みしが、昭和十二年六月時代の進運に鑑みて業務に一大刷新を加へ、更に内容を整備充實して、資本金を三百萬圓に増資して名稱も德田證券株式會社と變更せり。當社は公共機關たる取引業本來の使命を完ふせん事を期し確實、懇切、迅速を社是として顧客の奉仕に盡瘁せるに依り、多大の好評を博し、毎期頗る好成績を擧げつゝあり。その歴史の古きと内容の堅實なるは斯界屈指にして、名聲愈々赫耀たるものあり。

取締役社長 德田 昂平

東都證券界の雄嶺として、信望噴然たる德田氏は明治十一年五月山梨縣に生り、夙に山梨中學を卒業し、後山梨農工銀行に入り、大いに頭才を認められて登用せられ、同行支配人に擧げらる。明治三十七年東株仲買人德田孝平商店に入り、後ち支配人の要職に推される。大正十三年德田家の養子に迎へられ、店舗を繼承して東株取引員となる。資性快活にして細部に拘泥せず寛容にして部下を遇すること子の如し。されば店內上下輯睦力一致して一意營業の進展に盡くし、牢固たる基礎を築くに至れり。兜町に於ける大長老として重きをなす。

事業家 清水 武夫

清水造船鐵工所主清水武夫氏は、我が造船界に俊才を讃へられ、斯界の寵兒として信望高く、その前途まことに洋々たるものあり。氏の研鑽努力の効により、我が造船界に幾多の新機軸を出し、業界に裨益する處絶大なものあり。氏は明治三十三年九月、長崎市東中町に生る、大正五年三菱工業學校を優秀の成績を以て卒業し、直ちに三菱長崎造船所に入社す。鋭鋒早くも並に顯はれて、氏の熱心なる努力と研究に依り、幾多の貴重なる發明を完成し、業界に寄與せる所多大なり。氏

取締役支配人 手塚 弘平 手塚氏は明治十七年一月山梨縣に生る。大正五年德田商會に入り、眞摯業務に萍動して大いに功績あり。大正十五年德田商會支配人に擧げられ、同商會の樞機に參與して多大に才腕を揮ひ、後現職に推される。資性恰惻、細心周匝にして事務もせず、事務的才幹に秀づると共に商況の趨向を洞察するの明ありて、その才幹は業界に多大の敬仰を受くる所なり。仁情に富みて襟度宏く、上下に絶大なる信望あり。今後斯界に愈々頭角を拔んずるに至らん。
(所在地 東京市日本橋區兜町二ノ二〇)

の研究になる鐵の電氣銲接の完成は我が造船界は勿論鐵工業界に於ける最優最大の發明にして、業界に絶大な貢獻をなせり、遂に大正十三年、政府より專賣特許權を得るに至れり。

鶏頭たるも牛後たる勿れの古語ある如く、個僅不軌の氏發起一念して、清水造船鐵工所を創設す。捲土重來熱烈なる努力を以て經營に當り、更に寸暇を惜しみて研究に當り、昭和二年、眞鍮と銅の合金銲接に成功し、此の



氏 夫 武 水 清

發明に對しても、政府より特許權を獲得するに至れり。次で同三年アルミニウムとアルミニウムの銲接を發明し其特許權を得る等續々大發明に成功して斯界を嘆服せしめたり。尙氏の經營せる造船所の技術の卓抜なるは事業界に喧傳せられ創立日なほ淺きにも拘らず、その業績頗る優秀にして僅々數年を出でざるに、二十八隻の船舶を建造し、其の總噸二千有餘噸に達せり。造船業の外鐵工業にも眼足を伸ばし、鐵道省熊本建設事務所指定工

場として、跨線橋の建設を始め、九州管内全部の製作を一手に引受け、堂々聲價を發揚せり。其の他重要な製作は枚舉に遑あらざる處なるも、就中日本石油株式會社の揮發油槽百噸（四基）の製作完成し、その優美なる技術に對し絶讃を博せり。

威勢隆々新進造船業者として、氏の名聲愈々顯著なるものがあるが、更に茲に特筆大書すべきは、氏の苦心に成る無銲船建造の一大發明にして、我が國造船界の爲めに萬丈の氣焰を擧げたり。無銲船は云ふまでもなく、鐵の銲接による無銲の船舶にして、業界多年の研究題目も、氏に依りて遂に之れが製作に成功す。誠に稀世の逸材として我が造船界に不朽の功績を留めたり。

年齒壯境の氏前途大いに春秋に富む、我が造船界多士憐々と雖、氏の活躍に期待するもの頗る大なるものあり、自愛の上益々健闘あらんことを祈る。
(住所 長崎市東中町三六)

東洋電業株式會社

コンヂット並に附屬品の製作及び販賣を營みて、斯界獨歩の地歩を築き、好評噴々たるものがあるが東洋電業株式會社とす。當社は大

しく電氣鉛鍍金を施し、内面に黒色エナメルを塗布せり。メタルモールディングは木造建及鐵骨鐵筋コンクリート建築の露出配管に使用せられ、體裁優美にして施工簡易、場所を多く要せざる特徴を以て學校、病院、地下鐵等に多く使用せらる。橢圓チューブは木造家屋の引下げ、立上り等には日本壁に埋めて壁割を生ぜず、頗る好評あり。又フレキシブルチューブは狭き場所を自由に配線する特徴を有せり。近來ナイフスキツチ木製函は鐵函に代りつゝあるが、當社製作の鐵製スキツチ函は工場方面より多大の需要あり。當社の製品には以上の如きものがあるが、何れも他に見る能はざる獨創的特徴を具備し、各方面より非常なる歡迎を受けつゝあり。當社に於ては尙ほ現状に甘んぜず、益々研究改良に力を注ぎ、日進月歩の新學理を生産過程に導入し、優秀品の創案に努力せるを以て製品は愈々向上をなすべく、當社の將來こそ矚目するに足る。重役には専務取締役井口績、同新保有雅取締役神谷忠雄、支配人紙顯の諸氏あり。

(所在地 東京市品川區五反田一ノ二五五)

山口辨柄製造所

全國に散在する辨柄商又夥しき數に上ると

雖も我が山口辨柄製造所の右に出るものは絶無と稱するも敢て溢美に非ず。何故に斯くまで同所を賞讃するかは、斯業に對する當主の熱意にあり。換言すれば當主始め全員が如何にして我が建築界に革命を齎し得るや日夜倦むなき研磨の努力を持続しつゝあり。創業以來實に三百年に垂んとする同所の眞價は今更々々々の辯なかるべし。併作同所が多年に亘り豊富なる體験により、而して最高なる技術に更に苦心を加へたる製品は續々生産され業界を指導し、我が建築界に貢獻する處益々絶大なるものなり。

就中同所が内外に誇るに足る最高基準品として生産したる「アカツキ」防水劑、「アカツキ」急結劑は、我が建築界に絶讃を博し、同所の「マーク」は業界に無條件にて歡迎される盛況なり。

斯の如き盛況は同所が常に良心的製品の完成に努力し、ある所以にして前記アカツキ防水劑及アカツキ急結劑も此の趣旨に外ならざる製品なり。今試みに「アカツキ」防水劑品を檢討するに、本劑は淡黄色の液體、不變質脂肪酸アルミを原料として精製したるセメント防水劑にして、石灰セメント中の可溶性鹽類と化合し、モルタルコンクリートの凝結乾燥と同時に防水作用を生ぜしめ、水分濕氣を吸収せず、其の結果、水中空氣中の酸鹽類に

正八年一月の創立にして、創業以來既に二十有餘年の歳月を閲し、その間技術の研鑽に多大の力を致し、製品の改良に銳意盡瘁したるに依り、その製品頗る優秀なる上價格亦甚だ低廉、而も納期の確實なる所より絶讃まさに湧くが如きものあり。斯る當社の努力は創業間もなくして、廣く世上の信用を得て、需要年と共に著増し、工場設備の擴張新設相次いで行はれ、近時に至りてはその躍進殊に顯著なるものあり。工場を東京市品川區五反田並に蒲田區矢口町に設置し、操業頗る活況を呈せり。現時資本金二十萬圓（全額拂込済）にして毎期多大の好成績を擧げつゝあり。その販路は各官廳會社等頗る廣く、陸海軍、鐵道、逓信、文部、大藏省等の指定工場となり更に又海外方面にも輸出せられ、國産品の誇を海外に發揚せり。當所の主製品たるコンヂットチューブに一分厚チューブと五厘厚チューブあり。前者は日本鋼管株式會社に於て特にコンヂット用原管として製作せられたる極軟鋼原管を用ひ、後者は良質の軟鋼板を用ひて完全に銲接せられたるものなり。防錆仕上をなせしものに以下の如きものあり。セラドチューブは管の内外面に均しく乾式鉛鍍金を施し、内外面共に耐酸耐アルカリ性の透明エナメルを塗布して充分に乾燥仕上せる最高級品なり。デントチューブは管の外面に均

も冒さるゝ事なく、冬期結水等より起る龜裂障害等の憂なく、其の用途も極めて多面に亘り、本品の絶大なる効果は既に業界に定評を博せる處なり。猶アカツキ急結劑は前記防水劑と併用する時は湧水漏水を短時間に防止なし、其の効果偉大なり。

最近我が建築界の發展又目覺しきの時、如斯優良製品の産出は我業界の爲慶福に堪へざるところなり。

所長 山口茂登造 氏は、熱意そのものの如き熱情家にして、事物に對する研究的態度は寔に推賞するに値し、夙に資業たる辨柄製造に従事して、昭和六年家業を繼承し今日此の盛況を見るに至りたるが、猶研究の勞を厭はず、孜孜として倦むなく精意新業新機軸發見に努力せるは誠に敬服に堪えざるなり。明治三十一年五月大阪市に生れ、山口一郎兵衛の養子となり今日に及ぶ、年齒爰に壯境に入る、將來の健闘を祈る。
(所在地 大阪市西成區津守町)

田中兵藏

氏は北海道夕張郡地方に於て、公共事業に活躍し、その功績顯然、その徳風は衆庶の瞻

仰する所たり。明治十三年一月富山縣東礪波郡に生れ、幼少より穎氣横溢、素志堅剛の資あり。明治二十八年大志を伸べんとして北海道の地に渡り角田村に於て農耕に従事し、奮勉砥礪幾多の苦難にも屈せず業に勵み多大の收穫を擧げて他の模範とせられるに至る。斯して次第に事業は發展し、家産又大いに蓄積せらる。氏同地方に教育機關の皆無なるを憂へ、女子に裁縫を授けんとして私財を投じて裁縫所を開く。婦人教育の忽にすべからざるを痛感して、道廳の認可を得て實科女學校を設立し、これに私財の全部を投ず。中途にして資金不足して、計畫は水泡に歸せんとせしが氏は百方努力して漸くにして目的を達成せり。専任教師三名補助教師三名、生徒數は百四十五名に上る。茲に於てか校舎寄宿舎の全部を村に寄附す。氏は又夙に農村疲弊の實狀を見て痛嘆し、これが甦生策に就きて腐心せしが、昭和六年角田村信用購買販賣利用組合を設立す。克苦經營してこれを育成し、間もなく北海道唯一の模範組合となり、氏は北海道協同組合運動の先覺を以て稱せらる。更に農村の副業事業として農産物加工場を建設し、醬油を始め、百合根、グリーンピース、セロリ、トマトビュレー、ケチャップソース、アスパラカス等の罐頭詰、或はメロン、苺類の果實類加工、混成ジャム、福神漬等の蔬菜

漬物等を製造して村民の福利を圖れり。氏は一切の公職を去り専心該事業に没頭し、同地方の發展に精勵し、これが爲めに私財を惜しまず支出し、早朝より事務所に出で、事務を見、或は東奔西走して組合の爲めに盡瘁する等、其献身的活躍には衆の畏敬する所たり。斯くして組合は驚異的な發展をなし、同地農村を潤すこと大なるものあり。氏は自治に教育に或は産業組合運動に貢献する所甚大にして、その功勞を表彰せられること一再に止らず、先年の陸軍大演習には産業功勞者として長くも、衆上陛下に特別奉拜を差許さる。氏無慾恬淡、不言實行の士にして勤儉躬行しその生活専ら簡素質實なり。同地方に盡せる幾多の事績に對して人の崇敬を受くること厚く、その高風には衆庶悦服す。
(住所) 北海道夕張郡角田村櫻丘

(故) 吉原正隆

前貴族院議員、衆議院議員、正五位勳三等故吉原正隆氏、今幽明境を異にし崇仰なる氏の人格に親しく接し能はざると雖、生前の功績顯著なるものありて、偉大なりし氏の遺徳は今尚ほ世人を欽慕せしむること多大なり。氏は、明治十四年十一月、福岡縣三浦郡大

川町に生る。長じて同三十九年京都帝國大學法學部經濟科を卒業し、次で同大學院に轉じ二ヶ年間、殖民政策を専攻し斯學の蘊奥を極む。後歐米を漫遊し、學理に、實際に、研鑽大いに精勵し多大の得る處ありて歸朝す。郷里に在りて飛躍の機のを待ちし處、恰も衆議院議員の選舉に際會す、年齢僅かに三十一歳の若冠、敢然立候補を爲せり。當時にありて三十歳前後を以て、衆議院に立候補せるは稀有の事なりき。激烈なる角逐場裡に臨み、幾多先輩を凌駕し見事初陣の功を収めたり。若輩三十一歳の氏の當選の報一度傳はるや、世人は揚げて氏の將來に絶大の期待をなし信望愈々加ふるに至れり。
大正七年、原内閣成立するや、野田選信大臣に懇望され其秘書官となる、深く野田選相に信用されて氏又大いに敏腕を揮ひて、名秘書官と謳はれたりしが、十一年原内閣倒壊と共にその職を辭す、幾何もなく、中央新聞社社長の要職に推され、銳意社運發展に盡瘁せしが時偶々、關東大震災に遭遇し遠大なる希望も挫折の止むなきに至れり。
されど機略横溢なる敏腕は常に鋭鋒を顯はし、政黨華かなりし頃は、政友會常任幹事、院內幹事に推任される事一再ならずき。當選四回に亘る衆議院議員たりしが、後貴族院議員多額納稅議員に當選し、其の在任中、即



故吉原正隆氏

ち大正十五年六月、忽然病を以て急逝す、享年四十六歳、訃報一度傳はるや、世人は擧つて其の死を悼み、葬送の日には氏生前に於ける功績を讃へ集る人無量數千に及ぶ盛況を呈せりとは、以て氏の偉大なる功績を偲ぶに餘りありと謂ふべし。
氏の長男吉原正俊氏は明治三十六年を以て生る。夙に、佐賀高等學校を卒へ、次で京都

東洋内燃機製作所

海陸交通機關のスピードアップ、航空機の發展、國防の近代化機械化の急務等より、近時エンジンの需要益々激増し、エンジン時代なるものを歴史上に區劃せんとするの勢にあるに拘はらず、エンジンの製作に於て歐米に劣るの感ありしを慨し、淺井兼一、堀寬の兩氏相提携して昭和十一年十月東洋内燃機製作所を設立す。該機の製作事業たるや難事業中の難事業にして、その技術精巧その装置緻密、到底一朝一夕にして成功をなし得るものに非らず。兩氏はデーゼルエンジンの製作に邁進して我國エンジン界に一大革命を齎らさんことを期せり。而して燃料國策の見地よりして之れが燃料は揮發油を排して重油に依ることとし、苦心研究の末見事に重油用エンジンの製作に成功す。當所製品には以下の如き三大特長を具備せり。一、絶対に着火紙を要せず。着火装置なくして回轉す。二、回轉中

ポンプのカム位置を自然に變更する事自由自在なり。三、装置簡單にして特にエンジンの生命たるシリンドラダイナーの取替便利たり。故障の際はシリンドラダイナーのみを取外して、修繕をなし得べきよう特殊合金を以て製作す。製品は五馬力乃至十馬力を主とすれども、注文によりては何馬力にても特別製作を行ふ。當所は他社製品の故障をも修繕の引受けを爲して頗る好評を博せり。創業日淺しと雖も全国各地より鮮滿方面等宏く注文來り、操業甚だ繁忙を呈して、業績頗る好調を示せり。今後大いに躍進をなさん。

經營者 淺井兼一 氏は名古屋農事實行組合初代井戸組合長として敏腕を揮へり。同地方二百町歩に亘る田地に於て地主と小作人間の九ヶ年に亘る係争を圓滿解決して、多大の信望を鍾む。意志強固にして公平無私、濃厚篤實にして謙虛謹恪。何人に對しても輕重の區別を爲さず、襟度寛容にして能く人の言を容れ、その徳望愈々舉れり。氏は頭腦明晰にして、天賦の經營的才腕あり。氏の手腕と人格とにより今後更に當所は飛躍的隆昌を達成するに至るべし。

營業主兼技師長 堀 寬 エンジンの製作に就きては、氏は既に十數年の經驗を有

し、その知識及蘊蓄頗る豊富にして、名技術家として令名あり。夙に神戸市田中鐵工所、山陽工業所、大阪市美也古製作所等に於てエンジン製作の術に當り、或は米國に於て研究して歸朝せる斯界の權威金井技師の指導を受け、後神谷内燃機關、愛知デーゼルエンジン等に於て製作主任の重職に推されて、大いに手腕を示せり。淺井氏と提携して當所を設立するや經營に技術に八面六臂の活躍をなし、業界に巍然頭角を現せり。厚利緻密の頭腦の持主にして質實至誠の活動家たり。齡漸く三十に達せる白面の青年事業家にして、その前途の活躍頗る刮目せらる。

(所在地 名古屋市南區妙普通二ノ三五)

實業家 森田金藏

關西事業界の重鎮と仰がれ老境と雖元氣斐然益々壯者を凌ぐ氣概、正に天を衝くものあり我が森田金藏氏の今日あるは偶然に非ず。人生の成功を運不運に託して努力を傾注せざるは、人生の落伍者たるべしとの徹底したる信念を以て、東奔西走席の温まるを知らざるの活躍こそ、今日氏の榮譽を獲得したる所以として、成功は努力の結實たるの事實を身を以て世人に示唆したりと云ふ可し。

世事混沌物議驚々たる徳川末期、即ち慶應二年兵庫縣但馬の美方郡温泉町に、その産聲を擧げたり。時運は偉人傑士飛躍の好機會なりと云ふも座して何事をも成さざれば之れ成らず、氏は生來不撓不屈の氣概と熱ゆるが如き成功熱を持ち、遂に郡士に止まり得ずして明治二十五年米國に渡り、此處に君の人生第一歩を確保するに至れり。

先づ、カルホルニヤに於て菓子製造業を始め、外國に於て菓子製造業は實に氏を以て嚆矢とす。君の得意や察するに餘り有り、當時彼地に於て開催せられたる、ハワイキヤツプミッド、ウイーター博覽會に、菓子の製造販賣を爲し大好評を受けたるが如きは、我が日本民族の爲萬丈の氣概を擧げ得て、痛快に堪えざる處なり。其の他菓子業に止まらず、苟しくも君の感觸に接するものは細大共に研究實驗を怠らず新知識を得て、明治二十八年に歸朝せり。當時我が國の貿易は實に貧弱幼稚極まるものなるに着眼なし、貿易業を創始せんとせし時、偶然京都市の有力者たる大澤善助氏神戸に於て貿易商會創立に際會し、乞はれて同商會常務となり、此處に他日大業の緒に着くに至れり。君の爲す處、行く處可ならざるなく業績躍進して一ヶ年間二千八百萬圓に上る巨大なる取引をなすに至りたり。殊に斯業に最も必要缺く可からざる處の語學、就

中英語に有ては、永年に亘る體驗を以て氏の得意とする所にて業界の信認愈々此處に確然たり。多才多能の活躍力は、一般世人にも認めらるゝに至り、遂に大正十三年には、衆議院議員に當選し、中央政界にも雄飛するに至れり。成功は努力の賜、敢て氏に敬意を表する所以なり。老齡と雖止まる事を知らずして現に、赤心社株式會社社長を始めとし、神戸貿易組合長を勤むる事二十有三年に及び、神戸商工會議所議員たる事亦二十年、其の他、神戸蠶絲同業組合長、神戸貿易青年會英語學校長、農林省蠶絲審査委員、茂世呂鐵業株式會社常務、神戸生絲貿易株式會社、日本染工株式會社、東雲鐵工所專務、帝國鐵工所株式會社、澤保商會株式會社各重役、として日夜激戰に活躍しつゝあるが、氏の信望愈々隆々として揚れり。

猶家庭には、妻女はつ夫人との間に長男信義氏(明治三十年生、慶大卒)目下映畫會社に勤務。二男和民氏、(明治三十三年生、關西大學商科卒)現に川西倉庫に勤務、四男和四郎氏(明治卅九年生關大卒)後至誠堂勤務。六男千秋氏、(大正三年生、關大中學部卒)長女てい女は、神戸女學院高等科卒業、實に家庭的にも恵まれたるは誠に美望に堪へざる處なり。(住所 神戸市神戸區北野町三ノ八)

株式 市田商店

京都市に於て製織加工並に販賣を營みて事業頗る隆昌を呈し、技術技群にして製品頗る優秀、業界に噴然たる名聲を博せるを、市田商店なりとす。當店の創業甚だ古く、先々代市田彌一郎翁明治初年始めて斯業に手を染む翁は江州彦根藩の御用商人青山幸助翁の二男に生れ、幼名を常次郎と稱す。二十歳の時に神崎村の市田彌惣右衛門翁の養子となり、彌一郎と改名す。翁は若くして聰敏甚だ大望あり。明治七年東京に出で呉服卸賣店を開く夙起晩寢、拮据黽勉してその業に傾倒し、事業次第に興隆す。翁は専ら信用を重じ、顧客には親切丁寧の態度を以て接し、冗費を節して優秀の品を廉價に供給するを主義とせり。斯くして同店は非常なる好評を得て多大の繁榮を致し、家運隆々として興る。二代目彌一郎氏又まことに俊秀にして敏腕家たり。その經營大いに功を奏して躍進し、明治三十四年には東京に、同四十一年には大阪支店を設置して、業礎全く定まれり。爾來愈々發展をなし大正三年に至り、先代未亡人しげ刀自、彌三郎、昭之助諸氏の一族相寄りてこれを五十萬圓の合資會社となせり。同七年一月資本金一

株式 市田彌三郎

百萬圓の株式會社に改組し十年八月二百萬圓に増資し、十五年に至りて三百萬圓に増額し更に六百萬圓に増資して以て今日に至る。尙大正三年一月一族出資の下に資本金二百五十萬圓の合名會社市田商店を創立し、不動産有價證券取得利用を目的とす。而して取扱品は諸吳服類、洋反物、婦人子供服地より近年に至りて羅紗地、子供服既成品及雜貨方面にまで進出して、目覺しき躍進をなせり。昭和八年に及びて輸出部を獨立せしめ南洋及び支那米方面に進出す。東京、大阪、京都各店何れも絶大の信用を得て、千客萬來店頭甚だ殷賑を極めり。海外方面に於ても當店の商品は好評湧くが如く、年と共にその需要増大す。業礎鞏固にして信用愈々高まり、業界に鐵壁の如き城塞を築きて君臨せり。當店は前二代の店主の刻苦砥礪によりてその礎石築かれ、三代目の現當主によりて更に飛躍的に發展して遂に今日見るが如く斯界に覇を唱ふること、なれり。

因に十二年度利益金は六十一萬三千圓を擧げ、當期初三月末拂込七十五萬圓を徴收し、平均拂込資本加重せるに不拘、利益率一割三分八厘に當り、普通配當七分を据置きて社内保留二十一萬二千圓(税引當不含)に達するの堅實處分を行ひたり。

株式 奈良機械製作所

我國は支那事變の勃發を契機に國家機構の全部面に戰時體制を布き、未曾有の重大時局を突破して新日本を再建し以て皇道を中外に宣揚せんと上下戮力して盡瘁しつゝあるが刻下の我産業界最大の任務は生産力の擴充にして、之を措いては時艱の克服は痴人の夢に過ぎざるなり。されば現時我事業界は非常なる活況に入り、生産力の整備充實は目覺しき進